中上級ユーザーのための、パソコン百科

トラブル

PC98-NX SERIES

VALUESTAR NX

VC23/4 VE26/4 VE23/4

マニュアルを読む順序

各マニュアルの主な内容は表紙に書いてあります。次の順序で読み進めてください。

1 まずこれ!

2 次にこれ!

3 目的に合ったマニュアルを選んで読む

お使いのパソコンの中にあるソフトウェア「パソコン探検箱」には、マニュアルの紹介など役立つ情報があります。

添付の「安全にお使いいただくために」は常に手元に置き、各マニュアルと合わせて必ずお読みください。

やりたいこと別マニュアルガイド

パソコンの接続とセットアップをしたい …… STEP 1　接続と準備
マウスの使い方を知りたい …… STEP 2　入門
キーボードで文字を打ってみたい …… STEP 2　入門
ワープロを使いたい …… STEP 2　入門
インターネットを利用したい …… インターネット入門
FAX 機能を利用したい …… リファレンス
プリンタをつなぎたい …… 拡張の手引き
オプション機器を取り付けたい …… 拡張の手引き
Windows 98 について知りたい …… STEP 3　活用
デスクトップについて知りたい …… STEP 3　活用
パソコンの中に入っているソフトを使いたい …… リファレンス
このパソコンの機能について詳しく知りたい …… リファレンス
パソコンが思うように動かない …… 困ったときの Q&A
パソコン用語の意味を知りたい …… 困ったときの Q&A
マニュアル総索引を使いたい …… 困ったときの Q&A
再セットアップしたい …… 困ったときの Q&A

はじめに

この本は、『STEP 1　接続と準備』、『STEP 2　入門』、『STEP 3　活用』を読み終えた方を対象にしています。

この本には、あなたのパソコンの設定を変更したり、内蔵されたアプリケーションの使い方を調べたりするときに役に立つ情報が満載されています。

はじめてパソコンを使う方にとっては、他の本に比べると少し難しい所もあるかもしれませんが、この本があなたのパソコンのすべてを知るための道案内をしてくれます。この本を利用して思う存分にパソコンを使いこなしてください。

1998 年 7 月　初版

808-883767-005-A

このマニュアルの表記について

◆このマニュアルでは、パソコンを安全にお使いいただくための注意事項を次のように記載しています

⚠注意

注意事項を守っていただけない場合、人が傷害を負う可能性が想定されること、または物的損害のみ発生が想定されることを示します。

注意事項を守っていただけない場合、発生が想定される障害または事故の内容を表しています。左のマークは感電の可能性が想定されることを示しています。このほかに、発火注意、けが注意、高温注意についても、それぞれ記載しています。

◆このマニュアルで使用している記号や表記には、次のような意味があります

チェック!!

してはいけないことや、注意していただきたいことを説明しています。よく読んで注意を守ってください。場合によっては、作ったデータの消失、使用しているアプリケーションの破壊、パソコンの破損の可能性があります。

用語

パソコンを使うときに知っておいていただきたい用語の意味を解説しています。

参照

マニュアルの中で関連する情報が書かれている所を示しています。

◆このマニュアルの表記では、次のようなルールを使っています

【　】

【　】で囲んである文字は、キーボードのキーを指します。

プリンタ、コネクタなど

「プリンター」や「コネクター」などの末尾に付く「ー」を省略して表記しています。これは、パソコンの画面に表示される用語や、パソコン関連書籍などでよく使われている表記に準拠しているためです。

◆このマニュアルでは、各モデル（機種）を次のような呼び方で区別しています

表をご覧になり、購入された製品の型名とマニュアルで表記されるモデル名を確認してください。

本機	**表の各モデル（機種）を指します。**
液晶ディスプレイセットモデル	**液晶ディスプレイがセットになっているモデルのことです。**
CRTディスプレイセットモデル	**CRTディスプレイがセットになっているモデルのことです。**
CD-ROMモデル	**CD-ROMドライブを搭載しているモデルのことです。**
一太郎モデル	**一太郎8 、三四郎8、FullBandがあらかじめインストールされているモデルのことです。**
Wordモデル	**Word、Excel、Outlookがあらかじめインストールされているモデルのことです。**
ワープロ/表計算なしモデル	**ワープロ/表計算ソフトがインストールされていないモデルのことです。**

型 名	型 番	表記の区分			
		本体の形状	CD-ROM/CD-R /DVD-ROM	ディスプレイ	添付アプリケーション
VC23/4XC	PC-VC234XC	コンパクトタイプ	CD-ROM モデル	液晶ディスプレイセットモデル	一太郎モデル
VC23/4XD	PC-VC234XD			(14 インチ液晶)	Word モデル
VE26/47C	PC-VE2647C			CRT ディスプレイセットモデル	一太郎モデル
VE26/47D	PC-VE2647D			(17 インチ CRT)	Word モデル
VE26/45C	PC-VE2645C			CRT ディスプレイセットモデル	一太郎モデル
VE26/45D	PC-VE2645D			(15 インチ CRT)	Word モデル
VE23/47C	PC-VE2347C			CRT ディスプレイセットモデル	一太郎モデル
VE23/47D	PC-VE2347D			(17 インチ CRT)	Word モデル
VE23/45C	PC-VE2345C			CRT ディスプレイセットモデル	一太郎モデル
VE23/45D	PC-VE2345D			(15 インチ CRT)	Word モデル
VE23/45A	PC-VE2345A				ワープロ / 表計算なしモデル

◆本文中の画面

本文中の画面はモデルによって異なることがあります。また、実際の画面と異なることがあります。

◆このマニュアルで使用しているアプリケーション名などの正式名称

（本文中の表記）	（正式名称）
Windows、Windows 98	Microsoft® Windows® 98 operating system 日本語版
Windows NT 4.0	Microsoft® Windows NT® Workstation operating system Version 4.0
一太郎、一太郎8	一太郎8 Office Edition /R.2U
一太郎Office8	一太郎Office8 /R.3 with パワーアップキット
Excel、Word、Outlook 97	Microsoft® Excel 97 & Word 98 & Outlook™ 97 for Windows®
Outlook、Outlook 98	Microsoft® Outlook™ 98 for Windows®
MS-IME 98	Microsoft® IME 98
ｲﾝﾀｰﾈｯﾄｴｸｽﾌﾟﾛｰﾗ、Internet Explorer	Microsoft® Internet Explorer 4.0

■技術基準等適合認定について

このパーソナルコンピュータは、電気通信事業法第50条第1項の規定に基づく技術基準等適合認定を受けています。申請回線と認定番号は次のとおりです。なお、専用回線等との接続は、一般のお客様には行えませんので、必ずご購入元にご相談ください。

認定機器名：SF-BEB-ST
認 定 番 号
電話回線：S98-2344-0

導入にあたっては、「MDMNBEB.INF」または「MDMBEBNT.INF」のファイルを含む専用ドライバを必ず使用してください。
使用されない場合は、この技術基準を遵守できない場合がありますので、十分にご注意ください。

■高調波電流規制について

この装置の本体および CRT ディスプレイは、高調波ガイドライン適合品です。

■電波障害自主規制について

この装置は、情報処理装置等電波障害自主規制協議会（VCCI）の基準に基づくクラスB情報技術装置です。この装置は、家庭環境で使用することを目的としていますが、この装置がラジオやテレビジョン受信機に近接して使用されると、受信障害を引き起こすことがあります。 取扱説明書に従って正しい取り扱いをしてください。

■漏洩電流自主規制について

この装置の本体およびディスプレイは、社団法人日本電子工業振興協会のパソコン基準（PC-11-1988）に適合しております。

■瞬時電圧低下について

本装置は、落雷等による電源の瞬時電圧低下に対し不都合が生じることがあります。
電源の瞬時電圧低下対策としては、交流無停電電源装置等を使用されることをおすすめします。
(社団法人日本電子工業振興協会のパーソナルコンピュータの瞬時電圧低下対策ガイドラインに基づく表示)

■レーザ安全基準について

この装置には、レーザに関する安全基準（JIS・C-6802、IEC825）クラス1適合のCD-ROMドライブが搭載されています。

ご注意

(1)本書の内容の一部または全部を無断転載することは禁じられています。
(2)本書の内容に関しては将来予告なしに変更することがあります。
(3)本書の内容については万全を期して作成いたしましたが、万一ご不審な点や誤り、記載もれなどお気づきのことがありましたら、ご購入元、最寄りの Bit-INN、または NEC パソコンインフォメーションセンターへご連絡ください。
(4)当社では、本装置の運用を理由とする損失、逸失利益等の請求につきましては、(3)項にかかわらずいかなる責任も負いかねますので、予めご了承ください。
(5)本装置は、医療機器、原子力設備や機器、航空宇宙機器、輸送設備や機器など、人命に関わる設備や機器、および高度な信頼性を必要とする設備や機器などへの組み込みや制御等の使用は意図されておりません。これら設備や機器、制御システムなどに本装置を使用され、人身事故、財産損害などが生じても、当社はいかなる責任も負いかねます。
(6)海外 NEC では、本製品の保守・修理対応をしておりませんので、ご承知ください。
(7)本機の内蔵ハードディスクにインストールされている Microsoft® Windows® 98 および本機に添付の CD-ROM、フロッピーディスクは、本機のみでご使用ください。
(8)ソフトウェアの全部または一部を著作権の許可なく複製したり、複製物を頒布したりすると、著作権の侵害となります。

Microsoft、MS、MS-DOS、Windows、Windows NT、Active Movie, NetMeeting、Outlook、Bookshelf、および Windows のロゴは、米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における商標または登録商標です。
Pentium、MMX は Intel Corporation の登録商標です。
一太郎、ATOK は、株式会社ジャストシステムの登録商標です。
「一太郎 Office8」は、株式会社ジャストシステムの著作物であり、「一太郎 Office8」にかかる著作権、その他の権利はすべて株式会社ジャストシステムに帰属します。
商標「三四郎」は、株式会社エス・エス・ビーの登録商標であり、株式会社ジャストシステムは商標使用許諾を受けています。
パソコン大学は、テラ・コーポレーションの登録商標です。
NIFTY MANAGER は、ニフティ(株)の登録商標です。
アメリカ・オンラインおよび AOL は、AOL の登録商標です。
シール倶楽部は株式会社メディア・ナビゲーションの商標です。
HOTALL(NEC版)商標「ホタル」は日本電気ホームエレクトロニクス株式会社より使用承諾を受けて使用しています。
Hatchはディ アンド アイシステムズ株式会社の登録商標です。
Hatch insideはディ アンド アイシステムズ株式会社の商標です。
VirusScanは、米国Network Associates社および関連会社の商標または登録商標です。
SEGA、SEGAPC、バーチャファイター 2、VIRTUA FIGHITER2 は（株）セガ・エンタープライゼスの商標です。
インターネット カラオケキングは(株)ミュージックネットワークの商標です。
Photo CD portions copyright Eastman Kodak Company 1995
Hayes は、米国 Hayes Microcomputer Products の登録商標です。
MNP は、Microcom, Inc. の登録商標です。
RIVA128 は、STMicroelectronics,Inc. の登録商標です。
YAMAHA は、ヤマハ株式会社の登録商標です。
CIRRUS LOGIC は、米国シーラスロジック社の登録商標です。
K56flex は Lucent Technologies と Rockwell International の商標です。
BIGLOBE Walker は、日本電気株式会社の登録商標です。
BIGLOBE サインアップナビは、日本電気株式会社の商標です。

その他、本マニュアルに記載されている会社名、商品名は各社の商標または登録商標です。

© NEC Corporation 1998
日本電気株式会社の許可なく複製・改変などを行うことはできません。

■輸出する際の注意事項

本製品（ソフトウェアを含む）は日本国内仕様であり、外国の規格等には準拠しておりません。本製品は日本国外で使用された場合、当社は一切責任を負いかねます。また、当社は本製品に関し海外での保守サービスおよび技術サポート等は行っておりません。

目次 CONTENTS

はじめに i
このマニュアルの表記について ii

PART 1

パソコンを守るアプリケーション 1

パソコンを守るアプリケーション 2

本機のシステムを守る 2
Windows 98 の利用環境を変更する（CyberTrio-NX） 2
Windows 98 の動作環境を監視する（CyberWarner-NX） 2
ウイルスを検査、駆除する（VirusScan for Windows 95/98） 3

Windows 98 の利用環境の変更〈CyberTrio-NX〉 4

モードの種類 4
モードの変更 4
ベーシックモード 5
キッズモード 6

Windows 98 の動作の監視〈CyberWarner-NX〉 9

起動と終了 9
警告メッセージ 9
バックアップファイル 10

ウイルスの検査と駆除〈VirusScan for Windows 95/98〉 12

概要 12
常に検査する（VShield） 12
スクリーンセーバ実行中に検査する（ScreenScan） 13
定期的に検査する（VirusScan コンソール） 13
すぐに検査する（VirusScan） 14
ウイルスを駆除する 14

PART 2

便利なアプリケーション 15

本機の基本操作を知る〈CyberCoach-NX〉 16

CyberCoach-NX とは 16
レッスンを始める 16
レッスンを中断する 17
各レッスンの概要 17

画像を取り込む〈PictureStudio Light〉（一太郎モデル、Word モデルのみ）..... 19
画像を取り込む準備 19
静止画像を撮る 19
撮った画像を加工する 23
オンライン マニュアル 24
写真をシールにする〈シール倶楽部〉（一太郎モデル、Word モデルのみ）..... 25
概要 25
お使いになる前に 25
シールを作る 25
画像の一覧表示〈ThumbsStudio〉..... 30
ThumbsStudio について 30
画像を見ながらファイルを選ぶ 30
イラストを収集する 31
スライドショーで鑑賞する 31
FAX の使用〈FAX-NX〉..... 33
FAX-NX について 33
FAX-NX を起動する 33
FAX の送受信をテストする 34
FAX を送る 37
FAX を受ける 40
スキャナで読み込んだ文書を FAX する 42
各種の設定 43
アドレス帳の使い方 45
FAX-NX を使用するときの注意 46
タイマー機能〈Timer-NX〉..... 49
概要 49
タイマプログラムを設定する 49
タイマプログラムを設定するときの注意 52
リングを設定する 53
自動的に電源を切る 55
Timer-NX を使用するときの注意 56

目次
CONTENTS

音楽 CD/ ビデオ CD/ フォト CD の再生〈プレーヤ -NX〉..... 57
音楽 CD を聴く 57
ビデオ CD（カラオケ CD）を見る 60
フォト CD を見る 61
カーナビ CD の再生〈MapPlayer-NX〉 64
カーナビゲーション用地図 CD-ROM を見る 64
地図を見るために必要なボタン 64
ランドマークを利用する 66
IIS（Integrated Information Services）を利用する 69
ランチ -NX の設定 72
「ランチ -NX の設定」ウィンドウ 72
グループを編集する 75
アプリケーション起動ボタンを編集する 78
CD の自動起動〈CD ランチ〉 84
CD の自動起動について 84
起動と終了 84
アプリケーションの起動 84
CD ランチの設定 85
CD-ROM が自動起動しないように設定する 85
英語モードフォントの使用 87
概要 87
英語モードフォントを使用する 87
日本語モードフォントへの切り替え 88
テキストリーダの使用 89
テキストリーダのセットアップ 89
テキストリーダの使い方 90
テキストリーダの削除 92
一太郎 Office8 について（一太郎モデルのみ） 94
概要 94
一太郎 Office8 の機能をフルに使う 94
Microsoft Excel&Word&Outlook について
（Word モデルのみ） 96
概要 96

Excel&Word&Outlookの機能をフルに使う 96
ゲームで遊ぶ 98
バーチャファイター2(Virtua Fighter 2)(一太郎モデル、Wordモデルのみ) 98

PART 3

インターネット&パソコン通信 101
ホームページを探す〈ジェットサーファー〉..... 102
概要 102
使用する前に 103
ホームページを分析して結果を表示する 104
文字列を検索したページをブラウザに表示する 106
分析したページからファイルをダウンロードする 107
オートパイロットと料金管理〈インターネットアクセスマネージャ〉... 109
概要 109
利用環境を設定する 110
インターネットアクセスマネージャでの基本的な接続 113
オートパイロット 114
接続時間管理・料金管理 122
オートダイヤル 124
URL情報の登録・整理 126
ログファイルを見る 126
ホームページのURLを簡単に入力する〈Hatch inside〉..... 129
概要 129
使用する前に 129
URLを数字で入力する 129
主なインターネット番号一覧 130
短縮記号を登録する 130
短縮記号を変更する 132
短縮記号を削除する 132
サブメニューについて 132
ホームページの整理〈ホームページスクラップブック〉..... 133
概要 133
使用する前に 134

目次
CONTENTS

ホームページを切り取って保存する 134
スクラップページを最新情報に更新する 136

音声入力でのメールの送信〈しゃべっていいメール〉（一太郎モデル、Word モデルのみ） 137

概要 137
準備 137
設定 142
メールを読む 147
メールを書いて送る 148
メールを書くときに使用できる音声コマンド一覧 151
画像のメールを送る 151
ポケットベルへ送信する 155
ボイスペンを使う 155

自分のホームページを作る〈HOTALL〉 158

概要 158
使用する前に 158
ホームページを作る 158
ホームページを公開する 163

さまざまな通信サービス 165

概要 165
BIGLOBE Walker を利用する 165
AOL を利用する 167
NIFTY SERVE を利用する 169

ダイヤルアップネットワーク 173

既存のダイヤルアップネットワークの確認 173
新しいダイヤルアップネットワークの作成 174

テレフォニー 177

所在地情報の設定 177

PART 4

アプリケーションの削除と追加 179

アプリケーションの削除 180

概要 180
「アプリケーションの追加と削除」を使って削除する 181

CD-ROM を使って削除する 191
アンインストール機能を使って削除する 193
削除したアプリケーションの再追加 195
概要 195
アプリケーション CD-ROM を使用する 195
パソコン大学一年生 CD-ROM を使って追加する
（一太郎モデル、Word モデルのみ） 205
一太郎バックアップ CD-ROM を使って追加する
（一太郎モデルのみ） 205
Excel 97 & Word 98 & Outlook 97 CD-ROM、
Outlook 98 CD-ROM を使って追加する（Word モデルのみ）... 206

PART 5

ハードウェア 209

マウスの設定 210
「マウスのプロパティ」ウィンドウでの設定 210
キーボードの設定 212
「キーボードのプロパティ」ウィンドウでの設定 212
ハードディスク 214
概要 214
スキャンディスク 214
デフラグ 216
その他のツール 216
フロッピーディスク 220
使用できるフロッピーディスクの種類 220
フロッピーディスクのバックアップ 220
Windows 起動ディスク 221
ディスプレイ 224
概要 224
別売のディスプレイを使う場合 225
解像度と表示色の変更 226
ディスプレイの省電力機能について 227
ディスプレイに合わせて設定する 228
省電力機能（スタンバイ） 231

目次
CONTENTS

概要 231
スタンバイ状態にする 231
スタンバイ状態から電源が入っている状態に復帰する 232
電源の管理のプロパティで設定する 233
スタンバイ状態にするときの注意 234
サウンド機能 236
概要 236
スピーカ 236
ボリュームコントロール 237
サウンド全般についての注意 239
マイクロホン（VE26/4、VE23/47C、VE23/47D、VE23/45C、VE23/45D のみ） 241
ボリューム調節 241
サウンドレコーダー 242
FAX モデムボード 244
概要 244
FAX モデムボードを使用するときの注意 245
デバイスマネージャ 247
起動 247
デバイスドライバの変更 247
デバイスのリソース設定の変更 249
PCI が使用する割り込みを変更する 250
CD-ROM の取り扱い 251
概要 251
非常時のメディアの出し方 251
エラーメッセージについて 252

PART 6

本機の設定を変更する 253

電源管理モードについて 254
APM モードと ACPI モード 254
モードの切り替え 255
APM モードでタイマー機能を利用する場合の注意 257
その他の注意 257

BIOS セットアップユーティリティ 258
BIOS セットアップユーティリティでできること 258
BIOS セットアップユーティリティを使う 258
各種の設定 260
パスワードの設定 263
割り込みレベルと DMA チャネル 267
概要 267
リソースの競合 268
本機を拡張するときの注意 269
付　録 271
Windows 98 で MS-DOS モードを利用する 272
MS-DOS モードを利用する 272
CD-ROM ドライバ（本機内蔵 CD-ROM ドライブ） 272
Windows NT 4.0 の利用 274
Windows NT 4.0 をセットアップする前に 274
Windows NT 4.0 のセットアップとアップグレード 274
Windows NT 4.0 アップデートサービス Service Pack 3 の利用 278
本機で Windows NT 4.0 を利用するときの注意 278
本体の各部の名称 280
キーの名称と役割 284
キーの役割 284
キーの名称 284
PC-9800 シリーズのキーボードとのキーの違い 286
機能仕様 287
FAX モデムボード機能仕様 291
AT コマンド 293
コマンドの構成 293
コマンド一覧 293
索　引 299

PART

1

パソコンを守るアプリケーション

- パソコンを守るアプリケーション
- Windows 98 の利用環境の変更〈CyberTrio-NX〉
- Windows 98 の動作の監視〈CyberWarner-NX〉
- ウイルスの検査と駆除〈VirusScan for Windows 95/98〉

パソコンを守るアプリケーション

本機のシステムを、コンピュータウイルスや、誤操作による設定の変更から守るためのアプリケーションについて説明します。

本機のシステムを守る

本機には、Windows 98 の利用環境を変更することにより、システムに影響を与えないようにする機能や、万一コンピュータウイルスに感染した場合でも、ウイルスを発見し、駆除する機能があります。

ただし、購入時には常に使えるようには設定されていない機能もあります。利用状況に合わせて設定してください。なお、設定すると、システムに常駐して、ファイルを監視し続けたりするため、アプリケーションの動作が多少遅く感じることがあります。

Windows 98 の利用環境を変更する（CyberTrio-NX）

「CyberTrio-NX」は、Windows 98の利用環境を、利用者のレベルに合わせて「ベーシックモード」「キッズモード」「アドバンストモード」の3つのモードを切り替えることができます。

購入時は、「ベーシックモード」に設定されています（タスクバー右隅の アイコンが黄色になっています）。「ベーシックモード」はシステムに影響を与える機能を制限して、本機のハードウェアやソフトウェアへの予期しないダメージを防ぎます。通常は、このモードで本機をお使いください。
他のモードに変更することもできます。

参照
・他のモードへの変更方法→PART1「Windows 98 の利用環境の変更〈CyberTrio-NX〉」

ほかに、次のモードがあります。

◎ キッズモード

「マイプログラム」または「キッズモードのデスクトップ」に登録しているアプリケーションのみを使用できます。例えば、子どもが操作してもよいアプリケーションを限定できます。また、子どもが「キッズモード」を簡単にほかのモードへ変更できないような設定にすることもできます。保護者の方が、子ども用に使用するアプリケーションを「キッズモードのデスクトップ」に登録してあげてください。

参照
・キッズモードでの設定→PART1「Windows 98の利用環境の変更〈CyberTrio-NX〉」

◎ アドバンストモード

Windows 98 へのフルアクセスが可能です。利用環境を限定しません。システムの設定が必要な場合は、「アドバンストモード」に切り替えてから設定を行ってください。

参照
・「CyberTrio-NX」の使い方→ PART1「Windows 98 の利用環境の変更〈CyberTrio-NX〉」

Windows 98 の動作環境を監視する（CyberWarner-NX）

「CyberWarner-NX」は、Windows 98の動作に影響を与えるファイルを監視して、操作中にそれらのファイルを削除、または変更しようとすると、警告を発します。また、ログファイルを収集して、保守時に利用することもできます。

システムの変更を行うときや、アプリケーションの追加や削除、ファイルの削除、変更をするときに起動して使用してください。誤って操作することを防ぐことができます。

チェック!!

購入時には起動されていません。起動してから使用してください。

参照
・「CyberWarner-NX」の起動方法→ PART1「Windows 98の動作の監視〈CyberWarner-NX〉」

ウイルスを検査、駆除する（VirusScan for Windows 95/98）

「VirusScan for Windows 95/98」は、ディスクのシステム、データ領域、メモリをチェックしてコンピュータウイルス（以降、ウイルス）に感染していないかを調べたり、万一、感染していた場合でも、ウイルスを駆除して、プログラムやシステム領域が元の状態になるまで修復することができます。

チェック!!

購入時は起動されていません。起動してから使用してください。

参照

・「VirusScan for Windows 95/98」の起動方法、設定方法→ＰＡＲＴ１「ウイルスの検査と駆除〈VirusScan for Windows 95/98〉」

Windows 98の利用環境の変更〈CyberTrio-NX〉

このアプリケーションでは、Windows 98を利用するレベルに合わせたモードの変更ができます。

モードの種類

「CyberTrio-NX」では、次の3種類のレベルのモードから選ぶことができます。

◎ベーシックモード

システムへ影響を与える機能の動作を制限し、本機やアプリケーションへの予期しないダメージを未然に防ぎます。

◎キッズモード

「マイプログラム」または「キッズモードのデスクトップ」に登録しているアプリケーションのみが使用できます。

◎アドバンストモード

Windows 98へのフルアクセスが可能です。

チェック!!

購入時は「ベーシックモード」に設定されています。システムの設定が必要になったときは、「アドバンストモード」に切り替えてください。

モードの変更

Windows 98の利用するレベルは、購入時は「ベーシックモード」に設定されていますが、自由に変更できます。モードに合わせて、タスクバーに表示されている「CyberTrio-NX」のインジケータ の色がモードに応じて次のように変わります。

「キッズモード」　：緑色
「ベーシックモード」　：黄色
「アドバンストモード」：赤色

チェック!!

「CyberTrio-NX」のモード変更を行う前に、ほかの起動中のアプリケーションを必ず終了させてください。また、編集中の必要なデータなどは保存してください。

ベーシックモードからアドバンストモードへの変更

①「スタート」→「プログラム」→「CyberTrio-NX」→「Go To アドバンストモード」をクリック。
「アドバンストモード」へ変更されます。

チェック!!

・「ランチ-NX」からは次の手順で変更できます。
「ユーティリティ」→「CyberTrio-NX（利用者モード）」→「CyberTrio-NX（利用者モード変更メニュー）」→「アドバンストモード」をクリック。

ベーシックモード（またはアドバンストモード）からキッズモードへの変更

①「スタート」→「プログラム」→「CyberTrio-NX」→「Go To キッズモード」をクリック。
「キッズモード」へ変更されます。

チェック!!

・「ランチ-NX」からは次の手順で変更できます。
「ユーティリティ」→「CyberTrio-NX（利用者モード）」→「CyberTrio-NX（利用者モード変更メニュー）」→「キッズモード」

キッズモードからほかのモードへの変更

①「スタート」→「プログラム」→「Go To ベーシックモード」または「Go To アドバンストモード」をクリック。
「ベーシックモード」または「アドバンストモード」へ変更されます。

起動時のモードの設定

本機の電源を入れたときに起動するモードを設定できます。購入時は「前回終了した時のモード」が設定されています。

①「スタート」→「プログラム」→「CyberTrio-NX」→「CyberTrio-NX セットアップ」をクリック。
次のメニューが表示されます。

「前回終了した時のモード」では、前回に本機の電源を切ったときに使われていたモードで起動します。
「起動時にモードを選択」を選ぶと、本機の電源を入れて起動したときに、「CyberTrio-NX」メニューが表示され、モードを選ぶことができます。

モードの変更時の注意

Windows 98で「ユーザー別の設定」を行っている場合、「CyberTrio-NX」のモードを変更することはできません。「CyberTrio-NX」のモードを変更する場合は、次の手順で「ユーザー別の設定」を解除してください。

①「コントロールパネル」を起動する。
(「スタート」→「設定」→「コントロールパネル」)
「コントロールパネル」が表示されます。

②「パスワード」をダブルクリック。
「パスワードのプロパティ」ウィンドウが表示されます。

③「ユーザー別の設定」タブをクリック。
「ユーザー別の設定」タブのウィンドウが表示されます。

④「このコンピュータでは、すべてのユーザーが同じ基本設定とデスクトップ設定を使う」をクリック。

⑤「OK」をクリック。
再起動を促すメッセージが表示されます。

⑥「はい」をクリック。
「ユーザー別の設定」が解除できました。

ベーシックモード

「ベーシックモード」では、「アドバンストモード」に比べて、ユーザーがシステム環境を誤って変更しないように、システムへ影響を与える動作を制限し、本機やアプリケーションへの予期しないダメージを未然に防ぐことを目的としています。通常は、このモードを使うことをおすすめします。

ベーシックモードでの制約

「ベーシックモード」では次の点で制約があります。これらの機能を使う場合は、「アドバンストモード」に変更してください。

参照
・モードの変更→この項の「モードの変更」

コントロールパネル

「コントロールパネル」に関して次のような制約があります。

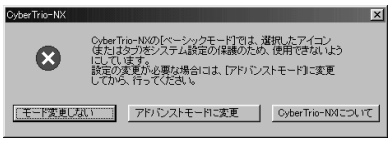
使用できないアイコン(アイコンを起動しようとするとメッセージが表示されます)

・「ネットワーク」

・「マルチメディア」

・「システム」

これらのアイコンを起動しようとすると、次の画面が表示されます。



この画面のボタンをクリックすると、次のようになります。

・「モード変更しない」

「ベーシックモード」に戻ります。

・「アドバンストモードに変更」

自動的に「アドバンストモード」に変更します。

・「CyberTrio-NXについて」

ヘルプが表示されます。

「ベーシックモード」では使用できないアイコンを起動する場合は、「アドバンストモードに変更」をクリックしてください。「アドバンストモード」に変更されたら、その後、「コントロールパネル」から、必要なアイコンを起動してください。

また、「プリンタ」で「プリンタの削除」はできません。

■ タスクバーの設定
変更できません。(再起動すると元の設定に戻ります。)

■ レジストリエディタとシステムエディタ
使用できません。

■ CyberWarner-NXの使用
起動時に「警告あり」のモードになります。起動後に、「警告なし」のモードへの変更は可能です。

参照
・「CyberWarner-NX」→PART1「Windows 98の動作の監視〈CyberWarner-NX〉」

ベーシックモードでの注意

「ベーシックモード」では、次の点に注意してください。

■ 設定変更時の注意
「ベーシックモード」では、タスクバーの設定は、ご購入時の状態で使用してください。タスクバーの設定を変更して使用する場合は、「アドバンストモード」で使用してください。

■ Safeモードで起動した場合の注意
本機に問題があり、Windows 98がSafeモードで起動した場合、「CyberTrio-NX」が「ベーシックモード」になっていると、ハードウェアの設定を変更できません。
このような場合は、次の手順で設定の変更を行ってください。

①「スタート」→「ファイル名を指定して実行」をクリック。
「ファイル名を指定して実行」ウィンドウが表示されます。

②「名前」に次のように入力する。
c:\cybertrio\kiddos c:\cybertrio\script\normal.dtc

③「OK」をクリック。
これでハードウェアの設定を変更することができます。「デバイスマネージャ」などで、変更が必要なハードウェアの設定を行ってください。

キッズモード

本機を、子どもといっしょに使いたいときは、子どもが使えるアプリケーションを限定し、子ども専用のパソコンとして設定できます。

使いたいアプリケーションの設定や、「キッズモード」の動作設定などは、「ベーシックモード」または「アドバンストモード」からできます。

チェック!!
「キッズモード」では次の制約があります。

・「スタート」メニューから選べるのは「Windowsの終了」「ヘルプ」「プログラム」だけです。

・マウスの右クリックは動作しません。

・タスクバーには (CyberTrio-NX)のインジケータだけが表示されます。

・「CyberWarner-NX」がインストールされているときは、「キッズモード」は「警告あり」のモードで起動されます。このとき、アイコンは表示されません。

使いたいアプリケーションの設定

「キッズモード」で使用できるアプリケーションは、「ベーシックモード」または「アドバンストモード」のときに次の手順で設定します。保護者の方が、設定してあげてください。

チェック!!
購入時には「デスクトップ」に「CyberTrio-NXメニュー」が追加されています。

①「スタート」→「プログラム」→「CyberTrio-NX」→「キッズモードの設定」→「プログラムの追加と削除」をクリック。

② アプリケーションの追加先に「マイプログラム」、「デスクトップ」、「スタートアップ」を指定する。

③「追加」をクリック。
メニューが表示されます。

チェック!!

・アプリケーションのショートカットを追加するときは、「プログラム」メニューを選んでショートカットを選んでください。

・アプリケーションのファイル名を追加するときは、「参照」メニューを選んで、「ファイルを開く」ウィンドウの中でファイル名を選んでください。

・使用できるアプリケーションを確認するには、「プロパティ」をクリックします。

・アプリケーションを削除するときは、「削除」をクリックします。

・アプリケーションの追加先を「スタートアップ」に設定するとキッズモードでパソコンを起動したとき、自動的に、追加したアプリケーションを起動することができます。

④「閉じる」をクリック。

キッズモードの動作設定

パスワード、デスクトップの背景、サウンドなどの設定ができます。

パスワードの設定

子どもが「キッズモード」からほかのモードに変更できないように、パスワードを設定できます。パスワードは最大8文字までの英数字で、「ベーシックモード」または「アドバンストモード」から設定します。

チェック!!

購入時には、パスワードは設定されていません。

①「スタート」→「プログラム」→「CyberTrio-NX」→「キッズモードの設定」→「動作設定」をクリック。
「CyberTrio-NX のプロパティ」ウィンドウが表示されます。

②「パスワードの設定」タブをクリック。

③「パスワードを設定する」にチェックマークをつける。

④「パスワード」にパスワードを入力する。

⑤「パスワードの確認」にもう一度同じパスワードを入力する。

⑥「OK」をクリック。

チェック!!

設定したパスワードを忘れたときは、次の「緊急用パスワード」を入力して、ほかのモードへ変更してから、パスワードをもう一度設定し直してください。

「緊急用パスワード」：71709981

背景の設定

「キッズモード」で使用する背景を設定できます。子どもの好みに合わせて選ぶことができます。

①「スタート」→「プログラム」→「CyberTrio-NX」→「キッズモードの設定」→「動作設定」をクリック。
「CyberTrio-NX のプロパティ」ウィンドウが表示されます。

②「背景」タブをクリック。

③「壁紙」リストボックスから、壁紙を選ぶ。

チェック!!

画面の解像度を 640 × 480 にして「キッズモード」を使用される場合、壁紙は画面からはみ出して表示されます。壁紙が画面からはみださないようにするには、壁紙を（LowRes）と表記されているものに変更してください。
また、1024 × 768 以上の解像度では、壁紙は並べて表示されます。

④「OK」をクリック。

サウンドの設定

「キッズモード」で使用するサウンドを設定できます。子どもの好みに合わせて選ぶことができます。

①「スタート」→「プログラム」→「CyberTrio-NX」→「キッズモードの設定」→「動作設定」をクリック。
「CyberTrio-NX のプロパティ」ウィンドウが表示されます。

②「サウンド」タブをクリック。

③ 各イベントに対して、サウンドを指定する。

④「OK」をクリック。

Windows 98の動作の監視〈CyberWarner-NX〉

Windows 98の動作状況を監視し、動作に影響を与えるファイルを操作中に削除または変更しようとすると警告を表示します。また、ログファイルを収集して、保守時に利用することもできます。

起動と終了

本機の購入時には、「CyberWarner-NX」は起動されていません。
起動する手順は次の通りです。

①「コントロールパネル」を開く。
（「スタート」→「設定」→「コントロールパネル」）

②「CyberWarner-NX」をダブルクリック。

③「スタートアップ」タブをクリック。

④「開始」をクリック。

◎ オプションの説明

・「起動時に CyberWarner-NX を実行する」
次回から、本機を起動するときは、「CyberWarner-NX」が常駐プログラムとして実行されます。
購入時の状態では、チェックが外されています。

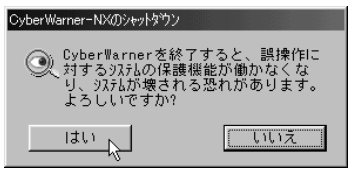
・「タスクバーにCyberWarner-NXアイコンを表示する」
「CyberWarner-NX」の実行中は、タスクバーに「CyberWarner-NX」アイコンを表示します。
購入時の状態では、チェックが付けられています。

⑤「OK」をクリック。

終了の方法

① タスクバーの右隅にある（CyberWarner-NX）をクリック。

②「終了」をクリック。
次の画面が表示されます。

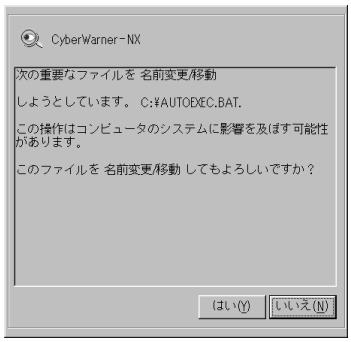


③「はい」をクリック。

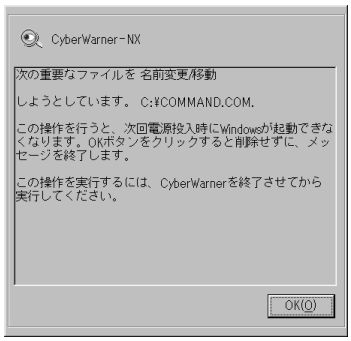
警告メッセージ

Windows 98 の動作状況を監視し、動作に影響を与えるファイルに対して、削除または変更しようとすると、警告メッセージを表示します。
メッセージには操作の確認用メッセージと警告用メッセージがあります。

確認用メッセージ



警告用メッセージ



警告メッセージの表示 / 非表示

警告メッセージを表示するかどうかを設定できます。「警告なし」を選ぶと、警告メッセージを表示せずに処理されます。確認メッセージは警告メッセージの表示 / 非表示にかかわらず表示されます。

① 「コントロールパネル」を開く。
（「スタート」→「設定」→「コントロールパネル」）

② 「CyberWarner-NX」をダブルクリック。

③ 「一般」タブをクリック。

④ 「警告あり」または「警告なし」をクリック。

⑤ 「OK」をクリック。

チェック!!
購入時は、「CyberTrio-NX」を「ベーシックモード」に設定すると、自動的に「警告あり」に、「アドバンストモード」にすると自動的に「警告なし」に設定されるようになっています。

バックアップファイル

ログ対象ファイルを操作（移動、削除、修正、名前の変更など）した場合、その操作前のファイルが保存されます。

バックアップファイルの設定

バックアップファイルの収集に関する設定ができます。

① コントロールパネルを開く。
（「スタート」→「設定」→「コントロールパネル」）

② 「CyberWarner-NX」をダブルクリック。

③ 「バックアップ」タブをクリック。
スライダを移動するとバックアップファイルの最大サイズを変更することができます。

◎バックアップ
ログと一緒に収集するバックアップデータを保存しておく場所の容量を設定できます。

ログ対象ファイルの説明

ログファイルの説明

◎ Critical File
次のファイルを変更したときは、変更の警告メッセージが表示され、変更しようとしたファイルが自動的に復旧（元の状態に戻ること）されます。

\command.com
\io.sys
\windows\himem.sys
\windows\win.com
\windows\notepad.exe
\windows\regedit.exe
\windows\explore.exe
\windows\system\vmm32*.*
\windows\command.com
\windows\system\sysedit.exe
\windows\system\iosubsys*.*
\windows\rundll.exe
\windows\rundll32.exe
\windows\progman.exe
\windows\control.exe
\windows\winfile.exe
\windows\taskman.exe
\windows\aztpnp.exe
\windows\winsock.dll

◎ Non Critical File
次のファイルを変更したときは、変更の確認メッセージが表示されます。

\autoexec.bat
\config.sys
\msdos.sys
\windows\command*.*
\windows\system*.dll
\windows\system*.vxd

◎ Special
次のファイルを変更したときは、変更の確認メッセージが表示されます。また、他のアプリケーションをインストールしたときに次のファイルが変更されると、自動的に変更前の状態がログファイルに保存されます。

\windows\win.ini
\windows\system.ini

ファイルの削除についての注意

「CyberWarner-NX」で保護されているファイルを削除する場合、「ごみ箱」の中身がないにもかかわらず、中身があるように表示されることがあります。

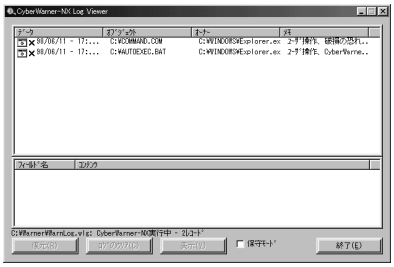
このような場合には、次の手順で「ごみ箱」の中身の状態と表示を合わせてください。

① デスクトップの「ごみ箱」を右クリック。
メニューが表示されます。

②「ごみ箱のプロパティ」をクリック。
「ごみ箱のプロパティ」が表示されます。

③「OK」をクリック。

ログファイルの表示



「CyberWarner-NX ログビューワ」を使って収集したログ情報を参照できます。

①「コントロールパネル」を開く。
(「スタート」→「設定」→「コントロールパネル」)

②「CyberWarner-NX」をダブルクリック。

③「一般」タブをクリック。

④「参照」をクリック。
ログビューワが表示されます。

チェック!!

収集したログファイルは保守モードでのみ操作可能です。ログファイルの操作にはパスワードによる保護がかけられています。この保守モードは、お客様からの問い合わせの際に、NECの担当員から指示があったときのみ使用してください。通常は、使用しないでください。

ログビューワの上のリストには次のものが表示されます。

・データ
記録した日時を表示します。

・オブジェクト
ログを取得する対象ファイルを絶対パスで表示します。

・オーナー
操作を行ったときに使用したアプリケーション名を表示します。

・メモ
操作の状態、および、簡単な説明を表示します。操作の状態は、次のどちらかになります。

・ユーザ操作

・アプリケーション操作

上のリストで「データ」を選ぶと、下のリストの「フィールド名」と「コンテンツ」には次の項目が表示されます。

・管理者
「ファイル」と表示されます。

・復元する
バックアップファイルが使用可能かどうかを表示します。

・復元されました
ファイルが保守モードでの復元ボタンで、復元されたかどうかを表示します。

1：復元されました
0：復元されていません

・日付
記録した日時を表示します。

・ソース
ログを取得する対象ファイルを絶対パスで表示します。

・バックアップ
バックアップファイルが存在する場合、絶対パスで表示します。

・オーナー
操作を行ったときに使用したアプリケーション名を表示します。

・オペレーション
変更や削除、操作の種類を表示します。

・メモ
操作の状態、および、簡単な説明を表示します(上のリストの、メモと同じです)。

ウイルスの検査と駆除〈VirusScan for Windows 95/98〉

VirusScanは、ウイルスを検査し、万一ウイルスが発見されたときは、駆除することができます。

概要

ウイルスを検査するには、次の4通りの方法があります。

・VShield
常にファイルのアクセスを監視し、ウイルスが感染しないように検査します。

・ScreenScan
スクリーンセーバの実行中に、ウイルスが感染していないかを検査します。

・VirusScan コンソール
あらかじめ設定した時間に自動的にウイルスが感染していないかを検査します。

・VirusScan
その場でウイルスが感染していないかを検査します。

チェック!!

・ワクチンソフトのウイルス検索エンジンは順次更新されます。将来、検索エンジンを新しくしなければ、定期パターンアップだけでは発見できないウイルスが出現することが予測されます。
詳しくは、「スタート」→「プログラム」→「McAfee VirusScan」→「必ずお読みください」をご覧ください。

・「VirusScan」でエマージェンシーディスクを作成する場合は、フォーマット済みのフロッピーディスクが 2 枚必要です。

常に検査する（VShield）

「VShield」はファイルのアクセス、コピー、実行などを常に監視し、リアルタイムでウイルスの感染を検査します。

「VShield」は次の手順で設定します。

①「スタート」→「プログラム」→「McAfee VirusScan」→「VirusScan コンソール」をクリック。
「VirusScan Console」ウィンドウが表示されます。

②「McAfee VShield」をダブルクリック。
「タスクプロパティ」ウィンドウが表示されます。

③「詳細設定」をクリック。
「VShield 設定」ウィンドウが表示されます。

④「スタートアップ時に起動」にチェックマークをつける。

⑤「OK」をクリック。
「今すぐに読み込みを行いますか？」のメッセージが表示されます。

⑥「はい」をクリック。
これで、「VShield」の設定が完了です。
次回からの起動時には、自動的に「VShield」が常駐します。

チェック!!

「VShield」は常にファイルのアクセスを監視するために、アプリケーションの動作は多少、遅くなります。

スクリーンセーバ実行中に検査する（ScreenScan）

「ScreenScan」はスクリーンセーバを実行している間に、ウイルスが感染していないかを自動的に検査します。本機を使用していないときに自動的に実行されるため、操作の妨げにはなりません。
「ScreenScan」は次の手順で設定します。

①「コントロールパネル」を開く。
（「スタート」→「設定」→「コントロールパネル」）

②「画面」をダブルクリック。
「画面のプロパティ」ウィンドウが表示されます。

③「スクリーンセーバー」タブをクリック。
「スクリーンセーバー」タブのウィンドウが表示されます。

④ スクリーンセーバーを設定をする。

⑤「McAfee ScreenScan」タブをクリック。
「McAfee ScreenScan」タブのウィンドウが表示されます。

※この画面は機種によって異なる場合があります。

⑥「スクリーンセーバ動作中にスキャンする」にチェックマークをつける。

⑦「OK」をクリック。
これで「ScreenScan」の設定は完了です。

チェック!!

「ScreenScan」の設定をしないで「スタート」→「プログラム」→「McAfee VirusScan」→「ScreenScan」をクリックしても「ScreenScan」は実行されません。

定期的に検査する（VirusScan コンソール）

「VirusScan コンソール」では、1回、毎時、毎日、毎週、毎月などと指定することにより、ウイルス感染の検査を自動的に実行します。
「VirusScan コンソール」は次の手順で設定します。

①「スタート」→「プログラム」→「McAfee VirusScan」→「VirusScan コンソール」をクリック。
「VirusScan Console」ウィンドウが表示されます。

②「タスク」メニューの「新規のタスク」をクリック。
「タスクプロパティ」ウィンドウが表示されます。

③「プログラム」タブをクリック。
「プログラム」タブのウィンドウが表示されます。

④ タスクの名前を入力する。
（例「定期検査」を入力）

⑤「詳細設定」をクリック。
「McAfee VirusScanプロパティ」ウィンドウが表示されます。

⑥「スキャン」タブをクリック。
「スキャン」タブのウィンドウが表示されます。

⑦「自動検査開始」にチェックマークをつける。

⑧「OK」をクリック。

チェック!!

「VirusScan の設定を変更するには、アドバンスドモードにする必要があります。」と表示されたときは、「OK」をクリックしてください。

⑨「スケジュール」タブをクリック。
「スケジュール」タブのウィンドウが表示されます。

⑩「スケジュール有効」にチェックマークをつける。

⑪「実行タイミング」と「開始時間」を設定する。

⑫「OK」をクリック。
これで「VirusScan コンソール」の設定は完了です。
設定した時間に「VirusScan」が実行されます。

VirusScan コンソールの常駐

指定した時間に、自動的に「VirusScan」を起動するためには、「VirusScan コンソール」が常駐していることが必要です。また、常駐している「VirusScan コンソール」を終了させると、「VirusScan」が自動的に起動されなくなりますので、注意してください。

すぐに検査する（VirusScan）

外部からフロッピーディスクや文書ファイルを受け取ったときには、「VirusScan」を実行して受け取ったファイルがウイルスに感染していないことを確認してください。次の手順で実行してください。

①「スタート」→「プログラム」→「McAfee VirusScan」→「VirusScan」をクリック。
「VirusScan」ウィンドウが表示されます。

② スキャンするドライブ、フォルダ、スキャン対象を設定する。

③「スキャン開始」をクリック。
これで、ウイルスの検査が実行されます。

ウイルスを駆除する

ウイルスが発見されたときは、「ウイルスの除去」をクリックしてウイルスを駆除してください。
詳しい説明は、「VirusScan コンソールオンラインヘルプ」をご覧ください。

PART

2

便利なアプリケーション

- 本機の基本操作を知る〈CyberCoach-NX〉
- 画像を取り込む〈PictureStudio Light〉
- 写真をシールにする〈シール倶楽部〉
- 画像の一覧表示〈Thumbs Studio〉
- FAX の使用〈FAX-NX〉
- タイマー機能〈Timer-NX〉
- 音楽 CD/ ビデオ CD/ フォト CD の再生〈プレーヤ -NX〉
- カーナビ CD の再生〈MapPlayer-NX〉
- ランチ -NX の設定
- CD の自動起動〈CD ランチ〉
- 英語モードフォントの使用
- テキストリーダの使用
- 一太郎 Office8 について
- Microsoft Excel&Word&Outlook について
- ゲームで遊ぶ

本機の基本操作を知る〈CyberCoach-NX〉

このアプリケーションを実行すると、本機を使用するために必要な基本操作のレッスンが始まります。目で見ながら、耳で聞きながら、そして自分でも実際に操作しながら楽しく覚えましょう。

CyberCoach-NXとは

「CyberCoach-NX」は、パソコンの操作方法をパソコン自身が画面や音声で教えてくれるアプリケーションです。パソコンの使い方を知りたいときにお使いください。

チェック!!

- 「CyberCoach-NX」は、「CyberTrio-NX」のモードが「ベーシックモード」または「アドバンストモード」のときに使用できます。

参照

- 「CyberTrio-NX」→PART1「Windows 98の利用環境の変更 <CyberTrio-NX>」

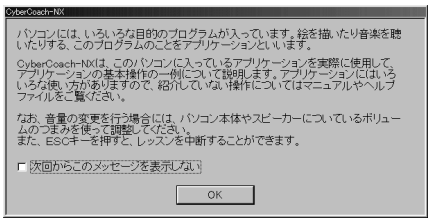
レッスンを始める

「CyberCoach-NX」を起動して、「CyberCoach-NX（使い方）」メニューから見たいレッスンを選びます。

チェック!!

「CyberCoach-NX」を実行するときは、「ランチ-NX」以外のアプリケーションはすべて終了させてください。

①「ランチ-NX」→「スタディ＆ヘルプ」→「CyberCoach-NX（操作レッスン）」をクリック。
次の画面が表示されます。内容をよくお読みください。



「次回からこのメッセージを表示しない」のチェックボックスをクリックしてチェックを入れると、次回起動時から、この画面は表示されなくなります。

②「OK」をクリック。
「CyberCoach-NX（使い方）」メニューが表示されます。

③ 見たいレッスンをクリック。
レッスンが始まります。
音声が聞こえにくい場合などは、本機前面または外付けスピーカのボリュームつまみで調整してください。

チェック!!

- 「CyberCoach-NX」は「スタート」→「プログラム」→「CyberCoach-NX」→「CyberCoach-NX」をクリックして起動することもできます。
- 「CyberCoach-NX」の実行中は、画面の解像度は800×600になります。他の解像度で「CyberCoach-NX」を起動すると、終了後にデスクトップ上のアイコンの並びなどが、「CyberCoach-NX」起動前と異なる場合があります。
- レッスンを始める前に、「CyberCoach-NX」はデスクトップの整理を行うため、レッスンが始まるまで、少し時間がかかることがあります。
- レッスン中は指定されたところでのみ、マウスを使うことができます。キーボードについては、【Esc】以外のキーは使用しないでください。【Esc】の使い方は、この項の「レッスンを中断する」をご覧ください。

・レッスンの開始と終了の合図としてチャイムが鳴ります。

・メニュー中の「その他のレッスン」にはナレーションはありません。

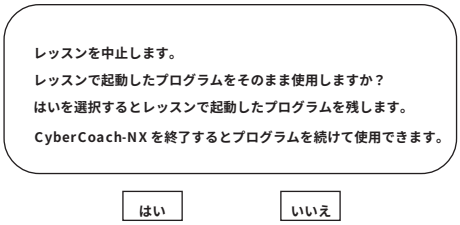
レッスンを中断する

レッスンを途中で止めたい場合は、次の手順を行います。

① レッスン中に【Esc】を押す。
レッスンが中止され、「CyberCoach-NX（使い方）」メニューの画面に戻ります。

チェック!!

【Esc】を押したときに、「CyberCoach-NX（使い方）」メニューの画面に戻らず、次のようなメッセージが表示される場合があります。



このような場合は、「はい」または「いいえ」をクリックしてください。
「はい」をクリックすると、レッスン中に起動したアプリケーションは終了しないで、レッスンのみを中止します。「CyberCoach-NX」の終了後、そのまま、起動したアプリケーションを使用できます。
「いいえ」をクリックすると、レッスン中に起動したアプリケーションを終了して、レッスンを中止します。

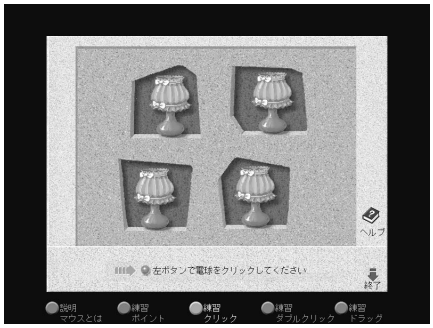
チェック!!

レッスンで操作方法を紹介しているアプリケーションは、その設定が購入時のものとして説明しています。ご自分でアプリケーションの設定を変更された場合は、レッスンが正しく動作しない場合があります。この場合、【Esc】を押してレッスンを終了してください。

各レッスンの概要

マウスを使う

マウスの基本操作（ポイント、クリック、ダブルクリック、右クリック、ドラッグ）についての説明をします。基本操作の練習もできます。



参照

・マウスの使い方について→『STEP 2 入門』
・マウスの設定について→ PART5「マウスの設定」

ウィンドウを操作する

標準的なウィンドウのタイトルバー、最大化ボタン、最小化ボタンの説明やウィンドウ移動、大きさの変更の操作などについての説明があります。

参照

・ウィンドウの操作について→『STEP 2 入門』

デスクトップを使う

Windows 98のデスクトップの「マイコンピュータ」や「ごみ箱」アイコンの説明や、タスクバー、インジケータ、スタートボタンなどの説明があります。

参照

・デスクトップについて→『STEP 3 活用』

絵を描く

本機にインストールされている「ペイント」という描画ソフトを起動して、かんたんなイラストの描きかたを説明します。

参照

・ペイントの使い方→『STEP 2 入門』

電源を OFF にする

本機の正しい終了操作を説明します。

参照

・電源の切り方について→『STEP 2 入門』

■ 電卓を使う

電卓の起動方法と、四則演算程度の計算用である「普通の電卓」と関数など複雑な計算用の「関数電卓」についての説明があり、例としてかんたんな計算を実演して見せてくれます。

■ FAX を送る

「FAX-NX」の起動のしかたや、FAX送信ボタン、FAX送信ダイアログ、カバーページメモの入力、送信結果の確認のしかたなどの説明があります。

参照

・「FAX-NX」について→PART2「FAXの使用〈FAX-NX〉」

■ 音楽 CD を聴く

チェック!!

・このレッスンを始める前に、CD-ROM ドライブにオーディオCDをセットしておいてください。また、終了後はイジェクトボタンを押して取り出してください。
・実行できる CD はオーディオ CD のみです。エクストラ CD（CD-Extra）は使用できません。
・オーディオCDをセットした後、CD-ROMドライブのアクセスランプが点灯中は、CDの認識中のため、「音楽CDがCD-ROMドライブにセットされていません」と表示される場合があります。このような場合には、アクセスランプが消えてから「はい」ボタンをクリックしてください。

「プレーヤ-NX」の起動のしかたや、再生ボタン、一時停止ボタン、停止ボタンなど操作に必要なボタンの説明があります。

参照

・「プレーヤ-NX」について→ PART2「音楽 CD ／ビデオ CD ／フォト CD の再生〈プレーヤ -NX〉」

■ 地図 CD を見る

チェック!!

・このレッスンを始める前に、CD-ROMドライブに地図CDをセットしておいてください。また、終了後はイジェクトボタンを押して取り出してください。
・地図 CD は、ナビゲーションシステム研究会 Ver2.01,2.1に準拠した日本国内用のCD-ROMを使用してください。ナビ研 S 規格には対応しておりません。
・地図CDをセットした後、CD-ROMドライブのアクセスランプが点灯中は、CD の認識中のため、「地図CDがCD-ROMドライブにセットされていません」と表示される場合があります。このような場合には、アクセスランプが消えてから「はい」ボタンをクリックしてください。

「MapPlayer-NX」の起動のしかたや、地図の表示レベルの変更方法、スクロールのしかたなどについての説明があります。

参照

・「MapPlayer-NX」について→ PART2「カーナビ CD の再生〈MapPlayer-NX〉」

■ タイマーを使う

「Timer-NX」の起動のしかたや、曜日の設定、実行プログラムの選択、プログラム起動時間の設定などについての説明があります。

参照

・「Timer-NX」について→ PART2「タイマー機能〈Timer-NX〉」

■ ゲーム（マインスイーパ）で遊ぶ

「マインスイーパ」を例にゲームの起動方法と、遊びかた、ヘルプの参照のしかたなどの説明があります。

■ CyberCoach-NX について

「CyberCoach-NX」についての概要を説明します。

■ その他のレッスン

画面解像度の変更や補足説明の読み方などについての説明があります。ただし音声はありません。
このレッスンを終了するときは、画面右上の ✕ をクリックしてください。

画像を取り込む〈PictureStudio Light〉(一太郎モデル、Word モデルのみ)

「PictureStudio Light」は、豊富な機能を持つ画像処理アプリケーションです。別売のデジタルビデオカメラなどから画像を取り込むことができます。

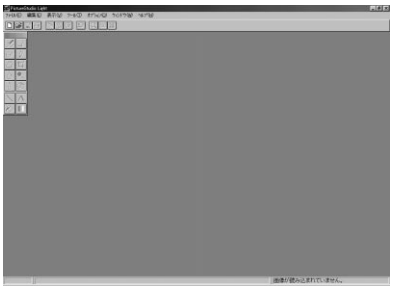
画像を取り込む準備

画像を取り込む準備をします。

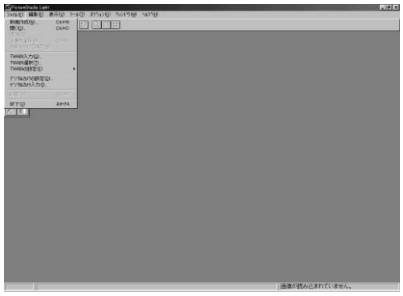
画像を取り込むための設定

別売のイメージスキャナやのデジタルビデオカメラから画像を取り込むには、TWAIN というインターフェイスを使います。TWAIN は、通常はイメージスキャナから画像を取り込むためのインターフェイスですが、デジタルビデオカメラから画像を取り込むのにも使います。
ここではTWAIN対応の別売のデジタルビデオカメラ(PK-MC202)を本機に接続して画像を取り込んでみます。
画像を取り込むために、TWAIN の設定を「ネイティブ」にします。

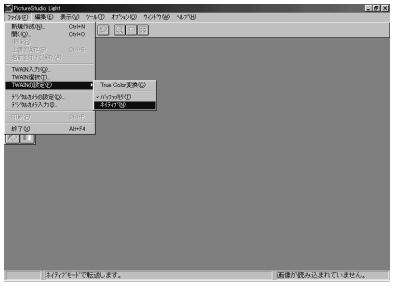
① 「PictureStudio Light」を起動する。
(「ランチ -NX」→「インターネット活用 & クリエイティブ」→「PictureStudio Light」または、「スタート」→「プログラム」→「PictureStudio Light」→「PictureStudio Light」)



② 「ファイル」をクリック。
メニューが表示されます。



③ 「TWAIN の設定」をポイントする。
小さなメニューが表示されます。



④ 「ネイティブ」をクリック。
TWAIN の設定が「ネイティブ」になりました。

⑤ 「ファイル」→「TWAIN の選択」をクリック。
「ソースを選択してください」ウィンドウが表示されます。

⑥ 「NEC Digital PC Camera」をクリックして「選択」をクリック。

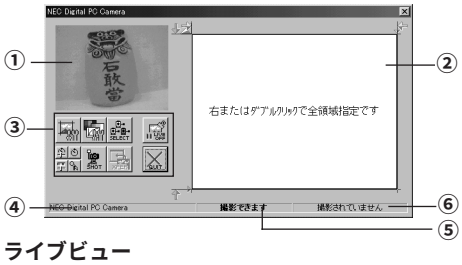
静止画像を撮る

ここでは別売のデジタルビデオカメラ(PK-MC202)を使って、写真(静止画像)を撮る方法を説明します。

ウィンドウの説明

静止画像を撮るには「PictureStudio Light」の「ファイル」→「TWAIN 入力」をクリックして行います。
ここでは、「PictureStudio Light」の「ファイル」→「TWAIN 入力」をクリックしたときに表示される「NEC Digital PC Camera」ウィンドウについて説明します。

ウィンドウ



① ライブビュー
カメラの画像をリアルタイムで表示します。

② スナッププレビュー
カメラで撮影した静止画が表示されます。この表示されている画像の指定範囲がアプリケーションソフトに転送されます。
画像内でマウスをドラッグして範囲を決定すれば、画像の一部だけを転送することができます。

③ 撮影／設定ボタン
撮影や設定を行うボタンです。

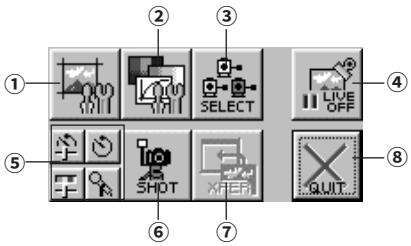
④ デバイス名表示
現在使用しているデバイス名が表示されます。

⑤ 状態表示
撮影の可否、セルフタイマの残り時間を表示します。音声反応撮影をONにしていると、レベルメータが表示されます。

⑥ 静止画サイズ
スナッププレビューに表示されている静止画のサイズを表示します。

チェック!!
ディスプレイのカラーパレットが256色の場合、スナッププレビューの色が正しく表示されないことがあります。

ボタン



① ソースビデオサイズの設定
カメラから取り込む画像のサイズや画質を設定します。

② ソースカラーの設定
カメラから取り込む画像の色合いを調整します。

③ キャプチャデバイスの変更
使用するキャプチャデバイスを変更します。

④ ライブ停止
ライブビュー（リアルタイム表示）を停止します。

⑤ オプションボタン
セルフタイマー撮影やその設定、および音声反応撮影のON/OFFとその設定ができます。

⑥ 撮影
カメラから静止画を取得します。

⑦ アプリケーションへ転送
アプリケーションソフトに静止画を転送します。

⑧ 終了
ウィンドウを閉じます。

画像サイズを設定する

「NEC Digital PC Camera」ウィンドウの（ソースビデオサイズの設定）をクリックすると、「ビデオ形式」ウィンドウが表示されます。
このウィンドウでは、次の設定ができます。

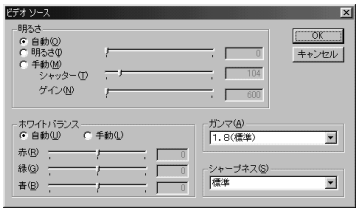
・サイズ
画像の表示サイズを設定します。「▼」をクリックするか、下の5種類の画像サイズのボタンをクリックして設定します。

・フォーマット
画像の色数を設定します。「▼」をクリックして、一覧から色数を選んでください。また、「高画質」を選ぶと、画質を優先し、「高速」を選ぶと、画像の動く早さを優先します。

・ズーム
「サイズ」で「QCIF」または「1/16」を選んだときに、設定できます。

画像の明るさや色合いを設定する

「NEC Digital PC Camera」ウィンドウの（ソースカラーの設定）をクリックすると、「ビデオソース」ウィンドウが表示されます。
このウィンドウでは、次の設定ができます。



・明るさ
画像の明るさを調整します。通常は自動のままで問題ありません。
「明るさ」を選ぶと、手動で調整することができます。

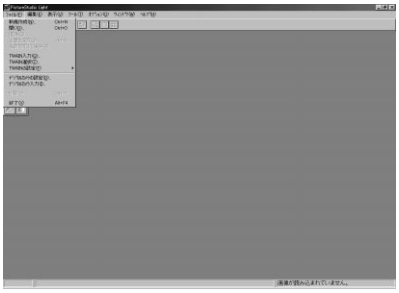
・ホワイトバランス
画像の白色を調整します。通常は自動のままで問題ありません。
「手動」を選んだ場合は、「赤」「緑」「青」のつまみを動かして、調整してください。

・ガンマ
ガンマ特性を変更できます。通常は、特に設定する必要はありません。

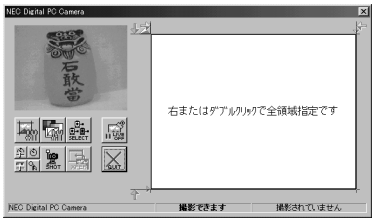
・シャープネス
画像のシャープさを設定できます。通常は、特に設定する必要はありません。

基本的な撮りかた

①「PictureStudio Light」の「ファイル」をクリック。
メニューが表示されます。



②「TWAIN 入力」をクリック。
しばらくすると、次のウィンドウが表示されます。



「ライブビュー」（ウィンドウの左上の部分）に、カメラでの映像が写っています。
自分の顔や、周りのものを映してみてください。
焦点は、カメラにあるダイヤルを回して調整します。
実際は映像のサイズや画質を調整することができますが、ここでは、そのまま撮ってみましょう。

③ 取り込みたい画像が決まったら、SHOT（撮影）をクリック。
「スナッププレビュー」（ウィンドウの右側）に撮影した静止画が表示されます。

④ （アプリケーションへ転送）をクリック。
「スナッププレビュー」に表示されている画像が「PictureStudio Light」に転送されます。

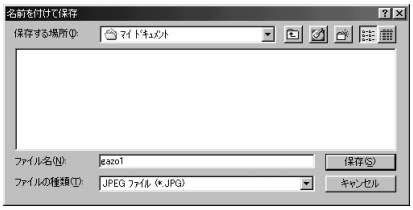
画像を保存する

撮った写真を保存します。

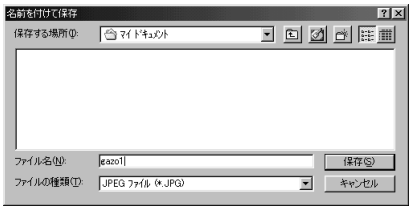
①「PictureStudio Light」の「ファイル」をクリック。
メニューが表示されます。

②「名前を付けて保存」をクリック。
「名前を付けて保存」ウィンドウが表示されます。

③「ファイルの種類」の ▼ をクリックして、保存する形式を選ぶ。
ここでは、例として、「JPEG ファイル (＊.JPG)」で保存してみます。



④「ファイル名」にファイル名を入力。
ここでは、例として、「gazo1」で保存してみます。



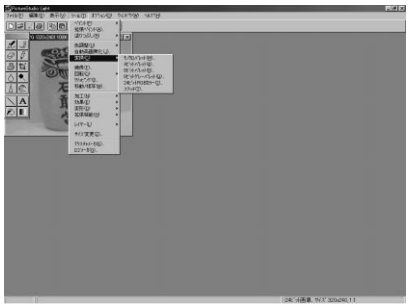
⑤「保存」をクリック。
「JPEG圧縮オプション」ウィンドウが表示されます。

⑥「OK」をクリック。
「gazo1.JPG」という画像ファイルとして保存できました。

画像を別の形式で保存する

保存した画像ファイルを、今度は別の形式で保存してみます。ここでは、インターネットの画像でよく用いられる GIF 形式で保存してみます。
GIF 形式で画像を保存するには、まず、画像データを 256 色(8 ビットパレット)に減色する必要があります。
次の手順で画像データを 256 色に減色してから、保存してください。

①「PictureStudio Light」の「ツール」→「変換」をクリック。
メニューが表示されます。



②「8 ビットパレット」をクリック。
「8 ビットパレット」ウィンドウが表示されます。

③「実行」をクリック。
画像が 256 色に減色されます。

④「PictureStudio Light」の「ファイル」→「名前を付けて保存」をクリック。
「名前を付けて保存」ウィンドウが表示されます。

⑤「ファイルの種類」の ▼ をクリックして、「GIF ファイル(＊.GIF)」を選ぶ。

⑥「保存」をクリック。
「GIF 出力オプション」ウィンドウが表示されます。

⑦ 必要に応じてオプションを設定して「OK」をクリック。
「gazo1.GIF」という画像ファイルとして保存できました。

チェック!!

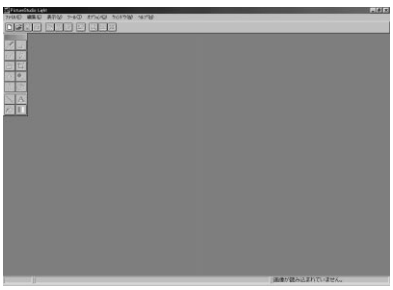
「GIF出力オプション」ウィンドウでは、次の設定ができます。

- 「GIF89aシグネチャ」は、画像の一部を透過させる場合に使用します。「GIF89aシグネチャ」にチェックを付けると、「透過」を選ぶことができます。
- 「インタレース」にチェックを付けると、インタレースモードで保存します。このモードで保存した画像をホームページで表示すると、荒い画像から細かい画像へと段階的に表示されるようになります。
- 「透過」にチェックを付けて、「カラー」をクリックすると「色の設定」ウィンドウが表示され、透過させる色が選べます。

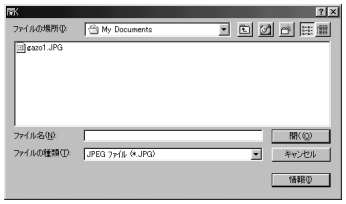
撮った画像を加工する

「PictureStudio Light」では、画像に様々な加工ができる機能があります。ここでは、例として、カメラで撮った画像に文字を付けてみましょう。

①「PictureStudio Light」を起動する。
(「ランチ -NX」→「インターネット活用 & クリエイティブ」→「PictureStudio Light」または、「スタート」→「プログラム」→「PictureStudio Light」→「PictureStudio Light」)



②「ファイル」→「開く」をクリック。
「開く」ウィンドウが表示されます。



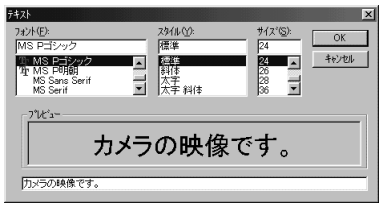
③ 開きたいファイルをダブルクリック。
画像が表示されます。

④「ツールボックス」の A をクリック。
「カラーでの塗りつぶし」ウィンドウが表示されます。

これで「テキスト選択」の状態になり、文字の形をした範囲を選択することができるようになります。

⑤ マウスカーソルを、画像の、文字を書き込みたい部分に移動してクリック。
「テキスト」ウィンドウが表示されます。

⑥ 書き込みたい文字を入力する。
入力した文字が「プレビュー」に表示されます。



⑦ フォントや文字のサイズなどを指定する。

⑧ 指定が終わったら「OK」をクリック。
画像に、文字の形をした点線枠が点滅表示されます。

これで文字の形の選択範囲ができました。

⑨「カラーでの塗りつぶし」ウィンドウの「色」をクリック。
「カラー選択」ウィンドウが表示されます。

⑩ 文字の色を選んでクリック。
「カラーでの塗りつぶし」ウィンドウの「色」が変わります。

⑪「カラーでの塗りつぶし」ウィンドウの「実行」をクリック。
色が気に入らなければ、「カラー選択」から色を選び直して、「カラーでの塗りつぶし」ウィンドウの「実行」をクリックしてください。

⑫ 必要な指定が終わったら、「カラーでの塗りつぶし」ウィンドウの「閉じる」をクリック。
これで、画像に文字を付けることができました。

オンライン マニュアル

「PictureStudio Light」の詳しい使い方については、「オンライン マニュアル」をご覧ください。
「スタート」→「プログラム」→「PictureStudio Light」→「オンライン マニュアル」をクリックすると、「オンライン マニュアル」が起動します。

写真をシールにする〈シール倶楽部〉

(一太郎モデル、Wordモデルのみ)

「シール倶楽部」を使うと、自分で撮った写真をもとにして、簡単に写真シールを作ることができます。

概要

「シール倶楽部」を使えば、デジタルビデオカメラやデジタルカメラで撮った写真をシール用紙に印刷して、街頭に置かれている機械で作ったのと同じような写真シールを作ることができます。さまざまなフレーム(縁取り)やワンポイント(飾り)も用意されており、順を追って操作するだけで素敵なシールが簡単にできあがります。

お使いになる前に

「シール倶楽部」でシールを作る前に、次の準備をしておいてください。

写真シールを作るのに必要なもの

・シールにする写真(画像データ)
別売のデジタルビデオカメラやデジタルカメラを使って、写真を撮って、パソコンに画像データとして保存しておきましょう。またイメージスキャナを使って、写真をスキャナから読み込むことができます。

・シール用紙(別売)
シールにする用紙です。「シール倶楽部」で使える用紙については、「お読みください」をご覧ください。「スタート」→「プログラム」→「シール倶楽部」→「お読みください」をクリックして、読むことができます。

チェック!!
本機にはシール用紙は添付されていません。

・プリンタ(別売)
お使いになるまえに、本機とプリンタを接続しておいてください。

参照
・プリンタの接続→『拡張の手引き』PART1「プリンタを接続する」

写真を撮る

別売のデジタルビデオカメラやデジタルカメラで写真を撮って、ファイルに保存しておきましょう。

参照
・デジタルビデオカメラやデジタルカメラでの写真の撮り方→デジタルビデオカメラやデジタルカメラに添付のマニュアル

チェック!!
別売のスキャナを接続して、写真をスキャナから読み込んで使うこともできます。TWAIN(トゥウェイン)対応のスキャナが使えます。

参照
・画像を取り込む→PART2「画像を取り込む<PictureStudio Light>」

シールを作る

「シール倶楽部」でシールを作る手順です。

チェック!!
ここでは「シール倶楽部」の基本的な使い方について説明しています。詳しい使い方については、「シール倶楽部」のオンラインヘルプをご覧ください。

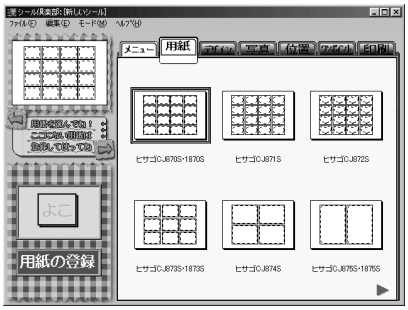
用紙とデザインを決める

シールにする用紙とシールのデザインを決めます。

①「シール倶楽部」を起動する。
(「ランチ-NX」→「インターネット活用&クリエイティブ」→「シール倶楽部」または「スタート」→「プログラム」→「シール倶楽部」→「シール倶楽部」)

「シール倶楽部」の初期画面が表示されます。

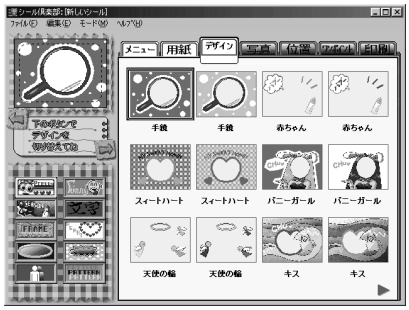
② 「あたらしいシールをつくる」をクリック。
使用する用紙の種類を選びます。



チェック!!

- ここでは、実際に印刷に使用する用紙の種類を選んでください。使用できる用紙については、「スタート」→「プログラム」→「シール倶楽部」→「お読みください」をご覧ください。
- をクリックすると、いつでも前の画面に戻って作業をやり直すことができます。
- 表示されていないところを見るには、一覧の右下の▶をクリックします。前に戻るには、一覧の左下に表示される◀をクリックします。
- で、用紙の縦と横を変更できます。クリックするとボタンが に変わって、用紙が縦になります。
- 用紙の登録をクリックして、表示された画面で「新規登録」をクリックすると、新しい用紙を登録することができます。

③ 使用する用紙の種類を選んで をクリック。
シールのデザインを選ぶ画面になります。



④ 使用するフレームの種類を選ぶ。
画面の左下にあるボタンでフレームデザインを切り替えることができます。
ここでは をクリックしてから右下の"魔法のランプ"の絵をクリックします。

フレームデザインの切り替え

チェック!!

表示されていないところを見るには、一覧の右下の▶をクリックします。前に戻るには、一覧の左下に表示される◀をクリックします。

⑤ をクリック。

写真を選ぶ画面が表示されます。

写真を選ぶ

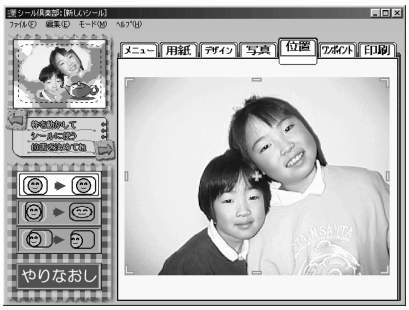
シールにする写真を選びます。

基本的な写真の選び方

ここではサンプルとして用意されている写真を使って、基本的な写真の選び方を説明します。

① 使いたい写真をクリック。
（例　サンプルとして用意されている中央の写真をクリック）
選んだ写真が左上のフレームに表示されます。

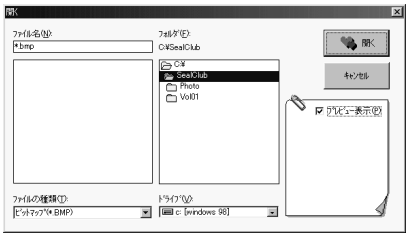
② をクリック。
写真の位置を決める画面が表示されます。



デジタルカメラで撮った写真を追加する

あらかじめ、デジタルカメラなどで撮っておいた写真をファイルとして保存しておけば、その写真のファイル（画像データ）を写真を選ぶ画面に追加できます。

① 写真を選ぶ画面で画面の左側にある「ファイルから追加」をクリック。
「開く」ウィンドウが表示されます。



② 保存しておいたファイルを指定して「開く」をクリック。
指定した写真が一覧に追加されます。

チェック!!

ビットマップ（*.ＢＭＰ）のほか、ＰＣＤ ファイル（*.PCD）、JPEG ファイル（*.JPG）が使用できます。

③ 使いたい写真をクリック。
選んだ写真が左上のフレームに表示されます。

④ をクリック。
写真の位置を決める画面が表示されます。

スキャナを使って写真を追加する

TWAIN 対応のスキャナから写真を追加する方法です。

① 写真を選ぶ画面で画面の左側にある「TWAIN から追加」をクリック。「ソースの選択」ウィンドウが表示されます。

② ソースを選んで「選択」をクリック。
スキャナから写真が取り込まれ、一覧に追加されます。

③ 使いたい写真をクリック。
選んだ写真が左上のフレームに表示されます。

④ をクリック。
写真の位置を決める画面が表示されます。

写真の位置を決める

フレームに写真がうまくおさまるように調整します。

① 右側の写真上に表示されている黄緑色の枠をマウスでドラッグして、写真の位置や形を調整する。

チェック!!

・左上のフレームに仕上がりのサンプルが表示されますので、確認しながら調整してください。

・左下の顔の絵が描かれた3種類のボタンをクリックすると、枠内の写真をシールの形に合わせることができます。ボタンをポイントすると、それぞれのボタンの説明が表示されます。

・左下の「やりなおし」をクリックすると、はじめから調整し直すことができます。

② をクリック。
ワンポイントを選ぶ画面が表示されます。

飾りや文字を入れる

写真に飾り（ワンポイント）を入れたり、好きな言葉（フリーワード）を入れることができます。

チェック!!

飾り（ワンポイント）や文字（フリーワード）を入れない場合は、そのまま をクリックしてください。
一度飾りや文字を入れてから、取り消す場合は左下の「なし」をクリックしてください。

飾り（ワンポイント）を入れる

「ワンポイント」は、写真にワンポイントイラストを付けることができます。

① 画面の左側にある「ワンポイント」をクリック。
ワンポイントの一覧が表示され、写真上には選択されたワンポイントが表示されます。

チェック!!

表示されていないところを見るには、一覧の右下の▶をクリックします。前に戻るには、一覧の左下に表示される◀をクリックします。

② 使いたいワンポイントを選び、写真に表示される青色の枠をドラッグして位置と大きさを決める。
（例　"あそぼ！"を選び、下の画面の位置にドラッグ）

③ をクリック。
印刷の画面が表示されます。

文字（フリーワード）を入れる

「フリーワード」では、好きな言葉を入力することができます。

① 画面の左側にある「フリーワード」をクリック。
文字を入力するボックスが表示されます。

② 文字を入力します。
（例　"ジャーン！"と入力）
写真上に入力した文字が表示されます。

③ 画面右下の「フォント」をクリック。
「フォントの指定」ウィンドウが表示されます。

④ フォント名、スタイル、サイズ、文字飾り、書体の種類を指定して「OK」をクリック。

⑤ 写真上に表示される青色の枠をドラッグして文字の位置を決める。

チェック!!

背景によっては、文字が反転して表示されることがあります。

⑥ をクリック。
印刷の画面が表示されます。

印刷する

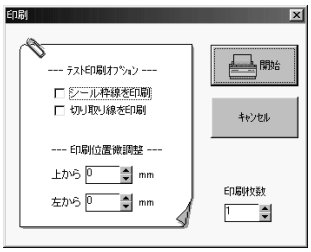
シール用紙に印刷します。

① 仕上がりのイメージを確認する。

チェック!!

- 「シート」をクリックすると、実際に用紙に印刷したときの完成イメージを見ることができます。「シール」をクリックするとシール1枚の表示に戻ります。
- 気に入らない場合は、 をクリックすれば、前に戻ってやり直すことができます。
- 「設定」をクリックすると、プリンタの設定を行うことができます。プリンタの設定については、プリンタの取扱説明書をご覧ください。

②「印刷」をクリック。
「印刷」ウィンドウが表示されます。



③ 印刷枚数を指定して「開始」をクリック。
シールが印刷されます。

チェック!!

- あらかじめテスト印刷を行うことをおすすめします。テスト印刷を普通紙で行う場合は、「テスト印刷オプション」を指定してシールの枠線や切り取り線を印刷することができます。
- テスト印刷を行った結果、印刷位置がずれる場合は、「印刷位置微調整」でずれを補正してください。
- 「キャンセル」をクリックすると、仕上がりのイメージを確認する画面に戻ります。

シールを保存する

① 仕上がりのイメージを確認する画面で「シールの保存」をクリック。
「「シール倶楽部」データの保存」ウィンドウが表示されます。

② シールのデータを保存する場所とファイル名を指定して「保存」をクリック。
シールのデータが保存されました。

チェック!!

保存したシールのデータは、「シール倶楽部」の初期画面の「まえのシールをよびだす」をクリックすると呼び出すことができます。

画像の一覧表示〈ThumbsStudio〉

ThumbsStudio（サムスタジオ）では、画像ファイルを、ドラッグ＆ドロップで収集したり、小さく一覧表示することができます。また、選んだフォルダ内の画像を自動的に順次表示してスライドショーとして見ることもできます。

ThumbsStudioについて

ThumbsStudioの機能

「ThumbsStudio」には次の機能があります。

・ネットサーフィンなどで気に入った画像をドラッグ＆ドロップで収集できます。
・小さい画像の一覧表示を見ながらファイルを選ぶ画像ファイルのサムネイル（画像を縮小して一覧表示したもの）を見ながら選択できるので、目的の画像ファイルがすぐに見つけだせます。

・スライドショー
フォルダを選んで、フォルダ内の画像ファイルをスライドショーで見ることができます。

一覧表示できるファイル形式

「ThumbsStudio」で一覧表示できるのは次の拡張子のついたファイルです。

ただし、(アイコン)と注釈のあるファイルは、一覧表示ではファイル種別を表すアイコンだけを表示します。

・画像ファイル
BMP、RLE、TGA、JPG、J61、TIF、GIF、PCD、PCX

・メタファイル
WMF、EMF

・3Dファイル
X、DXF（アイコン）

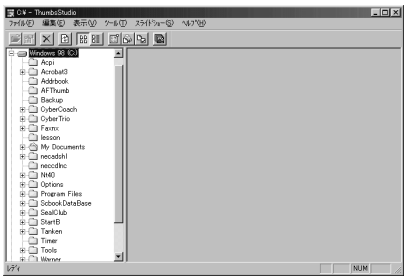
・動画ファイル
AVI（アイコン）、MPG（アイコン）

・音声ファイル
WAV（アイコン）、MID（アイコン）

画像を見ながらファイルを選ぶ

画像のサムネイル（画像を縮小して一覧表示したもの）を見ながら画像ファイルを開くことができます。

①「ThumbsStudio」を起動する。
（「ランチ-NX」→「メイン」→「ThumbsStudio（画像一覧）」または「スタート」→「プログラム」→「ThumbsStudio」→「ThumbsStudio」）



② ウィンドウの左側（フォルダの一覧）から画像の入っているフォルダを選ぶ。
画像がサムネイルで表示されます。

③ 目的の画像をダブルクリック。
画像ファイル形式に関連付けられたアプリケーションで画像ファイルが開きます。
画像をクリックして、メニューバーの「ファイル」-「開く」をクリックしてファイルを開くこともできます。
また、画像をアプリケーションにドラッグ＆ドロップしてファイルを開くこともできます。

イラストを収集する

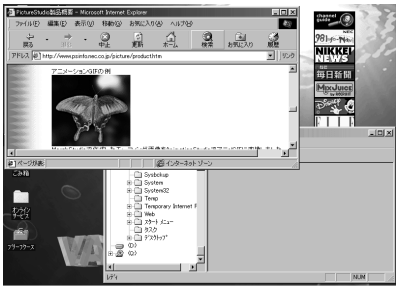
インターネット上のホームページからもドラッグ&ドロップで画像を簡単に収集することができます。

チェック!!

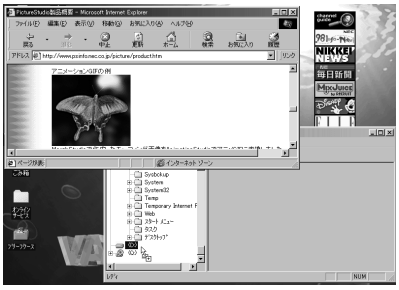
・収集した画像データは、データを保存したホームページ上で許可されている場合を除いて、非商業的かつ個人的な目的以外での使用・複製は禁じられています。

① 「ThumbsStudio」を起動する。
(「ランチ -NX」→「メイン」→「ThumbsStudio（画像一覧）」または「スタート」→「プログラム」→「ThumbsStudio」→「ThumbsStudio」)

② ブラウザを起動してインターネットに接続し、集めたい画像があるホームページを表示する。



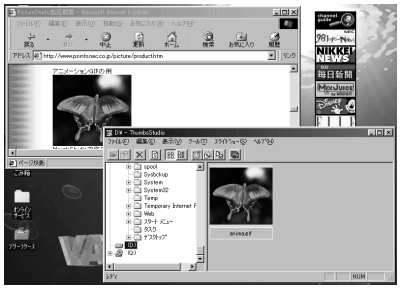
③ 画像をThumbsStudioのウインドウの左側（フォルダの一覧）の保存したいフォルダまでドラッグ。(例「D:\」にドラッグ)



④ 手順②、③を繰り返して、画像を収集する。

⑤ 集め終わったら、ThumbsStudioの「表示」→「最新の情報に更新」をクリック。

取り込んだ画像が一覧表示されます。



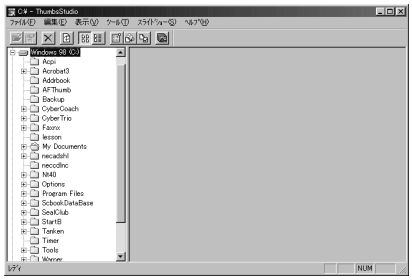
チェック!!

ブラウザによっては、ドラッグ&ドロップが利用できない場合やファイル名を正しく保存できない場合があります。この場合は、ブラウザ上で画像を右クリックして、「名前を付けて画像を保存」を選んでください。

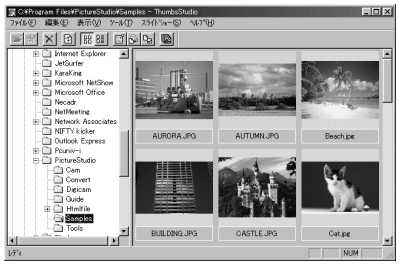
スライドショーで鑑賞する

フォルダを選んで、フォルダ内の画像ファイルをスライドショーで見ることができます。

① 「ThumbsStudio」を起動する。
(「ランチ -NX」→「メイン」→「ThumbsStudio（画像一覧）」または「スタート」→「プログラム」→「ThumbsStudio」→「ThumbsStudio」)

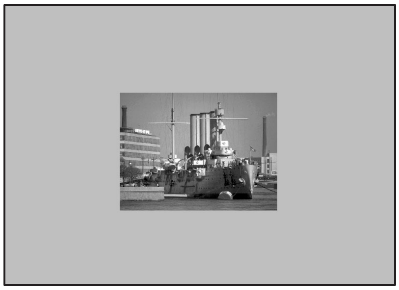


② ウィンドウの左側（フォルダの一覧）から画像の入っているフォルダを選ぶ。
画像がサムネイルで表示されます。



③「スライドショー」をクリックして、「開始」をクリック。
スライドショーが始まります。

ツールバーの(スライドショー）ボタンを押して、スライドショーを始めることもできます。



スライドショーを終了するときは【ESC】を押します。
メニューバーの「スライドショー」→「設定」をクリックすると、スライドショーに関する設定ができます。画面いっぱいに表示したり、手動でスライドさせたり（自動表示にしないでスペースキーを押すと次の画像ファイルの表示に移る）などの設定ができます。

FAXの使用〈FAX-NX〉

「FAX-NX」ではFAXの送受信ができます。留守のときに、FAXの自動受信などもできます。

FAX-NXについて

「FAX-NX」は本機をFAXとして使うためのアプリケーションです。本機がFAXとして機能するといっても、FAXで送る用紙を差し込む給紙口があるわけではないので、戸惑う方もいるかもしれません。そこで、そのことについて少し説明します。

本機のFAX機能とは、通常のFAXのように送受信を紙面で行うのではありません。本機にインストールされているいろいろなアプリケーションを利用して、送信する原稿を画面上で作成し、そのデータを送信して相手先のFAXの用紙に出力します。また、受信も相手から送られてきた内容を本機に取り込み、それを画面で表示して確認します。もちろんプリンタが本機に接続されていれば、受信したFAXを印刷することもできます。

本機を使用しているときでも、思い立ったときにFAXを送ったり、受けたりがかんたんにできます。「FAX-NX」はこのように非常に便利で役に立つアプリケーションです。

FAX-NXを起動する

「FAX-NX」を使用する前に、本機と電話回線が正しく接続されていることを必ず確認してください。

参照
・電話回線との接続→『STEP1 接続と準備』PART2「電話回線に接続する」

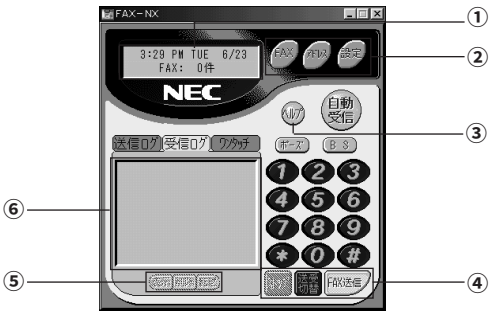
チェック!!
「FAX-NX」は本機の内蔵FAXモデムボード以外では動作しません。

FAX-NXの起動

「FAX-NX」は次のいずれかの方法で起動します。

・「ランチ-NX」→「メイン」→「FAX-NX（FAX）」
・「スタート」→「プログラム」→「アプリケーション」→「FAX-NX（FAX）」

各部の名称と役割



① 情報表示パネル
FAXの操作状態などが表示されます。

② 機能呼び出しボタン
セットアップ機能、FAXマネージャ、アドレス帳を呼び出すためのボタンです。

③ ヘルプボタン
オンラインヘルプを表示します。操作方法は、通常のWindowsのヘルプと同じです。

④ FAX機能ボタン
FAXを送受信するためのボタンです。

⑤ ログ操作ボタン
ログ表示パネルに表示されているログを操作するためのボタンです。

⑥ マルチ表示パネル
FAX の送受信ログの表示やワンタッチダイヤルの操作などができます。

FAX の送受信をテストする

「NEC パソコン FAX テスト交信サービス」で FAX の送受信のテストができます。
「NEC パソコン FAX テスト交信サービス」宛に FAX を送信し、うまく送信できたら、折り返し「NEC パソコン FAX テスト交信サービス」より FAX が届きます。
なお、本テストを行う前に、外付け電話機から電話が正しくかけられること（回線の種別（トーン／パルス）が正しく選択されていること）を必ず確認してください。

チェック!!

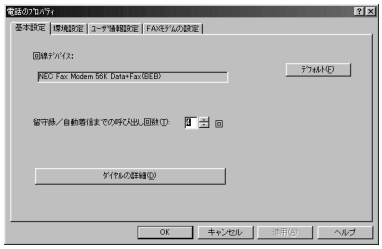
「NEC パソコン FAX テスト交信サービス」は、「FAX-NX」に対応しています。
ほかのアプリケーションからは利用できません。

テストの準備をする

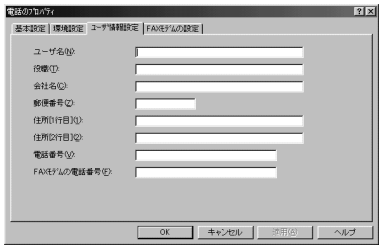
「NEC パソコン FAX テスト交信サービス」へ送信する FAX 内容の作成と、折り返される FAX を受信するための準備をします。

① 「FAX-NX」を起動する。
（「ランチ-NX」→「メイン」→「FAX-NX（FAX）」または「スタート」→「プログラム」→「アプリケーション」→「FAX-NX（FAX）」）

② 「設定」をクリック。
「電話のプロパティ」ウィンドウが表示されます。



③ 「ユーザ情報設定」タブをクリック。
次のようなウィンドウが表示されます。



④ 必要な事項を入力する。
少なくとも、次の項目に入力します。

- 「ユーザ名」
  あなたの名前
- 「住所［1 行目］」/「住所［2 行目］」
  あなたの住所（省略できます）
- 「電話番号」
  あなたの電話番号（FAX モデムの電話番号と同じ場合は省略できます）
- 「FAX モデムの電話番号」
  本機を接続した電話回線の番号

入力例

チェック!!

「FAX モデムの電話番号」は「NEC パソコン FAX テスト交信サービス」より折り返し FAX するための情報なので、市外局番から数字と「ー」（ハイフン）で正確に入力してください。

⑤「OK」をクリック。
「電話のプロパティ」ウィンドウが閉じ、「FAX-NX」ウィンドウが表示されます。

チェック!!

外付け電話機が接続されている場合は、外付け電話機の留守設定を解除しておいてください。

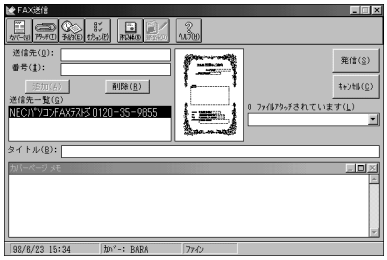
テストを開始する

「NEC パソコン FAX テスト交信サービス」宛に FAX を送信します。

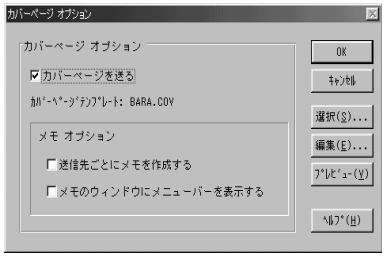
①「FAX-NX」の「アドレス」をクリック。
「アドレス帳」ウィンドウが表示されます。

②「NEC パソコン FAX 交信サービス」をクリック。
「NECパソコンFAX交信サービス」が反転表示されます。

③ ダイヤル（ダイヤル）をクリック。
「FAX 送信」ウィンドウが表示されます。



④ カバー（カバー）をクリック。
「カバーページオプション」ウィンドウが表示されます。



⑤「選択」をクリック。
「カバーページを開く」ウィンドウが表示されます。

⑥「ファイル名」から「faxtest.cov」をクリック。
「faxtest.cov」が反転表示されます。

⑦「OK」をクリック。
「カバーページオプション」ウィンドウに戻ります。

⑧「カバーページオプション」の「OK」をクリック。
「FAX 送信」ウィンドウに戻ります。

⑨「発信」をクリック。
送信が始まります。

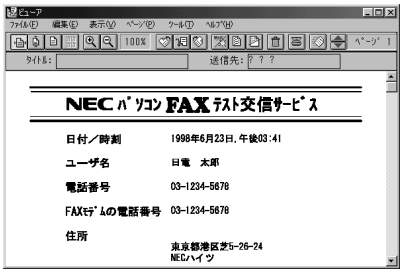
⑩「アドレス帳」を終了する。
右上の×をクリックすると「アドレス帳」ウィンドウが閉じます。

送信を確認する

正常に送信できたかどうかを確認します。

①「FAX-NX」の「送信ログ」をクリック。
「マルチ表示パネル」の一番上の欄に送信結果が表示されます。
「済み」と表示されている場合は正常に送信されているので、手順②へ進んでください。
「待ち」と表示されている場合は、しばらくすると（2～3分後）再度送信します。そのままお待ちください。

②「マルチ表示パネル」の「済み」の欄をダブルクリック。
「ビューア」ウィンドウが表示され、送信したFAXが表示されます。



③「ビューア」を終了する。
右上の×をクリックすると「ビューア」ウィンドウが閉じます。

受信を確認する

「NEC パソコン FAX テスト交信サービス」宛に FAX を正常に送信できると、通常 10 分以内に折り返し「NEC パソコン FAX テスト交信サービス」から FAX が届きます。折り返し時間は、そのときの「NEC パソコン FAX テスト交信サービス」の混み具合によって多少異なります。
また、「NECパソコンFAXテスト交信サービス」では、本機を接続した電話回線が使用中などでつながらない場合は、数分後に FAX を再送します（2 回まで）。

①「NEC パソコン FAX テスト交信サービス」から電話がかかってきたら、外付け電話機の受話器をとる。
FAXの「ピーガー」という交信音が聞こえれば、「NEC パソコン FAX テスト交信サービス」からの折り返しの FAX です。

②「送受切替」を 2 回クリック。
「FAX送信」ボタンが「FAX受信」ボタンに変わります。

③「FAX 受信」をクリック。
受信が開始された後に外付け電話機の受話器を置いてください。
FAXの受信が完了すると、次のようなメッセージが表示されます。

④「OK」をクリック。

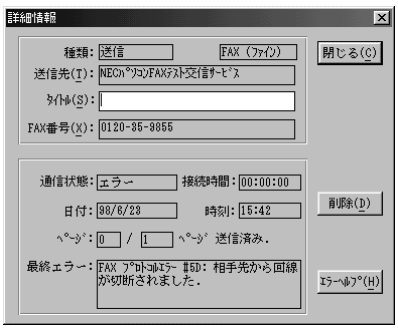
⑤「FAX-NX」ウィンドウの「受信ログ」をクリック。
「マルチ表示パネル」の一番上の欄に受信結果が表示されます。「未読」と表示されている場合は、正常に受信されています。

⑥「マルチ表示パネル」の「未読」の欄をダブルクリック。
「ビューア」ウィンドウが表示され、自動受信したFAXが表示されます。

送信が「異常」になった場合

次の操作手順に従ってください。

①「マルチ表示パネル」の「異常」をダブルクリック。
「詳細情報」ウィンドウが表示されます。



「通信状態」が「エラー」の場合、「最終エラー」にエラーメッセージが表示されています。
「エラーヘルプ」をクリックして、原因と対処方法を調べてください。

送信はうまくいったがFAXが届かない場合

送信が「済み」になってから10分程度たってもFAXが届かない場合は、「テストの準備をする」の項をご覧になり次の項目を確認し、もう一度、テストをやり直してください。

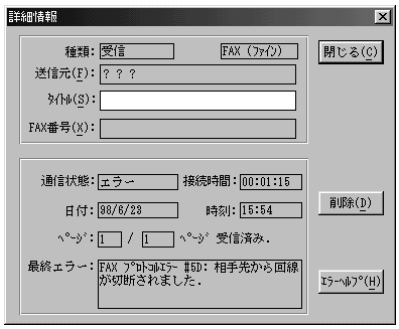
・「FAXモデムの電話番号」の番号が間違っていないか。

・外付け電話機の留守設定を解除しているか。

受信が「異常」になった場合

次の操作手順に従ってください。

①「マルチ表示パネル」の「異常」をダブルクリック。
「詳細情報」ウィンドウが表示されます。



「通信状態」が「エラー」の場合、「最終エラー」にエラーメッセージが表示されています。
「エラーヘルプ」をクリックして、原因と対処方法を調べてください。

FAXを送る

「FAX-NX」専用のFAX用紙に相当する「FAX送信」ダイアログで作成したメモや、本機のアプリケーションを利用して作成した文書などを、FAXとして送信できます。

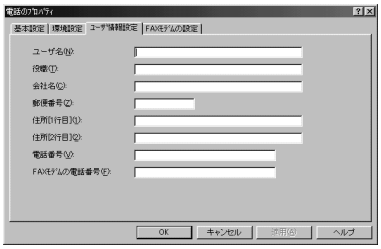
FAXを送る準備

FAXを送る前に、ユーザ情報を登録する必要があります。ユーザ情報の内容は、カバーページなどの発信元に自動的に表示されます。ユーザ情報の登録方法は次の通りです。

① 「FAX-NX」を起動する。
(「ランチ-NX」→「メイン」→「FAX-NX（FAX）」または「スタート」→「プログラム」→「アプリケーション」→「FAX-NX（FAX）」)

② 「設定」をクリック。
「電話のプロパティ」ウィンドウが表示されます。

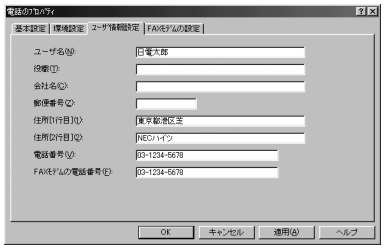
③ 画面上部のタブから「ユーザ情報設定」タブをクリック。



④ 必要な事項を入力する。
少なくとも、次の項目に入力します。

- 「ユーザ名」
  あなたの名前
- 「住所［1 行目］」/「住所［2 行目］」
  あなたの住所（省略できます）
- 「電話番号」
  あなたの電話番号（FAX モデムの電話番号と同じ場合は省略できます）
- 「FAX モデムの電話番号」
  パソコンを接続した電話回線の番号

入力例



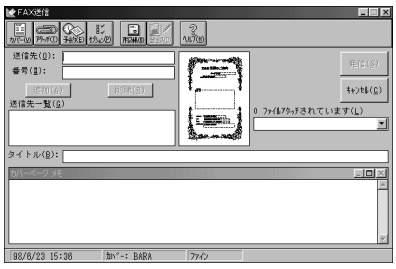
⑤ 「OK」をクリック。
「電話のプロパティ」ウィンドウが閉じます。

メモを送る

ここでは、メモ書き程度の簡単な文を送ってみます。

① 「FAX-NX」を起動する。
(「ランチ-NX」→「メイン」→「FAX-NX（FAX）」または「スタート」→「プログラム」→「アプリケーション」→「FAX-NX（FAX）」)

② 「FAX 送信」をクリック。
「FAX 送信」ウィンドウが表示されます。



入力例

カバーページによっては、「送信先」の名前の後に、「様」や「殿」などが自動的にはつかない場合もあります。必要に応じて入力してください。

チェック!!

カバーページのプレビューをクリックすると、送信する内容を確認することができます。

③「発信」をクリック。
送信が始まります。
相手先には、次のようなFAXが届きます。

チェック!!

FAXが送信できない場合は、次の2項目を確認してください。

- **本機と電話回線が正しく接続されているか。**
- **回線の種別（トーン/パルス）が正しく選択されているか。**

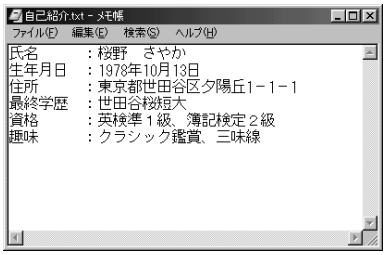
参照

- **回線の種別の設定→後述の「各種の設定」の「基本設定」**

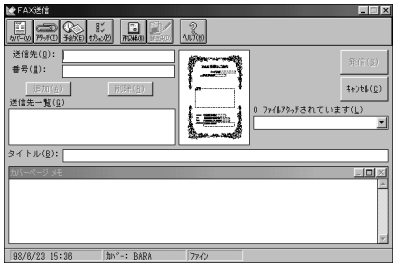
作成した文書を送る

ここでは、「メモ帳」で作成した文書を送信してみます。

① 文書を作成する。
（例 「自己紹介」ファイルを作成）



②「FAX-NX」の「FAX送信」をクリック。
「FAX送信」ウィンドウが表示されます。



③「送信先」「番号」「カバーページメモ」を入力する。

④ ウィンドウ上部の「アタッチ」をクリック。
「ファイル選択」ウィンドウが表示されます。

⑤ 送信するファイルを選んで、「追加」をクリック。
「自己紹介」ファイルが「選択されているファイル」欄に表示されます。

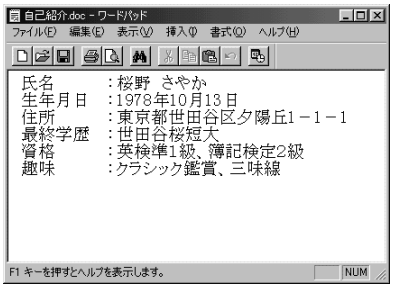
⑥「OK」をクリック。
「FAX 送信」ウィンドウに戻ります。

⑦「発信」をクリック。
カバーページと「自己紹介」ファイルが送信されます。

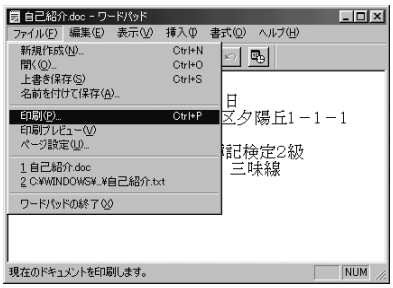
アプリケーションから文書を送る

アプリケーションから文書を送信するには、アプリケーションで印刷する場合と同じ手順で行います。ここでは、「ワードパッド」から文書を送信してみます。

① アプリケーションを起動して、FAXを送信する文書を開く。
(例「ワードパッド」で「自己紹介」ファイルを開く)
ファイルの種類が「.TXT」の場合は、「すべてのファイル (*.*)」を選ぶ必要があります。



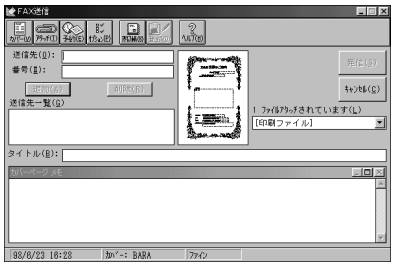
② メニューバーの「ファイル」をクリック。
メニューが表示されます。



③「印刷」をクリック。

プリンタ名に「NEC FAX プリンタドライバ」が設定されていることを確認してください。

④「OK」をクリック。
「FAX 送信」ウィンドウが表示されます。



⑤「送信先」「番号」「カバーメモ」を入力する。

⑥「発信」をクリック。
カバーページと「自己紹介」ファイルの印刷イメージが送信されます。

FAX を受ける

FAXを受信するときは、次の3通りの場合が考えられます。

・自動受信する
いつ送られてきても自動的に受信します。

・通話中に受信する
外付け電話機で通話中に FAX を受信できます。

・FAX 情報サービスから受信する
FAX情報ボックスなどから、欲しい情報を選んで受信できます。

自動受信する

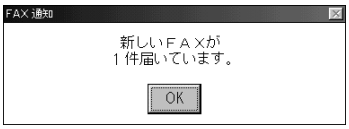
本機の電源が入っている状態で FAX を自動受信するためには、「FAX-NX」を起動しておき、自動受信モードにします。

チェック!!

スタンバイ状態で FAX を自動受信する場合は、スタンバイ状態にする前に「FAX-NX」を起動して、自動受信モードにしておいてください。
スタンバイ状態で FAX を受信すると、自動的に復帰し、受信が終了するとスタンバイ状態に戻ります。

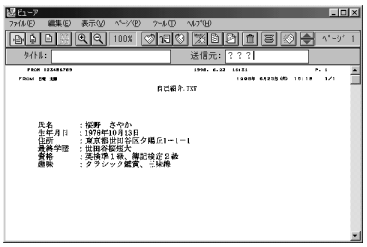
① 「FAX-NX」の「自動受信」をクリック。
「自動受信」ボタンが赤く点灯して、自動受信モードになります。
この後、FAX が送られてくると、自動受信します。

自動受信した FAX があるときは、次のようなメッセージが表示されます。

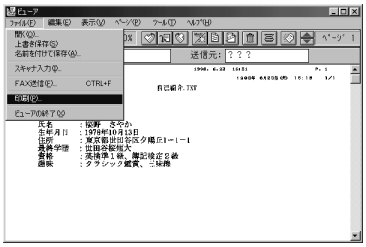


② 「OK」をクリック。

③ 「FAX-NX」のマルチ表示パネルの「未読」の欄をダブルクリック。
自動受信した FAX が表示されます。



この FAX を印刷あるいは別ファイルとして保存したいときは、メニューバーの「ファイル」をクリックして、プルダウンメニューで指定できます。



自動受信モードを解除するときは、もう一度「自動受信」ボタンをクリックします。

通話中に受信する

外付け電話機で通話中に FAX を受信することができます。FAXが送られてくると、FAXの信号音が受話器から聞こえてきます。外付け電話機の受話器を上げたままのときは、受信が終わると続けて通話できます。

① 通話中、FAX が送られてきたら「FAX-NX」の右下の「送受切替」をクリック。
「送受切替」ボタンの右の「FAX 送信」ボタンが「FAX 受信」ボタンに変わります。

② 「FAX 受信」をクリック。
FAX の受信を開始します。

チェック!!

受信を開始するために「FAX 受信」ボタンをクリックしても、電話回線の制御がモデムに切り替わるまでに、少し時間がかかります。「カチッ」という音が聞こえるまで、電話を切らないようにしてください（外付け電話機の受話器を置くなどしないようにしてください）。

FAX 情報サービスから受信する

「FAX-NX」を使って、FAX 情報サービスを利用するときは、外付け電話機からダイヤルします。

① 外付け電話機からFAX情報サービスのFAX番号をダイヤルする。
FAX情報サービスの音声での案内が聞こえてきます。

② 音声案内にしたがって、操作する。

③「スタートボタンを押してください」という内容のメッセージが聞こえたら、「送受切替」を 2 回クリック。
「FAX-NX」の右下にある「送受切替」ボタンの右の「FAX 送信」ボタンが「FAX 受信」ボタンに変わります。

チェック!!

「スタートボタン」は FAX 情報サービスによっては「受信ボタン」とか「通信ボタン」などと表現することもあります。

④「FAX 受信」をクリック。
受信を開始したら、外付け電話機の受話器を置いてください。

スキャナで読み込んだ文書を FAX する

スキャナで読み込んだ文書を「FAX-NX」を使って FAX することができます。

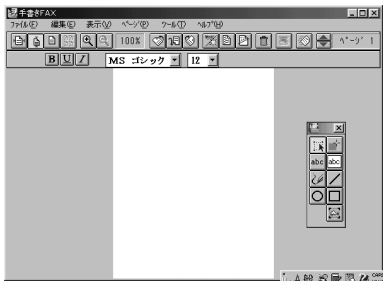
参照

・スキャナについて→『拡張の手引き』PART2「USB 対応機器のご紹介」

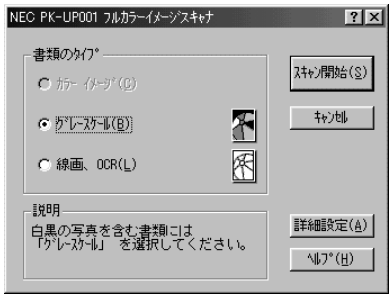
①「FAX-NX」を起動する。
(「ランチ-NX」→「メイン」→「FAX-NX（FAX）」または「スタート」→「プログラム」→「アプリケーション」→「FAX-NX（FAX）」)

②「送受切替」をクリック。
FAX送信 が 受信FAX に切り替わります。

③ 受信FAX をクリック。
「手書き FAX」ウィンドウが表示されます。

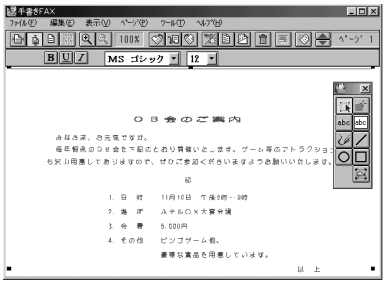


④「ファイル」メニューの「スキャナ入力」をクリック。
「スキャナ読込み」ウィンドウが表示されます。



ツールバーの「スキャナ入力」ボタンをクリックしても、このウィンドウを表示できます。

⑤ 文書をスキャナにセットして読込みを開始する。
読み込んだ文書が「手書きFAX」ウィンドウに表示されます。



⑥「ファイル」メニューの「FAX 送信」をクリック。
「FAX 送信」ウィンドウが表示されます。

⑦ 送信先の名前、FAX 番号を入力する。

⑧「発信」をクリック。
文書が FAX 送信されます。

各種の設定

「FAX-NX」ではFAX機能に関していろいろな設定ができます。
設定は、「電話のプロパティ」ウィンドウ上の各設定ウィンドウで行います。
各設定ウィンドウ上の表示のしかたは次の通りです。

①「FAX-NX」を起動する。
(「ランチ-NX」→「メイン」→「FAX-NX (FAX)」または「スタート」→「プログラム」→「アプリケーション」→「FAX-NX (FAX)」)

②「設定」をクリック。
「電話のプロパティ」ウィンドウが表示されます。

③ 画面上部のタブから目的の設定ウィンドウを選ぶ。
次の設定ウィンドウを選ぶことができます。

・基本設定
ダイヤルの詳細など、「FAX-NX」の基本的な動作に関する設定を行います。

・環境設定
受信時の通知方法、受信文書の印刷先プリンタなど、FAX 受信文書の処理に関する設定を行います。

・ユーザ情報設定
ユーザ名、住所など、「FAX-NX」を使用するユーザ情報の設定を行います。

・FAX モデムの設定
通信速度、リダイアル回数など、FAX送受信に関する設定を行います。

④ 各設定ウィンドウにおいて必要な設定を行った後、「OK」ボタンあるいは「更新」ボタンをクリックして設定内容を登録する。
各設定ウィンドウでは次の項目を設定することができます。

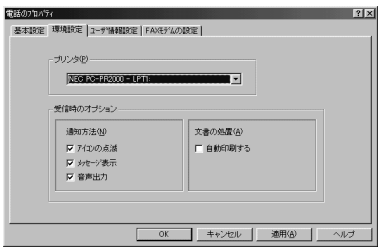
◎ 基本設定

・回線デバイス
使用しているモデム名が表示されます。

・自動着信までの呼び出し回数
電話がかかってきてから、FAX受信が始まるまでの呼び出し回数を設定します。ただし、実際の呼び出し回数とは、多少異なる場合もあります。

・ダイヤルの詳細
「ダイヤルのプロパティ」ウィンドウを表示し、電話回線の種別を設定します。回線の種別がわからないときはNTT「116」番に問い合わせてください。この設定を間違えると、ダイヤルはできないので必ず設定を行ってください。

◎ 環境設定

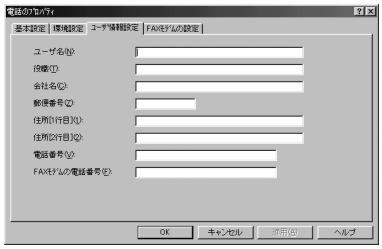


・プリンタ
FAX受信時に自動印刷を行う場合の出力先プリンタを選びます。

・通知方法
FAX文書を受信したときに、受信したことを通知させる方法を設定します。アイコン状態のときにアイコンを点滅させたり、受信時に受信メッセージを表示させたり、音声で受信したことを通知させたりといった方法で通知させることができます。

・文書の処置
FAX文書を受信したときに、通常のFAXのようにその文書を自動的に印刷する設定ができます。

◎ ユーザ情報設定



ユーザ情報の設定を行うことができます。ここで入力した情報はFAX送信文書のカバーページ上の「発信者」フィールドに表示されます。

◎ FAXモデムの設定

・リダイアル回数
相手先FAXが通話中などの場合にリダイアルを行う回数を設定します。この設定を「0」にするとリダイアルは行いません。

・最大送信速度 / 最大受信速度
相手先と通信を行うときの通信速度（ビット/秒）を設定します。回線品質が悪いため通信がうまくいかない場合はこの設定を変更してください。通常は「FAXモデムの最大速度」に設定しておいてください。

・モニタスピーカ
FAX通信中に通信音をスピーカから流すかどうかについて設定します。通常はこの値は「キャリア検出まで」に設定してください。

・コールプログレス
「FAX-NX」はダイアルを行う際に回線発信音（受話器を取り上げたときの「ツー」という音や話し中の「ツーッ、ツーッ」という音）を聞き分けて現在の通話状態をある程度チェックしています。ここではそのときどのようにチェックを行うかを設定します。一部の特殊な回線では、通信を行うときにこの設定を変更する必要があります。通常はこの設定は「両方を検出」にしておいてください。

アドレス帳の使い方

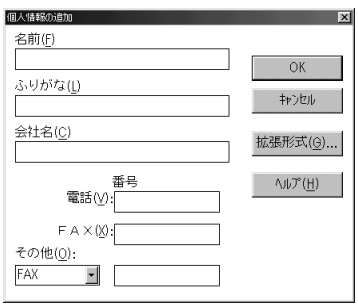
「FAX-NX」を使ってFAXを送ったりするときに、アドレス帳を利用すると番号を入力する手間が省けます。

「アドレス帳」への登録

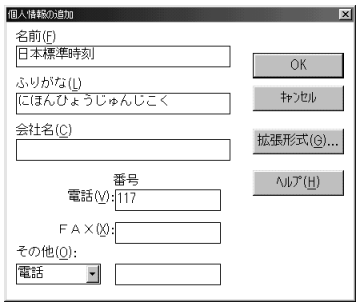
①「FAX-NX」を起動する。
(「ランチ-NX」→「メイン」→「FAX-NX (FAX)」または「スタート」→「プログラム」→「アプリケーション」→「FAX-NX (FAX)」)

②「アドレス」をクリック。
「アドレス帳」ウィンドウが表示されます。

③「追加」をクリック。
「個人情報の追加」ウィンドウが表示されます。



④ 登録すべき事項を入力する。
(例 標準時刻の「117」を登録)



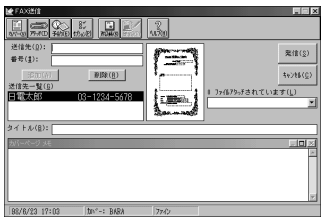
⑤「OK」をクリック。
「日本標準時刻」が登録されます。

「アドレス帳」を利用してFAXを送信する

①「FAXを送る」の「FAXを送る準備」の手順①〜⑤を行う。

②「FAX-NX」ウィンドウで「アドレス」をクリック。
「アドレス帳」ウィンドウが表示されます。

③ FAXを送りたい相手を選んで「ダイヤル」をクリック。
「FAX 送信」ウィンドウが表示されます。



④「カバーページメモ」に伝えたいメモを入力する。

⑤「発信」をクリック。
送信が始まります。

FAX-NX を使用するときの注意

FAX-NX を使用するには

「FAX-NX」を使用するには「FAX-NX」を起動しておく必要があります。FAX自動受信機能を使用するときは自動受信モードにする必要があります。自動受信モードにした状態でシステムを終了すると、次回システム起動時に「FAX-NX」が自動的に起動します。なお、「FAX-NX」を使用するときはFAX 自動受信を行うアプリケーションや、留守番電話機能を行うアプリケーションおよびNetMeetingのような受信待ちをするアプリケーションを終了してください。

他のアプリケーションとの同時利用

次のような場合に「FAX-NX」を動作させると、メモリ容量不足のため、送信や受信が正常に行えないことがあります。このような状態を避けて使用してください。

・ほかのアプリケーションを起動し、大容量または多数のファイルを一度に開いている場合（特にビットマップファイルの操作時）

Windows の通信ソフトの利用

通信ソフトを使用する場合は、「FAX-NX」を終了してから、通信ソフトを使用してください。

Windows の終了について

FAX 送受信中など、電話回線を使用している最中には、Windows を終了しないようにしてください。また、FAX 送信ログにFAX 送信待ち状態のログが残っているときにWindows を終了すると、もう一度Windowsを起動するまでFAX送信は行われません。

FAX 送受信ログについて

・「FAX-NX」のログ表示パネルに表示されているログエントリはFAX マネージャ上の「送信」「受信」ログの内容を表示しています。FAXマネージャで「送信」「受信」ログの削除または名称変更を行うと、「FAX-NX」のログ表示パネルにログエントリを表示できなくなりますので、削除または名称変更は行わないようにしてください。誤って削除してしまったときは、削除する前と同じ名前でログを作成してください。

・「FAX-NX」の送受信ログに表示可能なログエントリ数は「送信」「受信」合わせて 500 件が最大となります。500件を超えたときは、不要なログエントリを削除するかフォルダに移動してください。

エラーメッセージが表示されたとき

エラーメッセージが表示されたときは、オンラインヘルプに一覧と対処方法が記載されていますので、オンラインヘルプをご覧ください。

FAX 送受信時のエラー

FAX送受信中に回線異常などのエラーが発生したり、受信原稿の一部が欠けたりするときは、「FAX モデムの設定」で「最大送信速度」または「最大受信速度」の設定を低くして、もう一度送信または受信してください。

回線異常の発生

回線異常により送信を中断したとき、中断後、電話回線が使えるようになるまでに時間がかかることがありますが、故障ではありませんので、しばらくお待ちください。

キャッチホンサービス使用時の注意

キャッチホンサービスを使用している場合、FAX 中に、通信相手以外から電話がかかってくる場合がありますが、このときのデータの保証はできません。

FAX を送信するときの注意

・FAX の送信中に、他の新たな送信を行おうとしたり、他のアプリケーションを動作させると、送信が切れることがあります。FAX の送信中は、新たな送信や複数のアプリケーションを起動した状態でのFAX の送信は行わないでください。

・大量の原稿を送信する場合は、できるだけ分割して送信してください。

・同報送信は、400件までです。400件を超えると正常に送信されない場合があります。

アタッチメントファイル送信時の注意

・選んだ文書を利用できるアプリケーションがない場合は、ファイルはアタッチされません。

・アタッチメントファイルをFAX送信する場合、そのファイルと関連付けられたアプリケーションが起動していると、FAX が送信できなかったり、起動中のアプリケーションが確認なしに終了することがあります。また、アタッチするファイルが編集中の場合もFAX送信できない場合があります。このような場合は、各アプリケーションの印刷機能を使用してFAX送信を行ってください。

・データ量の多い文書（ビットマップでA4 5ページ以上）をアタッチでFAX送信する場合、文書の途中までしか送信できないことがあります。データ量の多い文書は、それぞれのアプリケーションの印刷機能を使用してFAX送信してください。

参照
・アプリケーションの印刷機能を使用したFAX送信→この項の「FAXを送る」の「アプリケーションから文書を送る」

アプリケーションの印刷機能を使用したFAX送信での注意

・リーガルサイズでテキストファイルの印刷を行う場合は、「メモ帳」を使用せず「ワードパッド」かほかのワードプロセッサを使用してください。

・「ペイント」で印刷したとき、一部のビットマップでは印刷結果が白紙になる場合があります。このようなビットマップについては「ワードパッド」に貼り付けて印刷するようにしてください。

FAX送受信可能な用紙サイズ

・「FAX-NX」で送受信可能な用紙サイズは、A4とB5です。B4サイズの文書は受信のみ可能ですが、受信時にA4サイズに縮小されます。

・テキストファイルをA4より小さな用紙サイズでFAX送信する場合は、「ワードパッド」などのワープロの印刷機能を使ってFAX送信してください。

参照
・アプリケーションの印刷機能を使用したFAX送信→この項の「FAXを送る」の「アプリケーションから文書を送る」

カバーページの使用

・「FAX-NX」には、あらかじめ多くのカバーページテンプレートが添付されています。これらは修正できます。また、新しいカバーページを新規に作成することもできます。カバーページの詳しい使い方については、オンラインヘルプをご覧ください。

・カバーページを使用するとき、文書の全ページ数や同報通信時の複数の宛先をカバーページに書き込むには、次のように操作してください。

① FAX送信画面の「オプション」メニューで「送信前にプレビューを行う」にチェックマークをつけて、「OK」ボタンをクリック。

② 送信先や番号などを入力して、「発信」ボタンをクリック。

③「FAX文書のプレビュー」画面で「プレビュー」を選び、「ツール」メニューの「マークアップツールを表示」でページ数、宛先などを追記する。

・カバーページによっては、タイトルが入力されないデザインのものがあります。送信前にプレビューで確認してください。

自動受信機能について

・自動受信モードでの動作は、次の状態により異なります。
それぞれ、電話がつながった後、FAXの受信を開始します。
使用する用途に合わせてお使いください。

電源が入っている状態
電話の呼び出し音で、すぐに電話がつながります。
スタンバイ状態
電話の呼び出し音により、スタンバイ状態からWindows 98を復帰した後、電話がつながります。

・本機の電源が入っている状態やスタンバイ状態でFAXの自動受信機能を利用する場合は、「FAX-NX」を起動し、自動受信モードに設定しておく必要があります。

・自動受信モードに設定し、本機の電源を切った状態で電源ケーブルを抜いたり、停電になったりした場合、自動受信モードは無効になります。

・自動受信モード中は、「自動受信」ボタンが赤く点灯しています。もう一度「自動受信」ボタンをクリックすると、自動受信モードは解除されます。

・「FAX-NX」がアイコン化（最小化）されている状態で FAX を受信すると、タスクバーの「FAX-NX」アイコンが点滅して、FAX の受信を通知します。

・自動受信モードのまま「FAX-NX」を終了したときに、次に「FAX-NX」を起動すると、自動受信モードのまま起動します。

・外付け電話機が接続されている場合は、外付け電話機の留守設定を解除しておいてください。

・自動受信モードに設定しているときに、電話を受けた場合は、「FAX-NX」の自動着信までの呼び出し回数より前に外付け電話機の受話器をとれば、そのまま通話できます。

「アドレス帳」ではがき印刷をするときの注意

「アドレス帳」を使って、はがきの宛名印刷をすることができます（はがき印刷については、「アドレス帳」のオンラインヘルプをご覧ください）。なお、はがき印刷での「差出人」タブウィンドウでは、次のことに注意してください。

・住所は 1 行に全角、半角を含めて 64 文字以内で記述してください。はがきに印刷するとき、半角文字を全角文字に変換するため、64文字を超えると正しく印刷できません。また、5行まで改行して文字を入力できますが、改行すると、そこで改行文字を入力したことになりますので、その分の入力できる文字は少なくなります。

・部門は全角、半角を含めて 32 文字以内で記述してください。

その他の注意

・Microsoft Word で作成した文書を FAX 送信するとき、網掛けを使用し、背景色を黒にした場合、モノクロ表示のため文字が表示されなくなります。背景色には黒以外を指定してください。

・海外とのFAX送受信については、回線ディレイなどの違いにより、使用できない場合があります。

タイマー機能〈Timer-NX〉

好きな時刻に指定したソフトを立ち上げることができるので、お気に入りCDのモーニングコールでお目覚め、のような使い方もできます。

概要

タイマー機能は「Timer-NX」で設定します。
「Timer-NX」を使うと、指定した時刻に、スタンバイ状態から電源が入った状態に復帰したり、電源が入った状態からスタンバイ状態にしたりできます。また、FAXを受信したときに、本機がスタンバイ状態の場合、自動的に復帰してFAXを受信することができます。

「Timer-NX」でできること

「Timer-NX」には次の機能があります。

・タイマー機能
指定した時刻に本機をスタンバイ状態から電源が入った状態に復帰して、指定したアプリケーションを起動することができます。

・リング機能
リングとは、電話やFAXが送信されてきたときの呼び出し音のことです。リング機能を設定すると、スタンバイ状態で電話やFAXを受信したときに、自動的に復帰して、指定したアプリケーションを起動することができます。

・オフタイマ機能
タイマー機能およびリング機能は、終了時刻を指定すると、自動的に電源を切る(またはスタンバイ状態にする)ことができます。

「Timer-NX」ウィンドウの表示方法

「Timer-NX」ウィンドウの表示方法は次の通りです。

①「Timer-NX」を起動する。
(「ランチ-NX」→「ユーティリティ」→「Timer-NX(スケジューラ)」または「スタート」→「プログラム」→「アプリケーション」→「Timer-NX」)

タイマプログラムを設定する

タイマプログラムは「Timer-NX」ウィンドウで設定します。各項目を指定した後は、「OK」をクリックします。

曜日を指定する

「Timer-NX」の「曜日指定」欄で曜日をクリックします。毎日のときは「毎日」をクリックします。指定した曜日は黄色で表示されます。
(例「毎日」を指定)

タイマプログラムの番号を指定する

タイマプログラムとは、予定表のようなものです。ユーザーが作成したこの予定表（タイマプログラム）に従って「Timer-NX」は動作します。タイマプログラムは、ひとつの曜日に3つまで指定することができます。
（例「タイマ 1」を指定）

起動するアプリケーションを指定する

起動するアプリケーションを「Timer-NX」ウィンドウの「実行ファイル」メニューで指定します。「実行ファイル」メニューに起動を指定したいアプリケーションがない場合は、「実行ファイル」メニューへの登録操作を行います。
（例「プレーヤ -NX」を指定）

① 「Timer-NX」ウィンドウの「実行ファイル」の欄の▼をクリック。
起動を指定できるアプリケーションの一覧メニューが表示されます。

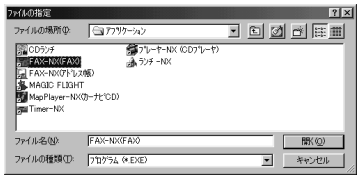
② 起動するアプリケーション（プレーヤ -NX）をクリック。
「実行ファイル」の欄に選ばれたアプリケーションの名前が表示されます。

起動するアプリケーションの「実行ファイル」メニューへの登録

メニューに起動するアプリケーションがない場合は、「実行ファイル」のメニューに、起動するアプリケーションを登録します。
（例「FAX-NX」を登録）

① 「Timer-NX」ウィンドウの「実行ファイル」の欄の▼をクリック。
起動を指定できるアプリケーションの一覧メニューが表示されます。

② メニューの一番下の「任意指定」をクリック。
次の画面が表示されます（最初にこの画面がでないときは、▼、📁で登録したいアプリケーションがあるフォルダを開きます）。



③ 登録したいアプリケーション（FAX-NX）を指定して「開く」をクリック。
「実行ファイル」メニューに、新たに指定したアプリケーションの名前が表示されます。

「オン」と「オフ」の時刻を指定する

（例「7:00」に本機を「オン」にして、「8:00」に本機を「オフ」にする）

①「Timer-NX」ウィンドウで「オン」をクリック。
「オン」ボタンが赤色の枠線で囲まれ、「現在時刻」の右に が表示され、タイマーが設定されたことを表します。

②「オン」にする時刻を設定する。
数字の上を左クリックすると、時刻が進みます。右クリックすると、時刻が戻ります。

例 7:00

③「オフ」をクリック。
「電源オフ」ボタンが赤色の枠線で囲まれます。

④「オフ」にする時間を設定する。
時刻の設定のしかたは、手順②と同じです。

例 8:00

⑤「OK」ボタンをクリック。

タイマプログラムの設定例

タイマプログラムを設定する操作を説明します。個々の設定方法については、上記を参照してください。

①「Timer-NX」ウィンドウを表示する。

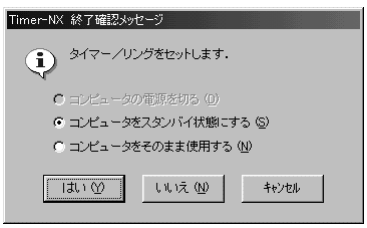
② 曜日を設定する。

③ タイマプログラムの番号を指定する。

④ 起動するアプリケーションを指定する。

⑤「オン」/「オフ」の時刻を指定する。

⑥ 各項目の指定が終了したら、「OK」ボタンをクリック。
次の画面が表示されます。



◎ オプションの説明

・コンピュータの電源を切る
「Timer-NX」を終了して、Windowsを終了した後、本機の電源を切ります。

・コンピュータをスタンバイ状態にする
「Timer-NX」を終了して、本機をスタンバイ状態にします。

・コンピュータをそのまま使用する
「Timer-NX」のみを終了して、本機はそのまま使うことができます。

⑦ オプションを選んで「はい」をクリック。
タイマプログラムの設定が有効になります。
「いいえ」をクリックすると、設定を破棄して「Timer-NX」を終了します。

「キャンセル」をクリックすると、設定画面に戻ります。

タイマプログラムを設定するときの注意

タイマプログラムで「オン」/「オフ」を設定するときの注意

タイマプログラムでの「オン」は、指定した時刻の本機の状態によって次のようになります。

・本機の電源が入っている場合
タイマプログラムで指定した時刻に、指定されたアプリケーションを起動します。

・本機がスタンバイ状態の場合
タイマプログラムで指定した時刻に本機をスタンバイ状態から復帰し、指定されたアプリケーションを起動します。

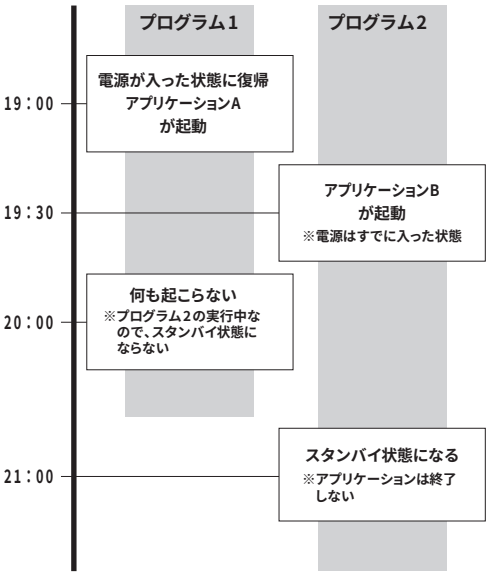
タイマプログラムでの「オフ」は、タイマプログラムの「オン」機能が働いたときの本機の状態に戻す機能です。必ずしも本機の電源を切るわけではなく、次のようになります。

・本機の電源が入っていた場合
本機の電源は入ったままになります。アプリケーションも終了しません。

・本機がスタンバイ状態になっていた場合
本機をスタンバイ状態にします。アプリケーションは終了しません。

例えば、スタンバイ状態で次のようなプログラムが実行された場合、本機の状態は次の図のようになります。

曜日 / タイマプログラムの番号	オン / オフの時間	起動するアプリケーション
毎日 / プログラム 1	19:00-20:00	アプリケーション A
毎日 / プログラム 2	19:30-21:00	アプリケーション B



チェック!!
「オフ」で指定した時刻にアプリケーションを終了するには、指定した時刻に本機の電源が切れるように、「オフタイマ」を設定してください。

複数のタイマプログラムで「オフ」を指定する場合は、指定する時刻や起動するアプリケーションに注意してください。

タイマプログラムを設定するときの注意

タイマプログラムの設定例

曜日 / タイマプログラム	時間	アプリケーション
毎日 / プログラム 1	7：00ー 8：00	プレーヤ -NX
毎日 / プログラム 2	22：30ー 25：00	VirusScan[注1]
毎日 / プログラム 3	22：00ー 23：00	プレーヤ -NX[注2]
月曜日 / プログラム 1	22：00ー 25：00	インターネットエクスプローラ
火曜日 / プログラム 1	12：00ー	FAX-NX[注3]

注1：毎日 / プログラム 2 は、月曜日 / プログラム 1 と時間が重なっています。この場合は、２２：００に「インターネットエクスプローラ」が起動し、その後２２：３０に「VirusScan」が起動します。２５：００にスタンバイ状態になります。

注2：毎日 / プログラム 3 は、月曜日 / プログラム 1 と時間が重なっています。この場合は、２２：００にタイマーオンになり、「プレーヤ -NX」と「インターネットエクスプローラ」が同時に起動します。スタンバイ状態への移行は終了時刻の遅い方が優先されます。この場合は、２５：００がスタンバイ状態になる時刻となります。

注3：火曜日 / プログラム 1 は、終了時刻が指定されていません。この場合は、１２：００に電源が入った状態になった後、スタンバイ状態になりません。

タイマプログラムで指定できる時刻

タイマプログラムでは、2 日間にまたがる設定が可能です。
例えば、当日の 23:00 に電源が入った状態に復帰し、翌日の 3:00 にスタンバイ状態にする場合は、次のように設定します。

「オン」 23:00
「オフ」 27:00 ← 翌日の午前 3 時を表します。

この設定方法では、最大で次の設定が可能です。

「オン」 00:00
「オフ」 47:59 ← 翌日の午後 11 時 59 分を示します。

チェック!!

タイマプログラムを設定する曜日を「毎日」にする場合は、電源が入った状態になってからスタンバイ状態になるまでの時間が、24 時間を超えないようにしてください。

例えば、次のように設定してください。

「オン」00:00　　「オン」01:00
「オフ」23:59　または　「オフ」24:59

24 時間を超える設定をすると、スタンバイ状態になる前に電源が入った状態になることになってしまいますので、スタンバイ状態にすることができません。

「オン」/「オフ」する時刻を設定するときの注意

- タイマプログラムでの「オフ」は、「オン」の機能が働いたときの本機の状態に戻す機能です。
- 自動的にスタンバイ状態にしない場合は、「オフ」ボタンをクリックせずに、ボタンが上がった状態にしてください。

リングを設定する

「Timer-NX」には電話や FAX を受信したときにスタンバイ状態から自動的に復帰する機能があります。この機能をリング機能といいます。リング機能を設定するときに、指定したアプリケーションを起動したり、再度自動的にスタンバイ状態にするように設定することもできます。

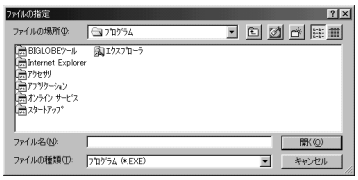
ここでは、電話がかかってきたときに、「プレーヤ -NX」を起動し、10 分後に本機の電源を自動的にスタンバイ状態にする、という設定を例に説明します。本機がスタンバイ状態になるまでの時間は自由に設定できますが、電話がかかっている間、つまり通信中に本機がスタンバイ状態にならないようにするために、余裕を持って十分に長く設定してください。また、「プレーヤ -NX」のパス（所在地またはインストール先）は「C:\WINDOWS\スタートメニュー\プログラム\アプリケーション」とします。

チェック!!

「プレーヤ -NX」の場合は、あらかじめ音楽 CD などをセットしておき、「プレーヤ -NX」の「Option」→「状態設定」で「自動再生」を選んでおく必要があります。これは、ほかのアプリケーションについても同じで、アプリケーションが起動できる状態になっていることが必要です。

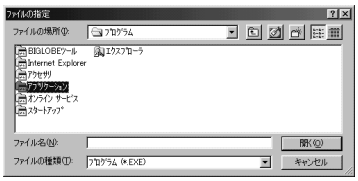
① 「Timer-NX」を起動する。
(「ランチ-NX」→「ユーティリティ」→「Timer-NX（スケジューラ）」または「スタート」→「プログラム」→「アプリケーション」→「Timer-NX」)

② 「実行ファイル」をクリック。
「プログラム」フォルダのウィンドウが表示されます。

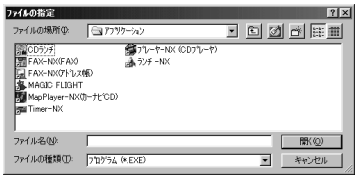


「実行ファイル」ボタンは「Timer-NX」ウィンドウの左下にあります。

③ 「アプリケーション」をクリック。
「アプリケーション」が反転表示になります。



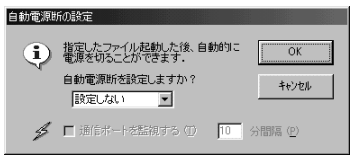
④ 「開く」をクリック。
「アプリケーション」フォルダのウィンドウが表示されます。



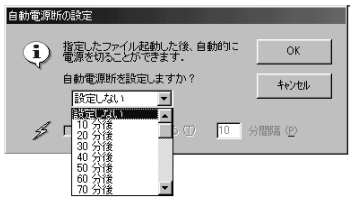
⑤ 「プレーヤ-NX」をダブルクリック。
「Timer-NX」ウィンドウの「実行ファイル」の欄に、「プレーヤ-NX」が表示されます。

⑥ をクリック。
電話が黄色く表示されます。

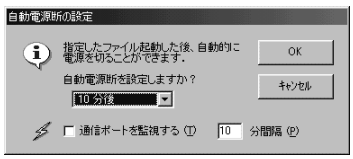
⑦ 「OFF」をクリック。
「自動電源断の設定」ウィンドウが表示されます。



⑧ 「自動電源断を設定しますか？」の下の をクリック。
プルダウンメニューが表示されます。



⑨ 「10分後」をクリック。
「10分」が設定されます。

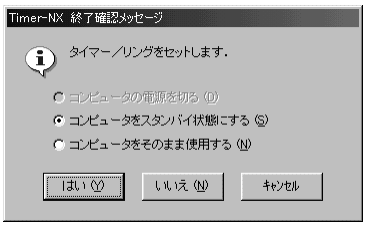


チェック!!

- 監視する通信ポートは内蔵FAXモデムボードが使用するCOMポートです。
- 「自動電源断」は自動的にスタンバイ状態にする機能です。

⑩ 「OK」をクリック。
「Timer-NX」ウィンドウに戻ります。

⑪「OK」をクリック。
次のような画面が表示されます。



◎ オプションの説明

・コンピュータの電源を切る
「Timer-NX」を終了後に Windows を終了して、本機の電源を切ります。
ただし、電話やFAX受信時に自動的に電源を入れることはできません。

・コンピュータをスタンバイ状態にする
「Timer-NX」を終了し、本機をスタンバイ状態にします。

・コンピュータをそのまま使用する
「Timer-NX」を終了します。本機をそのまま使うことができます。

⑫ オプションを選んで「はい」をクリック。
設定が完了します。

「いいえ」をクリックすると、設定を破棄し、「Timer-NX」を終了します。

「キャンセル」をクリックすると、設定画面に戻ります。

リング機能を使用するときの注意

・「Timer-NX」では、リング機能でスタンバイ状態から復帰した後、一定時間が経過するとスタンバイ状態にする設定を行うことができます。ただし、通信中にスタンバイ状態にならないようにスタンバイ状態にするまでの時間は、十分に長く設定してください。もし通信中にスタンバイ状態になった場合は、回線が接続されたままになります（電話機の受話器を上げた状態と同じです）。このため、長時間パソコンを離れる場合には、自動でスタンバイ状態にする設定にはしないでください。

・リング機能は、スタンバイ状態のときに動作します。本機の電源が入っているときや切れているときには、動作しません。

・「FAX-NX」で自動受信モードに設定すると、次回起動時に自動起動するので、実行ファイルとして指定する必要はありません。

・通信が終了しても、自動着信指定されたFAXソフトなど、通信ポートを使用し続けるアプリケーションを使用する場合、「通信ポートを監視する」を設定すると、いつまでも自動でスタンバイ状態になりません。このようなアプリケーションを使用してスタンバイ状態にする場合は、「通信ポートを監視する」を設定しないようにしてください。

・リングのセット後、スタンバイ状態にした場合は、すぐに本機が動作状態に移行できるように一部の電源が入った状態で待機しています。ディスプレイの画面は消えていますが、本体の電源は入っていますので、電源スイッチを押さないでください。

自動的に電源を切る

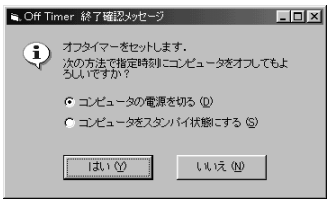
オフタイマ機能を使うと自動的に電源を切る、またはスタンバイ状態にすることができます。

①「Timer-NX」を起動する。
（「ランチ-NX」→「ユーティリティ」→「Timer-NX（スケジューラ）」または「スタート」→「プログラム」→「アプリケーション」→「Timer-NX」）

②「オフタイマ」をクリック。
「Off Timer」ウィンドウが表示されます。

③ 電源を切る時刻を設定する。
（例 午前 10:10 に設定）

④「OK」をクリック。
「Off Timer終了確認メッセージ」ウィンドウが表示されます。



電源を切るか、スタンバイ状態にするかを選びます。

⑤「はい」をクリック。
タイマがセットされ、「オフタイマ」がタスクバーに表示されます。

「いいえ」をクリックすると、設定を解除します。

タイマ設定の確認 / キャンセル

タイマを設定した後に、設定内容を確認したいときや、設定を解除したときは、次のように行います。

① タスクバーの「オフタイマ」をクリック。
「Off Timer」ウィンドウが表示されます。
設定されているときは、「OK」ボタンが黄色になっています。

「キャンセル」をクリックすると、設定は解除されます。

オフタイマ機能を利用するときの注意

「Timer-NX」で電源を切るときに、編集中のファイルを保存するかどうかを確認するメッセージが表示されるなど、終了時になにか操作の必要なアプリケーションが起動している場合は、電源は切れません。オフタイマ設定が機能して、電源が切れるときに、メッセージが表示された場合は、メッセージに従って操作し、Windows を終了させてください。

「Timer-NX」を利用して自動的にスタンバイ状態にした場合は、次の方法で自動的にスタンバイ状態から復帰することができます。

- 「Timer-NX」でリングを設定し、電話やFAXを受信するとスタンバイ状態から復帰します。
- 「Timer-NX」でオンタイマを設定し、指定した時間になるとスタンバイ状態から復帰します。

タイマー設定を行っても、次の場合はオフタイマ機能は実行されません。

- 「Off Timer」を終了した場合
- 「スタート」メニューや電源スイッチでWindowsを終了させたりスタンバイ状態にした場合

Timer-NX を使用するときの注意

- 「Timer-NX」は、本機内蔵の時計を使って動きます。「Timer-NX」を使用する前に本機の日付と時刻が正しいかどうかを確認してください。日付と時刻はタスクバー右下の「時刻」をポイントすると確認できます。日付と時刻の設定を変更したい場合は、「時刻」をダブルクリックして表示される画面で設定してください。

音楽CD/ビデオCD/フォトCDの再生〈プレーヤ-NX〉

「プレーヤ-NX」は、音楽CD、ビデオCD（カラオケCD）、フォトCDを再生することができます。

「プレーヤ-NX」が対応しているCDの規格は次の通りです。規格外の CD は再生できない場合があります。CDのケースやパッケージに記載されている規格をご覧の上、使用してください。

・音楽 CD（オーディオ CD）
・ビデオ CD（Ver. 1.1）/ カラオケ CD（Ver. 1.1）
・ビデオ CD（Ver. 2.0）
・フォト CD
・フォト CD ポートフォリオ

音楽 CD を聴く

音楽 CD とはオーディオ CD とも呼ばれ、音楽を楽しめる CD のことです。

音楽 CD を CD-ROM ドライブにセットすると、自動的に「プレーヤ-NX」が起動し、次のウィンドウが表示されます。

基本的な使い方

■ ▶（再生）ボタン
クリックすると再生が始まります（ボタンの形が ⏸（一時停止）に変わります）。

■ ⏸（一時停止）ボタン
再生中にクリックすると再生が一時停止します（ボタンの形が ▶（再生）に変わります）。

この状態で、▶（再生）をクリックすると、一時停止した場所から再生が再開します（ボタンの形が ⏸（一時停止）に変わります）。

■ ■（停止）ボタン
再生中または一時停止中にクリックすると、再生を停止または一時停止状態を解除して、最初のウィンドウに戻ります。

■ ⏮（巻き戻し）ボタン
再生中または一時停止中にクリックし続けると、その曲の範囲内で巻き戻しを始めます。ボタンを離すと、その場所から再生を再開します。曲の先頭に戻るとそこで巻き戻しは停止します。

■ ⏭（早送り）ボタン
再生中または一時停止中にクリックし続けると、その曲の範囲内で早送りを始めます。ボタンを離すと、その場所から再生を再開します。曲の最後まで送られるとそこで早送りは停止します。

■ ⏮ ボタン
再生中または一時停止中にクリックすると、再生中の曲または一時停止したときの曲の先頭に戻って再生を再開します。また、連続してクリックすると、一曲ずつ曲が戻り、クリックを止めた場所から再生を再開します。

停止中にクリックすると、最後の曲（次の画面では「トラック 13」の曲）の先頭に戻り、再生を始めます。また、連続してクリックすると、一曲ずつ曲が戻り、クリックを止めた場所から再生を始めます。

■ ▶| ボタン

再生中または一時停止中にクリックすると、再生中の曲または一時停止したときの次の曲から再生を再開します。また、連続してクリックすると、一曲ずつ曲が進み、クリックを止めた場所から再生を再開します。
停止中にクリックすると、最初から 2 番目の曲（次の画面では「トラック 2」の曲）から、再生を始めます。また、連続してクリックすると、一曲ずつ曲が進み、クリックを止めた場所から再生を始めます。

■ ⏏ (取り出し) ボタン

停止中にクリックすると、トレイが出てきて、CD-ROM を取り出すことができます。そのとき、次のようなウィンドウになります。

もう一度クリックすると、トレイが収納されます。

「Option」ボタンの使いかた

「Option」ボタンをクリックすると、次のウィンドウが表示されます。

■ (リピート) ボタン

クリックするたびに、次のように変わります。

「リピートなし」

▼

「一曲リピート」

▼

「全曲リピート」

▼

「リピートなし」

⋮

■ (演奏時間表示) ボタン

クリックするたびに、時間表示が現在の曲の演奏経過時間と残り演奏時間に交互に切り替わります。

「演奏経過時間表示」

▼

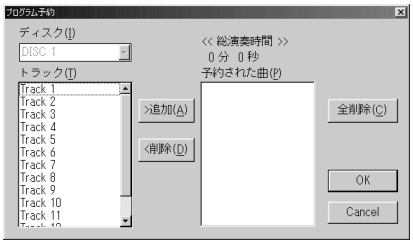
「残り演奏時間表示」

▼

「演奏経過時間表示」

■「Program」ボタン

クリックすると「プログラム予約」ウィンドウが表示されます。このウィンドウでは、演奏させたい曲を演奏させたい順に選んでプログラムすることができます。ただし、プログラムの再生中と、一時停止中は「Program」ボタンは使用できません。



ここで、「トラック」から曲を選んで「追加」をクリックしてプログラムを作成します。
(例 「Track 1」→「Track 3」→「Track 5」の順に再生するプログラムの作成)

① 曲を選んで「追加」をクリック。
(「Track 1」を選んでクリック)
「予約された曲」の欄に「Track 1」が表示されます。

② 同様に曲を順に選ぶ。

選んだ曲を削除したいときは、「予約された曲」の欄から削除したい曲を選んで、「削除」をクリックします。

③「OK」をクリック。
「Player-NX」ウィンドウのディスプレイに「Program」が表示されます。

この後、 (再生)ボタンをクリックすると、プログラムで指定した通りに演奏を開始します。
プログラムを解除するには、「プログラム予約」ウィンドウを開いて、「全削除」→「OK」をクリックします。

■ (ミュート)ボタン

左右の音声出力を同時にOFFにします。「Player-NX」ウィンドウのディスプレイから が消えます。

ミュート中にこのボタンをクリックすると、ミュートが解除されます。
ただし、CDの再生中はこのボタンは使用できません。

■ (左チャンネルミュート)ボタン

左チャンネルの音声出力をOFFにします。「Player-NX」ウィンドウのディスプレイから が消えます。
ミュート中にこのボタンをクリックすると、ミュートが解除されます。
ただし、CDの再生中はこのボタンは使用できません。

■ (右チャンネルミュート)ボタン

右チャンネルの音声出力をOFFにします。「Player-NX」ウィンドウのディスプレイから が消えます。
ミュート中にこのボタンをクリックすると、ミュートが解除されます。
ただし、CDの再生中はこのボタンは使用できません。

■「元の画像サイズで表示」ボタン

オーディオCDでは使用できません。(→この項の「ビデオCD(カラオケCD)を見る」)

■「カラオケ一覧表示」ボタン

オーディオCDでは使用できません。(→この項の「ビデオCD(カラオケCD)を見る」)

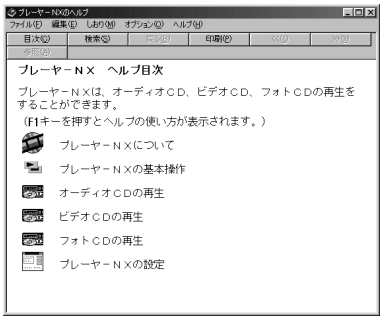
■「状態設定」ボタン

クリックすると、「状態設定」ウィンドウが表示されます。

「自動再生」を選ぶと、「プレーヤ -NX」起動時に自動的に再生が始まります。
「画像再生時にスクリーンセーバーを起動しない」の設定 / 解除はできません。

■「Help」ボタン

クリックすると、「プレーヤ-NXのヘルプ」ウィンドウが表示されます。



ビデオ CD（カラオケ CD）を見る

ビデオ CD（カラオケ CD）とは、動画と音声が楽しめる CD のことです。

ビデオ CD（カラオケ CD）を CD-ROM ドライブにセットすると、自動的に「プレーヤ-NX」が起動し、次のウィンドウが表示されます。

自動的に起動しないときは、「スタート」→「プログラム」→「アプリケーション」→「プレーヤ-NX（CD プレーヤ）」または「ランチ-NX」→「ユーティリティ」→「プレーヤ-NX（CD プレーヤ）」をクリックします。

基本的な使い方

基本的な操作は、音楽 CD とほとんど同じです。(→この項の「音楽 CD を聴く」)

チェック!!

- ビデオ CD の再生中にビデオが表示されているウィンドウをマウスでドラッグすると、ウィンドウの表示サイズを変更できます。ただし、ウィンドウサイズをひんぱんに変更すると、ビデオの表示が乱れることがあります。このようなときは、「プレーヤ -NX」をいったん終了させて再起動すると、表示が正常に戻ります。
- プレイバックコントロール機能に対応したビデオ CD の再生時には、頭出し機能は利用できません。

「Option」ボタンの使いかた

「Option」ボタンを押すと、次のウィンドウが表示されます。

各ボタンの機能は、「音楽 CD を聴く」の場合とほとんど同じです。
ここでは、「音楽 CD を聴く」と異なる点と、注意点を説明します。

■ (リピート) ボタン

プレイバックコントロール機能を用いて独自のメニュー表示を行っているカラオケ CD では、このボタンは使用できません。

■ (演奏時間表示) ボタン

ビデオ CD では使用できません。

■「Program」ボタン

プレイバックコントロール機能を用いて独自のメニュー表示を行っているカラオケ CD では、このボタンは使用できません。

■ (ミュート)ボタン/ (左チャンネルミュート)ボタン/ (右チャンネルミュート)ボタン

カラオケ CD では、カラオケ演奏とボーカル音声は、左右どちらかのチャンネルに分かれて録音されています。ボーカル音声を消すときは、左右どちらか、ボーカル音声が録音されているチャンネルの音声を消す必要があります。左右どちらかの音声を消すときは、(左チャンネルミュート) ボタンまたは、(右チャンネルミュート) ボタンをクリックします。また、(ミュート) ボタンをクリックすると、両方の音声を消すことができます。

■「元の画像サイズで表示」ボタン

ビデオ CD の再生時に、ウィンドウのサイズを起動時のサイズに戻します。

■「カラオケ一覧表示」ボタン

カラオケ CD の曲目が一覧表示されます。再生した曲目をクリックし、さらに「演奏」ボタンをクリックすると、すぐに再生が始まります。
プレイバックコントロール機能を用いて独自のメニュー表示を行っているカラオケ CD では、このボタンは使用できません。

■「状態設定」ボタン

「自動再生」を選ぶと、「プレーヤ -NX」の起動時に自動的に再生が始まります。
「画像再生時にスクリーンセーバーを起動しない」を選ぶと、ビデオ CD の再生時にスクリーンセーバーを起動させないようにします。

■ プレイバックコントロールの使い方

プレイバックコントロール機能付きのビデオCDの再生時には、「プレーヤ-NX」とともにプレイバックコントロールウィンドウが表示されます。

- 画面を表示します。
- 前画面に戻ります。
- 次画面に進みます。
- メニュー画面に戻ります。
- 1 ～ 0
  数値を選ぶときに使います。
  1 ～ 0 の数字ボタンで番号を決定して ボタンをクリックすると、画面を表示します。
- プレイバックコントロールウィンドウをアイコン化します。
- 00
  番号表示部分をクリックすると、数字ボタンで選んだ番号をキャンセルします。

チェック!!

各ボタンの機能は、ビデオ CD により多少異なっていますので、ビデオ CD 添付の説明書をご覧ください。

フォト CD を見る

フォト CD とは、写真をデジタルデータに変換して CD に記録したものです。

フォト CD を CD-ROM ドライブにセットすると、自動的に「プレーヤ-NX」が起動し、次のウィンドウが表示されます。同時に、最初の写真も表示されます。

「Player-NX」ウィンドウ

最初の写真

自動的に起動しないときは、「スタート」→「プログラム」→「アプリケーション」→「プレーヤ-NX(CDプレーヤ)」または「ランチ-NX」→「ユーティリティ」→「プレーヤ -NX (CD プレーヤ)」をクリックします。

基本的な使い方

■ ▶(自動表示) ボタン
クリックすると、順にフォトを表示していきます。

「Player-NX」のウィンドウ

2 番目の写真

■ ■(停止) ボタン
自動表示中にクリックすると、自動表示を停止します。

■ ⏮(巻き戻し) ボタン
クリックすると、巻き戻します (ポートフォリオの再生時のみ)。

■ ⏭(早送り) ボタン
クリックすると、早送りします (ポートフォリオの再生時のみ)。

■ ⏮ボタン
クリックすると、1 つ前の写真に戻ります。

■ ⏭ボタン
クリックすると、次の写真を表示します。

■ ⏏(取り出し) ボタン
停止中にクリックすると、トレイが出てきて、CD-ROM を取り出すことができます。そのとき、次のようなウィンドウになります。

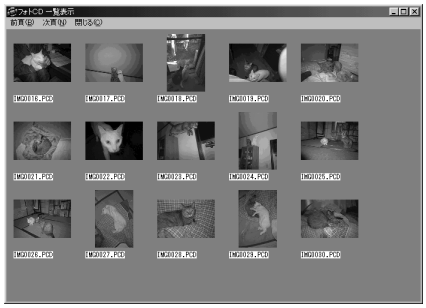
もう一度クリックすると、トレイが収納されます。

「Option」ボタンの使いかた

「Option」ボタンを押すと、次のウィンドウが表示されます。

■「Open」ボタン
クリックすると、フォト CD に記録されている写真のファイル名一覧を表示します。表示したいフォト CD のファイル名を選び、「OK」をクリックします。

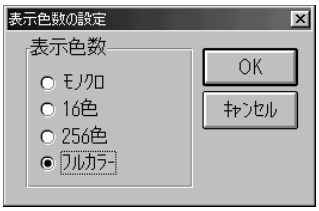
■「List」ボタン
クリックすると、フォト CD に記録されている写真を縮小一覧表示します。写真をクリックすると、拡大表示できます。



■「Size」ボタン
クリックすると、「PhotoCD 画像サイズの設定」ウィンドウが表示されます。
画像のサイズを選べます。

■「Color」ボタン

クリックすると、「表示色数の設定」ウィンドウが表示されます。
色数を選べます。



■「Copy」ボタン

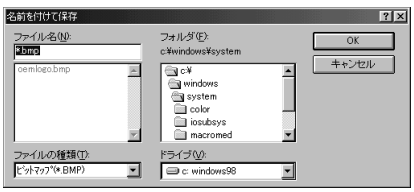
クリックすると、表示されている写真をクリップボードビューアにコピーします。クリックボードビューアにコピーされたデータは、通常の「貼り付け」操作で、他の場所へ「貼り付け」できます。

「ペイント」へ「貼り付け」した例

「Copy」ボタンをクリックするたびに、新しい写真データがクリップボードに上書きされ、前にコピーしたデータは消えてしまいます。コピーしたデータは次のコピーを行う前に必ず保存してください。

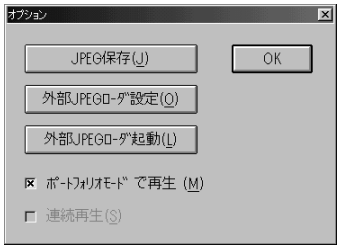
■「Save」ボタン

クリックすると、「ファイル名を付けて保存」ウィンドウが表示されます。ファイル名を指定して、写真をビットマップ形式のファイル（拡張子は「.bmp」）として保存できます。



■「Extension」ボタン

JPEGに関する各種の設定ができます。詳しくは、「プレーヤ -NX のヘルプ」をご覧ください。

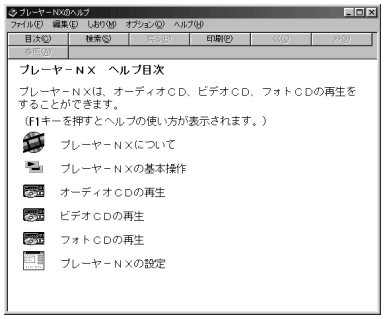


■「状態設定」ボタン

「自動設定」を選ぶと、「プレーヤ -NX」起動時に自動的に再生が始まります。
「再生時にスクリーンセーバーを起動しない」は使用できません。

■「Help」ボタン

クリックすると、「プレーヤ-NXのヘルプ」ウィンドウが表示されます。



カーナビCDの再生〈MapPlayer-NX〉

「MapPlayer-NX」では、ナビゲーションシステム研究会統一フォーマットに準拠したカーナビゲーション用地図CD-ROMを利用できます。

カーナビゲーション用地図CD-ROMを見る

ここでは、「ゼンリンナビソフト 首都圏ROAD & TOWN NAVI III」の地図CD-ROMを使用して説明しています。

このCD-ROMは本機には添付されていません。別途購入してお使いになるときは、そのCD-ROMの使用許諾条件に従って使用してください。
© ZENRIN

対応CD-ROMについて

地図CD-ROMは、ナビゲーションシステム研究会Ver2.01、2.1に準拠した日本国内用のCD-ROMを使用してください。ナビ研S規格には対応しておりません。また、ナビゲーションシステム研究会Ver2.1に含まれている「経路検索情報」を利用した経路検索はできません。

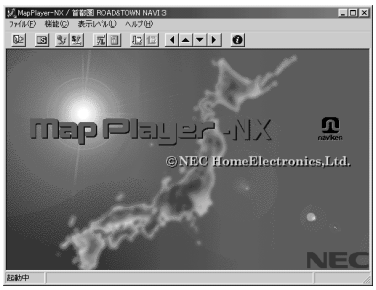
- Windows 98のCD-ROMファイルシステムが32bitモード以外の場合、「MapPlayer-NX」は使用できません（購入時の状態では32bitファイルシステムモードです）。
- 市販のCD-ROMキャッシュソフトをインストールすると、「MapPlayer-NX」が使用できない場合があります。「MapPlayer-NX」を使用される場合は、CD-ROMキャッシュソフトを削除してください。

「MapPlayer-NX」の起動

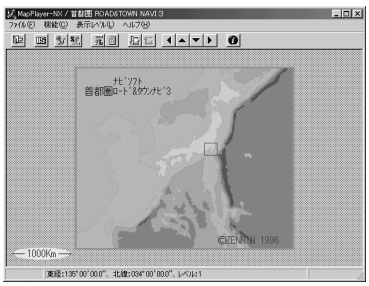
地図CD-ROMをCD-ROMドライブにセットすれば、自動的に「MapPlayer-NX」が起動します。もし、自動的に起動しない場合は次の操作を行ってください。

① 地図CD-ROMをCD-ROMドライブにセットする。

② 「MapPlayer-NX」を起動する。
（「ランチ-NX」→「ユーティリティ」→「MapPlayer-NX（カーナビCD）」または「スタート」→「プログラム」→「アプリケーション」→「MapPlayer-NX（カーナビCD）」）
オープニング画面が表示されます。



「MapPlayer-NX」が地図CD-ROMから必要なデータを読み込むと、地図画面が表示されます。

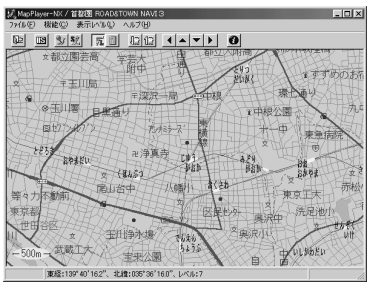


地図を見るために必要なボタン

地図画面の上部には、いくつかのアイコンが横に並んでいるツールバーがあります。この中で、地図を見るための基本操作に不可欠なボタンについて説明します。

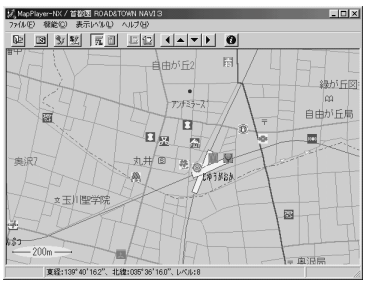
■ (レベルメーターの表示 / 非表示切り替え) ボタンクリックすると、次のようなレベルメーターを表示します。もう一度クリックすると、レベルメーターは画面から消えます。

現在のレベルメーターの表示は「7」です。対応する地図は次の通りです。



レベルメーターの「8」をクリックします。「8」が選ばれます。

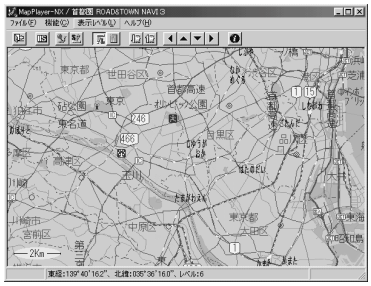
すると、地図はさらに詳しくなります。



レベルメーターの表示を 1 だけ大きくする (表示範囲が狭くなり、表示内容が詳しくなる) ことは、を 1 回クリックする操作とまったく同じです。

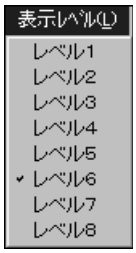
逆にレベルメーターの「6」をクリックします。「6」が選ばれます。

地図の表示範囲は東京都のいくつかの区を含む程度に広がります。



レベルメーターの表示を 1 だけ小さくする (表示範囲が広くなり、表示内容が大まかになる) ことは、を 1 回クリックする操作とまったく同じです。

また、レベルメーターはメニューバーの「表示レベル」のプルダウンメニューで選ぶこともできます。



■ (スクロールパネル表示 / 非表示) ボタン

クリックすると、次のようなスクロールパネルを表示します。もう一度クリックすると、スクロールパネルは画面から消えます。

矢印をクリックすると、その矢印の方向の表示範囲が広がるように地図がずれます。

■ 地図上のある地点を中心に表示する

例えば次の地図で、右下にある「船の科学館」を中心に表示したいときは、「船の科学館」にマウスのポインタを当てて、ダブルクリックします。「船の科学館」が地図の中心になるように表示が変わります。

▼

ランドマークを利用する

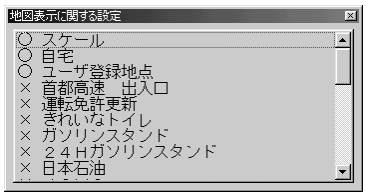
地図上には、いろいろな情報を示す印があります。これをランドマークと呼びます。

ランドマークの表示 / 非表示を設定する

ランドマークの表示 / 非表示の設定ができます。ランドマークが表示できる表示レベルは、自宅は全レベル、ユーザー登録点は、登録時に表示可能と示されたレベル、その他は使用する地図により異なります。また、スケールに表示されている距離は参考用です。多少の誤差が生じる場合があります。

① ツールバーの をクリック。

「地図表示に関する設定」ウィンドウが表示されます。

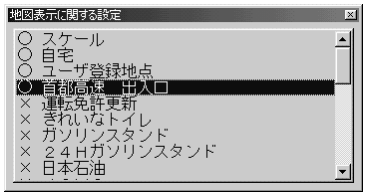


○：表示　×：非表示

② 表示したい項目をダブルクリック。

（例 首都高速 出入口）

「×」印が「○」印に変ります。地図には、「首都高速 出入口」が表示されるようになります。

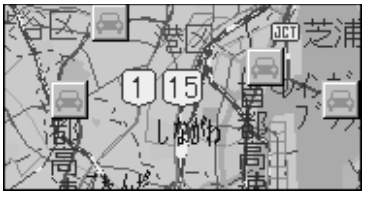


首都高速の出入口が表示されていない地図

▼

首都高速の出入口が表示されている地図

拡大図

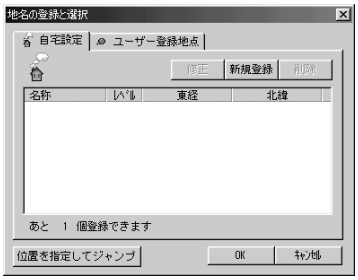


ユーザー用ランドマークを設定する

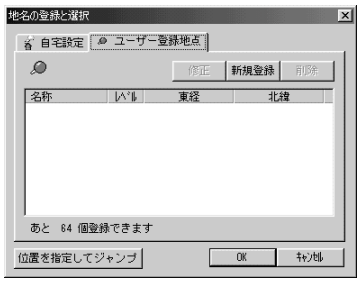
自宅や任意の地点を地図上に登録できます。ここでは、「ユーザー登録地点」として「屋台のラーメン屋」を登録してみます。ユーザー登録地点は、最大 64 カ所です。

① 地図上で、登録したい場所をクリック。
地図上に「×」印が表示されます。

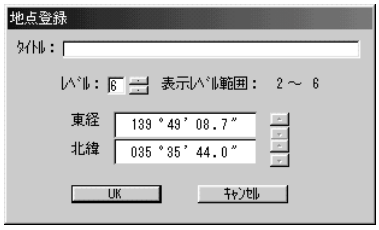
② ツールバーの をクリック。
「地名の登録と選択」ウィンドウが表示されます。



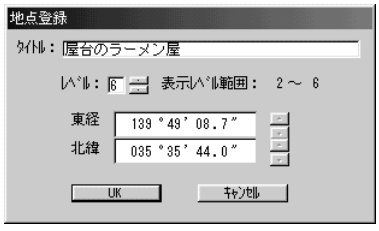
③「ユーザー登録地点」をクリック。
「ユーザー登録地点」タブのウィンドウが表示されます。



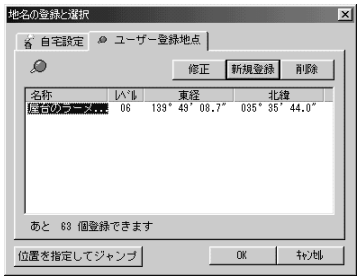
④「新規登録」をクリック。
「地点登録」ウィンドウが表示されます。



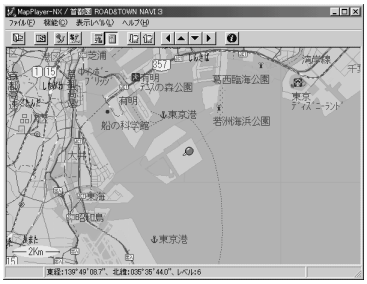
⑤ 地名を入力する。
（例 「屋台のラーメン屋」）



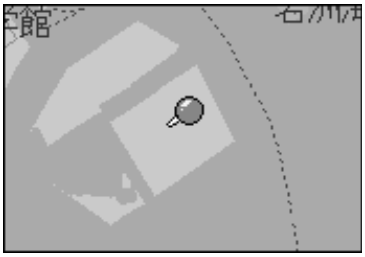
⑥「OK」をクリック。
「地名の登録と選択」ウィンドウに地名などが登録されます。



⑦「OK」をクリック。
地図に登録されました。

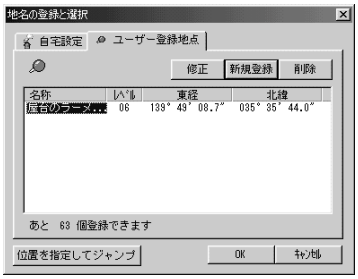


拡大図



■ ユーザー登録地点の修正 / 削除

① をクリックして、「地名の登録と選択」ウィンドウを表示する。



②「修正」または「削除」をクリック。
「修正」をクリックした場合

ここで、「タイトル」や「レベル」を修正して「OK」をクリックします。

「削除」をクリックした場合

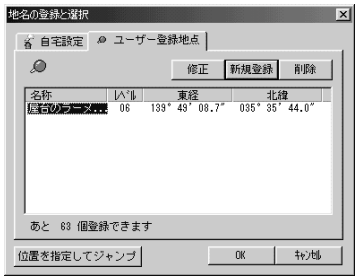
「OK」をクリックすると削除できます。

登録した地名から地図を表示する

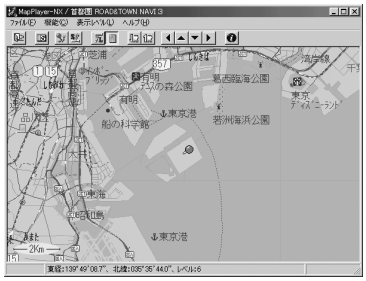
登録した地名から、その地点がある地図を表示できます。また、緯度経度を指定して任意の地点を表示することもできます。

■ 登録した地名から表示する
「ユーザー登録地点」の「屋台のラーメン屋」を表示してみます。

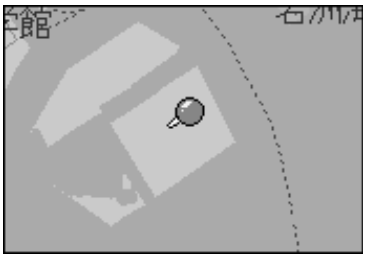
① をクリックして、「地名の登録と選択」ウィンドウを表示する。



②「地名」をダブルクリック。
（例「屋台のラーメン屋」）
ユーザー登録地点（屋台ラーメン屋）のある地図が表示されます。



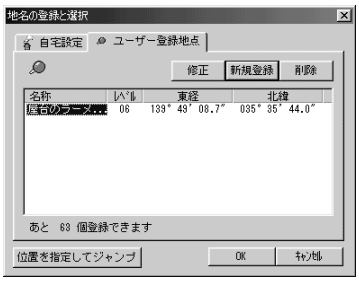
拡大図



登録した地名から表示する

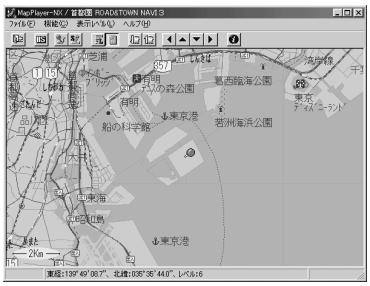
「ユーザー登録地点」の「屋台のラーメン屋」を表示する、別の方法を説明します。

① をクリックして、「地名の登録と選択」ウィンドウを表示する。



②「位置を指定してジャンプ」をクリック。
「ジャンプ先」ウィンドウが表示されます。

③ レベル、経度、緯度を入力して「OK」をクリック。
(「ジャンプ先」ウィンドウには、「地名の登録と選択」ウィンドウで、選ばれている地名のレベル、経度、緯度が表示されています。)
ユーザー登録地点 (屋台ラーメン屋) のある地図が表示されます。



「ジャンプ先」ウィンドウで、あらたにレベル、経度、緯度を指定してジャンプすることもできます。

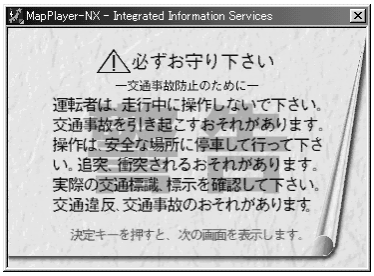
IIS (Integrated Information Services) を利用する

IIS を利用すると、サービステキストやマークを使って、各種の情報を簡単に入手できます。

IIS を最初から見る

ここでは、例として首都高速の「高速都心環状線」のひとつの出入口である「江戸橋出入口」を表示してみます。

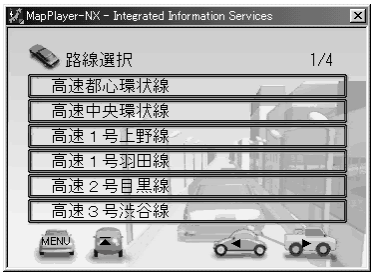
① ツールバーのIISをクリック。
次の画面が表示されます。



② 画面をクリック。
(カーナビゲーション装置の「決定キー」や「エンターキー」押すことは、ここでは、マウスのクリックを意味します。)
IIS の初期画面が表示されます。

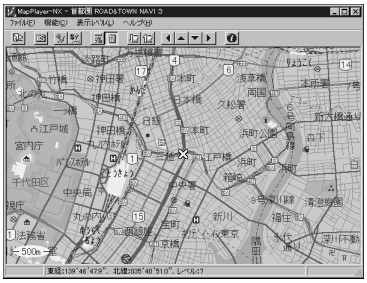
③「首都高速」をクリック。
次のメニューが表示されます。

④「出入口案内」をクリック。
次のメニューが表示されます。

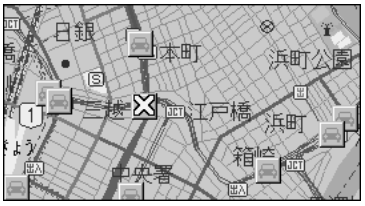


⑤「高速都心環状線」をクリック。
次のメニューが表示されます。

⑥「江戸橋出入口」をクリック。
「江戸橋出入口」に印が付けられた地図が表示されます。



拡大図

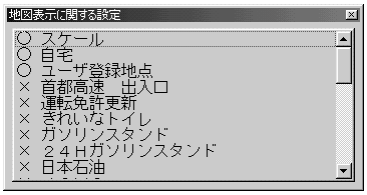


IIS マークを利用して地図から表示させる

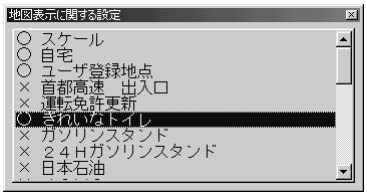
ここでは、例として京橋の近くのきれいなトイレを探してみます。

① 目的の地点を中心にした地図を表示する。

② ツールバーの をクリック。
「地図表示に関する設定」ウィンドウが表示されます。

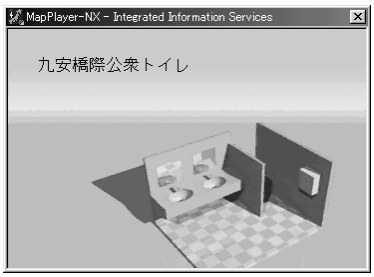


③「きれいなトイレ」をダブルクリック。
「×」印が「○」印に変わります。地図には、「きれいなトイレ」を示す「T」マークが表示されます。



拡大図

④ 京橋の右上の方向にある「T」マークをクリック。
「きれいなトイレ」の名前が表示されます。



IIS を使用するときの注意

IISは本来、カーナビゲーションシステムで再生することを前提に設計されているため、次の点に注意してください。

- IIS における画面上のボタンの操作方法や動作は、Windows 98 と異なる場合があります。
- カーナビゲーションシステムでのみ使用を許されているデータなど、「MapPlayer-NX」では一部扱えないデータがあります（ここで使用している「首都圏 ROAD & TOWN NAVI III」では電話番号データが該当します）。
- IISはCD音声を使用してタイミングをとるため、ほかにCD音声を使用するアプリケーションと同時に起動できません。

ランチ -NX の設定

「ランチ -NX」では登録されているグループやアプリケーション起動ボタン、その他の編集ができます。自分で使いやすいように「ランチ -NX」を設定してください。

参照
・「ランチ -NX」の使い方→『STEP2 入門』PART3「ランチ -NX は、ソフトの発射台」

「ランチ -NX の設定」ウィンドウ

「ランチ -NX」に関する設定や編集は、「ランチ -NX の設定」ウィンドウで行います。「ランチ -NX の設定」ウィンドウの表示方法は次の通りです。

① 「ランチ -NX」が起動している場合は、(設定ボタン) をクリック。
(起動していない場合は、「スタート」→「プログラム」→「アプリケーション」→「ランチ -NX」をクリックし、「ランチ -NX」起動後に をクリック)

「ランチ -NX の設定」ウィンドウが表示されます。

「編集」タブでの設定

グループボタン、アプリケーション起動ボタンの編集ができるようにする

「グループ、アプリケーション起動ボタンの編集を許可する」のチェックボックスにチェックをつけると、グループやアプリケーション起動ボタンの追加／削除、名前や順序の変更などができるようになります。

チェック!!

・購入時の状態ではチェックボックスにチェックがついていないため、グループやアプリケーション起動ボタンの編集はできません。

・「編集」タブの「グループ、アプリケーション起動ボタンの編集を許可する」のチェックボックスをチェックすると、連動して「その他」タブの「グループ、アプリケーション起動ボタンの編集を許可する」のチェックボックスもチェックされます。

マウスでの編集方法を選ぶ

① 「グループ、アプリケーション起動ボタンの編集を許可する」のチェックボックスにチェックをつける。

② 「編集方法」で、次の 2 つのどちらかを選ぶ。
2 つとも選ぶこともできます。

・マウスの右ボタンクリックによる編集メニュー
マウスの右ボタンをクリックして表示されるメニューからグループボタンやアプリケーション起動ボタンを編集できるようになります。

・マウスのドラッグ & ドロップ操作による編集
マウスのドラッグ&ドロップ操作でグループボタンやアプリケーション起動ボタンを編集できるようになります。

③ 「OK」をクリック。

追加したアプリケーションのランチ -NX への登録

アプリケーションをインストールしたときに、「スタート」メニューの「プログラム」に登録されたアプリケーションのグループを自動的に登録するかどうかを設定します。設定方法は次の通りです。

① 「グループ、アプリケーション起動ボタンの編集を許可する」のチェックボックスにチェックをつける。

② 「追加アプリケーションのランチ -NX への登録」で次の 3 つから 1 つを選ぶ。

・アプリケーションのインストール後に自動登録する
「アプリケーションのインストール後に自動登録する」を選ぶと、アプリケーションをインストールしたとき、「スタート」メニューの「プログラム」に新しいフォルダが追加されると、そのフォルダが「ランチ -NX」に自動的に登録されます。

・アプリケーションのインストール後に登録するか確認する
「アプリケーションのインストール後に登録するか確認する」を選ぶと、アプリケーションをインストールしたとき、「スタート」メニューの「プログラム」に新しいフォルダが追加されると、ランチ -NX に登録するかどうかを確認するウィンドウが表示されます。

追加されたグループとアプリケーションをランチ -NX に登録する場合は「はい」を、登録しない場合は「いいえ」をクリックします。

・登録しない
「登録しない」を選ぶと、アプリケーションがインストールされてもランチ -NX には登録されません。

③ 「登録先のグループ」を選ぶ。
購入時の状態では「ユーザ」グループに設定されています。

④ 「OK」をクリック。

チェック!!

・インストールするアプリケーションが「スタート」メニューの「プログラム」にフォルダを作成しない場合は、「ランチ -NX」への自動登録は行いません。

・「ランチ -NX」が起動していないときにアプリケーションのインストールをした場合は、「ランチ -NX」への自動登録は行いません。

「追加アプリケーションのランチ-NXへの自動登録」を行うときは、「ランチ -NX」の起動中にアプリケーションのインストールを行ってください。

・インストールしたアプリケーションが作成したグループ名が、すでに存在する場合は、「ランチ -NX」への自動登録は行いません。

・「登録先のグループ」に登録したアプリケーションのアンインストールにより、「スタート」メニューの「プログラム」のフォルダが削除されると、そのアプリケーションのグループを「ランチ -NX」からも削除するかどうかのウィンドウが表示されます。

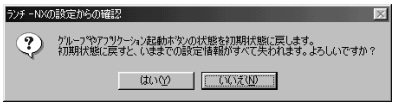
アプリケーションのグループを「ランチ -NX」から削除する場合は「はい」を、削除しない場合は、「いいえ」をクリックします。
なお、購入時に登録されているアプリケーションをアンインストールしても、そのグループおよびアプリケーション起動ボタンは削除されません。

・登録先のグループを削除すると、自動登録を行わない設定になります。
例えば、購入時の状態で、「ユーザ」グループを削除すると、「ランチ -NX」への自動登録は行われません。
「追加アプリケーションのランチ-NXへの自動登録」を行う場合は「登録先のグループ」をもう一度選んでください。

登録されているグループ、アプリケーション起動ボタンを購入時の状態に戻す

① 「グループ、アプリケーション起動ボタンの編集を許可する」のチェックボックスにチェックをつける。

② 「リセット」をクリック。
次の画面が表示されます。

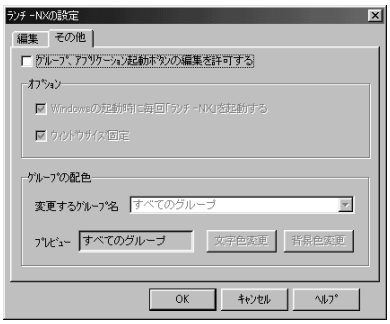


③ 「はい」をクリック。
購入時の状態に戻ります。
購入時の状態に戻さない場合は「いいえ」をクリックします。

チェック!!

購入時の状態に戻すと、グループやアプリケーション起動ボタンの配置や変更など、設定した情報はすべて失われます。

「その他」タブでの設定



グループ、アプリケーション起動ボタンの編集ができるようにする

「グループ、アプリケーション起動ボタンの編集を許可する」のチェックボックスにチェックをつけると、グループやアプリケーション起動ボタンの編集ができるようになります。

チェック!!

- 購入時の状態ではチェックボックスにチェックがついていないため、グループやアプリケーション起動ボタンの編集はできません。
- 「その他」タブの「グループ、アプリケーション起動ボタンの編集を許可する」のチェックボックスにチェックをつけると、連動して「編集」タブの「グループ、アプリケーション起動ボタンの編集を許可する」のチェックボックスもチェックされます。

Windows の起動時に毎回ランチ -NX を起動する

① 「グループ、アプリケーション起動ボタンの編集を許可する」のチェックボックスにチェックをつける。

② 「オプション」の「Windows の起動時に毎回ランチ -NX を起動する」のチェックボックスにチェックをつける。
購入時の状態ではチェックされています。

③ 「OK」をクリック。
これで Windows の起動時に毎回「ランチ -NX」が起動します。

チェック!!

「オプション」の「Windows 起動時に毎回ランチ-NX を起動する」に付けられているチェックマークをはずすと、次回の Windows 起動時には「ランチ -NX」は起動されません。もう一度、Windows の起動時に毎回、「ランチ-NX」を起動する場合は、「スタート」→「プログラム」→「アプリケーション」から「ランチ -NX」を起動し、 をクリックして、設定を変更してください。

「ランチ -NX」ウィンドウのサイズを変更する

「オプション」の「ウィンドウサイズ固定」のチェックボックスにチェックをつけると、ランチ-NXのウィンドウサイズが固定されます。チェックをはずすとウィンドウサイズを変更できます。購入時の状態ではチェックされており、アプリケーション起動ボタンエリアは縦 3 個×横 4 個の起動ボタンが表示される大きさになっています。

ウィンドウサイズを変更する手順は次の通りです。

① 「グループ、アプリケーション起動ボタンの編集を許可する」のチェックボックスにチェックをつける。

② 「ウィンドウサイズ固定」のチェックボックスのチェックをはずす。

③ 「OK」をクリック。

④ 「ランチ -NX」ウィンドウの大きさを他のウィンドウと同じようにドラッグして変更する。

チェック!!

- ウィンドウサイズを変更した場合、横幅に関して大きさを変えることができるのはアプリケーション起動ボタンエリアだけです。
- ウィンドウの最小サイズは、アプリケーション起動ボタンエリア内の起動ボタンが縦 3 個×横 3 個表示される大きさです。
- 最大サイズは、解像度によって異なります。

グループボタンおよびアプリケーション起動ボタンエリアの背景色を変更する

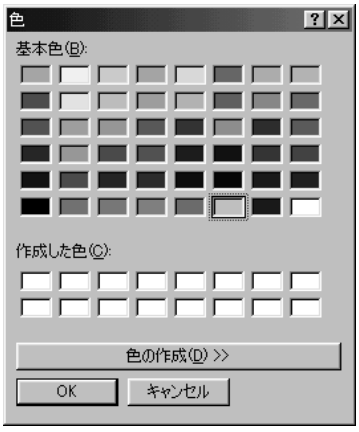
グループエリアのグループボタンおよびアプリケーション起動ボタンエリアの背景色を設定できます。すべてのグループまたはグループ単位で設定ができます。

設定方法は次の通りです。

① 「グループ、アプリケーション起動ボタンの編集を許可する」のチェックボックスにチェックをつける。

② 「グループの配色」の「変更するグループ名」の▼をクリックして、背景色を変更するグループを選ぶ。

③ 「グループの配色」の「背景色変更」をクリック。



④ 背景色を指定する。

⑤ 「OK」をクリック。
「色」ウィンドウが閉じます。

⑥ 「ランチ-NXの設定」ウィンドウの「OK」をクリック。
グループボタンおよびアプリケーション起動ボタンエリアの背景色が指定した色に変更されます。

チェック!!

- グループ単位で設定した場合、設定したグループおよびそのサブグループの背景色が変更されます。
- すべてのグループを設定した場合、全グループの背景色が変更されます。
- 新規登録したグループの背景色は、「すべてのグループ」で指定した色になります。
- グループボタンの文字色は、「文字色変更」ボタンにより同じように変更できます。
- グループの配色は、「マウスの右ボタンのクリックによる編集メニュー」でもできます。(→この項の「グループを編集する」)

グループを編集する

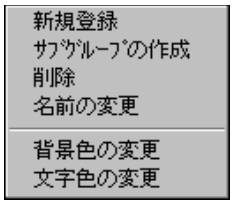
グループを新規登録する

① 「ランチ-NXの設定」ウィンドウを表示して、「編集」タブの「グループ、アプリケーション起動ボタンの編集を許可する」のチェックボックスにチェックをつける。

② 「編集」タブの「編集方法」で、「マウスの右ボタンクリックによる編集メニュー」のチェックボックスにチェックをつける。

③ 「OK」をクリック。

④ 「ランチ-NX」ウィンドウで任意のグループを右クリック。
次のメニューが表示されます。



⑤ 「新規登録」をクリック。
「グループの追加」ウインドウが表示されます。

⑥ 新規登録するグループ名を入力する。
(例 趣味)

⑦ 「OK」をクリック。
これで「趣味」グループが新規登録されます。

サブグループを作成する

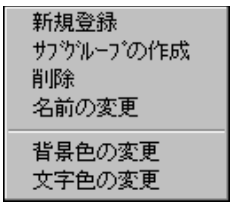
ここでは、例として「趣味」グループの下に「音楽」サブグループを作成します。

① 「ランチ-NXの設定」ウィンドウを表示して、「編集」タブの「グループ、アプリケーション起動ボタンの編集を許可する」のチェックボックスにチェックをつける。

② 「編集」タブの「編集方法」で、「マウスの右ボタンクリックによる編集メニュー」のチェックボックスにチェックをつける。

③ 「OK」をクリック。

④ 「ランチ-NX」ウィンドウでサブグループを作成したいグループボタン、またはサブグループボタンを右クリック。
次のメニューが表示されます。
（例 「趣味」グループ）



⑤ 「サブグループの作成」をクリック。
「サブグループの作成」ウィンドウが表示されます。

⑥ 作成するサブグループ名を入力する。
（例 音楽）

⑦ 「OK」をクリック。
これで「趣味」グループの下に「音楽」サブグループが作成されます。

チェック!!

サブグループボタンを作成したグループボタンの横の「▽」をクリックするとサブグループが表示されなくなります。もう一度クリックすると、表示されるようになります。

グループ、サブグループの名前を変更する

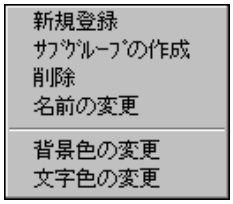
ここでは、例として「メイン」グループを「インターネット」グループに名前を変更します。

① 「ランチ-NXの設定」ウィンドウを表示して、「編集」タブの「グループ、アプリケーション起動ボタンの編集を許可する」のチェックボックスにチェックをつける。

② 「編集」タブの「編集方法」で、「マウスの右ボタンクリックによる編集メニュー」のチェックボックスにチェックをつける。

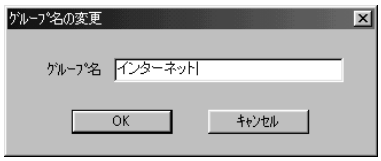
③ 「OK」をクリック。

④ 「ランチ-NX」ウィンドウで名前を変更したいグループボタン、またはサブグループボタンを右クリック。
次のメニューが表示されます。
（例 「メイン」グループ）



⑤ 「名前の変更」をクリック。
「グループ名の変更」ウィンドウが表示されます。

⑥ 変更したいグループ名を入力する。
（例 インターネット）



⑦ 「OK」をクリック。
これで「メイン」は、「インターネット」に名前が変更されます。

グループの順序を変更する

ここでは、例として「ユーティリティ」グループを「メイン」グループの前に移動します。

①「ランチ-NXの設定」ウィンドウを表示して、「編集」タブの「グループ、アプリケーション起動ボタンの編集を許可する」のチェックボックスにチェックをつける。

②「編集」タブの「編集方法」で、「マウスのドラッグ＆ドロップ操作による編集」のチェックボックスにチェックをつける。

③「OK」をクリック。

④「ランチ -NX」ウィンドウで順序変更したいグループボタン（例 「ユーティリティ」グループボタン）をドラッグ＆ドロップで、移動させたい位置にあるグループボタン（例 「メイン」グループ）まで移動する。
これで「ユーティリティ」グループは、「メイン」グループの前に移動します。

チェック!!

【Ctrl】を押しながらドラッグ＆ドロップした場合、ドロップしたグループのサブグループとして移動します。

グループ、サブグループを削除する

チェック!!

グループを削除すると、同時にそのグループとそのサブグループ内にあるすべてのアプリケーション起動ボタンが削除されます（起動ボタンが削除されるだけで、アプリケーション自体は削除されません）。

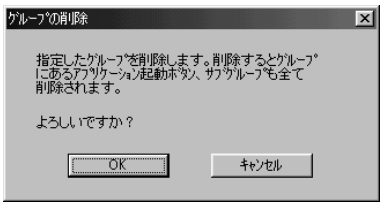
マウスのドラッグ & ドロップ操作で削除する

①「ランチ-NXの設定」ウィンドウを表示して、「編集」タブの「グループ、アプリケーション起動ボタンの編集を許可する」のチェックボックスにチェックをつける。

②「編集」タブの「編集方法」で、「マウスのドラッグ＆ドロップ操作による編集」のチェックボックスにチェックをつける。

③「OK」をクリック。

④「ランチ -NX」ウィンドウで削除したいグループボタンをドラッグ＆ドロップでデスクトップ画面の「ごみ箱」アイコンまで移動する。
「グループの削除」ウィンドウが表示されます。



⑤「OK」をクリック。
これでグループ、およびグループ内にあるすべてのアプリケーション起動ボタンが削除されます。

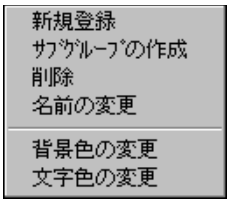
マウスの右ボタン操作で削除する

①「ランチ-NXの設定」ウィンドウを表示して、「編集」タブの「グループ、アプリケーション起動ボタンの編集を許可する」のチェックボックスにチェックをつける。

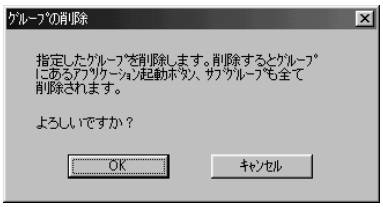
②「編集」タブの「編集方法」で、「マウスの右ボタンクリックによる編集メニュー」のチェックボックスにチェックをつける。

③「OK」をクリック。

④「ランチ -NX」ウィンドウで削除したいグループボタンを右クリック。
次のメニューが表示されます。



⑤「削除」をクリック。
「グループの削除ウィンドウ」が表示されます。



⑥「OK」をクリック。
これでグループ、およびグループ内にあるすべてのアプリケーション起動ボタンが削除されます。

グループボタンおよびアプリケーション起動ボタンエリアの背景色を変更する

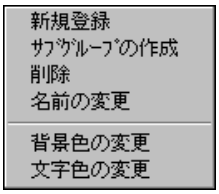
①「ランチ-NX の設定」ウィンドウを表示する。

②「編集」タブの「グループ、アプリケーション起動ボタンの編集を許可する」にチェックマークをつける。

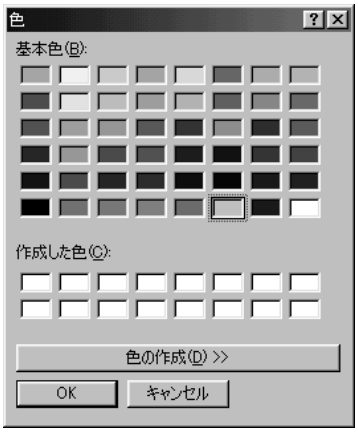
③「編集」タブの「編集方法」で「マウスの右クリックによる編集メニュー」にチェックマークをつける。

④「OK」をクリック。

⑤「ランチ-NX」ウィンドウで背景色を変更するグループボタンを右クリック。
次のメニューが表示されます。



⑥「背景色の変更」を右クリック。



⑦「背景色」を指定する。

⑧「OK」をクリック。
これで、グループボタンおよびアプリケーション起動ボタンエリアの背景色が指定された色になります。

チェック!!

グループボタンの文字色は、「文字色の変更」により同じようにできます。

グループボタンを編集するときの注意

- マウスカーソルが⃠に変わる場所へは、ドラッグ＆ドロップはできません。
- グループ表示エリアのグループボタン以外で、マウスの右ボタンをクリックした場合は、「新規登録」のみが編集できます。
- グループの名前には、次の文字は使用しないでください。

\ / ; , : * ? " < > |

アプリケーション起動ボタンを編集する

アプリケーション起動ボタンを新規登録する

ここでは、例として「エクスプローラ」起動ボタンを「メイン」グループに新規登録します。

マウスのドラッグ & ドロップ操作で新規登録する

①「ランチ-NXの設定」ウィンドウを表示して、「編集」タブの「グループ、アプリケーション起動ボタンの編集を許可する」のチェックボックスにチェックをつける。

②「編集」タブの「編集方法」で、「マウスのドラッグ＆ドロップ操作による編集」のチェックボックスにチェックをつける。

③「OK」をクリック。

④ エクスプローラを起動する。
(「スタート」→「プログラム」→「エクスプローラ」)

⑤ エクスプローラ上で、「ランチ-NX」に登録したいアプリケーションの起動アイコン（例 C:\Windows\スタート メニュー\プログラム\エクスプローラのアイコン）をドラッグ & ドロップで、新規登録する「ランチ-NX」ウィンドウのグループボタン（例「メイン」グループ）に移動する。
これで「エクスプローラ」起動ボタンが「メイン」グループの最後尾に新規登録されます。

チェック!!

CD-ROM または CD-ROM のアプリケーションを登録した場合、CD-ROM を取り出すと、アイコンが または に変わることがあります。

■ マウスの右ボタン操作で新規登録する

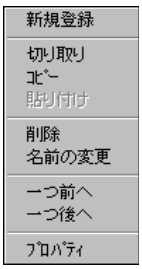
① 「ランチ-NXの設定」ウィンドウを表示して、「編集」タブの「グループ、アプリケーション起動ボタンの編集を許可する」のチェックボックスにチェックをつける。

② 「編集」タブの「編集方法」で、「マウスの右ボタンクリックによる編集メニュー」のチェックボックスにチェックをつける。

③ 「OK」をクリック。

④ 「ランチ-NX」ウィンドウで、アプリケーション起動ボタンを新規登録したいグループボタン（例 「メイン」グループボタン）をクリック。

⑤ 新規登録したいグループ（例 「メイン」グループ）の任意のアプリケーション起動ボタン以外のアプリケーション起動ボタンエリアを右クリック。
次のメニューが表示されます。



⑥ 「新規登録」をクリック。

⑦ 新規登録するアプリケーション起動ボタンの名前を「参照」をクリックして表示されるウィンドウから選ぶ。
（例 エクスプローラ）
連動して「ファイル名」も選ばれます。

⑧ 必要であれば、その他の項目を指定する。

⑨ 「OK」をクリック。
これで「エクスプローラ」起動ボタンが「メイン」グループの最後尾に新規登録されます。

アプリケーション起動ボタンの名前を変更する

ここでは、例として「ユーティリティ」グループの「サウンドレコーダー」を「音声コントローラ」に名前を変更します。

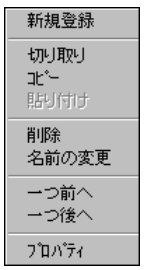
① 「ランチ-NXの設定」ウィンドウを表示して、「編集」タブの「グループ、アプリケーション起動ボタンの編集を許可する」のチェックボックスにチェックをつける。

② 「編集」タブの「編集方法」で、「マウスの右ボタンクリックによる編集メニュー」のチェックボックスにチェックをつける。

③ 「OK」をクリック。

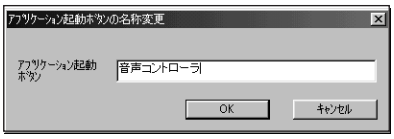
④ 「ランチ -NX」ウィンドウで名前を変更したいアプリケーション起動ボタンのあるグループボタン（例「ユーティリティ」グループ）をクリック。

⑤ 名前を変更するアプリケーション起動ボタン（例「サウンドレコーダー」）を右クリック。
次のメニューが表示されます。



⑥「名前の変更」をクリック。
「アプリケーション起動ボタンの名称変更」ウィンドウが表示されます。

⑦ 変更したいアプリケーション起動ボタン名を入力する。
（例 音声コントローラ）



⑧「OK」をクリック。
これで「サウンドレコーダー」は、「音声コントローラ」に名前が変更されます。

アプリケーション起動ボタンを移動する

ここでは、例として「ユーティリティ」グループの「ペイント」を「メイン」グループに移動します。

マウスのドラッグ＆ドロップ操作で移動する

①「ランチ-NXの設定」ウィンドウを表示して、「編集」タブの「グループ、アプリケーション起動ボタンの編集を許可する」のチェックボックスにチェックをつける。

②「編集」タブの「編集方法」で、「マウスのドラッグ＆ドロップ操作による編集」のチェックボックスにチェックをつける。

③「OK」をクリック。

④「ランチ-NX」ウィンドウで移動したいアプリケーション起動ボタンのあるグループボタン（「ユーティリティ」グループ）をクリック。

⑤ アプリケーション起動ボタン（例 「ペイント」）をドラッグ＆ドロップで移動したいグループボタン（例「メイン」グループ）まで移動する。
これで「ユーティリティ」グループの「ペイント」が「メイン」グループの最後尾に移動します。

マウスの右ボタン操作で移動する

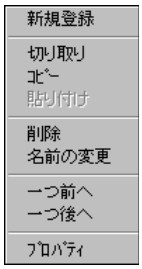
①「ランチ-NXの設定」ウィンドウを表示して、「編集」タブの「グループ、アプリケーション起動ボタンの編集を許可する」のチェックボックスにチェックをつける。

②「編集」タブの「編集方法」で、「マウスの右ボタンクリックによる編集メニュー」のチェックボックスにチェックをつける。

③「OK」をクリック。

④「ランチ-NX」ウィンドウで移動したいアプリケーション起動ボタンのあるグループボタン（例 「ユーティリティ」グループ）をクリック。

⑤ アプリケーション起動ボタン（例「ペイント」）を右クリック。
次のメニューが表示されます。



⑥「切り取り」をクリック。
「ペイント」起動ボタンが「ユーティリティ」グループから切り取られ、クリップボードにコピーされます。

⑦ 移動させたいグループ（例 「メイン」）をクリック。

⑧ 移動させたいグループ（例 「メイン」）のアプリケーション起動ボタンエリアを右クリック。

⑨「貼り付け」をクリック。
これで「ユーティリティ」グループの「ペイント」が「メイン」グループに移動します。

アプリケーション起動ボタンをコピーする

マウスの右ボタン操作でコピーする

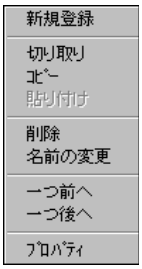
①「ランチ-NXの設定」ウィンドウを表示して、「編集」タブの「グループ、アプリケーション起動ボタンの編集を許可する」のチェックボックスにチェックをつける。

②「編集」タブの「編集方法」で、「マウスの右ボタンクリックによる編集メニュー」のチェックボックスにチェックをつける。

③「OK」をクリック。

④「ランチ-NX」ウィンドウでコピーしたいアプリケーション起動ボタンのあるグループボタン（例 「ユーティリティ」グループ）をクリック。

⑤ アプリケーション起動ボタン（例「ペイント」）を右クリック。
次のメニューが表示されます。



⑥「コピー」をクリック。
「ペイント」起動ボタンがクリップボードにコピーされます。

⑦ コピーしたいグループ（例「メイン」）をクリック。

⑧ コピーしたいグループ（例「メイン」グループ）のアプリケーション起動ボタンエリアを右クリック。

⑨「貼り付け」をクリック。
これで「ユーティリティ」グループの「ペイント」が「メイン」グループにコピーされます。

アプリケーション起動ボタン、サブグループボタンの順序を変更する

2 つ以上、前 / 後ろへ移動する場合

ここでは、例として「ユーティリティ」グループの「ペイント」を「Timer-NX（スケジューラ）」の位置に移動します。

①「ランチ-NXの設定」ウィンドウを表示して、「編集」タブの「グループ、アプリケーション起動ボタンの編集を許可する」のチェックボックスにチェックをつける。

②「編集」タブの「編集方法」で、「マウスのドラッグ＆ドロップ操作による編集」のチェックボックスにチェックをつける。

③「OK」をクリック。

④「ランチ -NX」ウィンドウで順序を変更したいアプリケーション起動ボタンがあるグループボタン（例「ユーティリティ」グループ）をクリック。

⑤ 順序を変更したいアプリケーション起動ボタン（例「ペイント」）を、ドラッグ＆ドロップで移動したいアプリケーション起動ボタン（例 「Timer-NX（スケジューラ）」）まで移動する。
これで「ペイント」が「Timer-NX（スケジューラ）」の位置に移動されます。

1 つ前 / 後ろへ移動する場合

ここでは、例として「ユーティリティ」グループの「ペイント」を「電卓」の後ろに移動します。

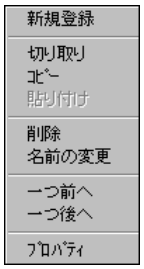
①「ランチ-NXの設定」ウィンドウを表示して、「編集」タブの「グループ、アプリケーション起動ボタンの編集を許可する」のチェックボックスにチェックをつける。

②「編集」タブの「編集方法」で、「マウスの右ボタンクリックによる編集メニュー」のチェックボックスにチェックをつける。

③「OK」をクリック。

④「ランチ -NX」ウィンドウで順序を変更したいアプリケーション起動ボタンがあるグループボタン（例「ユーティリティ」グループ）をクリック。

⑤ 順序を変更したいアプリケーション起動ボタン（例「ペイント」）を右クリック。



⑥「一つ後へ」をクリック。
これで「ペイント」が「電卓」の後ろに移動されます。

アプリケーション起動ボタンを削除する

ここでは、例として「ユーティリティ」グループの「ペイント」を削除します。

マウスのドラッグ & ドロップ操作で削除する

①「ランチ-NXの設定」ウィンドウを表示して、「編集」タブの「グループ、アプリケーション起動ボタンの編集を許可する」のチェックボックスにチェックをつける。

②「編集」タブの「編集方法」で、「マウスのドラッグ＆ドロップ操作による編集」のチェックボックスにチェックをつける。

③「OK」をクリック。

④「ランチ -NX」ウィンドウで順序を変更したいアプリケーション起動ボタンがあるグループボタン（例「ユーティリティ」グループ）をクリック。

⑤「ランチ-NX」ウィンドウで削除したいアプリケーション起動ボタン（例「ペイント」）をドラッグ＆ドロップでデスクトップ画面の「ごみ箱」アイコンまで移動する。
これで「ペイント」起動ボタンが削除されます。

マウスの右ボタン操作で削除する

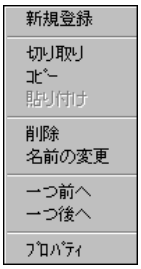
①「ランチ-NXの設定」ウィンドウを表示して、「編集」タブの「グループ、アプリケーション起動ボタンの編集を許可する」のチェックボックスにチェックをつける。

②「編集」タブの「編集方法」で、「マウスの右ボタンクリックによる編集メニュー」のチェックボックスにチェックをつける。

③「OK」をクリック。

④「ランチ-NX」ウィンドウで順序を変更したいアプリケーション起動ボタンがあるグループボタン（例「ユーティリティ」グループ）をクリック。

⑤「ランチ-NX」ウィンドウで削除したいアプリケーション起動ボタン（例「ペイント」）を右クリック。
次のメニューが表示されます。



⑥「削除」をクリック。

⑦「はい」をクリック。
これで「ペイント」起動ボタンが削除されます。

アプリケーション起動ボタンの登録内容を変更する

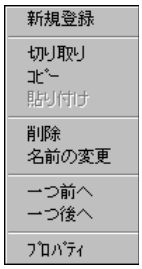
①「ランチ-NXの設定」ウィンドウを表示して、「編集」タブの「グループ、アプリケーション起動ボタンの編集を許可する」のチェックボックスにチェックをつける。

②「編集」タブの「編集方法」で、「マウスの右ボタンクリックによる編集メニュー」のチェックボックスにチェックをつける。

③「OK」をクリック。

④「ランチ-NX」ウィンドウで登録内容を変更したいアプリケーション起動ボタンがあるグループボタン（例「ユーティリティ」グループ）をクリック。

⑤ 登録内容を変更したいアプリケーション起動ボタン（例「ペイント」）を右クリック。
次のメニューが表示されます。



⑥「プロパティ」をクリック。

⑦ 次の登録内容を必要に応じて変更する。

- 名前
- ファイル名
- 起動パラメータ
- 作業フォルダ
- 実行時の大きさ
- アイコンの指定

⑧「OK」をクリック。
これで登録内容が変更されます。

アプリケーション起動ボタンを編集するときの注意

- マウスカーソルが🚫に変わる場所へは、ドラッグ＆ドロップはできません。
- 右ボタンのメニューの項目が使用不可になっている場合は、その項目は使用できません。
- アプリケーション起動ボタンの名前には、次の文字は使用しないでください。

\ / ; , : * ? " < > |

CD の自動起動〈CD ランチ〉

「CD ランチ」は音楽 CD やビデオ CD、フォト CD、カーナビゲーション用地図 CD-ROM などを CD-ROM ドライブにセットしたときに、対応するアプリケーション（「プレーヤ -NX」、「MapPlayer-NX」など）を自動的に起動します。

CD の自動起動について

Windows 98 には、オートラン機能（CD に対応したアプリケーションを自動的に起動する機能）があります。この機能を使うと、CD-ROM ドライブに CD をセットするだけで、例えばアプリケーションの CD-ROM の場合では、アプリケーションのセットアップ画面が表示されたり、音楽 CD の場合では、CD を再生するアプリケーションが起動するのです。しかし、Windows 98 でオートラン機能が使えるのは、基本的に、音楽 CD とオートラン機能に対応した CD-ROM です。フォト CD やビデオ CD などでは、CD-ROM ドライブに CD をセットするだけでは対応したアプリケーションが起動しない場合があります。
このような場合でも、「CD ランチ」を使って、CD を CD-ROM ドライブに CD をセットするだけで、その CD に対応したアプリケーションを起動することができます。

起動と終了

「CD ランチ」が起動されているときは、タスクバーにインジケータ が表示されます。インジケータが表示されていないときは、次の手順で「CD ランチ」を起動してください。

チェック!!

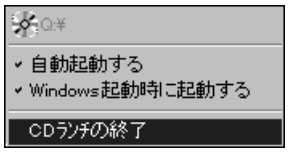
購入時の状態では、本機起動時に自動的に「CD ランチ」が起動します。

① 「スタート」→「プログラム」→「アプリケーション」「CD ランチ」をクリック。

タスクバーの右隅にインジケータ が表示されます。

CD ランチの終了

① タスクバーの右隅のインジケータ を右クリック。
ポップアップメニューが表示されます。



② 「CD ランチの終了」をクリック。
「CD ランチ」が終了します。

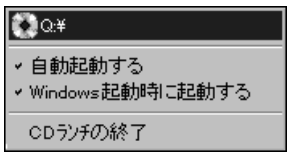
チェック!!

「CD ランチ」を終了すると、「プレーヤ -NX」、「Map Player-NX」などのアプリケーションの自動起動はされません。

アプリケーションの起動

「CD ランチ」からアプリケーションを起動するには、次の 3 通りの方法があります。（例 CD-ROM を起動する）

- タスクバーのインジケータ を右クリックして、表示されるメニューの「自動起動する」にチェックマークがついている状態で、CD-ROM をセットする。
- CD-ROM がセットされているときに、タスクバーのインジケータ をダブルクリックする。
- CD-ROM がセットされているときに、インジケータ を右クリックして表示されるメニューから「CD-ROM ドライブ」を選ぶ。



自動起動できるアプリケーション

「CDランチ」から自動起動できるアプリケーションは次の通りです。

・ビデオ CD（カラオケ CD）
「プレーヤ -NX」が起動

・フォト CD（フォト CD ポートフォリオ）
「プレーヤ -NX」が起動

・カーナビゲーション用地図 CD-ROM
「MapPlayer-NX」が起動

・オートランに対応した CD-ROM
CD-ROM アプリケーションが起動

・その他の CD-ROM
CD-ROM のファイルの内容を表示

チェック!!

・音楽CDとオートランに対応したCD-ROMは、「CDランチ」を終了した状態でもアプリケーションが起動します（ただし、CD-ROMドライブのプロパティで「挿入の自動通知」にチェックマークがついている場合）。

・ファイルの内容を自動的に表示しない CD-ROM もあります（本機添付の「アプリケーション CD-ROM」などは自動的に表示しません）。

CD ランチの設定

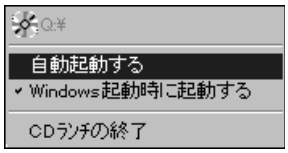
「CDランチ」は右クリックメニューにより次の設定ができます。

自動起動

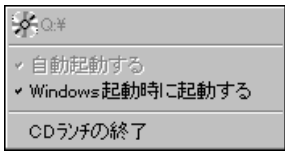
CD-ROMドライブにCD-ROMをセットしたときに、アプリケーションを自動的に起動するかどうかを設定できます。

チェック!!

チェックマークをつけた場合は自動起動し、はずした場合は自動起動しません。



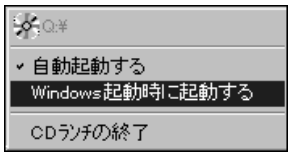
また、「挿入の自動通知」が設定されていない場合は、グレー表示され、選ぶことができません。この場合は、アプリケーションを自動起動できません。



参照
・「挿入の自動通知」が設定されていない場合
→後述の「CD-ROMが自動起動しないように設定する」

Windows 起動時に起動する

Windows起動時に「CD ランチ」を起動するかどうかを設定できます。
次のウィンドウでチェックマークがついている場合は、Windows 起動時に「CD ランチ」が自動起動します。



CD-ROMが自動起動しないように設定する

CD-ROM の中のファイルを参照する場合は、次の手順で、CD-ROM を自動起動しないように設定してください。

① 「CyberTrio-NX」のモードを「アドバンストモード」に変更する。
（「スタート」→「プログラム」→「CyberTrio-NX」のモードを「Go to アドバンストモード」）

② 「デバイスマネージャ」タブのウィンドウを開く。
（「スタート」→「設定」→「コントロールパネル」→「システム」→「デバイスマネージャ」）

③「CD-ROM」をダブルクリック。
「CD-ROM」フォルダの内容が表示されます。

④ 表示されたCD-ROM名をダブルクリック。
プロパティウィンドウが表示されます。

⑤「設定」タブをクリック。
「設定」タブウィンドウが表示されます。

⑥「挿入の自動通知」をクリックして、チェックをはずす。

⑦「OK」をクリック。
「デバイスマネージャ」タブのウィンドウに戻ります。

⑧「OK」をクリック。
再起動を促すメッセージが表示されたら、「はい」をクリックしてください。本機が自動的に再起動します。

これでCD-ROMが自動起動しなくなります。CD-ROMの中のファイルを参照する場合は、「エクスプローラ」を使用してください。

チェック!!

自動起動しないように設定しても、「マイコンピュータ」では、CD-ROMアイコンをクリックするとCDに対応したアプリケーションが起動しますので、「エクスプローラ」を使用してください。

参照
「エクスプローラ」の使い方→『STEP3　活用』PART1「エクスプローラの使い方」

英語モード フォントの使用

日本語版 Windows 98 で、英語版 Windows 98 のアプリケーションを使用するときは、文字を正しく表示するために、英語モードフォントを使用します。

概要

日本語モードフォントのままで、英語版 Windows 98 アプリケーションを本機で利用する場合、著作権「©」、登録商標「®」、「\」が正しく表示されません。そのため、使用するフォントの一部を英語モードフォントに切り替えて、正しく表示する必要があります。また、その逆に英語モードフォントを使用したままで、日本語版Windows 98のアプリケーションを本機で利用する場合、「ゥ」「ョ」「＼」が正しく表示されないことがあります。そのときは、英語モードフォントを削除します。

それぞれのモードでの表示状態については、次の通りです。

	英語版 Windows 98 アプリケーションを使用	日本語版 Windows 98 アプリケーションを使用
日本語モードフォント	「©」→「ゥ」「®」→「ョ」「\」→「＼」	正しく表示される
英語モードフォント	正しく表示される	「ゥ」→「©」「ョ」→「®」「＼」→「\」

英語モードフォントを使用する

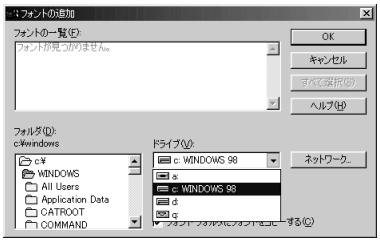
使用するフォントを日本語モードから英語モードへ切り替える操作は次の通りです。

① CD-ROM ドライブに「アプリケーション CD-ROM」をセットする。

② 「コントロールパネル」の「フォント」をダブルクリック。
（「スタート」→「設定」→「コントロールパネル」→「フォント」）
「FONTS」フォルダが表示されます。

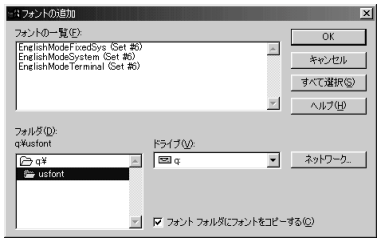
③ 「ファイル」メニューの「新しいフォントのインストール」をクリック。
「フォントの追加」ウィンドウが表示されます。

④ 「ドライブ」欄の▼をクリック。
ドライブ一覧のメニューが表示されます。



⑤ CD-ROM ドライブ（通常は「Q:」）を指定する。

⑥「フォルダ」で「usfont」をダブルクリック。
フォント一覧が表示されます。



⑦ 次のフォントが表示されることを確認する。

- EnglishModeFixedSys（Set #6）
- EnglishModeSystem（Set #6）
- EnglishModeTerminal（Set #6）

⑧「すべて選択」をクリック。
3 種類のフォントが選ばれ、反転表示になります。

⑨「OK」をクリック。
「FONTS」フォルダに英語モードフォントが追加され、英語モードフォントが使用できます。

日本語モードフォントへの切り替え

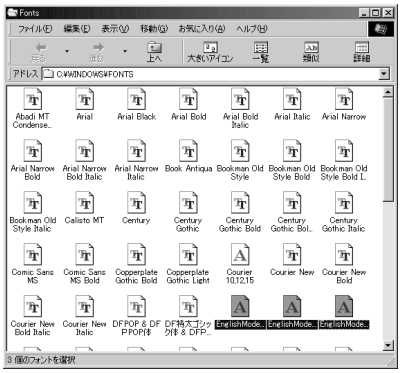
使用するフォントを英語モードフォントから日本語モードフォントに切り替えます。

①「コントロールパネル」の「フォント」をダブルクリック。
（「スタート」→「設定」→「コントロールパネル」→「フォント」）
「FONTS」フォルダが表示されます。

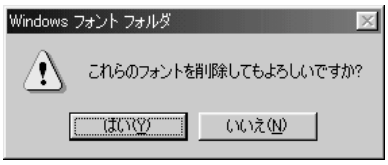
② 次の 3 つのフォントを選ぶ。

- EnglishModeFixedSys（Set #6）
- EnglishModeSystem（Set #6）
- EnglishModeTerminal（Set #6）

選ばれたフォントは反転表示になります。



③「ファイル」メニューの「削除」をクリック。
次のメッセージが表示されます。



④「はい」をクリック。
英語モードフォントが削除され、日本語モードフォントに切り替わります。

テキストリーダの使用

「テキストリーダ」は、クリップボードにコピーされた文章（テキストデータ）を、音声で読み上げます。入力した文章を、音声で読み上げて確認したい場合などに利用できます。

テキストリーダのセットアップ

「テキストリーダ」は本機にはあらかじめセットアップはされていません。

「テキストリーダ」を利用する場合には、次の手順でセットアップしてください。

① 本機添付の「アプリケーション CD-ROM」を用意する。

② 「アプリケーションの追加と削除」を起動する。
（「ランチ -NX」→「ユーティリティ」→「アプリケーションの追加と削除」または「スタート」→「設定」→「コントロールパネル」→「アプリケーションの追加と削除」）

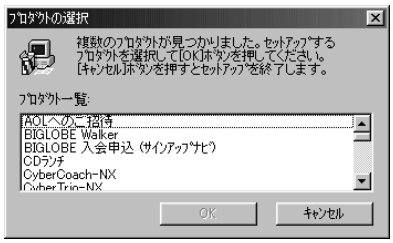
「アプリケーションの追加と削除のプロパティ」ウィンドウが表示されます。

③ 「インストール」をクリック。
「フロッピーディスクまたは CD-ROM からのインストール」ウィンドウが表示されます。

④ 「アプリケーション CD-ROM」を CD-ROM ドライブにセットして、「次へ」をクリック。
「インストールプログラムの実行」ウィンドウが表示されます。

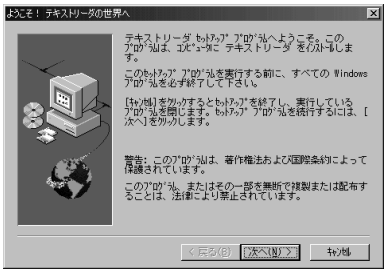
「インストールプログラムのコマンドライン」欄が、「＜ CD-ROM ドライブ名＞：\ NSETUP.EXE」になっていることを確認します。＜ CD-ROM ドライブ名＞は通常は＜ Q ＞です。

⑤ 確認したら、「完了」をクリック。
「プロダクトの選択」ウィンドウが表示されます。



⑥ 「テキストリーダ」をクリック。
「テキストリーダ」が反転表示になります。

⑦「OK」をクリック。
「ようこそ！ テキストリーダの世界へ」ウィンドウが表示されます。



⑧「次へ」をクリック。
「インストール先の選択」ウィンドウが表示されます。

通常は、あらかじめ設定されたインストール先を変更する必要はありません。インストール先を変更したいときは、「参照」をクリックします。

⑨「次へ」をクリック。
次の画面が表示されます。

通常は、あらかじめ設定されたプログラムアイコンの登録先フォルダを変更する必要はありません。プログラムアイコンの登録先フォルダを変更したいときは、「既存のフォルダ」より選ぶか、直接「プログラムフォルダ」に登録するフォルダ名を入力します。

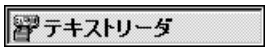
⑩「次へ」をクリック。
インストールが始まります。
インストールが終了すると次の画面が表示されます。

⑪「OK」をクリック。
これでイントールは完了です。

テキストリーダの使い方

テキストリーダの起動

①「スタート」→「プログラム」→「テキストリーダ」→「テキストリーダ」をクリック。
タスクバーに「テキストリーダ」アイコンが表示されます。



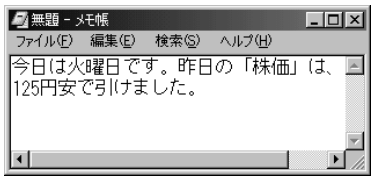
②「テキストリーダ」をクリック。
「テキストリーダ」ウィンドウが表示されます。

テキストリーダを使う

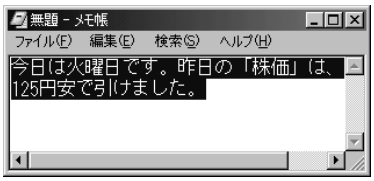
ここでは、「メモ帳」で文章を作成し、「テキストリーダ」で読み上げさせましょう。スピーカの接続や電源などを調べ、スピーカが使える状態になっていることを確認してください。また、他のアプリケーションがオーディオデバイスを使用しているときには、読み上げはできません。そのアプリケーションを終了させてください。

①「メモ帳」で文章を作成する。

例



② 文章をマウスのドラッグで選ぶ。
文章が反転表示になります。



③「編集」メニューから「コピー」をクリック。
選んだ文章がクリップボードに送られます。

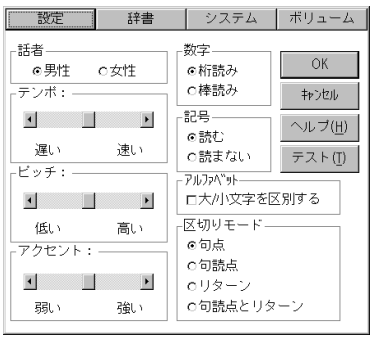
④「テキストリーダ」の▶をクリック。
文章が読み始められ、「テキストリーダ」ウィンドウに「読み上げ中」と表示されます。

「テキストリーダ」の設定変更

「テキストリーダ」の設定を変更することにより、男性または女性の音声にしたり、読み上げのテンポ、声の高さ、抑揚の強弱などを調整できます。

①「テキストリーダ」を起動する。

②「オプション」をクリック。
次の設定画面が表示されます。



◎「設定」タブのウィンドウの各項目の説明

「話者」
男性の音声か女性の音声を選べます。
「男性」または「女性」の前の○をクリックして選びます。

「テンポ」
読み上げ速度を調整します。
■をマウスでドラッグして左右に動かして調整します。

「ピッチ」
音声の高さを調整します。
■をマウスでドラッグして左右に動かして調整します。

「アクセント」
抑揚の強弱を調整します。
■をマウスでドラッグして左右に動かして調整します。

「数字」
数字の読み方を選べます。「123」を「ひゃくにじゅうさん」と読みのが「桁読み」、「いちにさん」と読むのが「棒読み」です。「棒読み」を設定すると、例の文章では、「125円」を「イチニーゴエン」と読みます。
「桁読み」または「棒読み」の前の○をクリックして選びます。

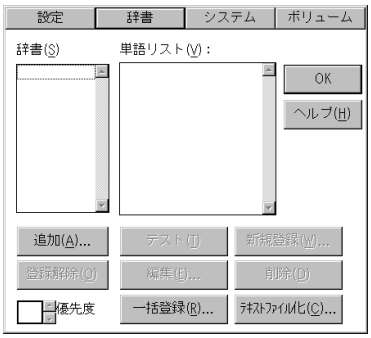
「記号」
記号を読むか読まないかを選びます。「読む」を設定すると、例の文章の「株価」の部分は、「ハジメカギカッコ、カブカ、オワリカギカッコ」と読みます。
「読む」または「読まない」の前の○をクリックして選びます。

「アルファベット」
大文字 / 小文字を区別するかしないかを選びます。例えば大文字 / 小文字の区別がされていると、辞書に登録されている「hello」は「ハロー」と読み上げますが、登録されていない「HELLO」は「hello」とは区別して扱われ「エイチイーエルエルオー」と読み上げます。
「大 / 小文字を区別する」にチェックをつけると大文字 / 小文字を区別します。

「区切りモード」
読み上げるときの区切りを設定します。
各項目の前の○をクリックして選びます。

◎「辞書」タブのウィンドウ

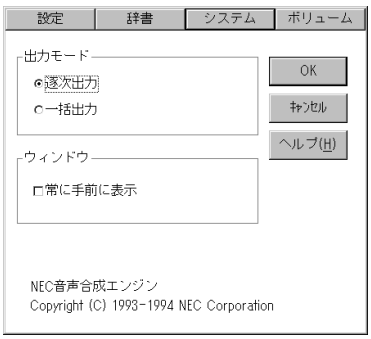
「辞書」タブをクリックすると表示されます。



システム辞書にない単語は、ユーザー辞書を作成して追加できます。ユーザー辞書は 15 種類まで登録可能です。複数の辞書を登録する場合は、参照する優先順位を指定できます。ユーザー辞書は、常にシステム辞書に優先して参照されます。

◎「システム」タブのウィンドウ

「システム」タブをクリックすると表示されます。



音声信号の合成を、短い単位で行うか、一文単位で行うかを設定します。また、「テキストリーダ」ウィンドウを常にデスクトップの一番手前に置く設定もできます。

◎「ボリューム」タブのウィンドウ

「ボリューム」タブをクリックすると「ボリュームコントロール」ウィンドウ表示されます。

参照

・ボリュームコントロール→PART5「サウンド機能」

テキストリーダの削除

「テキストリーダ」が不要になったときは、次の手順で削除できます。

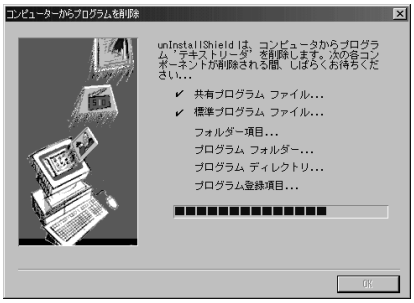
① 「アプリケーションの追加と削除」を起動する。
(「ランチ -NX」→「ユーティリティ」→「アプリケーションの追加と削除」または「スタート」→「設定」→「コントロールパネル」→「アプリケーションの追加と削除」)

「アプリケーションの追加と削除のプロパティ」ウィンドウが表示されます。

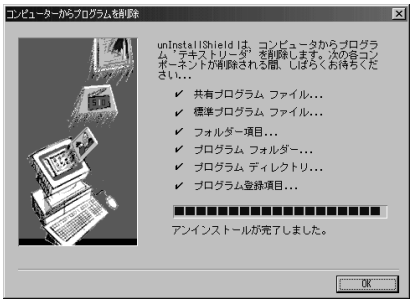
② 「インストールと削除」タブのウィンドウの一覧から、「テキストリーダ」を選んでクリック。
「テキストリーダ」が反転表示になります。

③ 「追加と削除」をクリック。
次の画面が表示されます。

④「はい」をクリック。
削除が始まります。



削除が終了すると、次の画面になります。



⑤「OK」をクリック。

チェック!!

「ランチ-NX からの問い合わせ」ウィンドウが表示された場合は、「はい」をクリックしてください。

これで削除完了です。

一太郎 Office8 について（一太郎モデルのみ）

「一太郎Office8」を使う場合の注意について説明します。

概要

本機には、「一太郎Office8」がセットアップされています。「一太郎Office8」には次のアプリケーションがあります。

一太郎 8

文字はもちろん、表や図形などを文書の中に描いたり、画像を貼り付けたりすることのできるワープロです。

参照
・「一太郎 8」の基本操作→『STEP2 入門』PART5「ワープロをもっと楽しもう（一太郎編）」
・「一太郎8」の機能→「Office8＋ValuePack Plus」パッケージに含まれているマニュアル

三四郎 8

縦横に並んだ数字を計算したり、集計したりする「表計算」と呼ばれるアプリケーションです。
グラフも簡単に作ることができます。作った表やグラフを「一太郎 8」に入れることもできます。

参照
・「三四郎8」の機能→「Office8＋ValuePack Plus」パッケージに含まれているマニュアル

FULLBAND

システム手帳のような画面で、スケジュールや住所録、電子メールアドレスやちょっとしたメモなどの情報を管理できます。

参照
・「FULLBAND」の機能→「Office8 ＋ ValuePack Plus」パッケージに含まれているマニュアル

一太郎 Office8 の機能をフルに使う

本機にセットアップされている「一太郎Office8」は、「標準」でセットアップされており、購入時の状態ですべての機能を利用できるわけではありません。
購入時の状態で使用できる機能については、『一太郎 Office8 セットアップ＆オーバービュー』の「各セットアップ方法でコピーされる機能について」をご覧ください。

「標準」以外の機能を使用する

「標準」以外の機能を使用したい場合は、添付の「一太郎 Office8 CD-ROM」から追加してください。
追加の方法については、『一太郎 Office8 セットアップ＆オーバービュー』の「アプリケーション追加・削除を利用します」をご覧ください。

一太郎 8 バリューパックプラスを使う

「一太郎 8 バリューパックプラス」には、「一太郎8」をより便利に使う機能があります。「一太郎 8 バリューパックプラス」は購入時にはセットアップされていません。使用したい場合は、別途セットアップが必要です。
「一太郎 8 バリューパックプラス」のセットアップ方法については、『一太郎 8 バリューパックプラスセットアップ』をご覧ください。

「JS クイックサーチファイル 自動更新」の登録

本機の購入時は、一太郎 8 の「JS クイックサーチファイル 自動更新」機能は「スタートアップ」に登録されていません。
登録したい場合は、次の手順で設定してください。

① 「スタート」→「JUSTSYSTEM 一太郎 Office」→「JUSTSYSTEM ツール＆ユーティリティ」→「アプリケーション追加・削除」をクリック。
「一太郎 Office8 のセットアップ開始」ウィンドウが表示されます。

② 「次へ」をクリック。
「一太郎 Office8 の追加と削除」ウィンドウが表示されます。

「ファイルの追加・削除」がチェックされていることを確認します。

③「次へ」をクリック。
「ファイルの追加・削除」ウィンドウが表示されます。

「ファイルの追加」がチェックされていることを確認します。

④「次へ」をクリック。
「コピーするファイルの詳細選択」ウィンドウが表示されます。

⑤「一太郎」をチェックして、「詳細機能を選択」をクリック。
一太郎の詳細機能を選ぶウィンドウが表示されます。

⑥「一太郎」をチェックして「OK」をクリック。
「コピーするファイルの詳細選択」ウィンドウに戻ります。

⑦「次へ」をクリック。
「一太郎 Office8 を登録するグループの選択」ウィンドウが表示されます。

⑧「次へ」をクリック。
「セットアップするフォルダの確認」ウィンドウが表示されます。

⑨「次へ」をクリック。
「ファイルのコピー開始」ウィンドウが表示されます。

⑩「一太郎 Office8 CD-ROM」を CD-ROM ドライブにセットする。

⑪ しばらく待ってから、「コピー開始」をクリック。
ファイルのコピーが始まります。
しばらくすると、「一太郎 Office8 のセットアップ終了」ウィンドウが表示されます。

⑫「セットアップ終了」をクリック。
登録が完了します。

Microsoft Excel&Word&Outlook について（Wordモデルのみ）

「Microsoft Excel&Word&Outlook」を使う場合の注意について説明します。

概要

本機には、「Microsoft Excel&Word&Outlook」がセットアップされています。「Microsoft Excel&Word&Outlook」には次のアプリケーションがあります。

Microsoft Word 98

高度な日本語処理技術と文章表現力を持ったワープロソフトです。

参照

- 「Microsoft Word 98」の基本操作→『STEP2 入門』PART7「ワープロをもっと楽しもう（Word編）」
- 「Microsoft Word 98」の機能→「Excel&Word&Outlook」パッケージに含まれているマニュアル

Microsoft Excel 97

数式の入力やグラフの作成などが簡単にできる「表計算」と呼ばれるアプリケーションです。
作った表やグラフを「Microsoft Word 98」の文書に入れることもできます。

参照

- 「Microsoft Excel 97」の機能→「Excel&Word&Outlook」パッケージに含まれているマニュアル

Microsoft Outlook 98

電子メールをはじめ、スケジュールや住所録を管理することもできる、ビジネスには欠かせないアプリケーションです。

チェック!!

本機には、「Microsoft Outlook 98」がセットアップされています。

「Microsoft Excel 97 & Word 98 & Outlook 97」に入っている「Microsoft Outlook 97」とは、同時に使用することはできません。「Microsoft Outlook 98」をお使いください。

参照

- 「Microsoft Outlook 98」の機能→「Microsoft Outlook 98」パッケージに含まれているマニュアル

Excel&Word&Outlookの機能をフルに使う

本機にセットアップされている「Microsoft Word 98」、「Microsoft Excel 97」、「Microsoft Outlook 98」は、「標準セットアップ」でセットアップされており、購入時の状態ですべての機能を利用できるわけではありません。

「標準セットアップ」以外の機能を使用する

「標準セットアップ」以外の機能を使用したい場合は、添付の「Microsoft Excel 97&Word 98&Outlook 97 for Windows」CD-ROMと「Microsoft Outlook 98」CD-ROMから追加してください。
追加の方法については、「Excel 97&Word 98&Outlook 97」および「Microsoft Outlook 98」添付の『お使いになる前に』をご覧ください。

バリューパックを使う

「バリューパック」には、「Excel&Word&Outlook」をより便利に使う機能があります。「バリューパック」は購入時にはセットアップされていません。使用したい場合は、別途セットアップが必要です。

「バリューパック」のセットアップ方法については、「Excel 97&Word 98&Outlook 97」CD-ROMおよび「Microsoft Outlook 98」CD-ROM添付の『お使いになる前に』をご覧ください。

Microsoft/Shogakukan Bookshelf Basicを使う

「Microsoft/Shogakukan Bookshelf Basic」はCD-ROMに入った辞書です。国語辞典、英和辞典、和英辞典の3種類の辞書を1枚のCD-ROMに収めており、言葉に関するさまざまな情報を得ることができます。

添付の「Microsoft/Shogakukan Bookshelf Basic」CD-ROMをCD-ROMドライブにセットして、セットアップを行ってから使用してください。

セットアップ方法については、CD-ROMに付属のマニュアルをご覧ください。

ゲームで遊ぶ

本機では、購入時にすでにセットアップされているゲームのほかにも、ゲームが用意されています。このゲームを楽しむには、まずセットアップする必要があります。

バーチャファイター2（Virtua Fighter 2）（一太郎モデル、Word モデルのみ）

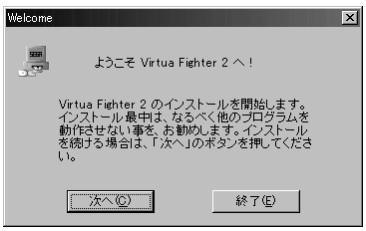
「バーチャファイター2」は対戦格闘ゲームです。キャラクターを操って、多彩な技で攻めてくる対戦相手を次々と倒してください。実際の試合さながらの攻めと守りの駆け引きが味わえます。

チェック!!

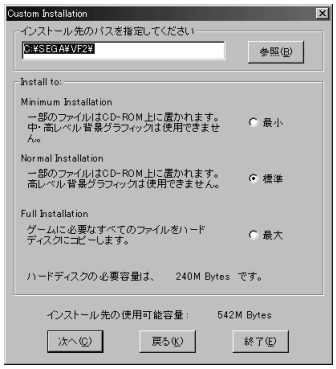
画面の表示色を High Color（16 ビット）で使用してください。

セットアップ

① 「バーチャファイター 2」の CD-ROM を CD-ROM ドライブにセットする。
次の画面になります。



② 「次へ」をクリック。
インストール先を指定する画面が表示されます。

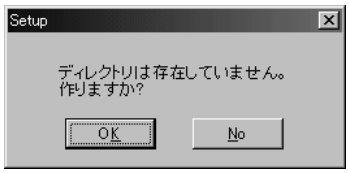


・最小
中、高レベルの背景グラフィックスは使用できません。

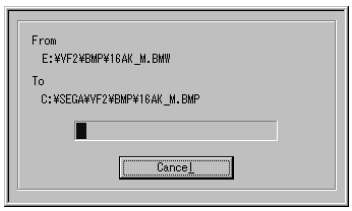
・標準
高レベルの背景グラフィックスは使用できません。

・最大
すべての機能を使うことができます。

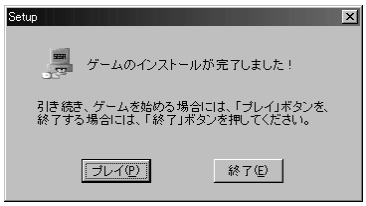
③ 「次へ」をクリック。
ディレクトリ作成の確認画面が表示されます。



④ 「OK」をクリック。
インストールが始まります。



インストールが完了すると、次の画面が表示されます。



⑤ とりあえず、ここで終了するために「終了」をクリック。

遊び方

起動方法

①「スタート」をクリックして、「プログラム」→「Virtua Fighter 2 Group」とポイントし、「Virtua Fighter 2」をクリック。
次のメッセージが表示されたときは、「バーチャファイター 2」の CD-ROM を CD-ROM ドライブセットして、「再試行」をクリックしてください。

「バーチャファイター 2」が始まります。
タイトル画面が表示された後、デモ画面になります。

②【Z】を押す。
「バーチャファイター 2」のタイトル画面になります。

③【Z】を押す。
モードを選ぶ画面になります。

◎ オプションの説明

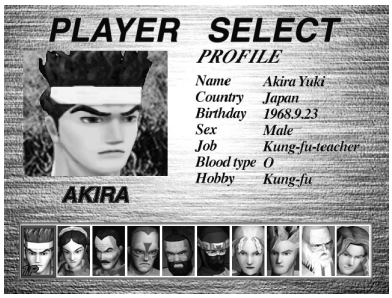
・ARCADE MODE
1 人用プレーのモードです。

・VS MODE
2 人用プレーのモードです。

・RANKING MODE
1 人用プレーで、プレー内容によって段位認定画面が表示されます。

ほかに団体戦ができるモードやネットワークを使った対戦モード、登場キャラクタ--のポートレートを見ることができるモードもあります。

④【W】と【S】を使ってモードを選んで、【Z】を押す。
(例「ARCADE MODE」を選ぶ)
キャラクターセレクトの画面になります。



⑤ キャラクターを【A】または【D】で選んで、【Z】を押す。
これでゲームが始まります。

基本操作

「バーチャファイター2」の基本操作は次のボタンで行います。ただしモードを選ぶ画面にある「OPTION」画面の「KEY ASSIGN」で好みのキーに変えることもできます。

1 人用
・スタートボタン　【Z】キー
・前移動　【D】キー
・後移動　【A】キー
・ジャンプ　【W】キー
・しゃがみ　【S】キー
・ガード　【V】キー
・パンチ　【G】キー
・キック　【H】キー
・ポーズボタン　【F3】キー

チェック!!
詳しい遊び方(操作方法や設定)については、「ヘルプ」をご覧ください。

■ ゲームの終了

ゲームの終了方法は次の通りです。

①【Alt】を押しながら【F4】を押す。

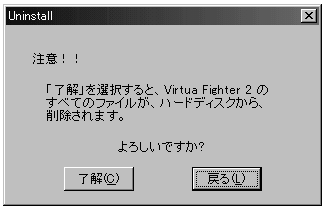
ゲームの削除

本ゲームを使用しないときは、次の手順で削除できます。

①「アプリケーションの追加と削除」を起動する。
(「ランチ-NX」→「ユーティリティ」→「アプリケーションの追加と削除」または「スタート」→「設定」→「コントロールパネル」→「アプリケーションの追加と削除」)
「アプリケーションの追加と削除のプロパティ」ウィンドウが表示されます。

②「Virtua Fighter 2 V1.0J」をクリック。
「Virtua Fighter 2 V1.0J」が反転表示になります。

③「追加と削除」をクリック。
次のメッセージが表示されます。



④「了解」をクリック。
削除が始まり、終了すると次のメッセージが表示されます。

⑤「OK」をクリック。

チェック!!

「ランチ-NX からの問い合わせ」ウィンドウが表示された場合は、「はい」をクリックしてください。

これで削除が完了します。

COPYRIGHT
SEGA ENTERPRISES,LTD.1994,1997

PART

3

インターネット＆パソコン通信

- ホームページを探す〈ジェットサーファー〉
- オートパイロットと料金管理〈インターネットアクセスマネージャ〉
- ホームページのURLを簡単に入力する〈Hatch inside〉
- ホームページの整理〈ホームページスクラップブック〉
- 音声入力でのメールの送信〈しゃべっていいメール〉
- 自分のホームページを作る〈HOTALL〉
- さまざまな通信サービス
- ダイヤルアップネットワーク
- テレフォニー

ホームページを探す〈ジェットサーファー〉

「ジェットサーファー」は、インターネットにアクセスするときにホームページがリンクしている先のページの情報をまとめて取ってきて、ほしい情報のあるページを素早く探し出すことができます。

概要

「ジェットサーファー」の機能を理解するために、例をあげて説明します。たとえば「東京都白書」という膨大な一冊の本から、一般に開放している図書館やスポーツ施設などの公共施設について調べるとします。通常ならば、目次や索引で「図書館」「スポーツ施設」「公共施設」などに関する情報が載っていそうな場所の見当をつけてから、実際にそのページを開いて調べるのがふつうでしょう。しかし、もしその「東京都白書」に目次や索引がなかったとしたらどうでしょう。最初のページから順番にめくって調べていくしか方法はありません。もちろん、実際にはこのような本に目次や索引がないということは考えられません。
ところが、インターネットのホームページにはこの目次や索引に相当するものがないことがよくあります。そこでクリックを繰り返して順にページを開いて見ていくしかないという場合がよくあります。「ジェットサーファー」はこんなときにとても役に立つソフトです。「ジェットサーファー」は、どんなに複雑に構成されているホームページでも、その目次や索引（正確にいえばそれらに相当するもの）を素早く作成してくれるソフトといえます。ジェットサーファーを上手に使えば、膨大な情報が詰まっているインターネットのホームページから、必要な情報だけを素早く得ることができるのです。

「ジェットサーファー」の機能

ジェットサーファーの具体的な機能は次の通りです。

■ ホームページの分析・表示
ホームページからリンクされている情報を素早く表示することができます。
任意のホームページからリンクされている先にある複数のページのタイトル、文章の内容、使われているメディアファイル（画像・動画・音声ファイルなど）の情報をまとめて取ってきて、それぞれを個別のウィンドウに分割して一覧表示することができます。

■ 文字列検索
文字列検索機能を使って、欲しい情報を簡単に探し出せます。
文字列を指定してホームページの分析を行うと、文字列にマッチした語句を含むページを素早く探し出すことができます。また、一度分析した結果に対しても、文字列を指定して検索することができます。

■ 分析結果のページをブラウザへ表示
「ジェットサーファー」で分析・表示した結果のタイトルをクリックして簡単にブラウザに表示させることができます。
これによりブラウザを使ってリンクをたどっていかなくても深い階層にあるページを素早く見ることができます。

■ 分析結果からファイルのダウンロード
「ジェットサーファー」で分析・表示した結果のファイルをクリックして、簡単に該当のファイルのみをダウンロードすることができます。

■ お気に入り登録
一度分析した情報をお気に入り情報として名前をつけて登録しておくことができます。これによっていつでも好きなときにお気に入りの分析結果を見ることができます。

■ 更新情報表示
以前に分析した情報の中で、更新されているタイトルがわかるように表示します。「ジェットサーファー」の「お気に入り」に登録した情報を表示します。「ジェットサーファー」の「お気に入り」に登録した情報を表示した後、もう一度分析を行うと情報が更新されたページのタイトルアイコンの色を変更して表示します。これにより変更されたページのみを効率良く見ることができます。

使用する前に

ここでは、「ジェットサーファー」の基本的な使い方について説明します。

ここに記載されていないメニュー、ダイアログボックスの設定方法などについては、オンラインヘルプをご覧ください。特に、オンラインヘルプの「はじめに」－「注意事項」（メニューの「ヘルプ」→「トピックの検索」→「目次」タブ→「はじめに」→「注意事項」）は各機能を使用する上で必要な注意事項が記載されています。使用する前に必ずお読みください。

チェック!!

ダイヤルアップIP接続（必要なときだけ、電話回線あるいはISDN回線を利用してインターネットに接続すること）をご使用の方で回線未接続の方は、接続を行ってから分析を実行してください。

分析範囲と階層

ジェットサーファーは、ホームページの「目次」や「索引」を作るためにホームページを分析します。そのときに必要となる「分析範囲」や「階層」について「東京都白書」の例で説明します。「東京都白書」の中に、他の本（たとえば「神奈川県白書」とか「関東近県白書」など）を参照としてあげているとします。この参照先の本の目次や索引までを作成するかどうかを指定するのが「分析範囲」です。「分析範囲」が「ドメイン内」とは「東京都白書」だけを調べて、目次や索引を作成します。「ドメイン外」とは参照先の他の本、つまり「神奈川県白書」や「関東近県白書」までも調べて、それらの目次や索引を作成します。当然、「ドメイン外」では範囲が広くなり、それだけ時間がかかります。

次に「階層」ですが、これは目次を考えればわかりやすいでしょう。本の目次は章、節、項のようなレベルに分類されています。このときにどのレベルまで掘り下げて調べるのかを指定するのが「階層」です。たとえば「0階層」とは章タイトルのレベルまでを調べ、「1階層」とは節タイトルのレベルまでを範囲として調べます。「階層」も深くすればそれだけ分析範囲が広がり、時間がかかるようになります。

階層 0	階層 1	階層 2
第1章 足立区		
	1. 人口	
		1.1 年齢別人口
		1.2 地域別人口
	2. 公共施設	
		2.1 図書館
		2.2 スポーツ施設
第2章 荒川区		

分析範囲の絞り方

「ジェットサーファー」の特徴は欲しい情報がどこにあるか'早く'探すことができるところにあります。しかし最初から分析範囲や階層数を広くしてしまうと、本当に欲しい情報以外の情報も分析してしまい、余計な時間がかかってしまいます。そこで、次のような分析範囲を絞った使い方をおすすめします。

① まずURLをドメイン外/0～1階層で分析する。

② 分析結果の中でめぼしいタイトル（URL）をドメイン内/1～2階層で分析する。

③ 手順②を何度か繰り返し、ある程度タイトルを絞り込む。

④ 必要であればドメイン内で階層数を2～3に増やす。

操作の概要

それでは、この分析範囲を絞った使い方を「東京都白書」というホームページがあると仮定して、説明しましょう。

まず、起点となる「東京都白書」というホームページのURL（ホームページの住所のこと）を「URL」欄に入力します。たとえばURLが「www.tokyo.or.jp/hakusyo/」（架空のものです）であれば、次のように入力します。「http://」はホームページにアクセスするときの決まりのようなものです。「階層」欄は「0」または「1」とします。

「階層」欄

次に 範囲 （範囲）をクリックして次の「設定－分析範囲」ダイアログボックスで「ドメイン外」にチェックマークを付け、「OK」をクリックします。

「ジェットサーファー」ウィンドウの下の表示が「ドメイン外」になります。

分析を開始するために Go をクリックします。

分析が終了すると、「東京都白書」「神奈川県白書」「関東近県白書」のそれぞれの目次が表示されます。

```
東京都白書
  足立区
  荒川区
    ⋮

神奈川県白書
  横浜市
  川崎市
    ⋮

関東近県白書
  埼玉県
  千葉県
    ⋮
```

チェック!!

階層を「1」にして分析したときは、分析したすべての階層を表示することもできます(「ホームページを分析して結果を表示する」参照)。

今度は分析範囲を「東京都白書」に絞って、さらに深い階層まで調べてみます。「分析範囲」を「ドメイン内」にして、「階層」を「2」にして Go をクリックします。

分析が終了すると、「東京都白書」の目次が表示されます。階層 2 までを表示すると次のようになります。

```
東京都白書
  足立区
    人口
      年齢別人口
      地域別人口
        ⋮
    公共施設
      図書館
      スポーツ施設
        ⋮
  荒川区
    ⋮
```

チェック!!

分析の途中でも興味があれば、たとえば「足立区」の「公共施設」を起点のURLとして分析を開始することもできます。

このようにして分析範囲を絞っていくことができます。たとえば「足立区」の「図書館」を起点のURLとして分析した結果から、その図書館の蔵書を調べることができます。パソコン関連の本について調べたいときは「パソコン」というキーワードで検索することができます(「文字列を検索したページをブラウザに表示する」)。さらに、目的の本の表紙が画像データとしてホームページにあれば、その画像データを自分のパソコンにダウンロードすることできます(「分析したページからファイルをダウンロードする」参照)。

分析とは

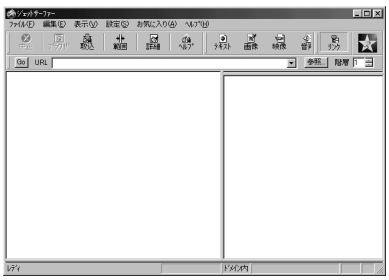
「ジェットサーファー」の中で使われる"分析"という言葉は、指定されたURLを起点として設定された条件の範囲内をアクセスして、次の情報を取り出して、それぞれをわかりやすくまとめて画面に表示するという意味です。

- 張られているリンク(ハイパーリンク)の文字列。
- 含まれているファイル(GIFファイルやAVIファイルなど)の名称、タイムスタンプなど。
- ページに書かれている文章の内容(テキスト情報)。
- 検索文字列(キーワード)を設定している場合、マッチした語句を含むページのタイトル。

ホームページを分析して結果を表示する

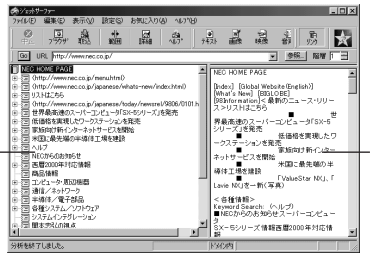
「ジェットサーファー」は、最初の分析ではホームページのリンク構造とテキスト内容を表示するだけなので、画面などを表示する、通常使用しているブラウザとは異なり、素早くページの内容が表示できます。このため、階層の深いページも素早く簡単にたどり着くことができ、目的のページ内容の概要が素早く理解できます。

① 「ジェットサーファー」を起動する。
(「ランチ-NX」→「インターネット活用 & クリエイティブ」→「ジェットサーファー」または「スタート」→「プログラム」→「ジェットサーファー」→「ジェットサーファー」)
「ジェットサーファー」の初期画面が表示されます。



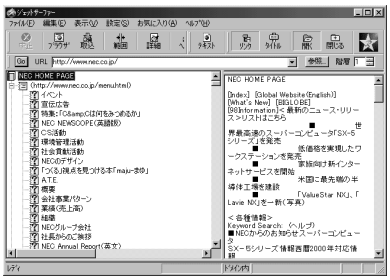
② 「URL」欄にURLを入力する。
(例 "http://www.nec.co.jp/"(NECのホームページのアドレス)を入力)

③ Go をクリック。
インターネットに接続し、ツリービューにホームページの構造（ハイパーリンクの語句）、テキストブラウザに文章の内容が表示されます。



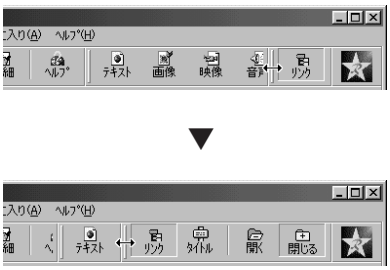
すでにブラウザに目的のページを表示していれば、「ファイル」メニューの「ブラウザからの取り込み」で表示することもできます。

④ 開く をクリック。
分析したすべての階層が表示されます。

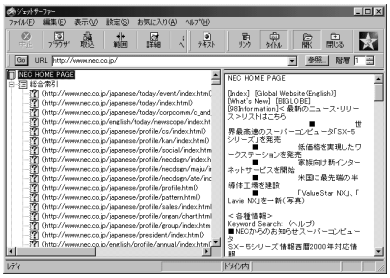


チェック!!

開く が表示されていないときは、リンク の左端にある縦の線にカーソルを当て、カーソルが双方向の矢印の形に変わったときに、マウスを左にドラッグすれば表示されます。



タイトル をクリックするとツリービューにはページのタイトルが表示されます。



これらを表示することによってホームページにどんな情報があるのか、またはどんな構成でできているのかという概要をつかむことができます。

ツリービュー、テキストブラウザおよびタイトル表示や階層表示の方法の詳細については、オンラインヘルプをご覧ください。

ツリービューに表示されるアイコンには、次の種類があります。

◎ アイコンの種類

- ツリービューの一番上に表示される起点 URL
- 正常に分析した結果のリンク
- 通信時に何らかのエラーが発生して正常に分析できなかったリンク
- 指定された階層分の最下位層にあたるリンク先
- 前回分析時から更新されたリンク先
- アクセスするためにユーザ名 / パスワードが必要なリンク先
  ユーザ名/パスワードを入力しなければ、これ以下の階層は分析できません。

◎ アイコンの色

・黄色のアイコン
通常のリンク先

・水色のアイコン
設定した検索文字列とマッチする語句を含むリンク先

詳しいことは、オンラインヘルプをご覧ください。

インターネットに接続するときの注意

ジェットサーファーからの回線接続は、ご利用になっているブラウザと同じ動作をします。つまり回線未接続の状態で、ブラウザからインターネット上の URL にアクセスしたときに接続ダイアログボックスが表示される場合は、ジェットサーファーでも同じように分析を実行したときに接続ダイアログボックスが表示されます。分析を実行したときに接続ダイアログボックスが表示されない場合は先に回線接続を行ってください。

分析にかかる時間とディスク容量について

ホームページに張られているリンクは予想以上に数があります。階層指定を増やす場合は時間とディスク容量に余裕を持って分析を行ってください。分析範囲をドメイン外に設定すると予想しない URL までリンクが張られている場合があり、分析にかかる時間およびディスク容量がさらに増加する可能性があります。ドメイン外に設定する場合には、時間とディスク容量には十分余裕をもって分析を行ってください。

チェック!!

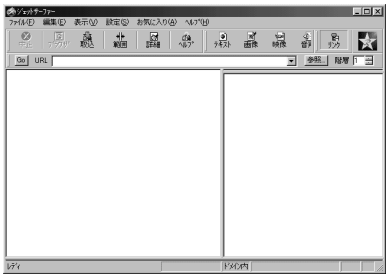
「ジェットサーファー」は分析を行うために、通信によって入手したファイル（HTML ファイル）をディスクに一時保管します。「ジェットサーファー」を終了すればこれらのファイルは削除されます。

文字列を検索したページをブラウザに表示する

「ジェットサーファー」では、ホームページ内の目的のキーワードまたは情報が分かっている場合、文字列検索をすることで、簡単に目的の内容があると思われるページへたどり着くことができます。

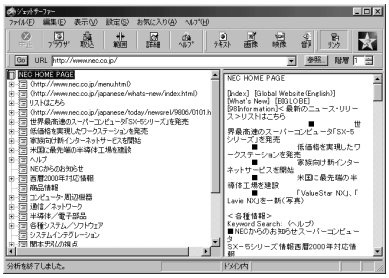
① 「ジェットサーファー」を起動する。
（「ランチ -NX」→「インターネット活用 & クリエイティブ」→「ジェットサーファー」または「スタート」→「プログラム」→「ジェットサーファー」→「ジェットサーファー」）

「ジェットサーファー」の初期画面が表示されます。



② 「URL」欄に URL を入力する。
（例 "http://www.nec.co.jp/"（NEC のホームページのアドレス）を入力）

③ Go をクリック。
インターネットに接続し、ツリービューにホームページの構造（ハイパーリンクの語句）、テキストブラウザに文章の内容が表示されます。

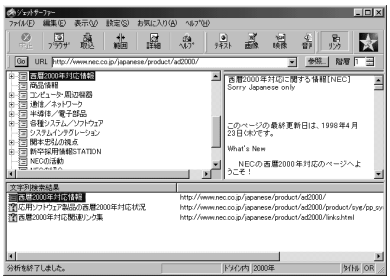


④ 「編集」をクリックして、「文字列検索」→「分析結果から検索」をポイント。

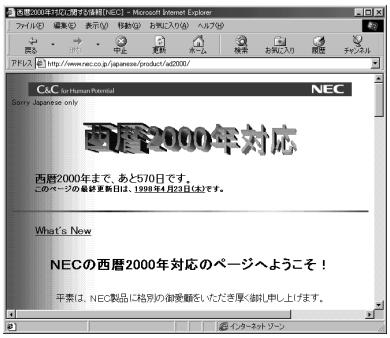
⑤ 反転表示している「分析結果から検索」をクリック。
「文字列検索 － 分析結果から検索」ウィンドウが表示されます。

⑥ 検索したい文字列を「検索する文字列」欄に入力して、「実行」をクリック。
（例 「2000 年」を入力）
「文字列検索結果」ウィンドウに検索結果が表示されます。

⑦ 分析結果のひとつをクリック。
選択された分析結果が反転表示になります。



⑧「ファイル」をクリックして、「ブラウザに表示」をクリック。
通常使用しているブラウザが起動して、選んだページが表示されます。



最下位層に当たる ? マークについてはリンクの語句のみをダウンロードしているため、ページの内容までは表示できません（テキストブラウザには " このページは指定された階層より下にあるため表示できません " と表示されます）。

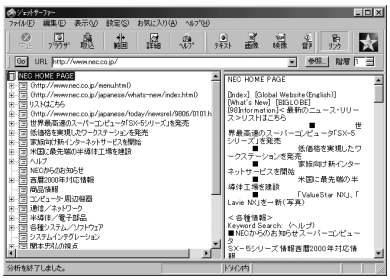
分析したページからファイルをダウンロードする

「ジェットサーファー」では、ホームページの中から特定の種類のファイル（例としてAVI,MIDIなど）だけを取り出したい場合、ページに含まれている目的のファイルを一覧表示し、自分のパソコンの中に取り込んで保存する（ダウンロード）ことができます。

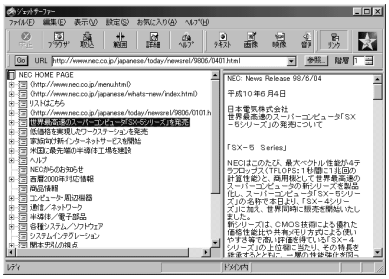
①「ジェットサーファー」を起動する。
（「ランチ -NX」→「インターネット活用 & クリエイティブ」→「ジェットサーファー」または「スタート」→「プログラム」→「ジェットサーファー」→「ジェットサーファー」）
「ジェットサーファー」の初期画面が表示されます。

②「URL」欄に URL を入力する。
（例 "http://www.nec.co.jp/"（NECのホームページのアドレス）を入力）

③ Go をクリック。
インターネットに接続し、ツリービューにホームページの構造（ハイパーリンクの語句）、テキストブラウザに文章の内容が表示されます。



④ ツリービューから目的のページをクリック。
目的のページが反転表示になります。

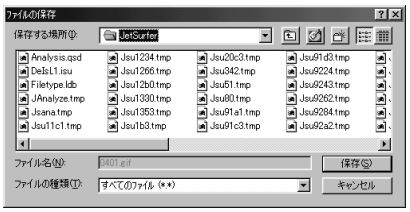


⑤ 目的のファイルの種類のボタンをクリック。
（例 画像「画像ファイル」ボタンをクリック）
選んだページの中にある画像ファイルがリストビュー内に表示されます。

⑥ リストビューから、ダウンロードしたいファイルをクリック。
選んだファイルが反転表示になります。

複数のファイルを指定する場合は、【Shift】を押しながらファイルをクリックします。

⑦「ファイル」→「ファイルの保存」をクリック。
「ファイルの保存」ウィンドウが表示されます。



⑧ ファイルを保存するフォルダを指定して「保存」をクリック。
（例 フォルダに「JetSurfer」を指定）
ファイルをダウンロードして、指定したディレクトリに保存します。

オートパイロットと料金管理〈インターネットアクセスマネージャ〉

気になる電話料金やプロバイダ料金をしっかり管理します。また、電話料金が安い夜間などに、気に入ったホームページをまるごと自分のパソコンに取り込んであとでゆっくり楽しめるオートパイロットもできます。

概要

インターネットを利用するときは、電話料金とプロバイダの接続料金の両方がかかるので、気に入ったホームページを見つけても、時間が気になってじっくりと見ることができないものです。また、英語のホームページだとよほどの英語の達人でない限り、スムーズに読み進めません。どうしても辞書を片手に、ということになり、時間がどんどん経過していきます。そんなときに役に立つのがこの「インターネットアクセスマネージャ」の「オートパイロット」機能です。電話料金の安い深夜に、インターネットに接続して気に入ったホームページをまるごと自分のパソコンに取り込み、接続を終了してくれるということもできます。あなたが寝ていようが、外出していようが完全に自動で実行してくれるのです。しかも取り込む時間も短くてすむので、まさに一石二鳥です。ホームページを自分のパソコンに取り込んでしまえば、あとは料金もかからず、じっくりと見ることができます。

また、「インターネットアクセスマネージャ」には「料金管理」という機能もあります。インターネットについ夢中になって時間の経つのも忘れ、月末の請求金額を見て真っ青、なんていう経験は多少なりとも誰にでもあるのではないでしょうか。「インターネットアクセスマネージャ」では料金の上限を決めておけば、それを超えたときはメッセージで知らせてくれる機能があります。これなら安心して予算内でインターネットを楽しめます。

「インターネットアクセスマネージャ」は、このようにインターネットを利用する人にとっては非常に役に立つソフトなのです。このほかにも次にまとめてあるように、いくつかの優れた機能があります。

チェック!!

「インターネットアクセスマネージャ」の起動中に、「Internet Explorer」などのブラウザのウィンドウが、「インターネットアクセスマネージャ」のウィンドウの後ろに隠れてしまうことがあります。その場合は、「インターネットアクセスマネージャ」のウィンドウの最小化ボタンをクリックして、「インターネットアクセスマネージャ」を最小化するか、タスクバーに表示されているブラウザのボタンをクリックして、ブラウザを表示させてください。

インターネットアクセスマネージャの機能

オートパイロット

指定したホームページを夜間などの電話料金が安い時間に自動巡回して、データを自分のパソコンにダウンロードすることができます。その後、未接続の状態で料金を気にせずに、しかもスピーディにホームページを見ることができます。

Timer-NX との連携

「Timer-NX」と連携してオートパイロットの開始時間にスタンバイ状態から復帰し、オートパイロット終了後にスタンバイ状態にします。

接続時間管理・料金管理

インターネット接続時の、プロバイダと電話のおおよその使用時間・使用料金を自動的に計算し日単位・月単位で表示することができます。
あらかじめ設定しておいた接続時間・料金を超えたときにアラーム通知を表示することもできます。

チェック!!

表示される料金は目安です。実際の使用料と一致するものではありません。

オートダイヤル

あらかじめ指定しておいた接続先にワンタッチで自動接続・切断ができます。他に接続先を登録しておけばダイヤル先がビジー（混雑している）のときに自動的に次の接続先へダイヤルします。

■ URL 情報の登録･整理

URL に簡単なコメントを付けて登録することができます。チェックする頻度の高い URL を登録しておくと便利です。フォルダを使って階層的に URL 情報（URL とコメントを合わせた情報）を整理することができます。

■「インターネットエクスプローラ」の「お気に入り」自動反映

「インターネットエクスプローラ」の「お気に入り」と「インターネットアクセスマネージャ」の「URL リスト」ー「インターネットお気に入り」の内容が自動的に同じになります。

チェック!!

「インターネットアクセスマネージャ」の起動時に行われます。

■ 使いやすい操作性

Windows 98 の「エクスプローラ」と同様の画面、操作感覚で使用できます。また、ウィンドウサイズを最小化した場合には機能ボタンのみを集めた「ボタンバー」として使用することができます。

利用環境を設定する

「インターネットアクセスマネージャ」の動作環境を設定します。起動後に次の事項の確認や設定をしてください。

・接続先の確認

・接続先のユーザー名とパスワードの設定

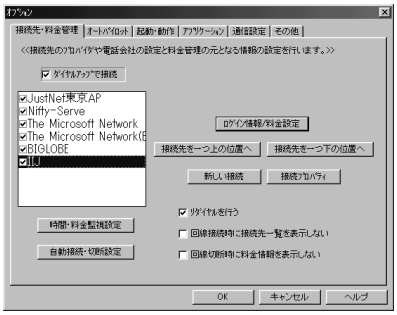
・接続先の電話料金、プロバイダ料金の設定

・WWW ブラウザの確認

接続先を確認する

① 「インターネットアクセスマネージャ」を起動する。（「ランチ -NX」→「インターネット活用 & クリエイティブ」→「インターネットアクセスマネージャ」または「スタート」→「プログラム」→「インターネットアクセスマネージャ」→「インターネットアクセスマネージャ」）

② メニューバーの「表示」→「オプション」をクリック。「オプション」ウィンドウが表示されます。



「接続先・料金管理」タブのウィンドウで、「ダイヤルアップで接続」にチェックマークが付いていることを確認してください。また、リストの中に、接続先があることを確認します。

「インターネットアクセスマネージャ」では、チェックが付いている接続先が複数あるときは、いちばん上にある接続先から回線接続を行います。回線接続をしたときに、話中だった場合は、次の接続先に回線接続を行います。このように上から順番に接続先を自動的に変更します。

・接続する順番を変えたい場合

接続先を選択して反転表示にした状態で、「接続先を一つ上の位置へ」ボタンをクリックすると、その接続先がひとつ上の位置になります。同様に「接続先を一つ下の位置へ」ボタンをクリックすると、その接続先がひとつ下の位置になり、この両方のボタンで接続先の順番を変更できます。

・接続先として使わない場合

接続先として使わない場合は、各接続先の前にあるチェックボックスをクリックしてチェックマークを外します。

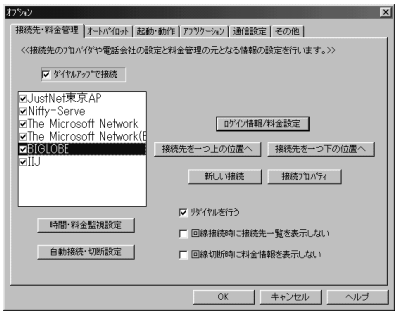
チェック!!

購入時の設定により、「JustNet 東京 AP」（一太郎モデルの場合）など、ご自分で設定していない接続先が、あらかじめ「接続先」としてチェックマークが付いている場合があります。接続先として設定していない（そのプロバイダと契約していない）場合は、チェックボックスをクリックしてチェックマークを外してください。

各接続先のユーザー名とパスワードを設定する

① リストの中の "接続先 " をクリックして選ぶ。
（例「BIGLOBE」を選ぶ）

選ばれた "接続先 " が反転表示になります。



② 「ログイン情報 / 料金設定」をクリック。
「ログイン情報 / 料金設定 － BIGLOBE」ウィンドウが表示されます。

「ユーザー名」と「パスワード」欄に、接続先プロバイダの "ユーザー名 " と " パスワード " が設定されていることを確認します。設定されていない場合は入力してください（使用する接続先プロバイダのみ）。

パスワードを保存する場合は、「パスワード保存」チェックボックスにチェックマークを付けてください。なお、「Timer-NX」と連携して、オートパイロットを実行する場合は、必ず「パスワード保存」チェックボックスにチェックマークを付けてください。チェックマークが付いていないと、オートパイロット実行時に、パスワードを入力するウィンドウが表示されるため、オートパイロットの処理が止まってしまいます。

このあと、「接続先・順番」リストにある、他の "接続先 " の中で、使用する "接続先 " に関しては、同様の手順でユーザー名とパスワードの設定を行ってください。

各接続先の料金を設定する

電話料金やプロバイダ料金の設定は、前項の「ログイン情報 / 料金設定」ウィンドウで行います。料金管理を行わないときは、この設定は必要ありません。

①「電話料金」タブをクリック。
「電話料金」タブのウィンドウが表示されます。

ここでは、電話料金の管理を行うために必要な " 電話料金 " の設定を行います。
（使用しない接続先プロバイダについては設定する必要はありません。）

電話会社一覧および料金に関する項目の中から契約している電話会社の接続先までの距離・割引料金を選びます。接続先までの距離は電話帳などで調べてください。また、電話料金体系、割引料金は最新の情報をもう一度、確認してください。

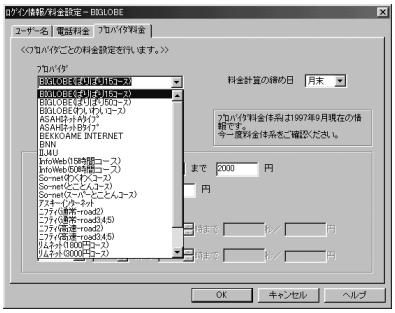
②「電話料金計算の締め日」欄の右端の▼をクリック。
締め日の一覧が表示されます。

締め日の設定を行います。締め日は " 料金を計算する期間 " を意味し、電話会社によって異なります。例えば、4 月分の料金が「4 月 6 日～5 月 5 日までの使用料金」の場合は、締め日は「5 日」に設定します。

③「プロバイダ料金」タブをクリック。
「プロバイダ料金」タブのウィンドウが表示されます。

ここでは、プロバイダ料金の管理を行うために必要な"プロバイダ料金"の設定を行います。

④「プロバイダ」欄の右端の▼をクリック。
プロバイダー覧が表示されます。



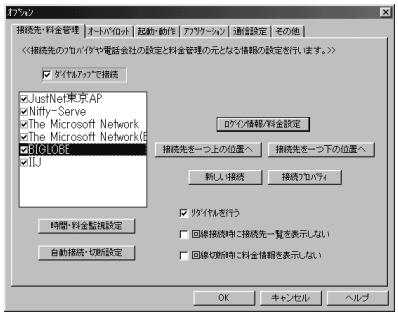
この中から契約しているプロバイダを選びます。選ばれたプロバイダの料金体系を自動的にインターネットアクセスマネージャに設定します。プロバイダの料金体系は変更されている可能性があります。最新の情報をもう一度確認してください。

⑤「料金計算の締め日」欄の右端の▼をクリック。
締め日の一覧が表示されます。

締め日の設定を行います。締め日は"料金を計算する期間"を意味し、プロバイダ各社によって異なります。設定方法は手順②と同じです。

⑥ 締め日の設定が完了したら、「OK」をクリック。
次のメッセージが表示されます。

⑦「OK」をクリック。
最初の画面に戻ります。



この後、「接続先・順番」リストにあるほかの"接続先"に関しても、同様の手順で、電話料金、プロバイダ料金の設定を行います。これにより接続先ごとに料金管理ができます。

プロバイダ・電話会社の料金設定が正しく設定されていなければ、料金計算は正しく計算されませんので注意してください。また、プロバイダ・電話会社が料金改訂の場合は、お客様による再設定が必要になります。

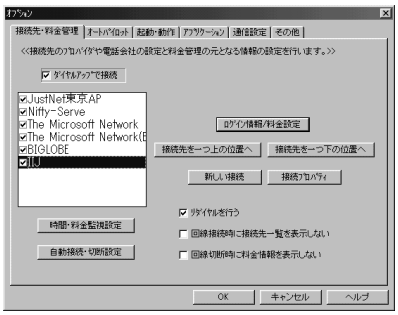
⑧ すべての接続先について設定が完了したら、「OK」をクリック。
料金管理のための設定完了です。

WWW ブラウザを確認する

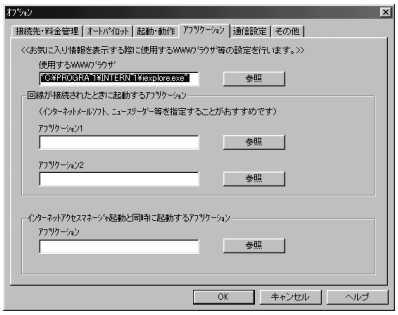
「インターネットアクセスマネージャ」は、WWWブラウザと密接に連携をとって動作します。したがって、連携をとるWWWブラウザが「インターネットアクセスマネージャ」に設定されている必要があります。次の手順で確認してみましょう。

①「インターネットアクセスマネージャ」を起動する。
(「ランチ -NX」→「インターネット活用 & クリエイティブ」→「インターネットアクセスマネージャ」または「スタート」→「プログラム」→「インターネットアクセスマネージャ」→「インターネットアクセスマネージャ」)

② メニューバーの「表示」→「オプション」をクリック。
「オプション」ウィンドウが表示されます。



③「アプリケーション」タブをクリック。
「アプリケーション」タブのウィンドウが表示されます。



「WWWブラウザ」欄に使用しているWWWブラウザが登録されていることを確認してください。もし、登録されていない場合や別の WWW ブラウザを指定する場合は、「参照」ボタンをクリックして WWW ブラウザの指定を行ってください。

④ WWW ブラウザの確認 / 指定が終わったら、「OK」をクリック。
「設定」ウィンドウが閉じます。

WWW ブラウザの変更

本機には、標準で「インターネットエクスプローラ」がインストールされていますが、すでに「Netscape Navigator」を利用されている方で、「インターネットアクセスマネージャ」に登録されているWWWブラウザを変更した場合、次のことを行ってください。
WWW ブラウザを起動すると、"Navigator はインターネットショートカットを扱うように登録されておりません。Navigatorを通常使うブラウザとして登録しますか？"というメッセージが表示される場合があります。そのとき、「以降このメッセージを表示しない」チェックボックスにチェックマークを付けて、「はい」をクリックしてください。

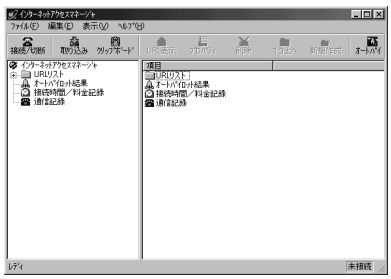
チェック!!

「インターネットアクセスマネージャ」で使用するWWWブラウザがNetscapeNavigator4.0の場合、WWWブラウザが最小化の状態で「URLの取り込み」を行うと、WWW ブラウザがアクティブ（最小化の状態から元のサイズに戻る）になります。

インターネットアクセスマネージャでの基本的な接続

「インターネットアクセスマネージャ」の使い方を説明する前に、プロバイダに電話をかけてインターネットに接続するための基本的な操作方法を説明します。以降の説明を読む前に次の操作ができるか確認を行ってください。以降"プロバイダに電話をかけます"という説明がある場合は、次の操作を行ってください。

①「インターネットアクセスマネージャ」を起動する。
（「ランチ -NX」→「インターネット活用 & クリエイティブ」→「インターネットアクセスマネージャ」または「スタート」→「プログラム」→「インターネットアクセスマネージャ」→「インターネットアクセスマネージャ」）



② ツールバー左端の 接続／切断（接続／切断）をクリック。
「インターネットアクセスマネージャ － 接続（接続先確認）」ウィンドウが表示されます。

チェック!!

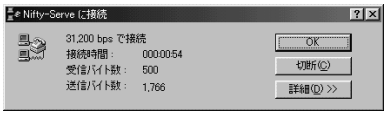
「インターネットアクセスマネージャ」は、まず一番上の接続先へ回線接続を行います。もし、話中などの理由で接続できないときは、上から2番目の接続先へ回線接続を行います。このように、チェックマークが付いている接続先へ、上から順番に回線接続を行います。

③「接続開始」をクリック。
接続を開始します。

途中でユーザー名とパスワードについての画面が表示される場合は、必要事項を入力してください。

自動的にプロバイダに電話をかけてインターネットへの接続を行います。画面上で"Nifty-Serve (00:00:05)"というように接続先名と接続時間を表示されたら、接続が完了です。

また、タスクバーの右側にある をダブルクリックすると、次の画面が表示され、接続状況を確認できます。



オートパイロット

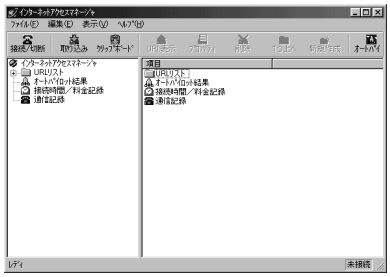
「オートパイロット」では、ボタンをクリックするだけで、同じページへのアクセス作業を自動化すると同時に、あらかじめ指定されたURLを自動的に巡回してURLの内容を自分のパソコンにダウンロードします。これによって、次の効果があります。

- **ブラウザで表示するよりも短時間で、チェックしたいURLの内容を入手できる(電話料金、プロバイダ料金の節約)。**
- **自分のパソコンのディスクにURLの内容があるため、回線を切断した後に電話料金やプロバイダ料金を気にせずゆっくり見ることができる。**

オートパイロットの基本的な操作方法

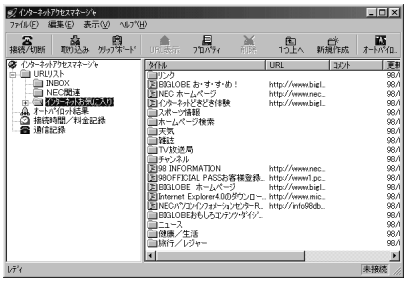
「インターネットアクセスマネージャ」の「URLリスト」に初めから登録してあるURLを例にして実際にオートパイロットの基本的な操作を説明します。

①「インターネットアクセスマネージャ」を起動する。(「ランチ-NX」→「インターネット活用&クリエイティブ」→「インターネットアクセスマネージャ」または「スタート」→「プログラム」→「インターネットアクセスマネージャ」→「インターネットアクセスマネージャ」)



② ツリービューにある「URLリスト」をダブルクリック。
次の画面が表示されます。

③「インターネットお気に入り」フォルダをダブルクリック。
登録されている URL 情報が表示されます。

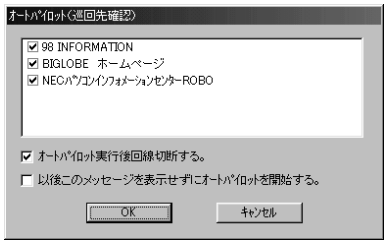


④ リストビューの先頭にある(ファイルのマーク)をクリック。
オートパイロットの巡回先を示す赤色の(ロケットのマーク) に変わります。

これでオートパイロットの巡回先としての登録は完了です。
同じように「URL リスト」に登録してあるすべての URL 情報に対して 1 回のクリックで巡回先に指定することができます。
もう一度クリックすると(ファイルのマーク) に戻って巡回先からはずれます。

⑤ 他の 2 つの URL も同様にクリック。
赤色の(ロケットのマーク) に変わります。

⑥ (オートパイロット実行) をクリック。
「オートパイロット (巡回先確認)」ウィンドウが表示されます。



ここで、チェックマークをはずすと、巡回先からはずれます。ただし、「インターネットアクセスマネージャ」ウィンドウのリストビューでは、巡回先であることを示す「ロケットマーク」がついたままなので、次回にオートパイロットを実行するときには、巡回先の対象となります。

「オートパイロット実行後回線切断する」にチェックマークが付いているときは、実行終了後に回線を自動的に切断します。

「以後このメッセージを表示せずにオートパイロットを開始する」にチェックマークが付いているときは、(オートパイロット実行)をクリックするとこの画面を表示せずにオートパイロットを開始します。

⑦「OK」をクリック。
回線を接続してオートパイロットを実行します。
「オートパイロット (巡回中)」ウィンドウが表示されます。

このウィンドウで表示される読み込みバイト数は、すでに最新のファイルがローカルディスク上にある場合は、"0"と表示されます。これは例えば次のような場合に該当します。

・同じファイルをもう一度巡回した場合。

・同じドメイン内で同一ファイルを複数の箇所からリンクしている構造のサーバ (URL) を複数階層指定した場合。

巡回が終了すると、次のメッセージが表示されます。

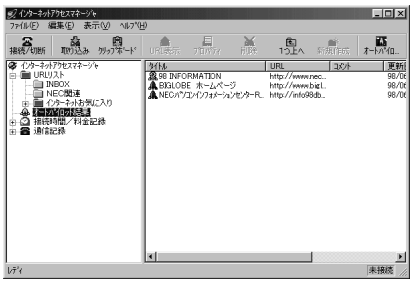
⑧「OK」をクリック。

オートパイロットで結果を見る

オートパイロットが終了したとき、「インターネットアクセスマネージャ」ウィンドウは次のようになっています。

ここで、オートパイロットでダウンロードしたURLの内容を見てみます。

① ツリービューの「オートパイロット結果」をクリック。自分のハードディスクにダウンロードされたURLの一覧がリストビューに表示されます。



② リストビューに表示されているURLをダブルクリック。実際のWebサーバにあるURLの内容と同じ内容が表示されます。

このときWWWブラウザの「アドレス」ボックスには、"C:\" と表示されており、ローカルディスクにダウンロードしたデータを表示していることがわかります。

「オートパイロット結果」であるURLの先頭にあるマークは、ダウンロードの結果（正常にダウンロードできたか否か）および、一度でもWWWブラウザ で表示を行ったか（未読 / 既読）によって異なります。

アイコン	内　容
青の	正常にダウンロードが完了したURL＜未読のURL＞ 前回と比べて内容が変更されたURL
グレーの	上記の青のアイコンをWWWブラウザで1度でも表示を行ったURL＜既読のURL＞
?付き	内容の一部が欠落したURL サーバが混乱しているなどの理由で、一部のデータがダウンロードできなかったURL
×付きの	サーバー側と通信が行えず、指定したURLのデータが全くダウンロードできなかったURL

一度見たオートパイロットの結果でも再度オートパイロットを実行してURL内容が更新されると、グレーのロケットマークから青のロケットマークに変更されます。

オートパイロット結果を削除する

オートパイロットでダウンロードした結果を削除するには、2つの方法があります。

- 「オートパイロット結果」フォルダをクリックしてリストビューにURL 情報を表示させ、削除したいURL情報を右クリックして、表示されたメニューから「オートパイロット結果を削除する」を選びます。この場合、指定されたURL情報の0階層目のデータのみをすべて削除します（2階層、3階層、･･･は他のURL 情報が使用している場合や他のURL 情報がリンクされている場合があるため削除しません）。
- ツリービューで「オートパイロット結果」フォルダを右クリックして、表示されたメニューから「オートパイロット結果を空にする」を選びます。この場合、今までダウンロードしたデータをすべてフォルダごと削除します。

時間を指定して、オートパイロットする

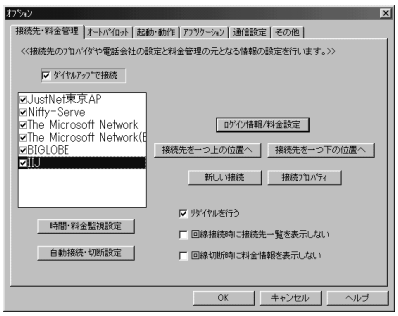
オートパイロットを実行する時間を指定します。
なお、ここでは、すでにオートパイロットの巡回先が設定されているものとして、時間の指定の手順を説明します。
オートパイロットの巡回先の設定の方法、オートパイロット結果の見方については、前述の「オートパイロットの基本的な接続方法」をご覧ください。

チェック!!

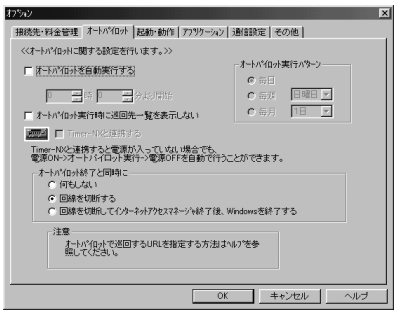
時間を指定して、オートパイロットするためには、指定した時間に、「インターネットアクセスマネージャ」が起動されている必要があります。スタンバイ状態から、オートパイロットする場合は、後述の「Timer-NX と連携して、オートパイロットする」をご覧ください。

① 「インターネットアクセスマネージャ」を起動する。
(「ランチ -NX」→「インターネット活用 & クリエイティブ」→「インターネットアクセスマネージャ」または「スタート」→「プログラム」→「インターネットアクセスマネージャ」→「インターネットアクセスマネージャ」)

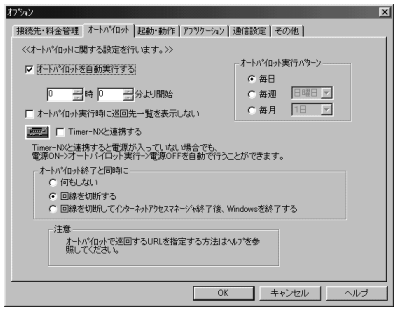
② 「表示」→「オプション」をクリック。
「オプション」ウィンドウが表示されます。



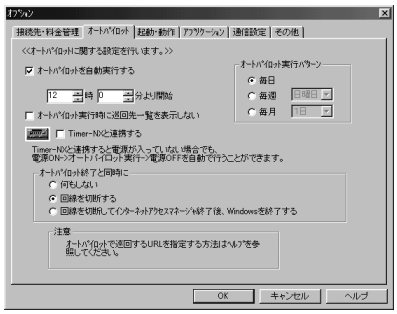
③ 「オートパイロット」タブをクリック。
「オートパイロット」タブのウィンドウが表示されます。



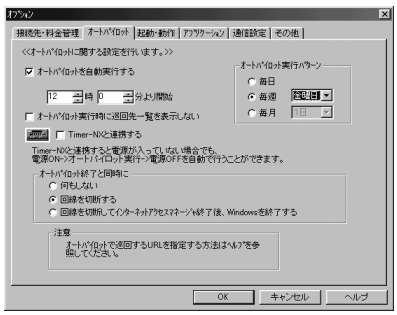
④ 「オートパイロットを自動実行する」チェックボックスをチェックする。
時間指定ができるようになります。



⑤ 自動実行を開始する時刻を設定する。
24 時間形式 (0:00 ～ 23:59) で設定します。
(例 12:00)



⑥ 「オートパイロット実行パターン」を設定する。
(例 毎週・金曜日)



⑦ 「オートパイロット終了と同時に」を設定する。
「何もしない」以外にチェックマークを付けてください。

チェック!!

「何もしない」にチェックマークを付けると、オートパイロット実行後も回線を接続したままの状態となり、電話料金やプロバイダ料金が課金されます。

⑧ 設定が終了したら、「OK」をクリック。
以上で設定は完了です。指定された時間がきたら自動的にオートパイロットが実行されて、指定されたURLを自動的に巡回してデータを自分のパソコンにダウンロードします。ダウンロードが終わったらオートパイロット結果を見てください。

Timer-NX と連携して、オートパイロットする

本機がスタンバイ状態のときに「Timer-NX」と連携して「オートパイロット」で指定された時間にスタンバイ状態から本機の電源が入った状態にして、オートパイロット終了後にスタンバイ状態にすることができます。

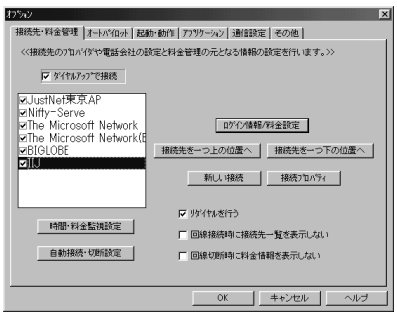
なお、ここでは、すでにオートパイロットの巡回先が設定されているものとして、「Timer-NX」との連携の手順を説明します。
オートパイロットの巡回先の設定の方法、オートパイロット結果の見方については、前述の「オートパイロットの基本的な接続方法」をご覧ください。

チェック!

「Timer-NX」と連携してオートパイロットを実行するときは、必ずパスワードの保存をしておいてください。パスワードの保存をしておかないと、オートパイロット実行時に、パスワードを入力するウィンドウが表示されるため、オートパイロットの処理が止まってしまいます。また、本機の電源も切ることができなくなってしまいます。

参照
・「パスワードの保存」→前述の「利用環境を設定する」の「各接続先のユーザー名とパスワードを設定する」

① 「インターネットアクセスマネージャ」のメニューバーで「表示」→「オプション」をクリック。
「オプション」ウィンドウが表示されます。

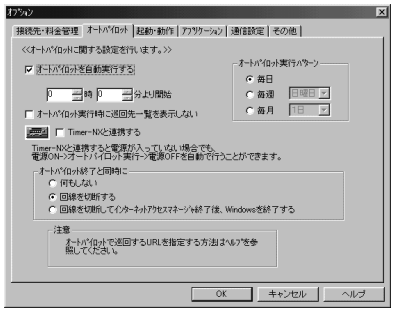


② 「回線切断時に料金情報を表示しない」にチェックマークを付ける。

チェック!

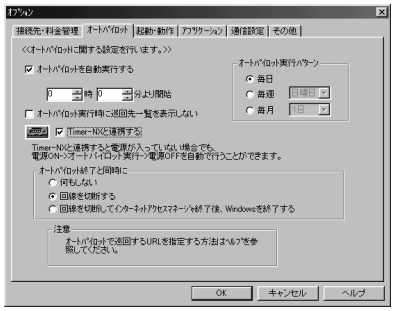
この設定をしないと、オートパイロットの実行後に「OK」をクリックする必要が生じて、パソコンの電源が自動的に切れなくなります。

③ 「オートパイロット」タブをクリック。
「オートパイロット」タブのウィンドウが表示されます。

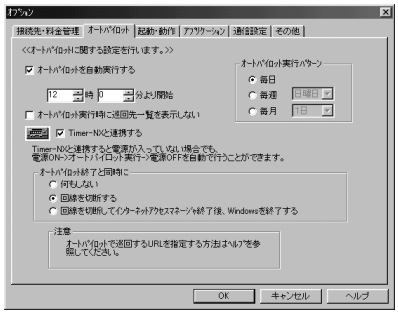


「オートパイロットを自動実行する」チェックボックスにチェックがしてあることを確認します。チェックされてない場合は、チェックボックスをクリックしてチェックを付けてください。

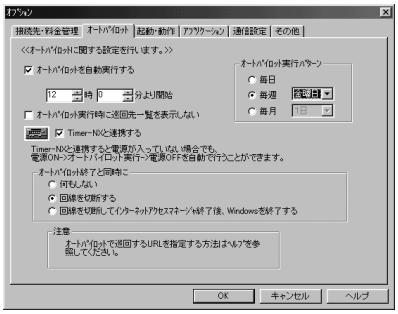
④ 「Timer-NXと連携する」にチェックマークを付ける。



⑤ 自動実行を開始する時刻を設定する。
24 時間形式（0:00 ～ 23:59）で設定します。
（例 12:00）

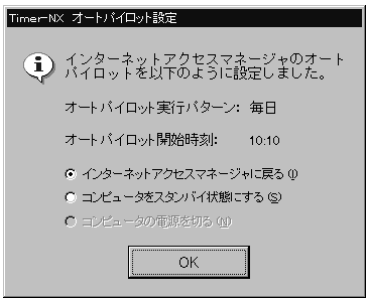


⑥「オートパイロット実行パターン」を設定する。
（例 毎週・金曜日）



⑦「OK」をクリック。
次のメッセージが表示されます。

⑧「OK」をクリック。
次のメッセージが表示され、「Timer-NX」の設定が完了したことを示します。



⑨ オプションを選んで「OK」をクリック。

◎オプション
- インターネットアクセスマネージャに戻る
- コンピュータをスタンバイ状態にする

これで設定は完了です。本機をスタンバイ状態にしておくと、指定された時間に、自動的に本機が復帰して、インターネットアクセスマネージャが起動され、オートパイロットが実行されます。

チェック!!

- 「設定」→「起動 / 動作」タブで「インターネットアクセスマネージャの起動と同時に」で設定されている内容とは関係なく、起動と同時に回線を接続し、オートパイロットを開始します。
- 「Timer-NX」と連携しない場合は、「オートパイロット終了と同時に」、「インターネットアクセスマネージャの起動と同時に」の動作は表示されている設定通りになります。
- 「Timer-NX」と連携してオートパイロットを行う場合、オートパイロット開始より、少なくとも6分半ほど経過しないとスタンバイ状態にはなりません。

時間指定するとき、およびTimer-NXと連携するときの注意

ここでは、時間指定をして、オートパイロットをするとき、および、「Timer-NX」と連携して、オートパイロットをするときの注意事項を説明します。オートパイロットについての全般的な注意事項については、後述の「オートパイロットを使用するときの注意」をご覧ください。

- 本機能が動作する時刻はWindows 98のシステム時計の時刻に依存しています。「スタート」→「設定」→「コントロールパネル」→「日付と時刻」で現在の時刻が正しく設定されているか、もう一度確認してください。
- 時間指定で動作するほかのプログラムを使用しているときは、指定の時間が重ならないように注意してください。
- 「インターネットアクセスマネージャの起動と同時に」で「回線を接続して、オートパイロットを開始する」を設定し、かつ、「オートパイロット終了と同時に」で「回線を切断してインターネットアクセスマネージャを終了する」の設定をした場合に、オートパイロット結果を確認するときは次の通りに操作してください。

  「インターネットアクセスマネージャ」が起動し、オートパイロットの自動実行が開始されるまでの間にダイアログボックスが表示され、オートパイロットが実行されるまで30秒間カウントダウンを行います。ここで「中止」ボタンをクリックします。その後、「オートパイロットの基本的な操作方法」以降を参考にしてダウンロードしたURLの内容を見ます。
- 必ずパスワードを保存してください。保存しないと処理が途中で止まってしまい、オートパイロット実行と電源を切ることができません。

参照
- パスワードの保存方法→本項の「利用環境を設定する」の「各接続先のユーザー名、パスワードを設定する」

- 自動実行の設定がすんだら、事前に一度、一連の「自動実行動作（スタンバイ状態からの復帰、インターネットアクセスマネージャの起動、回線の接続、オートパイロットの実行）」ができるかどうかを必ず確認してください。「オートパイロット実行中」の画面が表示されればOKです。確認を終了するときは「中止」ボタンをクリックします。

・オートパイロットで何時何分に回線接続して何時何分に回線切断したのか、ダウンロードは正常にできたのかどうかを確認するには「通信結果」フォルダおよび「オートパイロット結果」フォルダをご覧ください。

・夜間に自動実行を行う場合は夜間に自動的にスタンバイ状態から復帰しますので、安全に使用するために、本機に添付のマニュアルの使用上の注意事項を必ずひと通りお読みください。

自動的にファイルを取得する

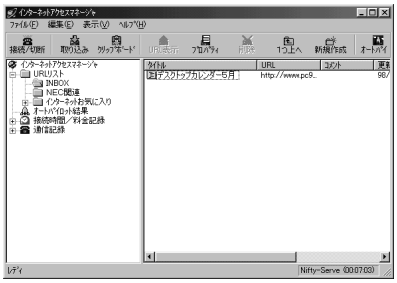
「オートパイロット」では、インターネット上にあるβ（ベータ）版やシェアウェアなどのいろいろなソフトウェアを自動的（指定された時間）に指定されたファイルを自分のパソコンにダウンロードしてくれます。ただし、指定された時間であってもサーバ側の状態（アクセスが集中している等）によっては、ダウンロードできない場合もありますので、ご了承願います。また、前述の「時間指定するとき、および Timer-NX と連携するときの注意」をご覧ください。

次に具体的な例を提示しますので、同じような操作でファイルをダウンロードしてください。

① WWWブラウザ を起動して、ダウンロードしたいソフトの格納されているページを表示する。

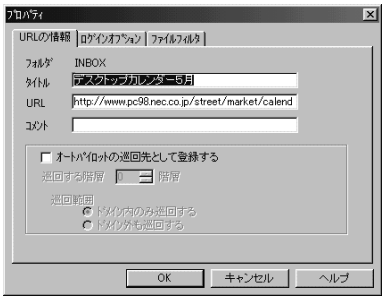
② 「取り込み」ボタンをクリック。

③ 「インターネットアクセスマネージャ」を最大画面にする。

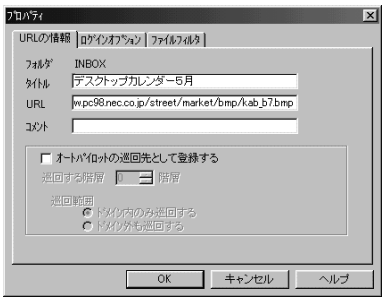


④ 取り込んだ URL を右クリック。
ポップアップメニューが表示されます。

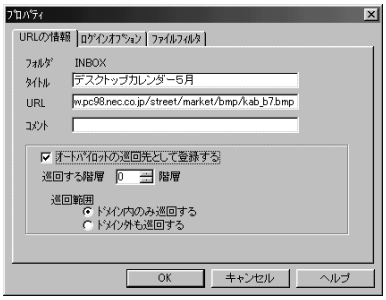
⑤ 「プロパティ」をクリック。
「プロパティ」ウィンドウが表示されます。



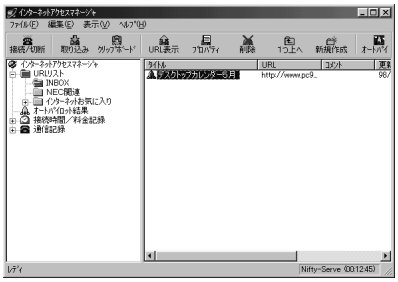
⑥ 登録されている URL の最後にある "calender/cal7.htm"を削除して、ダウンロードするファイル名を入力する。
（例 「/bmp/kab_b7.bmp」を入力）



⑦「オートパイロットの巡回先として登録する」チェックボックスをチェックする。



⑧「OK」をクリック。



⑨「時間を指定して、オートパイロットする」の手順を参考にオートパイロットを実行する時間の設定を行う。以上で設定は完了です。指定された時間がきたら自動的にオートパイロットを実行して、指定されたファイルを自動的に自分のパソコンのハードディスクにダウンロードします。

指定されたファイルは「インターネットアクセスマネージャ」がインストールされているフォルダに、URL のアドレスと同じようなフォルダ構造で格納されています。

オートパイロットを使用するときの注意

- 「インターネットアクセスマネージャ」のオートパイロットは通常の WWW ブラウザ と同様に指定の URL（サーバ）からダウンロードできない場合があります。これは、サーバがダウンしているときやサーバに多数のアクセスが集中している場合や URL がもうなくなっている場合などに起こります。
- 「オートパイロット結果」が不正の場合は、WWW ブラウザでアクセスをしてみてください。WWW ブラウザで正しくアクセスできない URL はオートパイロットでも正しくアクセス（ダウンロード）できません。
- 「インターネットアクセスマネージャ」のオートパイロットの巡回可能範囲は、次の通りです。

  一般的な HTML ファイル、ftp ファイル、背景、ShockWave、BGM、Java、クリッカブルマップ、フレーム対応ページ

  上記以外の RealAudio、CGI などは対応していません。

  詳しく説明すると、インターネットアクセスマネージャのオートパイロットで認識する < タグ > は、次の通りです。

No.	タグ	意　味
1	<BODY..> BACKGROUND="URL"	背景図
2	<FRAME> SRC="URL"	書類の指定
3	<A HREF="URL">	ハイパーリンク
4	<IMG SRC="URL">	インライン・イメージ
5	LOWSRCE="URL"	解像度の異なる画像の読み込み
6	GYNSRC="URL"	インラインビデオまたはVRML
7	<BGSOUND SRC="URL"..>	バックグラウンド・サウンド
8	<FIG SRC="URL"..>	回り込みインライン・イメージ
9	<EMBED SRC="URL"..>	Shockwaveなど

- サーバ側のデータ構造によっては、ダウンロードが完全にできなかった場合でも、正常にダウンロードできたことを示す青のロケットが表示される場合があります。あらかじめご了承ください。より詳しく説明すると次の通りです。

  サーバによっては、格納されているデータ（GIF ファイルなど）のサイズを通知してくるものと通知してこないものがあります。サイズを通知してこないデータに関しては、一定時間データが送られてこなかった場合を、そのデータの終わりとして検出していますが、本当にデータの終わりなのか、サーバが混雑していて"一定時間"データが送られてこなかったのかの判断ができない場合があるためです。

- オートパイロット結果を見るときにダウンロードされていないリンク先をクリックすると、実際の Web にアクセスします（回線が接続されていない場合は回線接続のダイアログボックスが表示されます）。
- URL の内容（サーバのデータ）によってはサーバ側と連携をとりながら、データを表示させるものもあります。オートパイロット結果として、こういったデータを WWW ブラウザ で見る場合には、Windows 98 ダイヤルアップネットワークの回線接続ダイアログボックスが表示されたり、"サーバが見つかりません " といった類のメッセージが表示される場合があります。この場合には、必要であれば回線接続を行ってみてください。

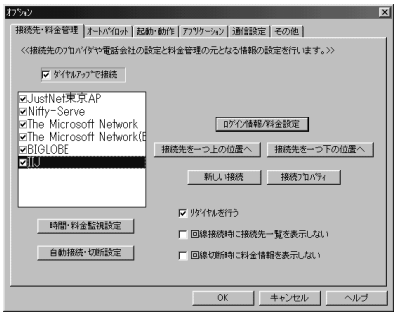
接続時間管理・料金管理

設定した時間・料金を超えたとき、アラームを表示させる

インターネットにかかる電話料金やプロバイダ料金を管理するには「接続管理」機能が便利です。あらかじめ設定した時間や料金を超えると、アラームを表示するため、アラームが出るまでの間は時間や料金を気にしないでインターネットを利用できます。

① 「インターネットアクセスマネージャ」を起動する。
（「ランチ-NX」→「インターネット活用 & クリエイティブ」→「インターネットアクセスマネージャ」または「スタート」→「プログラム」→「インターネットアクセスマネージャ」→「インターネットアクセスマネージャ」）

② 「表示」→「オプション」をクリック。
「オプション」ウィンドウが表示されます。

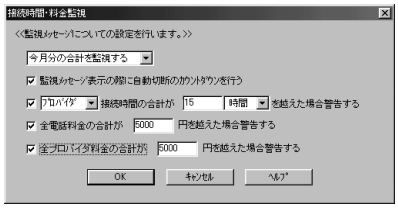


③ 「時間・料金監視設定」をクリック。
「接続時間・料金監視」ウィンドウが表示されます。

④ 画面上部のリストボックスの右端の▼をクリック。
監視条件の一覧が表示されます。

⑤ どういう単位で監視するかリストボックスの中から選んでクリック。
（例 「今月分の合計を監視する」を選ぶ）

⑥ 監視する項目のチェックボックスにチェックマークを付けて「OK」をクリック。
（例 今月のプロバイダ（BIGLOBE）の接続時間の合計が 15 時間を超えた場合と、全電話料金の合計金額が 5,000 円を超えた場合と、全プロバイダの利用料金が 5,000 円を超えた場合にそれぞれメッセージを表示させる）



ここで、"今月分の合計を監視する"にした場合、電話会社とプロバイダの料金の計算の締め日によって、監視する期間が異なりますの注意してください。

（例 今日が 15 日の場合）

対象	締め日	監視する期間
プロバイダ	25 日	前月の 26 日～今月の 25 日
電話会社	5 日	今月の 6 日～来月の 5 日

このように設定した場合、設定した値を超えると、次のようなアラームメッセージが表示されます。

「全プロバイダの合計が 5000 円を超えた場合」のアラーム例

ここで、「切断する」にチェックマークが付いている状態で「OK」をクリックすると、回線が切断されます。一時的に、監視する料金を変更したい場合は「今回の接続に限り監視料金を上乗せする」にチェックマークを付け、上乗せする金額を右端の空欄に指定して、「OK」をクリックします。
また、「今回の接続に限り監視を解除する」にチェックマークを付け、「OK」をクリックすると今回の接続に限り警告メッセージが表示されなくなります。

アラームを使用するときの注意

・表示されるアラームは、「インターネットアクセスマネージャ」で管理している時間・料金に基づいて表示していますが、これらの時間・料金はおおよその目安です。実際の電話会社・プロバイダからの請求料金とは誤差が生じる可能性があります。計算方式については「使用した電話料金・プロバイダ料金の概算を確認する」をご覧ください。

・「インターネットアクセスマネージャ」が起動していないときは、時間・料金の監視はできません。その場合にダイヤルアップネットワークなどから回線接続を行うと、時間・料金の計算、管理はできません。常に時間・料金の計算、管理をしたい場合は「インターネットアクセスマネージャ」はWindows 98のスタートアップに登録することをおすすめします。なお、「インターネットアクセスマネージャ」が起動されていればWindows 98のダイヤルアップネットワークから直接回線接続を行っても、時間の監視はできますが、回線接続は「インターネットアクセスマネージャ」から行うことをおすすめします。

・「インターネットアクセスマネージャ」で管理している時間は、Windows 98のシステム時計に依存しています。時間・料金を正しく管理するためにはシステム時計が正しく設定されていることが必要です。ご利用になる前に「スタート」→「設定」→「コントロールパネル」→「日付と時刻」で現在の時刻が正しく設定されているか、もう一度確認してください。なお「インターネットアクセスマネージャ」を起動しているときはもちろん、起動していないときでも、システム時計は変更しないでください。

「インターネットアクセスマネージャ」を使用した後にシステム時計を変更する場合は、「インターネットアクセスマネージャ」をいったん削除（残ったファイルもすべて削除）し、システム時計を変更した後で、「インターネットアクセスマネージャ」を再追加してください。

参照
・インターネットアクセスマネージャの削除、再追加
→「PART4 アプリケーションの削除と追加」

・電話料金はインターネット接続以外にも、通常の電話で使用されている場合がありますので、「インターネットアクセスマネージャ」で管理している電話料金と実際に請求される料金が異なる場合がありますので、注意してください。また、「インターネットアクセスマネージャ」で管理している電話料金は、基本料金・プッシュホン回線使用料は含みません。

・オートパイロット実行中はあらかじめ設定した時間もしくは料金を越えてもアラーム表示は行いません。オートパイロット終了後、次回の回線接続時にアラーム表示を行います。

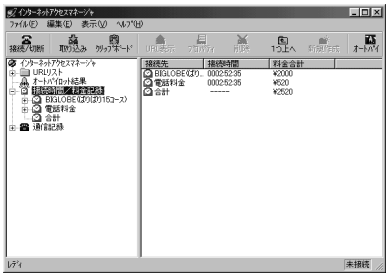
使用した電話料金・プロバイダ料金の概算を確認する

インターネット利用頻度が高い方のためには、その月にかかる電話料金やプロバイダ料金を概算する「接続管理」機能が便利です。あらかじめ設定された料金体系に基づいて、電話料金・プロバイダ料金を自動的に計算してくれるので、マウスをクリックするだけで、おおよその料金が確認できます。

使用した電話料金・プロバイダ料金の概算を確認する手順は、次の通りです。

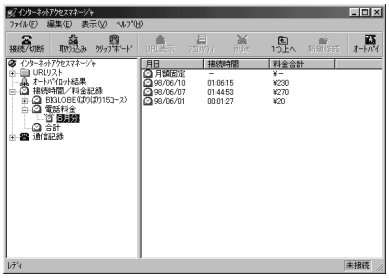
① 「インターネットアクセスマネージャ」を起動する。（「ランチ-NX」→「インターネット活用 & クリエイティブ」→「インターネットアクセスマネージャ」または「スタート」→「プログラム」→「インターネットアクセスマネージャ」→「インターネットアクセスマネージャ」）

② ツリービューの「接続時間 / 料金記録」をクリック。
プロバイダの料金合計と電話の料金合計がわかります。



インターネットアクセスマネージャに登録してあるプロバイダごとの料金情報と電話料金の情報がリストビューに表示されます。

さらに「電話料金」をクリックすると、次のように各月別の料金と各日別の料金が表示されます。



料金を確認するときの注意

・電話料金および、従量制プロバイダの料金計算方式についてインターネットアクセスマネージャでは次のように計算しています。1回の接続(回線接続から回線切断まで)の時間を計測し、課金単位で計算を行います（端数は切り上げ)。1ヶ月の料金は1ヶ月間(料金計算期間)の接続ごとの料金を合計した値となります。

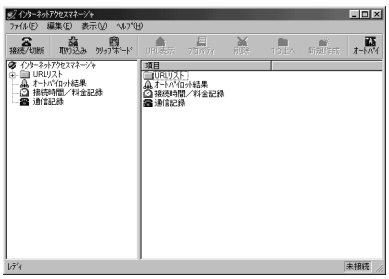
例
60秒10円の料金とすると1回の接続で90秒接続した場合、20円となる。
90秒 = 60秒 + 30秒
20円 = 10円 + 10円
したがって、実際のプロバイダ側での計算式が異なる場合は、料金も多少違ってくる場合があります。

オートダイヤル

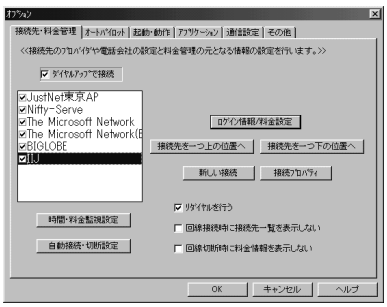
「オートダイヤル」では、あらかじめ指定されたアクセスポイントにつながるまで何度でも電話をかけ直します。ただし、電話回線の仕様で、1つの接続先（アクセスポイント）に対して、3分間に3回しかかけられません（最初の電話、1回目のかけ直し、2回目のかけ直し)。3回かけてもなお話し中であれば、次に電話をかけるのは3分後になります。

アクセスポイントを設定する

①「インターネットアクセスマネージャ」を起動する。
(「ランチ -NX」→「インターネット活用 & クリエイティブ」→「インターネットアクセスマネージャ」または「スタート」→「プログラム」→「インターネットアクセスマネージャ」→「インターネットアクセスマネージャ」)



②「表示」→「オプション」をクリック。
「オプション」ウィンドウが表示されます。



「接続先・料金管理」タブのウィンドウで、使用する接続先プロバイダにチェックマークを付けます。
ここで、「リダイヤルを行う」チェックボックスにチェックマークがついていることを確認します。購入時の状態ではチェックされています。

③ 確認したら「OK」をクリック。
以上で設定は完了です。回線接続を行って、話し中の場合は自動的に電話をかけ直します。

■ 電話をかけるタイミング

最初に電話をかけてから 3 分間の間は 2 回しかかけ直しすることができません。
4回目は最初に電話をかけたときから3分後にかけ直します。

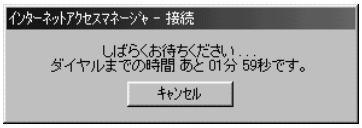
回線接続実行
↓
1 回目　2 回目　3 回目　　4 回目　5 回目
←　　3 分間　　→←　3 分間

話し中　話し中　話し中

←待ち時間→

---

3 回目にかけてから「話し中」を検出して、次に電話をかけるまでの間（待ち時間）、「接続」ダイアログボックスが表示されます。



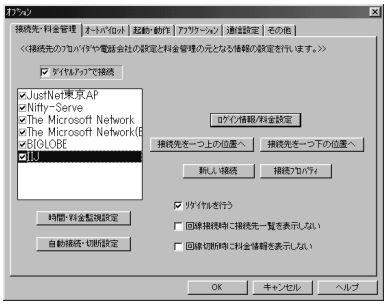
自動的にアクセスポイントを変更する

アクセスポイントが話し中なので、次に近いアクセスポイントにかけ直す、または、固定制プロバイダが話し中なので、従量制プロバイダにかけ直す、というようにアクセスポイントのかけ直しは、大変手間のかかる作業です。これを自動的に行うには「オートダイヤル」が便利です。ただし、電話回線の仕様で、1 つ下の接続先（アクセスポイント）に対して、最初に電話をかけてから 3 分間に 2 回しかかけられません。3 回かけてもなお話し中であれば、次に電話をかけるのは 3 分後になります。

■ アクセスポイントを設定する

① 「インターネットアクセスマネージャ」を起動する。
（「ランチ -NX」→「インターネット活用 & クリエイティブ」→「インターネットアクセスマネージャ」または「スタート」→「プログラム」→「インターネットアクセスマネージャ」→「インターネットアクセスマネージャ」）

② 「表示」→「オプション」をクリック。
「オプション」ウィンドウが表示されます。



「接続先・料金管理」タブのウィンドウで、アクセスポイントをチェックします。
電話をかけるアクセスポイントを上から順番に並び替えてチェックをつけてください。画面上に設定されているアクセスポイントで、チェックボックスがついているものを上から順番にかけていきます。

- 電話をかけたくないアクセスポイントは、チェックをはずしてください。
- 順番を並び替えたい場合は、該当のアクセスポイントをクリックして反転表示にした後、「接続先を1つ上の位置へ」ボタン、もしくは、「接続先を 1 つ下の位置へ」ボタンを使用します。

上記の例では、「JustNet 東京 AP」「Nifty-Serve」「The Microsoft Network」「BIGLOBE」「IIJ」の順番に電話をかけます。

「リダイヤルを行う」チェックボックスにチェックマークがついていることを確認します。既定値ではチェックされています。

③ 「OK」をクリック。
以上で設定は完了です。回線接続を行って、話し中の場合は自動的に次のアクセスポイントに電話をかけます。設定されているアクセスポイントがすべて話し中の場合は、もう一度最初から順番に電話をかけ直します。

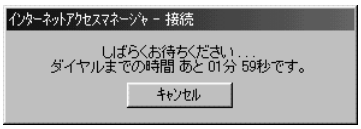
■ 電話のかけ直しについての注意

最初に電話をかけてから 3 分間は 1 つのアクセスポイントに 2 回しかかけ直すことができません。4 回目は最初に電話をかけたときから 3 分後にかけ直します。

（例 アクセスポイントが「BIGLOBE」と「JustNet」の 2 つの場合）

回線接続実行
↓
BIGLOBE　　JustNet　　BIGLOBE
1 回目 2 回目 3 回目　1 回目 2 回目 3 回目　4 回目
←　　3 分間　　→ ←
待ち時間

1 回目にかけてから「話し中」を検出して次に同じアクセスポイントに電話をかけるまでの間（待ち時間）、「接続」ダイアログボックスが表示されます。



URL 情報の登録・整理

登録されている URL にアクセスする

本機の「インターネットエクスプローラ」には、あらかじめ約 80 にジャンル分けされた URL が登録されており、「インターネットアクセスマネージャ」は、起動時にこれらの「インターネットエクスプローラ」の「お気に入り」の内容を「URL リスト」－「インターネットお気に入り」に自動的に登録します。このため、わざわざ URL を入力しなくても、マウスをクリックするだけでホームページにアクセスできます。

チェック!!

インターネット上の情報は、日々変化しているため、目的のホームページの URL が変更されていたり、なくなったりしている場合もあります。

ホームページを整理する

「インターネットアクセスマネージャ」では、タイトル、URL、コメントをまとめて URL 情報と呼びます。よくアクセスするホームページのアドレス（URL）を覚えておきたい場合や、ブラウザに登録したホームページを整理したい場合は、「URL 情報の登録・整理」の機能が便利です。

「URL 情報の登録・整理」には、次のような特長があります。

- お気に入りの URL をフォルダを使って階層的に登録・整理することができる。フォルダ名の長さは 40 文字までです。
- 登録するときに簡単なコメントをつけることができるので整理するときに便利。
- URL リストのレビューからダブルクリックで該当の URL を WWW ブラウザに表示させることができる。
- Windows 98 の「エクスプローラ」と同様なウィンドウ画面と操作性がある。

「インターネットエクスプローラ」の「お気に入り」自動反映

ブラウザの中にお気に入りの URL を登録、一元管理するには、「URL リストの反映」が便利です。「URL リストの反映」では、WWW ブラウザの管理しているお気に入りの URL を「インターネットアクセスマネージャ」の URL リストにワンタッチで反映することができます。また、その逆に URL リストをフォルダごと WWW ブラウザに反映することができます。

これによって、気に入った URL を一元管理することができます。

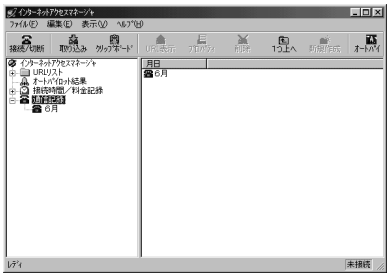
ログファイルを見る

通信記録（ログファイル）を見る

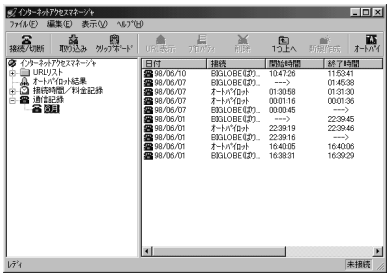
「通信記録」では、過去にアクセスした接続開始時間、終了時間の記録（ログ）をとってあり、一目で確認できます。ただし、記録の保存期間は最長 12 ヶ月です。保存期間を過ぎた記録は削除されます。

① 「インターネットアクセスマネージャ」を起動する。（「ランチ -NX」→「インターネット活用 & クリエイティブ」→「インターネットアクセスマネージャ」または「スタート」→「プログラム」→「インターネットアクセスマネージャ」→「インターネットアクセスマネージャ」）

② ツリービューの「通信記録」をダブルクリック。



③「月名」をダブルクリック。
選ばれた月の接続ごとの接続開始時間、終了時間が表示されます。



記録は一番新しいものがリストビューの一番上に表示されます。

＜ツリービュー＞

項	表示内容
《日付》	接続を行った日の通信記録を、月単位（1日～末日）で表示します。 接続の記録を、1回の接続ごとに表示します。

＜リストビュー＞

項	表示内容
《日付》	接続を行った日付を表示します。
《接続》	接続した接続先名を表示します。オートパイロットを実行した場合は、“ オートパイロット ”と表示します。
《開始時間》	プロバイダに接続し、ログインが完了した時間を表示します。 オートパイロット実行後は、“ → ”が表示されます。
《終了時間》	回線を切断した時間を表示します。接続中にオートパイロットが行われた場合は、“ → ”が表示されます。
《通信時間》	《開始時間》から《終了時間》までの時間を表示します。 オートパイロットの場合は、オートパイロットにかかった時間を表示します。
《動作》	接続の動作結果を表示します。

回線接続関連
＊＜＜接続＞＞がオートパイロット以外の場合

No.	動作結果	意　味
1	接続開始	回線を接続したことを意味します。回線接続後にオートパイロットを実行した場合にこの状態が表示されます。 このとき終了時間は“ → ”の表示になります。 さらに、回線接続中もこの表示になります。
2	正常	正常に回線接続ができていた状態から回線を切断したことを意味します。
3	回線使用中	回線が使用中であることを意味します。相手先が混雑（ビジー）していたことを示します。
4	回線でエラー発生	モデムの電源が入っていないときなどに表示されます。 回線上で何らかの障害が発生したことを意味します。
5	ログイン失敗	ID/パスワードなどが誤っていてサーバにログインできなかったことを意味します。
6	リモートから切断	サーバ側から切断されたことを意味します。
7	応答なし	サーバからの応答がないとき （サーバが混雑しているときなど）に表示されます。
8	メモリ不足	メモリ不足で処理が継続できなかったことを意味します。
9	不明	上記以外の何らかの異常が発生したことを意味します。

オートパイロット関連
＊＜＜接続＞＞がオートパイロットの場合

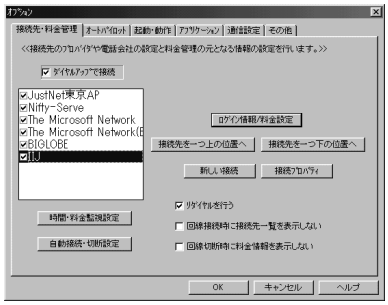
No.	動作結果	意　味
1	成功	オートパイロットの実行がすべて正常に完了したことを意味します。
2	一部不正	巡回したURLの中で一部のデータがダウンロードできなかったことを意味します。 複数のURLを指定した場合で、その中の1つでもURLに不具合があった場合も、この表示が出ます。
3	中断	ユーザ操作により中断されたことを意味します。
4	タイムアウト	目的のサーバからの応答が一定時間なく、タイムアウトしたことを意味します。
5	アドレス不正	存在しないアドレスを指定されたことを意味します。
6	コネクション失敗	Webサーバ側の理由により通信ができなかったことを意味します。
7	更新なし	巡回したURLが現在、ハードディスク上にあるデータから更新されていないことを意味します。
8	HD容量不足	インターネットアクセスマネージャのインストール先ドライブの空容量が少ないため、オートパイロットを中断したことを意味します。
9	読み込み不可	Webサーバの応答ステータスがエラーもしくは、通信エラーのため、読み込めなかったことを意味します。
10	実行中	オートパイロット実行中にサーバ側から切断されるなどの異常が発生して、オートパイロットを実行中にインターネットアクセスマネージャを終了したことを意味します。

回線接続直後にメールやニュースを読み込む

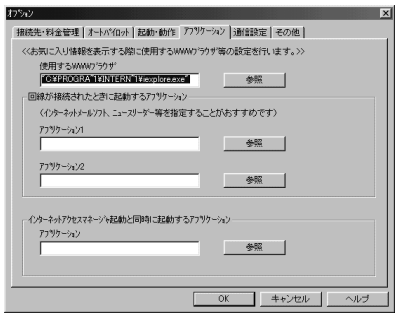
「インターネットアクセスマネージャ」が回線接続と同時に、あらかじめ指定されたアプリケーション（インターネットメールソフトやニュースリーダーなど）を起動させることができます。いつも使用するメールやニュースリーダーを登録しておくと便利です。

①「インターネットアクセスマネージャ」を起動する。
（「ランチ-NX」→「インターネット活用 & クリエイティブ」→「インターネットアクセスマネージャ」または「スタート」→「プログラム」→「インターネットアクセスマネージャ」→「インターネットアクセスマネージャ」）

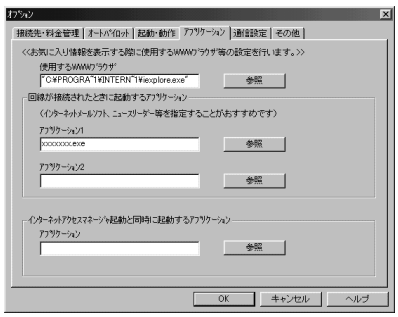
②「表示」→「オプション」をクリック。
「オプション」ウィンドウが表示されます。



③「アプリケーション」タブをクリック。
「アプリケーション」タブのウィンドウが表示されます。



④「回線が接続されたときに起動するアプリケーション」の欄に、起動したアプリケーションの格納場所を「参照」を使って設定する。



⑤「OK」をクリック。
以上で設定は完了です。回線接続をしてみてください。指定されたアプリケーションが自動的に起動します。

ホームページのURLを簡単に入力する〈Hatch inside〉

「Hatch inside（ハッチ　インサイド）」を使うと、長いURL（ホームページのアドレス）を数字で簡単に入力することができます。

概要

「Hatch inside」はURLをWWWブラウザのアドレス欄に入力するわずらわしさを軽減するツールです。使い方は、「Hatch inside」を起動している状態で、WWWブラウザのアドレス欄に、直接、インターネット番号やオプションで登録した短縮記号を入力するだけです。ホームページにアクセスする手続きがまるで電話のように簡単になります。
（例　Yahoo! JAPANのホームページにアクセスする場合）

Hatch inside なら“01”（Yahoo! JAPANのインターネット番号）と入力するだけでホームページにアクセスできます。

使用する前に

ここでは、「Hatch inside」の基本的な使い方について説明します。

「Hatch inside」をお使いになるときは、このマニュアルのほかにリードミーファイル、オンラインヘルプをご覧ください。リードミーファイルは、「スタート」→「プログラム」→「HatchInside」→「Readme.txt」でご覧になれます。またオンラインヘルプは、インターネットに接続した状態で（「Hatch inside」が起動しているときに表示されます）をクリックし、サブメニューから「ヘルプ」をクリックするとご覧になれます。

インターネット番号とは

「Hatch inside」で入力する数字のことを"インターネット番号"といいます。"インターネット番号"は、インターネット上にあるハッチサーバにあらかじめ登録されており、WWWブラウザで数字を入力すると、ハッチサーバが自動的にURLに変換してくれる仕組みになっています。

URLを数字で入力する

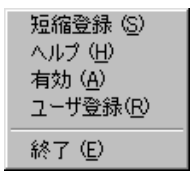
「Hatch inside」は、「Internet Explorer」などのWWWブラウザと一緒に使います。WWWブラウザを起動する前に、「Hatchinside」を使える状態にしておく必要があります。

「Hatch inside」が使える状態であることを確認する

次の手順で「Hatch inside」が使える状態であることを確認してください。

① 画面の右下に が表示されていることを確認する。表示されていない場合は「Hatch inside」を起動してください（「スタート」→「プログラム」→「HatchInside」→「hatchinside.exe」）。

② をクリックしサブメニューを表示する。



③「有効」をクリックして、チェックマークをつける。

チェック!!

・購入時の状態では「有効」にチェックマークはついていません。「有効」をクリックしてからご使用ください。

URLを数字で入力する

「Hatch inside」が使える状態であることを確認したら、次の手順でURLを数字で入力します。

① インターネットに接続して、WWWブラウザを起動する。

②「アドレス」欄にインターネット番号を入力し【Enter】を押す。
（例“888”（ハッチのホームページのインターネット番号）を入力）

入力したインターネット番号が自動的にURLに変換され、対象のホームページが表示されます（手順②の例ではハッチのホームページが表示されます）。

ハッチのホームページには、インフォメーション（ハッチサービスの紹介）のほか、番号検索、番号登録などの情報があります。インフォメーションのページをお読みになり、ご利用ください。

主なインターネット番号一覧

インターネット番号の例を以下に示します（この他にもたくさんあります）。インターネット番号はハッチのホームページ（インターネット番号：888 または、URL：http://www.hatch.co.jp/）で知ることができます。
インターネット番号は変更されることがありますので、最新の情報はハッチのホームページでご確認ください。

（1998年4月現在）

分類	企業名など	インターネット番号
空の旅	全日空（ANA）	029
	日本航空（JAL）	250
くるま	トヨタ自動車	111
	本田技研工業	777
	ジャパンエナジー（JOMO）	106
出版	リクルートの情報誌	50
	学習研究社	2525
	ぴあ	9999
繊維	鐘紡	555
食品	明治製菓	123
住宅	ミサワホーム	330
化学	富士フィルム	2424
通信	KDD	001
娯楽	セガ	333
金融	NTTリース	7777
電機	98Information	98
その他	ハッチ	888
	警察庁	110
	消防庁	119
	気象庁	177

短縮記号を登録する

ハッチサーバに登録されていないホームページや、長いインターネット番号のホームページには、短縮記号を登録することができます。ちょうど電話の短縮番号のようなものです。

あなたのお気に入りのホームページを短縮記号登録することで、短縮記号を使って簡単にホームページにアクセスできるようになります。短縮記号は最大100件まで登録できます。

購入時の状態では以下の8件の短縮記号が登録されています。

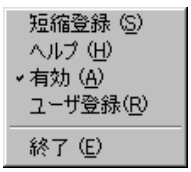
短縮記号	タイトル
980	BIGLOBE
981	Web Shop
982	CYBER PLAZA
983	NETPLAZA TOP PAGE
np	NETPLAZA ダイレクト検索
ac	あちゃら ダイレクト検索
ej	エキサイトJapan ダイレクト検索
yj	Yahoo!Japan ダイレクト検索

チェック!!

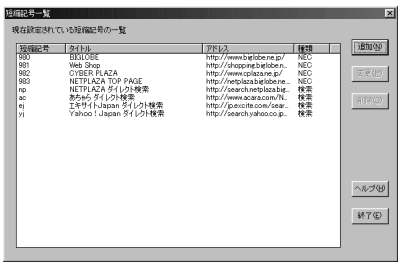
・短縮記号に登録されているホームページを見るには、WWW ブラウザのアドレス欄に、短縮記号の前に“ * ”をつけて入力します(“ * ”は短縮記号の利用を表します)。
(例　短縮記号“ 980 ”のホームページを見るには、WWW ブラウザのアドレス欄に“ *980 ”と入力)

・ダイレクト検索の短縮記号を使用するときは、短縮記号の後ろに検索するキーワードを入力します。
(例　NETPLAZA ダイレクト検索でキーワード“ パソコン ”を検索するには、WWW ブラウザのアドレス欄に“ *np パソコン ”と入力)

① 画面右下の をクリック。
サブメニューが表示されます。



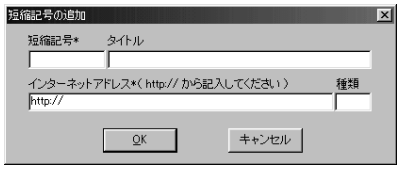
②「短縮登録」をクリック。
「短縮記号一覧」ウィンドウが表示されます。



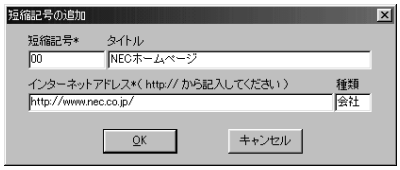
チェック!!

「短縮記号一覧」ウィンドウは、 を右クリックして表示することもできます。

③「追加」をクリック。
「短縮記号の追加」ウィンドウが表示されます。



④ 短縮記号、タイトル、インターネットアドレス、種類を入力する。
(例　NECのホームページを短縮記号"00"、タイトル"NECホームページ"、URL"http://www.nec.co.jp/"、種類 " 会社 " として入力)



チェック!!

・短縮記号には、半角の英数字とハイフンのみが使用可能で、最大 8 文字まで入力できます。

・タイトルには、全角で最大 20 文字まで入力できます。自分で覚えやすいタイトルを付けることをおすすめします。

・インターネットアドレスには、URL を http:// から始めてすべて入力してください。また、あらかじめハッチサーバに登録されているホームページの場合は、インターネット番号を入力することもできます。この場合は、入力欄の"http://"を削除してから入力してください。

・種類は、例えば " 検索 "、" 趣味 "、" 仕事 " などのように、整理しやすいように設定できます。全角 4 文字、半角 8 文字まで入力できます。登録後に短縮番号を並べ替える場合に利用すると便利です。

⑤「OK」をクリック。
入力した内容が登録され、「短縮記号一覧」ウィンドウに登録内容が表示されます。

チェック!!
「短縮記号一覧」ウィンドウで、登録内容の上の「短縮記号」「タイトル」「アドレス」「種類」をクリックすると、それぞれの項目の順に登録内容を並べ替えることができます。

短縮記号を変更する

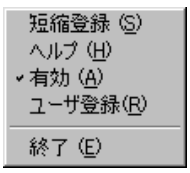
登録済みの短縮記号の内容を変更したい場合は、短縮記号一覧の中から変更したい短縮記号を選択して「変更」をクリックします。変更画面が表示されたら変更したい項目の内容を修正して「OK」をクリックしてください。

短縮記号を削除する

登録済みの短縮記号を削除したい場合は、短縮記号一覧の中から削除したい短縮記号を選択して「削除」をクリックします。確認画面が表示され「OK」をクリックすると削除されます。

サブメニューについて

画面右下の をクリックすると出てくるサブメニューについて説明します。



・短縮登録
短縮記号の登録、変更、削除ができます。詳細は前の項目をご覧ください。

・ヘルプ
ブラウザが起動され、プロバイダ等を介してハッチのサイトに接続し、ハッチのサイトにあるヘルプを表示します。ハッチに関する最新の情報やバグレポートなどを知ることができます。

・有効
「Hatch inside」の機能を有効または無効に切り替えることができます。チェックマークがついているときが有効の状態です。チェックマークがついていないときは「Hatch inside」の機能は無効となり、インターネット番号によるアクセスはできません。

・ユーザ登録
ブラウザが起動され、ハッチのサイトにあるユーザ登録のページを表示します。ユーザ登録をしておくと、バージョンアップのお知らせ、必要な情報などが送信されてきます。

・終了
「Hatchinside」を終了します。再び起動する場合は「スタート」→「プログラム」→「HatchInside」→「hatchinside.exe」の順にクリックしてください。

ホームページの整理〈ホームページスクラップブック〉

「ホームページスクラップブック」を使うと、インターネットのホームページ上から欲しい部分だけ切り取って、保存／整理できます。また、整理した内容は最新の情報に更新できます。

概要

ホームページスクラップブックは、インターネットをより便利に有効利用するための、ホームページ収集・活用ツールです。
ホームページスクラップブックには次のような機能があります。

・ホームページの収集・保存
ホームページを簡単に収集・保存することができます。
全ページだけでなく、画像データだけなど、必要な部分だけでも保存できます。
また、リンクなどの機能もそのまま利用できます。

・保存したホームページの整理
ジャンル別に分類し直したり、整理し直したりできます。また、まだ見ていないページだけを集めたり、フロッピーディスクなどに書き出したりもできます。

・保存したホームページを最新の情報に更新
保存したページは最新の状態に更新することができます。新聞など毎日更新されるようなホームページも、設定すれば、自動的に最新の状態にすることができます。

・保存したホームページの利用
保存したページを自動表示（オートシアター機能）したり、付箋をつけたり、検索したりできます。

・保存したページのデータを他のアプリケーションへ利用
画像データなどを、他のアプリケーションへドラッグアンドドロップで簡単に貼り付けて利用することができます。

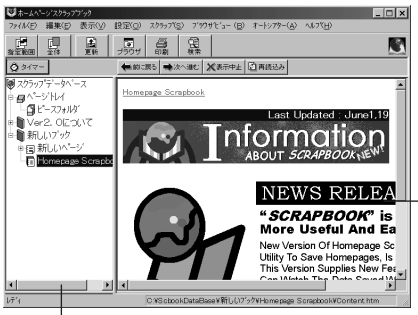
具体的な利用シーンなど、詳しくはヘルプをご覧ください。
ヘルプは「ホームページスクラップブック」の「ヘルプ」メニューより「トピックの検索」をクリックすることで起動できます。

チェック!!

・ホームページを保存する際、ホームページのつくりによっては、指定範囲および全体を保存できないことがあります。また、ホームページ上で使用している追加モジュールの種類によっては、保存後に表示できない場合があります。

・ツリービューとは、「ホームページスクラップブック」の左側フレームのことです。スクラップした情報をブック、スクラップページの順に階層化して、エクスプローラ風にツリー表示します。

・ブラウザビューとは、「ホームページスクラップブック」の右側フレームのことです。スクラップした情報はブラウザビューに表示して閲覧できます。



使用する前に

環境設定

■ 本機の設定

「ホームページスクラップブック」を使用するためには、「ValueStar-NX を使う準備をする」が実行されている必要があります。『ＳＴＥＰ１　接続と準備』の「ValueStarの設定を行う」が実行されていることを確認してください。

■ インターネット接続環境の設定

「ホームページスクラップブック」を使用するためには、インターネット接続環境が必要です。使用前に、インターネットに接続できるように設定してください。

参照
・インターネットへの接続→『インターネット入門』

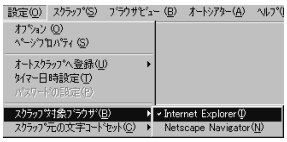
■ Internet Explorer の環境設定

必ず「Internet Explorer」を使ってホームページにアクセスできることを確認してください。「ホームページスクラップブック」は、「Internet Explorer」の通信設定を読みこんで動作するため、「Internet Explorer」の通信設定が正しく行われていないと、正しく動作しません。

連携をとるブラウザの設定

「ホームページスクラップブック」は、ブラウザと連携をとって動作します。「Internet Explorer 3.0」以上、および「Netscape Navigator 3.0」以上が使用できます。

「ホームページスクラップブック」の「設定」メニューの「スクラップ対象ブラウザ」で、使用するブラウザが設定されていることを確認してください。



この設定が正しく行われていないと、正常に動作しません。

■ その他の注意

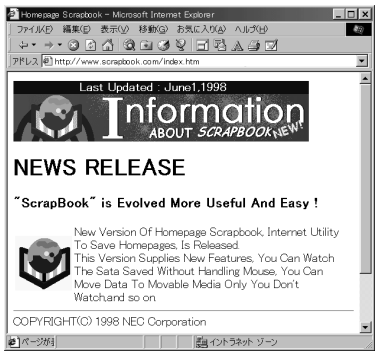
ここでは、「ホームページスクラップブック」の基本的な使い方について説明します。
ここに記載されていない使い方については、「ホームページスクラップブック」のオンラインヘルプをご覧ください。オンラインヘルプは、「ホームページスクラップブック」の「ヘルプ」メニューの「トピックの検索」をクリックすると表示されます。
なお、オンラインヘルプの「ご利用にあたっての注意事項」には、各機能を使用する上での必要な注意事項が記載されています。使用する前に必ずお読みください。

ホームページを切り取って保存する

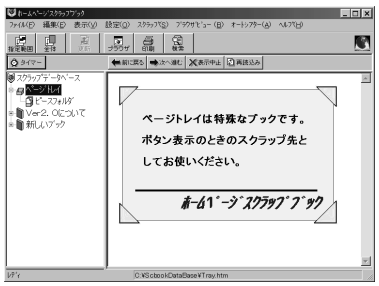
ここではホームページ全体を切り取る方法とホームページの一部を切り取る方法について説明します。

■ ホームページ全体を切り取る

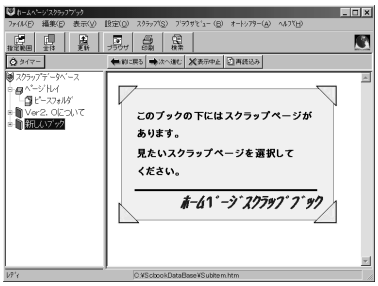
① インターネットに接続して、WWW ブラウザを起動し、切り取りたい情報があるホームページを表示する。



② 「ホームページスクラップブック」を起動する。
(「ランチ-NX」→「メイン」→「ホームページスクラップブック」または「スタート」→「プログラム」→「ホームページスクラップブック」→「ホームページスクラップブック」)

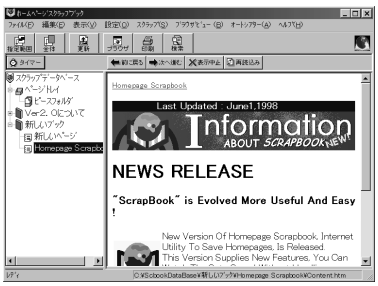


③「ホームページスクラップブック」のツリービューにてスクラップページを指定する。
切り取ったデータを貼り付けるブックを指定します。ツリービューにて「新しいブック」をクリックしてください。
貼り付けるブックは、「ファイル」メニューの「新規作成」で新規に作成することができます。



④「ホームページスクラップブック」の 全体 (全体をスクラップ) をクリック。
切り取りが終わると「スクラップのプレビュー」ウィンドウが表示されます。

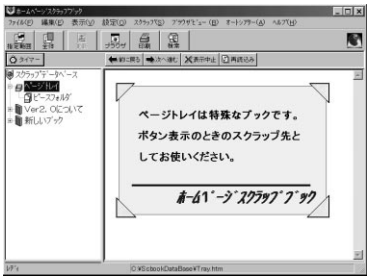
⑤「OK」をクリック。
切り取ったデータの保存の完了です。
完了すると、次のような画面になり、保存したページが表示されます。



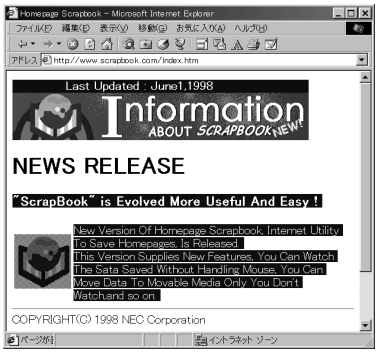
ホームページの一部を切り取る

① インターネットに接続して、WWW ブラウザを起動し、切り取りたい情報があるホームページを表示する。

② 「ホームページスクラップブック」を起動する。
(「ランチ-NX」→「メイン」→「ホームページスクラップブック」または「スタート」→「プログラム」→「ホームページスクラップブック」→「ホームページスクラップブック」)



③ WWW ブラウザ上で切り取りたい部分をマウスで指定する。
指定された範囲が反転表示になります。



チェック!!

反転表示されるのは、テキスト部分だけなので、切り取る範囲の先頭と終わりは必ずテキストでなければなりません。たとえば上の画面で、左端の画像をスクラップしたいときは、その前後のテキスト(文字列)を含めて反転表示にすることが必要です。

④「ホームページスクラップブック」のツリービューにてスクラップページを指定する。
切り取ったデータを貼り付けるスクラップページを指定します。ツリービューにて「新しいブック」の下にある「新しいページ」をクリックしてください。
貼り付けるスクラップページは、「ファイル」メニューの「新規作成」で新規に作成することができます。

⑤「ホームページスクラップブック」の 指定範囲 (指定範囲をスクラップ) をクリック。
切り取りが終わると「スクラップのプレビュー」ウィンドウが表示されます。

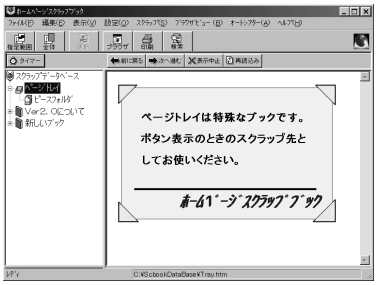
⑥「OK」をクリック。
切り取ったデータの保存の完了です。
完了すると、次のような画面になり、保存したページが表示されます。

スクラップページを最新情報に更新する

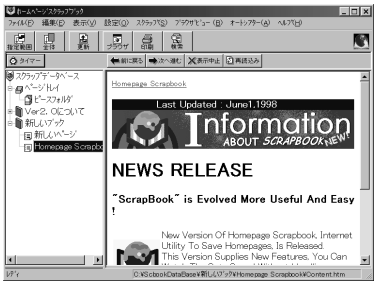
保存した情報を最新のものに更新することができます。

① インターネットに接続する。

②「ホームページスクラップブック」を起動する。
(「ランチ-NX」→「メイン」→「ホームページスクラップブック」または「スタート」→「プログラム」→「ホームページスクラップブック」→「ホームページスクラップブック」)

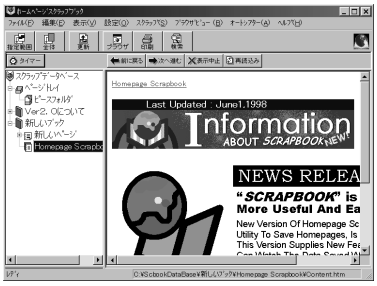


③ 更新したいページを表示する。
「ホームページスクラップブック」のツリービューにて更新したいページをクリックします。



④「ホームページスクラップ」の 更新 (スクラップページの更新) をクリック。
更新が始まります。
更新が完了すると「更新結果」ウィンドウが表示されます。

⑤「OK」をクリックする。
スクラップページの内容が最新情報に更新されます。



チェック!!

数時間毎に更新される新聞社のホームページや天気予報でお試しになると、更新結果の違いがよくわかります。

音声入力でのメールの送信〈しゃべっていいメール〉

(一太郎モデル、Wordモデルのみ)

電子メールのやり取りが簡単にできて、しかもしゃべったことを文章にしてくれます。そのうえ、画像を送信したり、ポケベルにもメッセージが送れます。

チェック!!

VC23/4でボイスノート機能（音声による文章入力機能）を使うには、別売のマイクロホンが必要です。

概要

「しゃべっていいメール」の2つの便利な機能について説明します。

電子メール機能

「しゃべっていいメール」を使って、電子メールを送ったり、受けたりすることができます。
電話回線を使って、インターネットに接続することで、簡単に誰とでもメッセージのやりとりができます。

参照

・電子メールについて→『インターネット入門』「PART5 電子メールしてみませんか」

■ 接続の確認

本機と電話回線が正しく接続されていることを確認してください。

参照

・電話回線との接続→『STEP1 接続と準備』PART2「電話回線に接続する」

■ プロバイダとの契約

電子メールをやりとりするためには、事前にプロバイダとの契約が必要です。

参照

・プロバイダとの契約→『インターネット入門』「PART3 BIGLOBEに入会する」

ボイスノート機能

「しゃべっていいメール」では、キーボードを使わずに、音声で文字を入力することができます。マイクロホンに向かって、声で話すだけで、それを文章に変換してくれます。
この音声入力機能のことを「ボイスノート機能」といいます。ボイスノート機能を上手に使うためには、あなたの音声や話し方を「しゃべっていいメール」に教えてあげる必要があります。ボイスノート機能を使う前には、まず「入力レベル調整」と「話者学習」を行ってください。「入力レベル調整」と「話者学習」のやり方は、後述の「準備」をご覧ください。

チェック!!

ボイスノート機能では、Microsoft Speech APIを利用しています。「コントロールパネル」の「アプリケーションの追加と削除」にある「Microsoft Speech API 3.0」は削除しないようにしてください。

準備

使い方レッスン

本機添付の「アプリケーションCD-ROM」には、「使い方レッスン」があります。
「使い方レッスン」では、「しゃべっていいメール」での音声による文章の入力方法を、動画と音声を使って説明しています。
次の手順でご覧ください。

①「アプリケーションCD-ROM」をCD-ROMドライブにセットする。

②「しゃべっていいメール」の「使い方レッスン」を起動する。
（「スタート」→「プログラム」→「しゃべっていいメール」→「使い方レッスン」）
「使い方レッスンを開始しますか？」というメッセージが表示されます。

③「はい」をクリック。
「使い方レッスン」が始まります。

ボイスノート機能を使うために

ボイスノート機能を上手にお使いいただくには、次の手順を行ってください。

①「入力レベル調整」を行う。
入力レベル調整が正しく行われないと、うまく文章を入力できなくなります。

②「話者学習」を行う。
話者学習をすると、認識率、変換速度が向上します。少なくとも50文登録することをおすすめします。

③「しゃべっていいメール」または「ボイスペン」を起動して、ボイスノート機能を使って文章を入力する。
間違って変換された単語が入力されていても、あとから候補のなかから選んで修正できますので、とにかく一文を最後まで入力してください。

チェック!!

音声入力の例を見るには、「スタート」→「プログラム」→「しゃべっていいメール」→「しゃべっていいメールのヘルプ」の「メールを書く」の「音声による文章入力」を参照してください。

④ 間違って変換された単語を修正する。
正しい文章に変換されたときは引き続き文章を入力してください。

より高速な変換を望まれる方は、「スタート」→「プログラム」→「しゃべっていいメール」→「はじめにお読みください」の内容をご覧ください。

正しい文章に変換されないときは、次の手順に進んでください。

⑤ 間違えた単語の後にマウスカーソルを持ってきて「ここを変更」と発声する。
修正候補の一覧が表示されます。

ここで「再生」をクリックして、今入力した音声を聞いてみてください。

声が小さすぎたり、大きすぎたり、または、息のかかる声や雑音が混じっていないかどうかを確認してください。

該当する場合手順①へ戻ってください。
該当しない場合手順②へ戻ってください。

チェック!!

- レベルメーターが振れない場合は声が小さすぎます。一番上まで振り切っている場合は、声が大きすぎます。再度「入力レベル調整」を行ってください。
- 息のかかる音や雑音がはいる場合はマイクロホンの扱い方に注意していただく必要があります。詳しくは後述の「マイクロホンを取り扱うときの注意」をご覧ください。
- 周囲が少し騒がしいところでお使いになる場合は、弊社製品「ヘッドセットマイク」(PC-9801-128)をお買い求めください。(発売中)
- 話者学習は、追加して行うことができます。100文、150文、…と追加していくことによって認識率、変換速度が向上していきます。

マイクロホンを取り扱うときの注意

ボイスノート機能を使うときのマイクロホンの扱い方として次のことに注意してください。

- 周囲の騒音のため、発声した音声が正しくひろえないことがありますので、できるだけ静かな環境で使用してください。
- マイクロホンに息が吹きかかり、発声した音声がマイクロホンで正しくひろえないことがありますので、マイクロホンから少し口を離す(ヘッドセットマイクでは2㎝、その他では10㎝程度)、スポンジまたはガーゼ等でマイクロホンを包むなど、マイクロホンに直接息がかからないようにしてください。
- 口とマイクロホンの距離は常に一定になるようにして、発声してください。また声の大きさもなるべく一定になるように注意して発声してください。
- うまく文章入力ができていないときは、候補選択ウィンドウを表示させて、再生を行い、発声した音声を聞いてみてください。小さすぎて聞き取りにくかったり、大きすぎて音声が歪んでいたりしませんか?この場合には、「入力レベル調整」をやり直した後、上記のマイクロホンの扱い方に十分に注意して発声するようにしてください。

ボイスノート機能の設定

「しゃべっていいメール」を使う前に、まずボイスノート機能を使うための、次の 2 つの設定があります。

・「入力レベル調整」
マイクロホンからの音声入力のレベルを適切な値に調整します。ボイスノートを使う場合は、必ず行ってください。

・「話者学習」
発声する人の発声の特徴を本機に記憶させます。必ずしも行う必要はありませんが、これを行うと、音声の認識精度が高くなり、音声から文字への変換の正確さが向上します。

「入力レベル調整」

① 「入力レベル調整」を起動する。
(「スタート」→「プログラム」→「しゃべっていいメール」→「入力レベル調整」)

② 「次へ」をクリック。
マイクロホンを選ぶ画面になります。

③ 使っているマイクロホンのタイプを選ぶ。
使っているマイクロホン名称の前のボタンをクリックしてください。チェックがつきます。

④ 「次へ」をクリック。

⑤ マイクロホンに向かって発声してレベルゲージが動くことを確認する。
レベルゲージが動くことが確認されると、「次へ」が濃く表示されるようになります。

⑥ 「次へ」をクリック。

⑦ BGM が聞こえることを確認する。
BGM の音が小さすぎたり大きすぎたりする場合は、ゲージをドラッグして音量を調整してください。

⑧ 「次へ」をクリック。

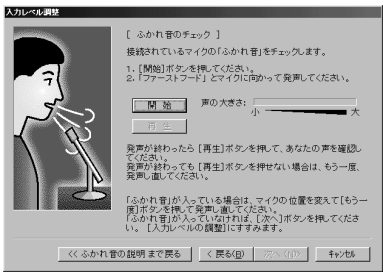
⑨ ふかれ音を聞いてみる。
「ふかれ音あり」をクリックするとふかれ音の入った音声が流れます。マイクロホンよりこのような音声が入力されると正しく音声認識ができません。「ふかれ音なし」をクリックして正しい音声と比較してみてください。

チェック!!
「ふかれ音」とは、マイクロホンの入り口に風があたることによって発生する雑音のことです。

⑩「次へ」をクリック。

⑪ マイクロホンの扱いについての注意事項を確認する。
画面にマイクロホンの取り扱いについての注意事項が出ていますので確認してください。

⑫「次へ」をクリック。



⑬ ふかれ音を確認する。
「開始」をクリックしてマイクロホンに向かって発声してください。「再生」をクリックして発声した音を聞いてください。ふかれ音が入っていればマイクロホンの角度を変えたりして「もう一度」をクリックして再発声してください。ふかれ音が入らなくなったら次へ進みます。

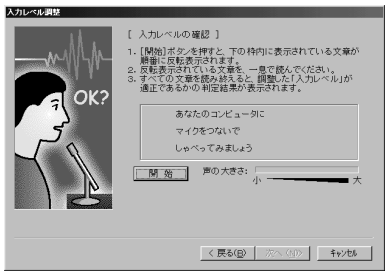
⑭「次へ」をクリック。

⑮ 入力レベル（マイクロホンの音量）を自動調整する。
「開始」をクリックして、画面に表示されている文章を発声してください。
発声する文章は画面上で反転表示されますので、そのタイミングに従って発声してください。
マイクロホンの音量が自動的に調整されます。

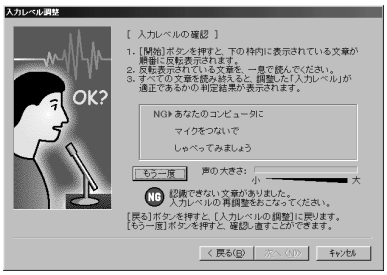
入力レベルの調整がうまくできないときは、下記のような画面が表示されます。メッセージに従って、やり直してください。

音量調整が完了すると、画面に「入力レベルの調整が終了しました。引き続き、入力レベルの確認を行ってください。」と表示されます。

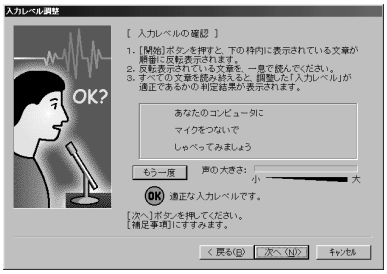
⑯「次へ」をクリック。



⑰ 入力レベルの確認
「開始」をクリックして、画面に表示されている文章を「入力レベルの調整」の時と同じように発声してください。入力レベルが正しく調整されているかをチェックします。
入力レベルの確認がうまくできないときは、下記のような画面が表示されます。
メッセージに従って、やり直してください。



入力レベルの確認が完了すると、画面に「適正な入力レベルです。」と表示されます。

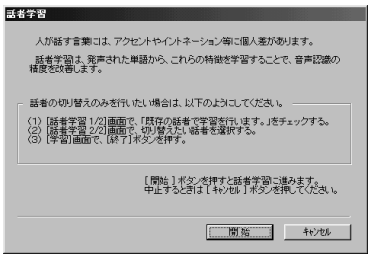


⑱「次へ」をクリック。

⑲「終了」をクリック。
これで、入力レベルの調整は完了です。

「話者学習」

①「スタート」→「プログラム」→「しゃべっていいメール」→「話者学習」をクリック。
「話者学習」ウィンドウが表示されます。



②「開始」をクリック。
「学習」ウィンドウが表示されます。

「新しい話者で学習を行います」が選ばれていることを確認します。

③「次へ」をクリック。
「新しい話者で学習を行います」ウィンドウが表示されます。

④「話者名」に名前を入力し、「性別」を選ぶ。

⑤「次へ」をクリック。
次のウィンドウが表示されます。

⑥「開始」をクリックして、表示されている文の反転表示されている部分（1 回目は「これより」）をマイクロホンに向かって発声する。
発声がOKであれば、次のような画面が表示されます。

「もう一度発声してください」と表示されたときは、もう一度発声を行ってください。「OK」になるまで繰り返してください。
OK であれば、次の部分に反転が移りますので、その部分を発声してください。
一文の発音が全て終ると、次の文へ進みます。以降、同様に全 50 文の発音を行ってください。

最後の単語の発声が終わると次のメッセージが表示されます。

チェック!!

50文をすべて発声せずに途中で「完了」ボタンをマウスでクリックして終了することもできます。その場合は、途中までの単語の学習結果が記憶されます。

⑦「OK」をクリック。
「学習」ウィンドウが閉じます。

チェック!!

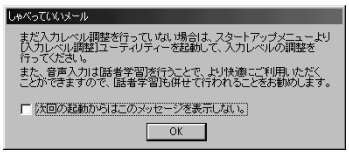
使い始めの頃はマイクロホンに向かって発声することにも不慣れであるため、使い始めの頃に「話者学習」を行ったときの発声が、ボイスノート機能を使い慣れてきたときの発声と違ってきたりすることもあります。ボイスノート機能をある程度使いこなし、マイクロホンに向かって発声することにも慣れてきた時点でもう一度「話者学習」を行うことをおすすめします。

設定

「しゃべっていいメール」を使うために設定しておく必要のある各項目について説明します。手順に沿って、各設定を行ってください。

「設定」ウィンドウの表示

①「しゃべっていいメール」を起動する。
（「ランチ-NX」→「メイン」→「しゃべっていいメール」または「スタート」→「プログラム」→「しゃべっていいメール」→「しゃべっていいメール」）
次のメッセージが表示されます。



次に起動したときに、このウィンドウが表示されないようにするためには、「次回の起動時からはこのメッセージを表示しない。」をクリックして、チェックボックスにチェックを付けてください。

②「OK」をクリック。
初めて「しゃべっていいメール」を起動した場合は、次のウィンドウが表示されます。

③「OK」をクリック。
「設定」ウィンドウが表示されます。

このウィンドウで、「しゃべっていいメール」を使うための設定を行います。

チェック!!

2 回目以降の起動時や、上記の手順で「設定」ウィンドウが表示されない場合は、「しゃべっていいメール」の初期画面で「設定」ボタンをクリックします。

基本設定

基本設定では、メールの送受信に必要な設定を行います。

①「設定」ウィンドウで「基本設定」をクリック。
「基本設定－メールサーバ名－」ウィンドウが表示されます。

②「送信サーバ（SMTP サーバ）」、「受信サーバ（POP サーバ）」の名称を入力する。

チェック!!

- 「送信サーバ（SMTP サーバ）」、「受信サーバ（POP サーバ）」の各名称はプロバイダに加入したときにプロバイダから通知されます（BIGLOBE では「インターネットメールサーバ」のことです）。
- 画面に入っているサーバ名は架空のものです。

参照

- BIGLOBE の「インターネットメールサーバ」→『インターネット入門』PART3「BIGLOBE の入会手続きを行う」

③「次へ」をクリック。
「基本設定－メールアドレス－」ウィンドウが表示されます。

④ 自分のメールアドレスを入力する。

チェック!!

- 「メールアドレス」はプロバイダに加入したときの申請により、プロバイダより与えられます（BIGLOBE では「電子メールアドレス」のことです）。
- 画面に入っているアドレスは架空のものです。

参照

- BIGLOBE の「電子メールアドレス」→『インターネット入門』PART3「BIGLOBE の入会手続きを行う」

⑤「次へ」をクリック。
「基本設定－メールアカウント－」ウィンドウが表示されます。

⑥「メールアカウント」と「メールパスワード」を入力する。

チェック!!

- 「メールアカウント」と「メールパスワード」はプロバイダに加入したときの申請により、プロバイダより与えられます。
- 画面に入っているメールアカウントは架空のものです。

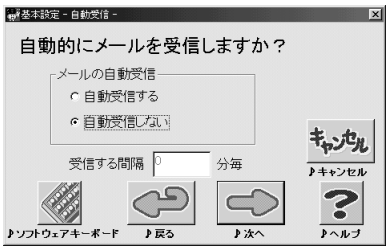
参照

・BIGLOBE の「メールアカウント」と「メールパスワード」→『インターネット入門』PART3「BIGLOBE の入会手続きを行う」

⑦「次へ」をクリック。
「基本設定－名前－」ウィンドウが表示されます。

⑧ 自分の名前を入力する。

⑨「次へ」をクリック。
「基本設定－自動受信－」ウィンドウが表示されます。

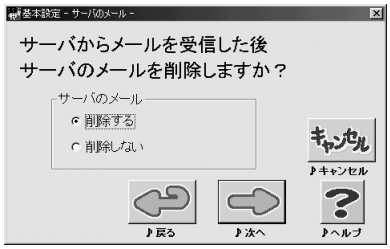


「メールの自動受信」の設定を行います。「自動受信する」に設定すると、「しゃべっていいメール」を起動しているときに、一定の時間の間隔で自動的に新しいメールが届いていないかを調べ、届いていれば受信します。

「自動受信する」にした場合は「受信する間隔」を数字で入力します。単位は「分」です。最大 120 分まで設定できます。通常、15 分以上に設定してください。

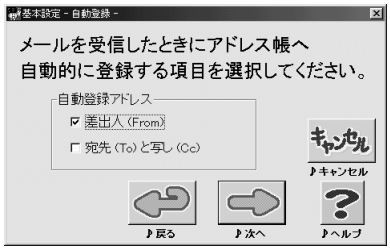
「自動受信しない」にした場合、新しいメールを受信するためには、「しゃべっていいメール」の「メールを受け取る」をクリックします。

⑩「次へ」をクリック。
「基本設定－サーバのメール－」ウィンドウが表示されます。



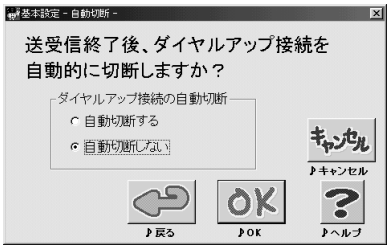
サーバからメールを受信したときに、サーバのメールを削除するかどうかを設定します。
「削除する」に設定すると、メールの受信と同時にプロバイダのサーバにあるメールを削除します。
「削除しない」にすると、メールを受信してもサーバのメールは削除されません。複数のパソコンで同じメールを受信する必要がある場合は、「削除しない」を選んでください。通常は「削除する」を選んでください。

⑪「次へ」をクリック。
「基本設定－自動登録－」ウィンドウが表示されます。



サーバからメールを受信したときに、受信したメールにあるアドレスをアドレス帳に自動登録するかどうかを設定します。
購入時では「差出人（From）」にチェックがついています。この設定では、受信したメールの「差出人（From）」のメールアドレスが自動的に「しゃべっていいメール」の「アドレス帳」に登録されます。
「宛先（To）と写し（CC）」にチェックをつけると、受信したメールの「宛先（To）」と「写し（CC）」のメールアドレスが自動的に「しゃべっていいメール」の「アドレス帳」に登録されます。

⑫「次へ」をクリック。
「基本設定－自動切断－」ウィンドウが表示されます。



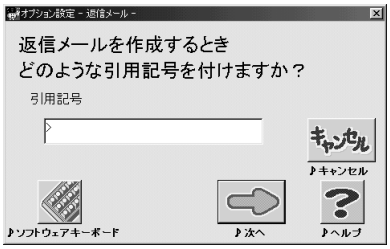
メールを送信したり、受信したりした後で、ダイヤルアップ接続を切断するかどうかを設定します。「自動切断する」に設定すると、メールの送受信の後で、自動的にサーバとの接続を切断します。
「自動切断しない」に設定すると、メールの送受信の後でも、ダイヤルアップ接続は切れません（インターネットに接続したままの状態）。
インターネットの接続料金を節約するためには、「自動切断する」に設定してください。

⑬「OK」をクリック。
「設定」ウィンドウに戻ります。

これで基本設定は完了です。
引き続き、オプション設定を行います。

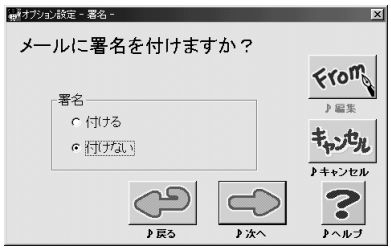
オプション設定

①「設定」ウィンドウで「オプション設定」をクリック。
「オプション設定－返信メール－」ウィンドウが表示されます。



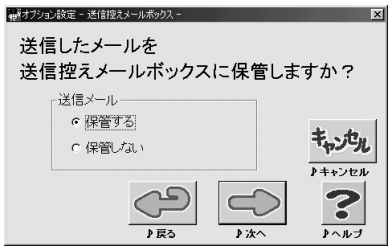
返信メールの引用文字を設定します。メールの返事を書くときに、相手からきた元のメールの各行の先頭に、ここで設定した記号が入ります。元のメールを引用して返事を書く場合、元のメールの部分（各行の先頭に、ここで設定した記号が入っている）と返事の部分の区別がすぐにつくようになります。引用記号のところに任意の記号を入れることができます。

②「次へ」をクリック。
「オプション設定－署名－」ウィンドウが表示されます。



「付ける」に設定すると、メールを書くときに、メールの文章にいつも署名が入るようになります。「付ける」に設定する場合は、「次へ」をクリックする前に、「編集」をクリックして、「署名の作成」ウィンドウで署名を作成してください。
ここでは、「付けない」のままにしておきます。この後の「メールを書いて送る」で実際にメールを書く練習をしてから、ここの設定を「付けない」から「付ける」に変更して、署名を作成することをおすすめします。したがって、署名の作り方の説明はここでは省きます。

③「次へ」をクリック。
「オプション設定－送信控えメールボックス－」ウィンドウが表示されます。

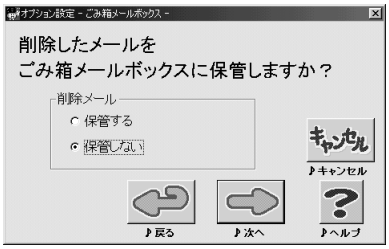


送信したメールを送信控えメールボックスに保管するかどうかを設定します。

「保管する」に設定すると、送信したメールはすべて「送信控え」というメールボックスに保管されます（メールボックスとは、メールを入れておく箱と考えてください）。つまり、メールを送信する前にメールのコピーをとって「送信控え」という名前のついたメール用の箱に入れておくということになります。

「保管しない」にすると、メールはどこにも保管されません。送信したメールの内容を後で確認したくなることもありますので、ここでは「保管する」に設定することをおすすめします。

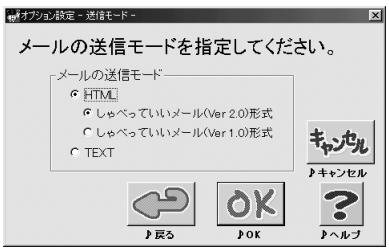
④「次へ」をクリック。
「オプション設定－ごみ箱メールボックス－」ウィンドウが表示されます。



削除したメールをごみ箱メールボックスに保管するかどうかを設定します。

「保管する」に設定すると各メールボックスからメールを削除したときに、削除したメールは、いったん、ごみ箱メールボックスに入ります。誤ってメールを削除した場合でも、すぐにごみ箱メールボックスから持ってくることができます。誤ってメールを削除したときのことを考えて、ここでは「保管する」に設定することをおすすめします、ごみ箱に入ったメールは「ごみ箱を空にする」を指定すると完全に削除されます。

⑤「次へ」をクリック。
「オプション設定－送信モード－」ウィンドウが表示されます。



送信するメールの形式を設定します。
「HTML」に設定すると、HTML形式（ホームページのように画像を貼り付けたり、文字の大きさを変えられる形式）とテキスト形式（絵などが含まれない、文字だけの形式）で送信します。

また、「HTML」では、次のどちらかの形式かを設定します。

・「しゃべっていいメール(Ver 2.0)形式」
しゃべっていいメールVer2.0のHTML形式で送信します。送信する相手が「しゃべっていいメール(Ver 2.0)」や「Microsoft Outlook Express」など、HTML形式のメールを受け取ることができる電子メールソフトを使用している場合は、こちらに設定します。

・「しゃべっていいメール(Ver 1.0)形式」
しゃべっていいメールVer 1.0互換のHTML形式で送信します。送信する相手が「しゃべっていいメール(Ver 1.0)」を使用している場合は、こちらに設定します。

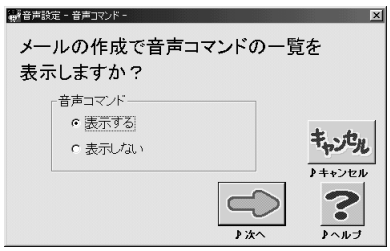
「TEXT」に設定すると、MIME準拠のtext/plain形式でテキストファイルのみを送信します。送信する相手がHTML形式のメールを受け取ることができない場合に設定します。なお、画像が貼り付けられていたり、文字に文字飾りや色の設定がある場合は、無視されます。

⑥「OK」をクリック。
「設定」ウィンドウに戻ります。

これでオプション設定は完了です。
引き続き、音声設定を行います。

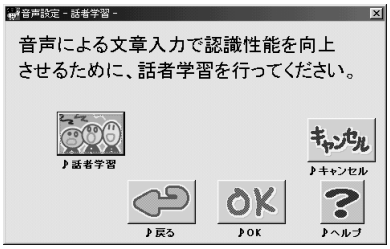
音声設定

①「設定」ウィンドウで「音声設定」をクリック。
「音声設定－音声コマンド－」ウィンドウが表示されます。



「メールの作成」ウィンドウに音声コマンドの一覧を表示するかどうかを設定します。

②「次へ」をクリック。
「音声設定－話者学習－」ウィンドウが表示されます。



「話者学習」を設定していない場合は、ここで「話者学習」をクリックして、設定を行ってください。手順については、前述の「準備」をご覧ください。
ここでは、既に「話者学習」を行っていることにして、次の手順に進みます。

③「OK」をクリック。
「設定」ウィンドウに戻ります。

これで音声設定は完了です。

設定の終了

①「設定」ウィンドウで「OK」をクリック。
これで「設定」は終了です。

なお、各設定は、「しゃべっていいメール」の「設定」をクリックすることで、いつでも変更できます。

チェック!!

各設定の最後に「OK」をクリックしないと、それまでに設定した内容がすべて破棄されます。最後には必ず「OK」をクリックしてください。

メールを読む

「しゃべっていいメール」の「受信箱」メールボックスには、あらかじめ 4 件のメールが入っています。これを読んでみましょう。

①「しゃべっていいメール」を起動する。
(「ランチ-NX」→「メイン」→「しゃべっていいメール」または「スタート」→「プログラム」→「しゃべっていいメール」→「しゃべっていいメール」)

②「メール一覧を見る」をクリック。
「メール一覧」ウィンドウが表示されます。

③ 読みたいメールの「メール番号」をクリック。
(例「0004」の「はじめてのメール」を選ぶ)
選ばれたメールの「メール番号」の部分が反転表示になります。

④「メールを読む」をクリック。
メールが表示されます。

⑤「メール読み上げ」をクリック。
メールの文章が読み上げられます。

⑥「戻る」をクリック。
「メール一覧」ウィンドウへ戻ります。

メールを書いて送る

「メールを読む」で見た「はじめてのメール」と同じような内容のメールを実際に書いて送信してみましょう。これは練習ですので、ここで書いたメールは自分のメールアドレスに送信してみます。ここでの操作を行なう前に、アドレス帳に自分のメールアドレスを登録しておきます。

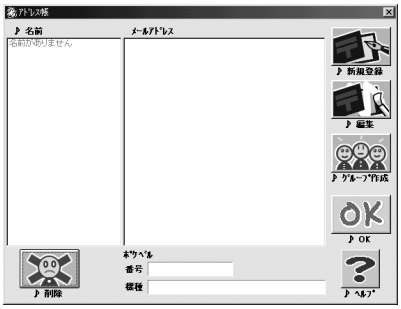
チェック!!

実際のメールのやり取りには、プロバイダと接続されていることが前提となります。

アドレス帳にメールアドレスを登録する

「しゃべっていいメール」では、送信先のメールやアドレスをアドレス帳から選んでメール送信を行います。メールのやりとりを行う相手のメールアドレスはアドレス帳に登録しておきましょう。ここでは、アドレス帳へのメールアドレスの登録方法を説明します。

①「しゃべっていいメール」の初期画面で、「アドレス帳を開く」をクリック。
「アドレス帳」ウィンドウが表示されます。



②「新規登録」をクリック。
「新規登録」ウィンドウが表示されます。

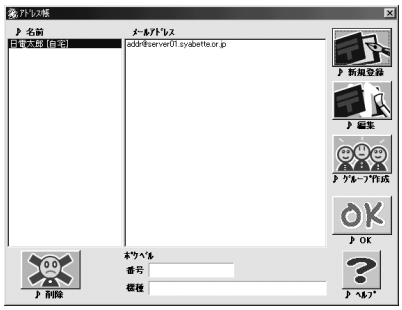
③「名前」と「メールアドレス」を入力する。

チェック!!

- 「しゃべっていいメール」では、ポケットベルにメッセージを送ることができます。ポケットベルにメッセージを送る場合は、ここで「ポケベル番号」、「パスワード」、「機種」を入力しておいてください。

- 一人の個人に対して自宅と会社の2つのデータを登録することができます。

④「OK」をクリック。
「アドレス帳」にメールアドレスが登録されます。



⑤「OK」をクリック。

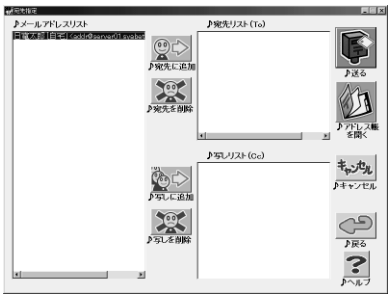
メールを書いて送る

では、実際に「練習のメール」を書いてみます。

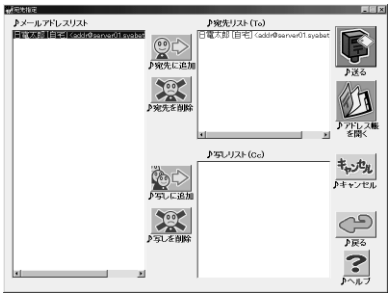
①「しゃべっていいメール」の初期画面で、「メールを書く」をクリック。
「メールの作成」ウィンドウが表示されます。

② 「題目」に入力してから本文を入力する。

③ 入力が終了したら（作成終了）をクリック。
「宛先指定」ウィンドウが表示されます。



④ 送信先の名前をクリックして、「宛先に追加」をクリック。
「宛先リスト」に相手の名前と、メールアドレスが表示されます。



⑤ 「送る」をクリック。
接続が始まります。表示される指示に従って、接続操作をしてください。

送信が完了すると次のウィンドウが表示されます。

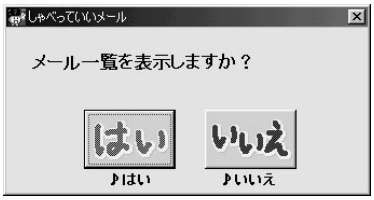
⑥ 「OK」をクリック。
「しゃべっていいメール」の初期画面に戻ります。

メールを受け取る

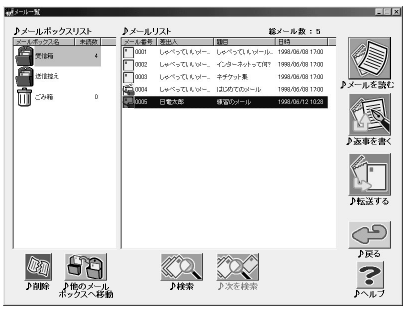
自分宛に送信したメールを受け取ってみましょう。

① 「しゃべっていいメール」の初期画面で、「メールを受け取る」をクリック。
接続が始まり、しばらくして次のウィンドウが表示されます。

② 「OK」をクリック。
次のウィンドウが表示されます。



③ 「はい」をクリック。
「メール一覧」ウィンドウが表示されます。
自分宛に送信した「練習のメール」が表示されています。



この後の、メールの読み方については、前述の「メールを読む」をご覧ください。

ボイスノート機能を使ってメールを書く

「練習のメール」をボイスノート機能を利用して作成してみます。

① 「しゃべっていいメール」を起動する。
(「ランチ-NX」→「メイン」→「しゃべっていいメール」または「スタート」→「プログラム」→「しゃべっていいメール」→「しゃべっていいメール」)

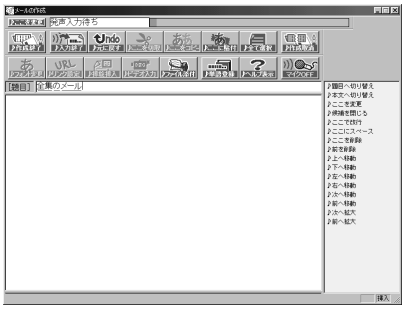
② 「メールを書く」とマイクロホンに向かって区切らずに発声する。
「メールの作成」ウィンドウが表示されます。

ボタンの絵の下に「音符」が書いてあるボタンは音声コマンドで操作することができます。「音符」に続く語句を発声すれば、そのボタンをクリックしたのと同じ動作をします。音声コマンドは複数音節の語句でも区切らずに発声してください。
文章はボイスノート機能を使って書いていきます。

③ 「入力開始」とマイクロホンに向かって区切らずに発声する。
(入力開始) が (入力終了) に変わります。

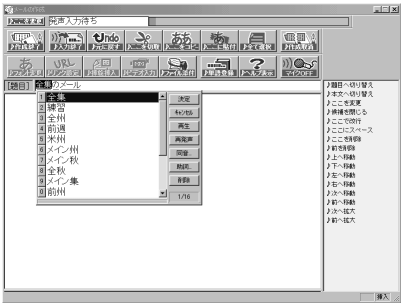
④ 「練習のメール」と発声する。
「れんしゅうのメール」と発声します。発声した文章が入力されますが、そのまま正確に入力されない場合もあります。

例えば次のように入力されたとします。



◎ 修正方法

誤っている単語の後にカーソルを移動し、「ここを変更」と発声、または、マウスをダブルクリックします。候補の画面に該当する単語があれば、その単語の番号をマイクロホンに向かって発声します。または、その単語にカーソルを当てて、クリックします。



⑤ 「本文へ切り替え」と発声する。
本文の入力ができるようになります。

⑥ 同様に本文を発声しながら、入力する。

チェック!!

- 「、」は「てん」、「。」は「まる」と発声してください。1文字分の空白を入れるには「ここにスペース」、改行するには「ここで改行」と区切らずに発声してください。

⑦ 文章を入力できたら、「入力終了」とマイクロホンに向かって区切らずに発声する。
(入力終了) が (入力開始) になり、ボイスノート機能を終了します。

メールを書くときに使用できる音声コマンド一覧

作成終了	さくせいしゅうりょう
音声入力開始	にゅうりょくかいし
音声入力終了	にゅうりょくしゅうりょう
元に戻す	もとにもどす
切り取り	ここをきりとり
コピー	ここをこぴー
貼り付け	ここにはりつけ
すべて選択	すべてせんたく
作成取消	さくせいとりけし
フォント変更	ふぉんとへんこう
リンク設定	りんくせってい
挿絵挿入	さしえそうにゅう
ビデオ入力	びでおにゅうりょく
ファイル添付	ふぁいるてんぷ
単語登録	たんごとうろく
ヘルプ	へるぷひょうじ

カーソル位置を題目へ切り替え	だいもくえきりかえ
カーソル位置を本文へ切り替え	ほんぶんえきりかえ
改行	ここでかいぎょう
スペース入力	ここにすぺーす
候補選択ウィンドウ表示	ここをへんこう
カーソルの後ろの文字を削除	ここをさくじょ
カーソルの前の文字を削除	まえをさくじょ
カーソル位置を上へ移動	うええいどう
カーソル位置を下へ移動	したえいどう
カーソル位置を右へ移動	みぎえいどう
カーソル位置を左へ移動	ひだりえいどう
カーソル位置を次の音声単語の後ろへ移動	つぎえいどう
カーソル位置を前の音声単語の後ろへ移動	まええいどう
選択状態を次の音声単語までひろげる	つぎえかくだい
選択状態を前の音声単語までひろげる	まええかくだい
選択されている候補を削除	ここをさくじょ
候補選択ウィンドウを閉じる	こうほをとじる
次のページの候補	つぎのぺーじ
前のページの候補	まえのぺーじ

1 番	いちばん
2 番	にばん
3 番	さんばん
4 番	よんばん
5 番	ごばん
6 番	ろくばん
7 番	ななばん
8 番	はちばん
9 番	きゅうばん
0 番	ぜろばん

候補リスト内を上へ移動	うえ
候補リスト内を下へ移動	した

削除	さくじょ
最初	さいしょ
最後	さいご
確定	かくてい
再生	さいせい
再発声	さいはっせい

画像のメールを送る

「しゃべっていいメール」では、写真や絵などの画像をメールで送ることができます。

画像をメールに貼り付ける

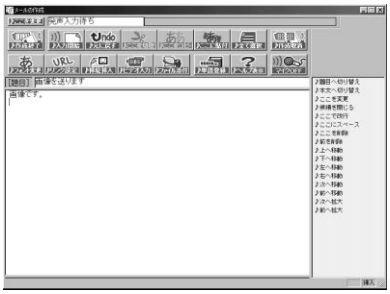
画像をメールに貼り付けて、送ってみましょう。

①「しゃべっていいメール」を起動する。
(「ランチ-NX」→「メイン」→「しゃべっていいメール」または「スタート」→「プログラム」→「しゃべっていいメール」→「しゃべっていいメール」)

②「メールを書く」をクリック。
「メールの作成」ウィンドウが表示されます。

③「題目」にメールのタイトル（例：画像を送ります）を入力する。

④本文を入力する。



⑤ (挿絵挿入) をクリック。
「挿絵挿入」ウィンドウが表示されます。

⑥ 画像の入っているフォルダを選ぶ。
（例：「動物」を選ぶ）
フォルダの中の画像の一覧が表示されます。

⑦ メールに貼り付ける画像を選ぶ。
選んだ画像が太い枠で囲まれます。

⑧「OK」をクリック。
選んだ画像が「メールの作成」ウィンドウに表示されます。

この後の、メールの送り方については、前述の「メールを書いて送る」をご覧ください。

ビデオカメラから写真を撮る

ビデオカメラで写真（静止画像）を撮ることができます。

チェック!!

写真（静止画像）を撮るには、別売のUSB対応デジタルビデオカメラ（PK-MC202など）または、Video for Windows準拠のビデオキャプチャボードとビデオカメラが必要です。

①「しゃべっていいメール」を起動する。
(「ランチ-NX」→「メイン」→「しゃべっていいメール」または「スタート」→「プログラム」→「しゃべっていいメール」→「しゃべっていいメール」)

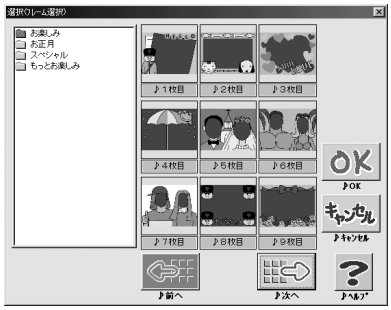
②「メールを書く」をクリック。
「メールの作成」ウィンドウが表示されます。

③「題目」にメールのタイトル(例:画像を送ります)を入力する。

④ 本文を入力する。

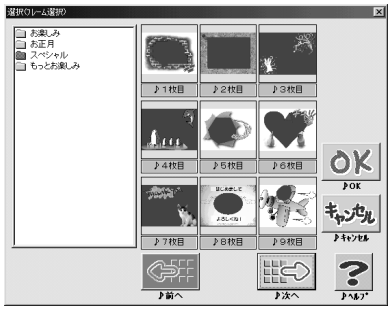
⑤ (ビデオ入力)をクリック。
「ビデオ入力」ウィンドウが表示されます。

⑥ フレーム(イラストなどがついた枠)を変更するには、「選択」をクリック。
「選択(フレーム選択)」ウィンドウが表示されます。

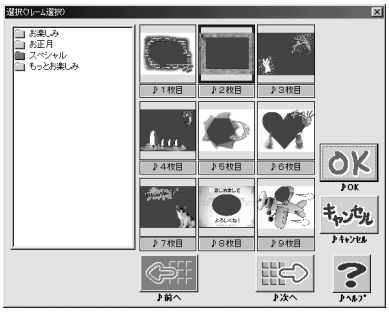


4種類のフォルダがあります。ここでは「スペシャル」を選びます。

⑦「スペシャル」をクリック。
「スペシャル」にあるフレームの一覧が表示されます。



⑧ 使いたいフレームをクリック。
選ばれたフレームの周りが黒く囲まれます。



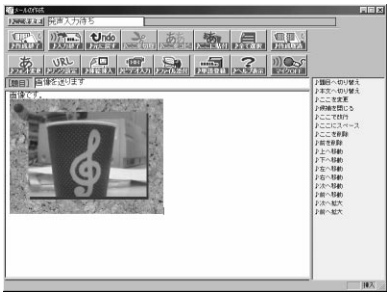
⑨「OK」をクリック。
選んだフレームの中に、カメラでの映像が表示されています。

フレームをつけたくない場合は、「フレーム」をクリックします。

フレームなしの画像になります。

⑩ 取り込みたい画像が決まったら、「静止画」をクリック。
次のウィンドウが表示されます。

⑪「OK」をクリック。
画像が「メールの作成」ウィンドウに表示されます。



この後の、メールの送り方については、前述の「メールを書いて送る」をご覧ください。

ビデオ画像を取り込む

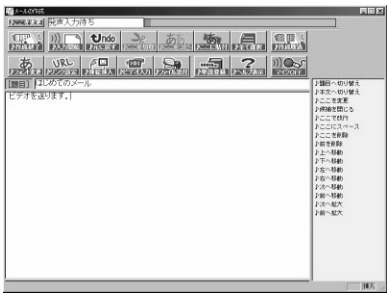
メールにビデオ画像を入れてみましょう。

チェック!!

- ビデオ画像の取り込みには、別売のUSB対応デジタルビデオカメラ（PK-MC202など）または、Video for Windows準拠のビデオキャプチャーボードとビデオカメラが必要です。
- ビデオ画像のデータ量は大きくなるので、動画の時間は短くすることをおすすめします。
- あらかじめビデオ機器とパソコンを接続してください。

① 「しゃべっていいメール」の初期画面で「メールを書く」をクリックして、「メールの作成」ウィンドウで「題目」「本文」を入力する。

② 文章中のビデオを挿入したい所にカーソルを持ってくる。

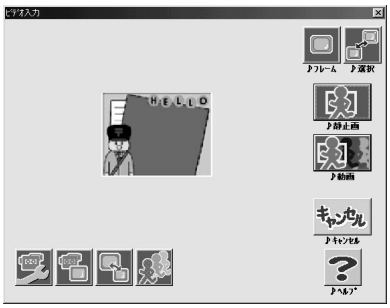


③ 「ビデオ入力」をクリック。

チェック!!

ビデオ入力の準備に時間がかかる場合があります。

しばらくすると次の画面になります。



④ 接続したカメラを映像が出力される状態にする。

⑤「動画」をクリック。
取り込みを開始します。

取り込みは自動的に終了し、「MPEG 圧縮中」の表示が出ます。
パラメータが 100%になるまでお待ちください。

チェック!!

マウスをクリックするか、【Esc】を押すと、途中で取り込みを終了することができます。

⑥「動画の確認」が表示されたら、「OK」をクリック。
ビデオ画像がメールに添付されます。

ポケットベルへ送信する

ポケットベル(以降、ポケベル)にメッセージを送信してみましょう。

チェック!!

・メッセージ送信が可能なポケベルは、NTT DoCoMo インフォネクスト漢字表示に対応した下記の 4 機種です(1998 年 5 月現在)。

機種名:インフォネクスト A55、B55、D11、D15

・送信にはポケベルが契約しているNTT DoCoMo営業所の情報が必要です。

1998年5月現在対応しているのは、以下の 9 営業所です。

NTT DoCoMo(関東, 甲信越)、NTT DoCoMo東海、NTT DoCoMo北陸、NTT DoCoMo関西、NTT DoCoMo 中国、NTT DoCoMo 四国、NTT DoCoMo 九州、NTT DoCoMo 東北、NTT DoCoMo北海道

・送信できるメッセージの最大文字数は 50 文字(100 バイト)です。

① しゃべっていいメールの初期画面で「ポケベルにメッセージを送る」をクリック。しばらくすると、次のウィンドウが表示されます。

② メッセージを入力し、「作成終了」をクリック。
次のウィンドウが表示されます。

③ 宛先を指定し、「送る」をクリック。
作成したメッセージが送信されます。

ボイスペンを使う

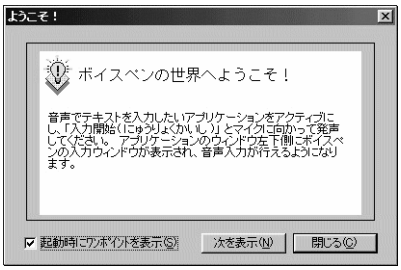
「ボイスペン」を使えば、メモ帳、ワープロなどのアプリケーションに「しゃべっていいメール」のボイスノート機能を使って文章を入力することができます(一部、入力できないアプリケーションもあります)。

チェック!!

「しゃべっていいメール」でボイスノート機能を使って文章を入力する場合は、「ボイスペン」をタスクバーからはずしておいてください。はずしかたについては後述の「ボイスペンをタスクバーからはずす」をご覧ください。

ボイスペンを使えるようにする

①「スタート」→「プログラム」→「しゃべっていいメール」→「ボイスペン」をクリック。
「ようこそ!」ウィンドウが表示されます。



②「次を表示」をクリックして、次の説明を表示する。
「次を表示」を何度かクリックすると、はじめの説明に戻ります。ここには「ボイスペン」の使い方を簡単に説明していますので、よく読んでおいてください。

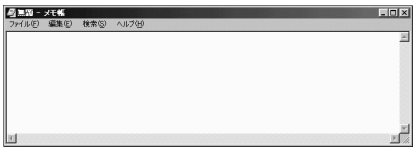
③ 説明をひと通り読み終わったら「閉じる」をクリック。
タスクバーの右隅にボイスペンが登録され、「ボイスペン」のアイコンが表示されます。

これで「ボイスペン」が使える状態になりました。

ボイスペンを使って文章を入力する

ここでは例として「メモ帳」に文章を入力してみましょう。

①「メモ帳」を起動する。
(「スタート」→「プログラム」→「アクセサリ」→「メモ帳」)

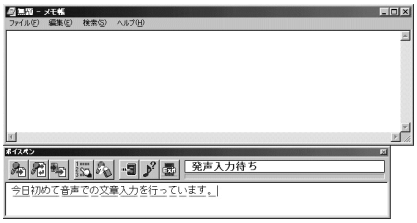


②「入力開始」とマイクロホンに向かって区切らずに発声する。
「メモ帳」の画面の下に横長の文字入力域（音声入力バー）が出てきます。これが「ボイスペン」の画面です。

③「メモ帳」に入力する文章をマイクロホンに向かって発声する。

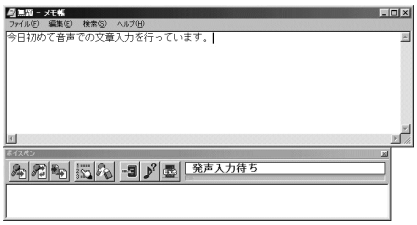
「ボイスペン」の上端または下端をマウスで上下にドラッグすると、文字入力域のサイズを変更できます。

④ 誤って入った単語を直す。
誤っている単語の後にカーソルを移動し、「ここを変更」と発声、または、マウスをダブルクリックします。候補の画面に該当する単語があれば、その単語の番号をマイクロホンに向かって発声します。または、その単語にカーソルを当ててクリックします。



⑤ 単語を修正して正しい文章になったら、「これで確定」とマイクロホンに向かって区切らずに発声する。
「ボイスペン」で入力した文章が「メモ帳」に貼り付けられます。

「ボイスペン」で入力した文章が「メモ帳」に貼り付けられると、「ボイスペン」の文章入力域が空になります。



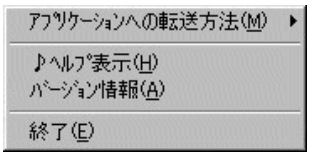
⑥ 手順③～⑤を繰り返して、次々と文章を入力する。

⑦ 文章の入力が終わったら、「入力終了」とマイクロホンに向かって区切らずに発声する。
これで「ボイスペン」での文章入力は終了です。

ボイスペンをタスクバーからはずす

ボイスペンをタスクバーからはずすとボイスペンが使えなくなります。
ボイスペンをタスクバーからはずす方法は次の通りです。

① タスクバーの右隅にある「ボイスペン」のアイコンをクリックしてメニューを表示させる。



②「終了」をクリック。

ボイスペンを使うときの注意

ボイスペンの音声入力バー（横長の文字入力域）に音声で文章を入力して「これで確定」または「これではりつけ」と発声しても、目的のアプリケーションに文章が入力できない場合があります。
このような場合は、目的のアプリケーションの入力したい場所をもう一度マウスでクリックし、「これで確定」と発声してください。

チェック!!

「ボイスペン」にはアプリケーションへの転送モードが2種類用意されています。
うまくアプリケーションに入力されない場合は、「ボイスペン」のアイコンをクリックしてメニューを表示させ、「アプリケーションへの転送方法」でもう一つの転送モードに切り換えてみてください。

自分のホームページを作る〈HOTALL〉

「HOTALL（ホタル）」は、ホームページを自分で作るためのソフトウェアです。

概要

「HOTALL」は、ワープロ感覚でホームページを作ることができるソフトウェアです。
ホームページは、"HTML"という形式のテキスト文書（文字だけの文書）で作成されています。文字の大きさや色といった情報や、画像の種類や大きさ、配置といったさまざまな情報は、すべて"タグ"というひとかたまりの文字列によって表現されています。しかし、タグには多くの種類があり、また正確に書かなければいけないので、実際にタグを使ってホームページを作るのは大変です。
「HOTALL」の画面は、実際にWWWブラウザで見たときと同じようなイメージで表示され、見たままを自由に編集することができるので、面倒なタグの種類や書き方を覚えなくても、ワープロ感覚でホームページを作ることができます。作成したホームページは、「HOTALL」が自動的に"HTML"形式で保存してくれます。また、作ったホームページをプロバイダのサーバに送るためのFTPツールも付属しているので、ホームページを簡単にサーバに登録することができます。

使用する前に

ここでは、「HOTALL」の基本的な使い方について説明します。ここに記載されていないメニュー、ダイアログボックスの設定方法などについては、オンラインヘルプをご覧ください。

作成したホームページについて

「HOTALL」で作成したホームページは、お使いのWWWブラウザで開くことができます。ただし、お使いのWWWブラウザによって、表示できる書式や細部のレイアウトが異なることがあります。また、WWWブラウザによっては、「HOTALL」の機能のすべてには対応していないことがあります。
ホームページをインターネットで公開するためには、プロバイダのユーザホームページ開設サービスなどを利用する必要があります。各プロバイダにお問い合わせの上、ホームページ開設サービスが利用できるかどうかをご確認ください。

チェック!!

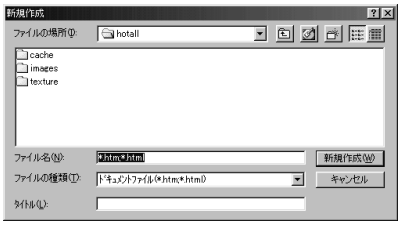
NECのプロバイダ「BIGLOBE」の「BIGLOBEばりばりコース」に入会すると、5Mバイトまでなら無料でホームページを開設することができます。
BIGLOBEへの入会方法は、『インターネット入門』をご覧ください。

ホームページを作る

HOTALLの起動

①「HOTALL」を起動する。
（「ランチ-NX」→「インターネット活用＆クリエイティブ」→「HOTALL（ホームページ作成）」または「スタート」→「プログラム」→「HOTALL」→「HOTALL（NEC版）」）
「HOTALL」の初期画面が表示されます。

②「ファイル」メニューの「新規作成」をクリック。
「新規作成」ウィンドウが表示されます。

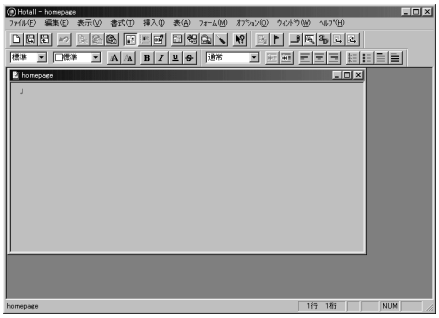


③ ファイル名を入力して「新規作成」をクリック。
（例　homepage）

チェック!!

あとでホームページにのせる画像データを同じフォルダに集めるので、新しいフォルダを作って、その中にファイルを作ることをおすすめします。

次の画面が表示されます。この画面で、ワープロのように文字や画像を編集しながらホームページを作ることができます。



ホームページの設定を行う

これから作るホームページの設定をします。ここでは、ページのタイトルと背景を設定しましょう。

タイトルの入力

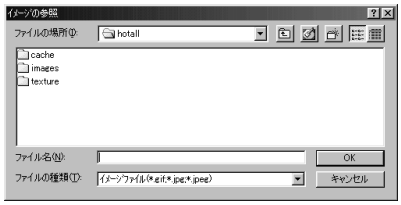
①「ファイル」メニューの「ドキュメントの設定」をクリック。
「ドキュメントの設定」ウィンドウが表示されます。

②タイトルを入力する。
（例「ホームページ」と入力）

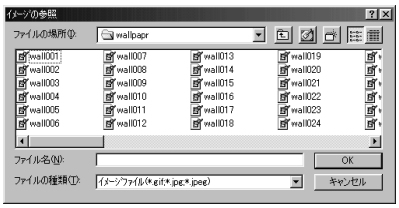
背景イメージの設定

「ドキュメントの設定」ウィンドウで、背景イメージを設定します。
「HOTALL」には、背景イメージのサンプルが用意されていますので、それを使ってみましょう。
背景イメージは”C:\Program Files\hotall\images\wallpapr”フォルダにあります。

①「ドキュメントの設定」ウィンドウで「背景イメージ」の「参照」をクリック。
「イメージの参照」ウィンドウが表示されます。



② 「images」をダブルクリックして、「wallpapr」をダブルクリック。
「wallpapr」フォルダにあるファイルが表示されます。

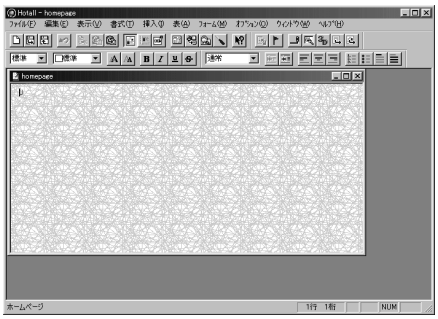


③ 「wall024」をダブルクリック。
「背景イメージ」が「サンプル」に表示されます。

チェック!!

wallpaprフォルダには、このほかにも何種類もの壁紙が用意されています。ツールバーの をクリックしてイメージパレットを起動し、wallpaprフォルダの中身を見ると、壁紙を一覧できます。

④ 「OK」をクリック。
次の画面が表示されます。



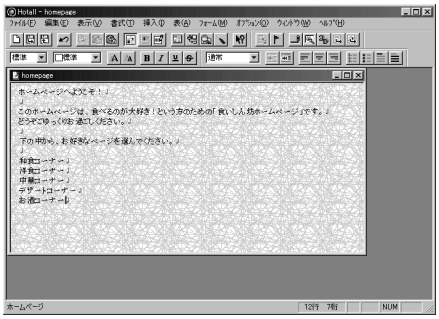
チェック!!

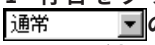
「ドキュメント設定」ウィンドウでは、タイトルや背景イメージの他に文字サイズや文字の色なども設定できます。詳しくはオンラインヘルプをご覧ください。

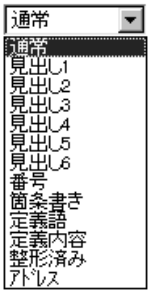
文字を入力する

ワープロと同じように、文字を入力します。ホームページに載せたい内容を入力していってください。

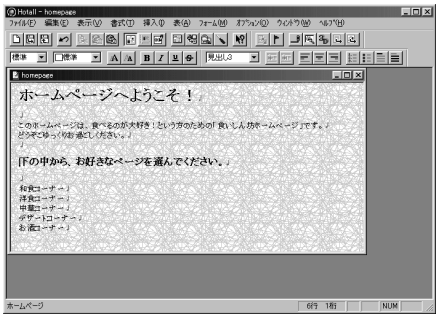
① 文字を入力する。
（例　下の画面のように入力）



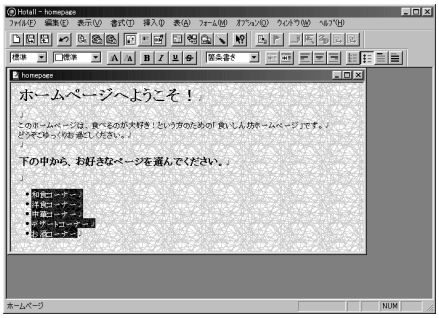
② 1 行目をクリックしてから、ツールバーの  のをクリック。
下の画面が表示されます。



③ 「見出し 1」をクリック。
1 行目が "見出し 1" のスタイルになります。
（例　この例では 1 行目を "見出し 1"、4 行目を "見出し 3" に設定しています）



④ 5行目から9行目をドラッグで指定してから、ツールバーの をクリック。
5行目から9行目が"箇条書き"のスタイルになります。



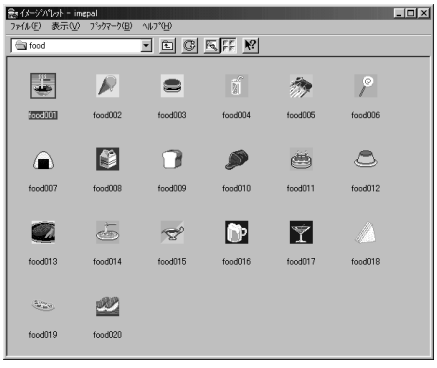
チェック!!
文字には、このほかにもいろいろなスタイルや色を設定することができます。詳しくはオンラインヘルプをご覧ください。

イラストを入れる

ホームページにイラストを入れてみましょう。
ここでは「HOTALL」に用意されているサンプルのイラストを使います。

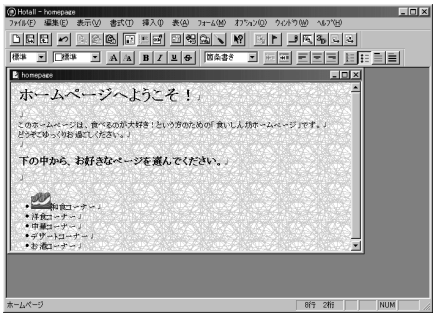
①「スタート」→「プログラム」→「HOTALL」→「イメージパレット」をクリック。
「イメージパレット」が起動します。

②「images」フォルダ→「food」フォルダを選ぶ。
次の画面が表示されます。



③ HOTALLとイメージパレットの両方のウィンドウが見えるように、それぞれのウィンドウを移動する。

④ イメージパレット上のイラストを、HOTALL上の挿入したい箇所までドラッグ。
(例　この例では"food020"を「和食コーナー」の前にドラッグ)
ホームページ上にイラストが貼り付けられます。



チェック!!
・imagesフォルダには、"food"フォルダのほかにもジャンル別にいくつかのフォルダがあり、それぞれにイラストが用意されています。

・自分で作ったイラストや写真を入れたい場合は、作ったデータをディスクに保存しておき、そのフォルダをイメージパレットで選択すれば表示されます。ビットマップファイル(*.BMP)、GIFファイル(*.GIF)、JPEGファイル(*.JPG)が利用できます。

他のページにリンクする

ホームページを見ていると、「リンク」といって、クリックするとほかのページへ移れるようになっている場所があります。「HOTALL」では、リンクの設定も簡単に行えます。
ここでは、例として“ホームページ”から“和食コーナー”というページにリンクしてみましょう。

リンクするページを作る

“ホームページ”を作ったときと同じ手順で、“和食コーナー”というページを作ります。

①「ファイル」メニューの「新規作成」をクリック。
「新規作成」ウィンドウが表示されます。

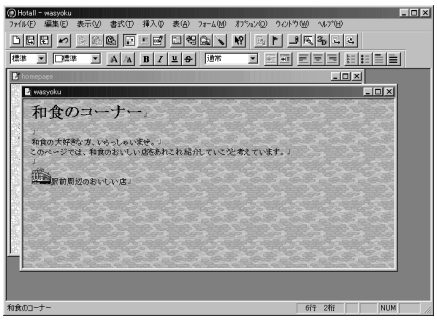
② ファイル名を入力して「新規作成」をクリック。
(例 wasyoku)

③「ファイル」メニューの「ドキュメントの設定」をクリック。
「ドキュメントの設定」ウィンドウが表示されます。

④ タイトルを入力し、各設定を行う。
（例 タイトルを“ 和食コーナー ”、背景イメージを“ C:\Program Files\hotall\images\Wallpapr\wall025 ”に設定）

⑤「OK」をクリック。

⑥ 文字やイラストを入力。
“ 和食のコーナー ”のページができます。

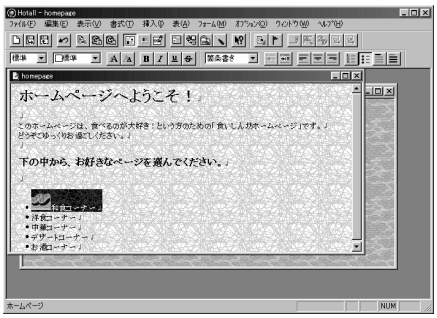


⑦ 作成がおわったら、ファイルを上書き保存する。

リンクを設定する

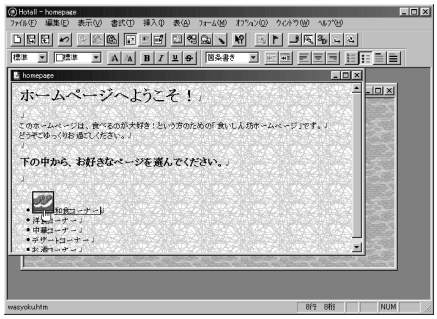
“ ホームページ ”から“ 和食コーナー ”にリンクできるように設定します。

①“ ホームページ ”の本文中からリンクを設定したい部分をドラッグ。
（例　和食コーナーのイラストと文字をドラッグ）



②「書式」メニューから「ハイパーリンク」をクリック。
「ハイパーリンク」ウィンドウが表示されます。

③「リンク先ファイル名」に、リンク先にしたいファイル名を入力して「OK」をクリック。
（例　wasyoku.htm）
リンクが張られ、イラストには枠が、文字には下線が付きます。また、マウスポインタをイラストや文字に合わせると、指の形に変わります。



チェック!!

- リンク先のファイルが作成中のファイルと違うフォルダにある場合は、あらかじめ同じフォルダにコピーしておくことをおすすめします。
- リンク先ファイル名に URL を入力すると、ほかのホームページへリンクすることができます。ただし、ホームページの中にはリンクを許可していないものもあるので、他人の作ったホームページへリンクするときは注意してください。

ホームページを保存する

①「ファイル」メニューから「上書き保存」をクリック。
作成中のホームページが保存されます。

ホームページを別の名前で保存するには

すでに作成済みのページを修正して別のページを作る場合など、もとのページとは別に保存したい場合は、次のようにしてください。

①「ファイル」メニューから「名前を付けて保存」をクリック。
「名前を付けて保存」ウィンドウが表示されます。

② もとのページとは別のファイル名を入力して「保存」をクリック。
ホームページが別の名前で保存されます。

チェック!!

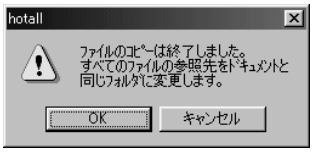
リンクが設定してあるページは、すべて同じフォルダに保存することをおすすめします。

イラストデータを集める

イラストなど、ページ上に貼り付けてあるデータはすべて同じフォルダにあった方が、サーバに登録するときなどに便利です。「HOTALL」では、これらのデータを簡単に集めることができます。

①「ファイル」メニューから「外部ファイルの収集」をクリック。
次のウィンドウが表示されます。

②「OK」をクリック。
ファイルがホームページと同じフォルダにコピーされ、次のウィンドウが表示されます。



③「OK」をクリック。
ホームページ中のファイルの参照先が変更されます。これで、ホームページをサーバに登録するときは、ひとつのフォルダの中身をすべて登録すればよいことになります。

チェック!!

リンク先のファイルは収集できません。

ホームページを公開する

ホームページができあがったら、インターネットで公開しましょう。「HOTALL」にはそのためのツールも用意されています。

ホームページの仕上がりを確認する

できあがったホームページが、WWWブラウザでどのように見えるか、確認してみましょう。

①「オプション」メニューの「IEXPLORE」をクリック。
「Internet Explorer」が自動的に起動して、「HOTALL」で作成中のホームページが表示されます。

この画面で、実際にWWWブラウザで見たときのレイアウトを確認してください。
(上の例は、「ホームページを作る」で作成した例に、書式の設定やイラストを加えて完成させたものです。)

チェック!!

「Internet Explorer」では正しく表示されていても、ほかのWWWブラウザでは正しく表示できないことがあります。また、WWWブラウザによっては、「HOTALL」の機能のすべてには対応していないことがあります。

② 画面右上の×をクリック。
「Internet Explorer」の画面が閉じます。

ホームページをサーバに転送する

ここでは、「HOTALL」のFTPツールを使ってホームページをサーバに登録する方法を説明します。

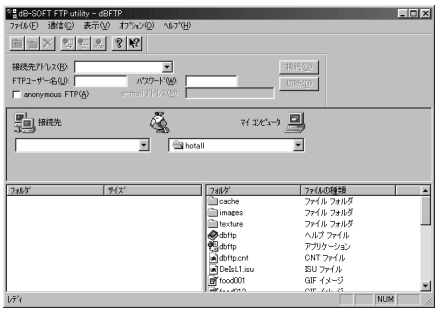
■ FTP サーバについて

FTP ツールを使うには、プロバイダに FTP（File Transfer Protocol）サーバが必要です。また、FTP サーバには、匿名で接続できる"anonymous（アノニマス＝匿名）FTP"と、接続のたびにユーザ名とパスワードが必要なものがあります。FTPサーバへの接続方法はプロバイダによって異なりますので、詳しくは各プロバイダにお問い合わせください。

■ ホームページの公開について

ホームページをインターネットで公開するための方法や、利用できるサーバのディスク容量は、プロバイダによって異なります。詳しくは各プロバイダにお問い合わせください。

① 「スタート」→「プログラム」→「HOTALL」→「dBFTP」をクリック。
FTP ツールの画面が表示されます。



② 接続先アドレスの欄に、FTPサーバのアドレスを入力する。（例：ftp.biglobe.ne.jp）

③ FTP サーバが"anonymous FTP"の場合は、「anonymous FTP」をチェックして、e-mailアドレスを入力する。そうでない場合は「anonymous FTP」のチェックをクリアして、FTPユーザー名とパスワードを入力する。

チェック!!

FTP サーバのアドレスや接続に必要な情報については、各プロバイダにお問い合わせください。

④ 「接続」をクリック。
インターネットに接続し、FTP サーバに接続されると、「接続先」の欄に FTP サーバの内容が表示されます。

⑤ 「接続先」の欄に、転送先のフォルダが表示されていることを確認する。

チェック!!

どのフォルダに転送してよいか分からない場合は、プロバイダにお問い合わせください。

⑥ 「マイ コンピュータ」の欄で、転送するフォルダまたはファイルを選択する。

チェック!!

フォルダを選択すると、フォルダ内のファイルをいちどに転送することができます。

⑦ 「ファイル」メニューの「接続先へファイルをコピー」をクリック。
転送を確認するメッセージが表示されます。

⑧ 「はい」をクリック。
フォルダまたはファイルが、FTPサーバに転送されます。

⑨ 転送が終わったら、「切断」をクリック。
インターネットへの接続が切断されます。

チェック!!

切断しないと、電話料金とプロバイダへの接続料金がかかり続けます。

さまざまな通信サービス

本機で「BIGLOBE」、「AOL」、「NIFTY SERVE」に接続するための設定方法について説明します。

概要

各サービスの会員となることで、各サービス独自のサービスを受けることができます。「BIGLOBE」、「AOL」、「NIFTY SERVE」は、いずれもパソコン用通信サービスで、電子メールやオンラインショッピング、仕事や趣味の共通の話題について話し合える「フォーラム」などのサービスを提供しています。本機には、それぞれのパソコン通信サービス専用の接続ソフトが添付されていますので、各サービス会社と契約の上、簡単にサービスを利用することができます。

パソコン通信を利用する前に

パソコン通信をする前に、本機の FAX モデムボードと電話回線が正しく接続されていることを必ず確認してください。

参照
・電話回線との接続→『STEP 1 接続と準備』PART2「電話回線に接続する」

BIGLOBE Walker を利用する

「BIGLOBE」の通信サービスを利用する場合は、「BIGLOBE Walker」をおすすめします。

BIGLOBE Walker について

「BIGLOBE Walker」は、インターネットに接続したり、電子メールをやりとりするためのソフトウェアです。インターネットや電子メールも BIGLOBE Walker1つで利用することができ、簡単に情報を整理することができます。

入会手続き（サインアップ）

「BIGLOBE Walker」を利用するには、まず最初に入会手続きをして、「BIGLOBE」の会員になる必要があります。
「BIGLOBE サインアップナビ」というソフトを使って、「BIGLOBE」に入会できます。

チェック!!

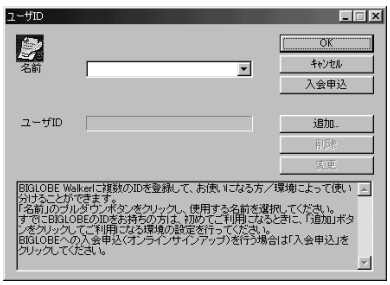
「オンラインサービス」フォルダにある「BIGLOBE でインターネット スタートキット」は利用しないでください。本機専用の特典（利用料金の割引きなど）は受けられない場合があります。
『インターネット入門』の PART3「BIGLOBE に入会する」での手順にしたがって、入会手続き（サインアップ）をしてください。

参照
・「BIGLOBE サインアップナビ」を使った入会方法→『インターネット入門』PART3「BIGLOBE に入会する」

はじめて BIGLOBE Walker を起動する

はじめて BIGLOBE Walker を起動する場合は、次の手順で操作してください。

① BIGLOBE Walker を起動する。
（「ランチ-NX」→「メイン」→「BIGLOBE Walker」または、「スタート」→「プログラム」→「BIGLOBE ツール」→「BIGLOBE Walker」→「BIGLOBE Walker」）
「ユーザ ID」のウィンドウが表示されます。



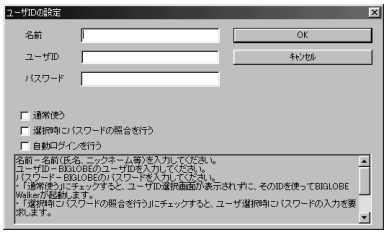
チェック!!

・「自動サインアップ」のウィンドウが表示された場合、「BIGLOBE」の会員の方（すでに「BIGLOBE」のユーザ ID を持っている方）は、「いいえ」をクリックしてください。

まだ、「BIGLOBE」に入会していない方は、「はい」をクリックして、BIGLOBE サインアップナビでサインアップを行ってください。詳しくは『インターネット入門』をご覧ください。サインアップ後、再び、手順①から行ってください。

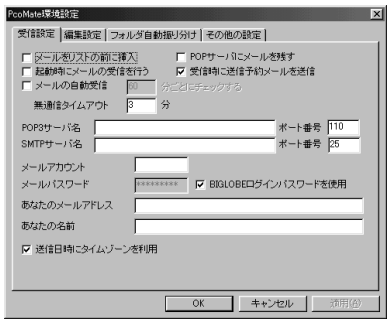
・「BIGLOBEサインアップナビ」を使ってサインアップした場合は、既に「名前」と「ユーザID」が設定されています。ここでは、サインアップしていない場合で説明しています。

② 「ユーザID」のウィンドウで「追加」をクリック。
「ユーザID の設定」ウィンドウが表示されます。



③ 「名前」「ユーザID」と「パスワード」を入力して「OK」をクリック。
「ユーザID」のウィンドウに戻ります。

④ 設定した名前が表示されていることを確認して「OK」をクリック。
「PcoMate 環境設定」ウィンドウが表示されます。



必要事項を設定してください。
（例はBIGLOBEのメールアドレスがpstarou@mxx.biglobe.ne.jp の場合）

・POP3 サーバ名
メール受信時のサーバ（例：mxx.biglobe.ne.jp）

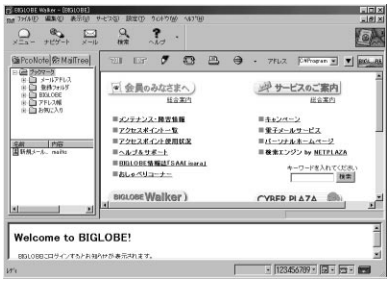
・SMTP サーバ名
メール送信時のサーバ（例：mxx.biglobe.ne.jp）

・メールアカウント
メールサーバに接続するときのアカウント
（例：pstarou）

・あなたのメールアドレス
送信時のメールアドレス
（例：pstarou@mxx.biglobe.ne.jp）

・あなたの名前
メールの送信者名（例：PS 太郎）

⑤ 「OK」をクリック。
BIGLOBE Walker が起動します。



通信の設定をする

「BIGLOBE Walker」が起動したら、通信の設定を行います。

① メニューバーの「設定」→「通信設定」をクリック。

チェック!!

はじめて通信の設定をするときは、「「新規作成」をクリックして接続先を設定してください」と表示されます。「OK」をクリックすると上記の画面になりますので、「新規作成」をクリックして設定を行ってください。

各項目の詳細については、BIGLOBE Walker のヘルプをご覧ください。BIGLOBE Walker のヘルプはツールメニューの ? ヘルプ をクリックすると起動することができます。

AOLを利用する

パソコン通信サービス「AOL（アメリカ・オンライン）」のサービスを利用する場合は、「AOL」を使います。

チェック!!

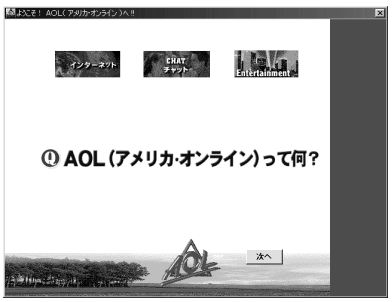
「オンラインサービス」フォルダにある「AOL」を使う場合、下記とは手順が違います。
下記の手順を行うことをおすすめします。

AOLのセットアップ

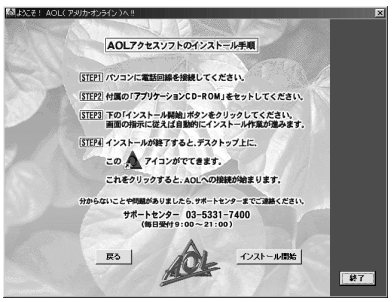
本機には、「AOL」はセットアップされていません。本機で「AOL」を利用するには、本機にセットアップされている「AOLへのご招待」を使用して、次の手順で「AOL」をセットアップしてください。

① 本機添付の「アプリケーションCD-ROM」をCD-ROMドライブにセットする。

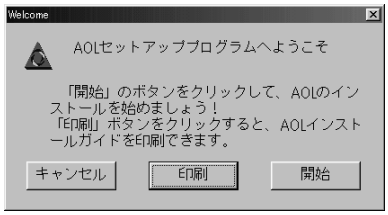
② 「AOLへのご招待」を起動する。
（「ランチ-NX」→「スタディ＆ヘルプ」→「AOLへのご招待」または「スタート」→「プログラム」→「AOL」→「AOLへのご招待」）
AOLの紹介画面が表示されます。



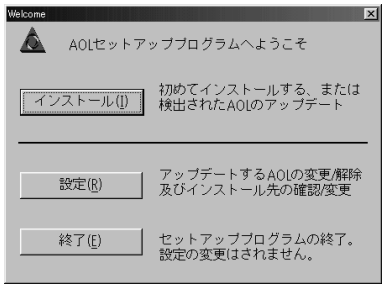
しばらくすると「次へ」ボタンが表示されますので、次々と「次へ」をクリックしていき、画面の内容を読んで操作を進めてください。「次へ」を7回クリックすると、次の画面が表示されます。



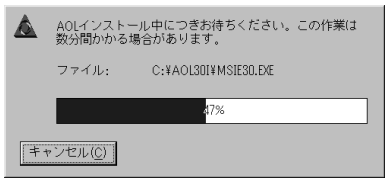
③ 「インストール開始」をクリック。
次の画面が表示されます。



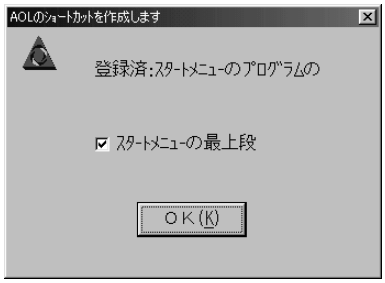
④ 「開始」をクリック。
次の画面が表示されます。



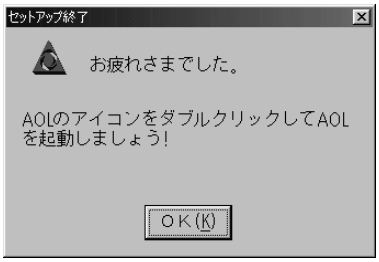
⑤ 「インストール」をクリック。
インストールが始まります。



途中で「AOLのショートカットを作成します」ウィンドウが表示されます。



⑥「OK」をクリック。
「お疲れさまでした。」と表示されます。



⑦「OK」をクリック。
これでインストールは完了です。

入会手続き（サインアップ）

はじめてAOL（アメリカ・オンライン）を利用する場合は、まず最初に入会手続きをして、AOL（アメリカ・オンライン）の会員になる必要があります。

参照
・入会方法→『AOL ハンドブック』

AOL の起動

「AOL」を起動して、「AOL」を利用します。

① デスクトップの「AOL の世界へようこそ」をクリック。
「AOL」が起動します。

詳しい使い方は本機添付の『AOLハンドブック』をご覧ください。

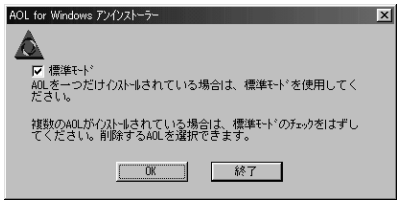
AOL の削除

「AOL」が不要になったときは、次の手順で削除できます。

①「アプリケーションの追加と削除」を起動する。
（「ランチ -NX」→「ユーティリティ」→「アプリケーションの追加と削除」または「スタート」→「設定」→「コントロールパネル」→「アプリケーションの追加と削除」）
「アプリケーションの追加と削除のプロパティ」ウィンドウが表示されます。

②「インストールと削除」タブのウィンドウの一覧から「AOL」をクリック。
「AOL」が反転表示になります。

③「追加と削除」をクリック。
「AOL for Windows アンインストーラー」ウィンドウが表示されます。

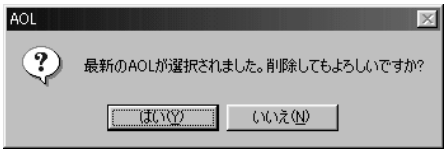


④「標準モード」のチェックマークをはずす。

⑤「OK」をクリック。
「AOL for Windows アンインストーラー」ウィンドウが表示されます。

⑥「C:\AOL30I\AOL.EXE」をクリック（反転表示）する。

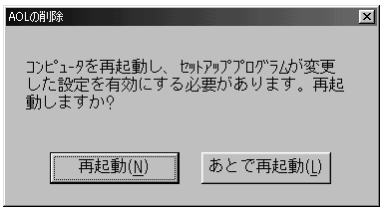
⑦「削除」をクリック。
「最新のAOLが選択されました。削除してもよろしいですか？」のメッセージが表示されます。



⑧「はい」をクリック。
削除が始まります。

削除が終了すると、「AOLの削除は正常に終了しました。」のメッセージが表示されます。

⑨「OK」をクリック。
再起動を促すメッセージが表示されます。



⑩「再起動」をクリック。
Windows が再起動します。

チェック!!

「ランチ-NX からの問い合わせ」ウィンドウが表示された場合は、「はい」をクリックしてください。

これで削除完了です。

NIFTY SERVE を利用する

パソコン通信サービス「NIFTY SERVE」のサービスを利用する場合は、「NIFTY MANAGER」を使います。

チェック!!

「オンラインサービス」フォルダにある「ニフティサーブへの入会」は利用しないでください。本機専用の特典（利用料金の割引きなど）は受けられない場合があります。
下記の手順を行うことをおすすめします。

NIFTY MANAGERのセットアップ

本機には、「NIFTY MANAGER」はセットアップされていません。本機で「NIFTY MANAGER」を利用するには、本機にセットアップされている「ニフティサーブへようこそ」を使用して、「NIFTY MANAGER」をセットアップしてください。

NIFTY MANAGER のセットアップ

「NIFTY MANAGER」のセットアップを説明します。

① 本機添付の「アプリケーション CD-ROM」を CD-ROM ドライブにセットする。

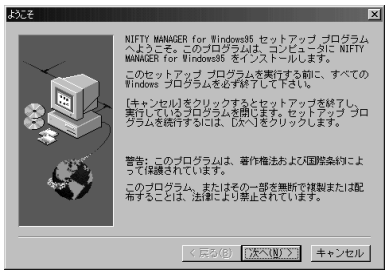
②「ニフティサーブへようこそ」を起動する。
（「ランチ-NX」→「スタディ & ヘルプ」→「ニフティサーブへようこそ」または「スタート」→「プログラム」→「NIFTY SETUP」→「ニフティサーブへようこそ」）

ニフティサーブの紹介画面が表示されます。

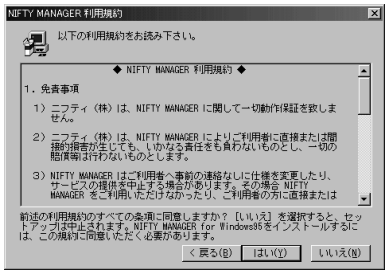
「次へ」ボタンが表示されますので、次々と「次へ」をクリックしていき、画面の内容を読んで操作を進めてください。

「次へ」を6回クリックすると、次の画面が表示されます。

③「OK」をクリック。
「ようこそ」ウィンドウが表示されます。



④「次へ」をクリック。
「NIFTY MANAGER 利用規約」ウィンドウが表示されます。

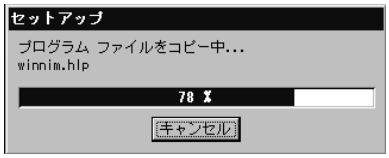


重要なことが記載されています。よくお読みください。

⑤「はい」をクリック。
「インストール先の選択」ウィンドウが表示されます。

通常は、あらかじめ設定されたインストール先を変更する必要はありません。インストール先を変更したいときは、「参照」をクリックします。

⑥「次へ」をクリック。
「情報を引き継ぎますか？」という内容のメッセージが表示されたときは、「いいえ」をクリックしてください。
インストールが始まります。



インストールが終了すると、次のメッセージが表示されます。

⑦「いいえ」をクリック。
「質問」ウィンドウが表示されます。

読む場合は「はい」を、読まない場合は「いいえ」をクリックします。ここで読まなくても後でゆっくり読むこともできます。

⑧「セットアップが完了しました」と表示されたら「OK」をクリック。

⑨「セットアップを完了するにはシステムを再起動する必要があります。再起動しますか？」と表示されたら「はい」をクリック。
これでインストールは完了です。

チェック!!

NIFTY MANAGER をインストールすると、「コントロールパネル」の「アプリケーション」の「アプリケーションの追加と削除」の一覧に「Data Access Objects（DAO）3.5」が追加されますが、削除しないでください。DAOを削除すると、他のアプリケーションでヘルプを使用できなくなる場合があります。

入会手続き（サインアップ）

はじめて「NIFTY SERVE」を利用する場合は、まず最初に入会手続きをして、「NIFTY SERVE」の会員になる必要があります。「NIFTY SERVE サインアップ」というソフトを使って、「NIFTY SERVE」に入会できます。

参照
・入会方法→『ニフティサーブ イントロパック』

NIFTY MANAGERの起動

「NIFTY MANAGER」を起動して、NIFTY SERVEを利用します。

① 「スタート」→「プログラム」→「NIFTY MANAGER」→「NIFTY MANAGER」をクリック。
「NIFTY MANAGER」が起動します。
「NIFTY SERVE サインアップ」で通信環境を登録した場合は、「ワンポイント」ウィンドウが表示されますので、「閉じる」をクリックしてください。

この場合は、以降の「通信環境の設定」の手順は必要ありません。「NIFTY SERVEへの接続」に進んでください。

「セットアップ」ウィンドウが表示された場合は、以降の「通信環境の設定」の手順を行ってください。

通信環境の設定

「NIFTY SERVE サインアップ」で通信環境を登録しなかった場合や、以前から「NIFTY SERVE」のIDを持っていて、「NIFTY SERVEサインアップ」を利用しなかった場合は、はじめて「NIFTY MANAGER」を起動したときに「セットアップ」ウィンドウが表示されます。次の手順で設定してください。

① 「ユーザーID」と「パスワード」を入力する。
ここに「NIFTY SERVE」のユーザーIDを入力しておくと、接続のつどIDを入力する手間が省けます。

安全のため、パスワードはここには入力せず、接続のつど入力することをおすすめします。

② 「次へ」をクリック。
「セットアップ」が起動します。

③ 「アクセスポイントでの接続を利用する」のチェックボックスを☑(オン)にする。

④ 「次へ」をクリック。
アクセスポイントを設定するウィンドウが表示されます。

⑤ 一覧から最寄りのアクセスポイントをクリック。

⑥ 「次へ」をクリック。
モデムを選ぶウィンドウが表示されます。

⑦ 使用しているモデムが表示されていることを確認して、「次へ」をクリック。
電話の設定を行うウィンドウが表示されます。

⑧ 「標準」が選ばれていることを確認して、「ダイヤルのプロパティ」をクリック。

⑨ 「市外局番」を入力する。

⑩ 「OK」をクリックして、「次へ」をクリック。
「セットアップが完了しました」と表示されます。

⑪ 「完了」をクリック。
「ワンポイント」ウィンドウが表示されます。

⑫ 「閉じる」をクリック。
これで、設定は完了です。「NIFTY MANAGER」を使って「NIFTY SERVE」にアクセスすることができるようになりました。

NIFTY SERVEへの接続

「NIFTY SERVE」に接続します。

① 「NIFTY MANAGER」のツールバーの をクリック。
IDやパスワードを設定していない場合は、入力するウィンドウが表示されますので、入力してください。
「NIFTY SERVE」に接続します。

NIFTY MANAGERの削除

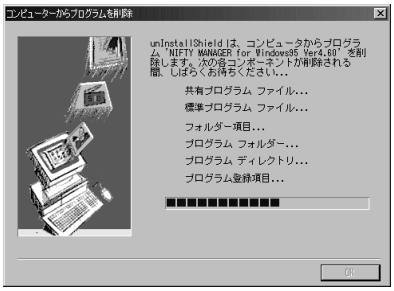
「NIFTY MANAGER」が不要になったときは、次の手順で削除できます。

① 「アプリケーションの追加と削除」を起動する。
(「ランチ-NX」→「ユーティリティ」→「アプリケーションの追加と削除」または「スタート」→「設定」→「コントロールパネル」→「アプリケーションの追加と削除」)
「アプリケーションの追加と削除のプロパティ」ウィンドウが表示されます。

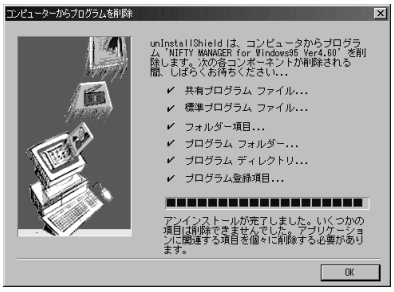
②「インストールと削除」一覧から「NIFTY MANAGER for Windows 95 Ver4.60」をクリック。
反転表示になります。

③「追加と削除」をクリック。
削除確認のメッセージが表示されます。

④「はい」をクリック。
削除が始まります。



「NIFTY MANAGERを再インストールした場合のための登録情報を保存しておきますか？」と表示されたら、「はい」をクリックしてください。
削除が終了すると、次の画面になります。



⑤「OK」をクリック。

チェック!!

「ランチ-NX からの問い合わせ」ウィンドウが表示された場合は、「はい」をクリックしてください。

これで削除完了です。

ダイヤルアップネットワーク

通常の電話回線とモデムを利用してインターネットに接続することを、ダイヤルアップ接続といいます。ダイヤルアップ接続を行うときに必要なソフトが「ダイヤルアップネットワーク」です。

既存のダイヤルアップネットワークの確認

ここでは、例として「BIGLOBE」という「ダイヤルアップネットワーク」の内容を確認してみます。
BIGLOBE で入会申込を行った場合には、「BIGLOBE」アイコンが作成されます。

①「ダイヤルアップネットワーク」ウィンドウを開く。
(「スタート」→「プログラム」→「アクセサリ」→「通信」→「ダイヤルアップネットワーク」)

②「BIGLOBE」を右クリック。
ポップアップメニューが表示されます。

③「プロパティ」をクリック。
「BIGLOBE」ウィンドウが表示されます。

ここでは、プロバイダへ接続するときの電話番号と、使用するモデムについて確認できます。

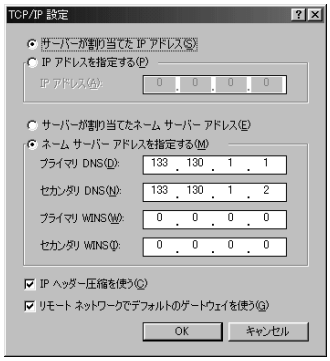
④「サーバーの種類」タブをクリック。
「サーバーの種類」タブのウィンドウが表示されます。

ここでは、次の確認ができます。

・「ダイヤルアップサーバーの種類」
「PPP:インターネット、Windows NT Server、Windows 98」が選択されている。

・「使用できるネットワークプロトコル」
「TCP/IP」が選択されている。

⑤「TCP/IP 設定」をクリック。
「TCP/IP 設定」ウィンドウが表示されます。



ここでは、プロバイダによっては、IPアドレスやネームサーバーアドレスが設定されていることもあります。

以上で、「BIGLOBE」の内容が確認できました。

新しいダイヤルアップネットワークの作成

プロバイダによっては、新しいダイヤルアップネットワークを作成する必要がある場合があります。新しくダイヤルアップネットワークを作成するには、次の手順を行ってください。

①「ダイヤルアップネットワーク」ウィンドウを開く。
(「スタート」→「プログラム」→「アクセサリ」→「通信」→「ダイヤルアップネットワーク」)

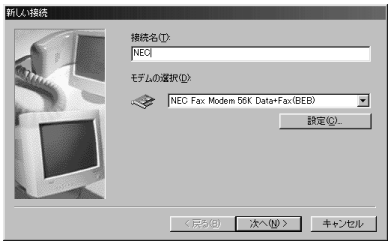
チェック!!

はじめてダイヤルアップネットワークの設定をするときは「ダイヤルアップネットワークへようこそ」のウィンドウが表示されますので、「次へ」をクリックします。
手順③のウィンドウが表示されますので、手順④にすすんでください。

②「新しい接続」を右クリック。
ポップアップメニューが表示されます。

③「開く」をクリック。
「新しい接続」ウィンドウが表示されます。

④「接続名」を入力する。
（例 NEC）



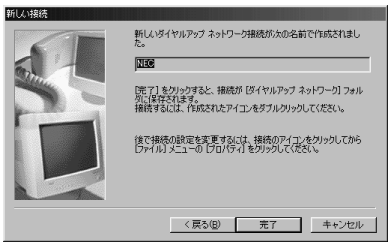
この名前は、ほかの「ダイヤルアップネットワーク」アイコンと区別するためですから、自分で覚えやすい名前を自由につけてかまいません。

モデムを変更したい場合は、「設定」をクリックします。

⑤「次へ」をクリック。
次のウィンドウが表示されます。

プロバイダへ接続するための電話番号を入力します。

⑥「次へ」をクリック。
次のウィンドウが表示されます。



⑦「完了」をクリック。
「NEC」という「ダイヤルアップネットワーク」が作成されました。

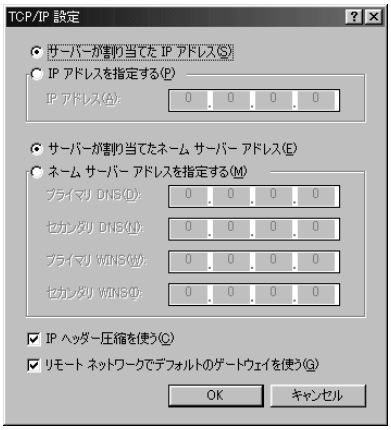
⑧「NEC」を右クリック。
ポップアップメニューが表示されます。

⑨「プロパティ」をクリック。
「NEC」ウィンドウが表示されます。

⑩「サーバーの種類」タブをクリック。
「サーバーの種類」タブのウィンドウが表示されます。

「ダイヤルアップサーバーの種類」「詳細オプション」「使用できるネットワークプロトコル」の設定を、プロバイダからの指示に従って行います。

⑪「TCP/IP 設定」をクリック。
「TCP/IP 設定」ウィンドウが表示されます。



ここでも、プロバイダの指示に従って設定を行います。

⑫ 設定が完了したら、「OK」をクリック。
「NEC」という「ダイヤルアップネットワーク」の作成 / 設定が完了しました。

テレフォニー

ダイヤルアップ接続を行うときに必要な所在地情報を管理する「テレフォニー」について説明します。

所在地情報の設定

ダイヤルアップ接続に必要な所在地情報を設定します。

①「コントロールパネル」を起動する。
(「スタート」→「設定」→「コントロールパネル」)
「コントロールパネル」が起動します。

②「テレフォニー」をダブルクリック。
まだ所在地情報が設定されていない場合は、次のウィンドウが表示されます。

③次の内容を設定する。

・国 / 地域番号
「日本」が設定されていることを確認します。

・市外局番
本機を使っている場所の市外局番の先頭の「0」を除いた数字を入力します。

(例 東京 23 区内の場合、「3」を入力)

・外線発信番号
外線/内線の区別のある場所(会社や事務所など)で使用する場合、外線発信番号を入力します。

・ダイヤル方法
電話回線の種別を設定します。プッシュ回線の場合は「トーン」を、ダイヤル回線の場合は「パルス」を選んでください。わからない場合は、NTTの「116」番に問い合わせてください。

④「閉じる」をクリック。
「ダイヤルのプロパティ」ウィンドウが表示されます。

⑤「OK」をクリック。
所在地情報が設定されました。

所在地情報の確認

インターネットなどを使用していて、ダイヤルアップ接続がうまくいかない場合は、次の手順で所在地情報を確認します。

①「コントロールパネル」を起動する。
(「スタート」→「設定」→「コントロールパネル」)
「コントロールパネル」が起動します。

②「テレフォニー」をダブルクリック。
「ダイヤルのプロパティ」ウィンドウが表示されます。

このウィンドウで次のことを確認してください。

・市外局番
本機を使っている場所の市外局番の先頭の「0」を除いた数字が入力されていることを確認します。

（例 東京23区内の場合、「3」が入力されていることを確認）

・外線発信番号
外線/内線の区別のある場所（会社や事務所など）で使用する場合、外線発信番号が「市内通話」、「市外通話」の両方に入力されていることを確認します。

・ダイヤル方法
プッシュ回線の場合は「トーン」が、ダイヤル回線の場合は「パルス」が設定されていることを確認します。わからない場合は、NTTの「116」番に問い合わせてください。

③「OK」をクリック。

PART

4

アプリケーションの削除と追加

- アプリケーションの削除
- 削除したアプリケーションの再追加

アプリケーションの削除

本機に標準で添付されているアプリケーションの削除の方法について説明します。

概要

ここで説明するのは、本機に標準でインストールされているまたは、添付されているアプリケーションの削除方法です。購入後に、ご自分でインストールされたアプリケーションの削除方法については説明していませんので、アプリケーションに添付のマニュアルをご覧ください。

次のような場合にアプリケーションを削除してください。

・ハードディスクの空き容量を増やしたい場合

・通常使わないアプリケーションがある場合

アプリケーションを削除するときの注意

・削除の際、アプリケーションが表示するメッセージや画面が他のウィンドウに隠れる場合があります。このような場合は、他のウィンドウを最小化して、メッセージや画面を表示させてください。

・アプリケーションによっては、削除中に「共有ファイルを削除しますか？」、「共有コンポーネント」などのウィンドウが表示される場合があります。このようなウィンドウは、インストールされているアプリケーションが共通で使用していると思われるファイルを削除しようとしたときに表示されます。このようなウィンドウが表示された場合は、「すべていいえ」や「すべて残す」などを選んで、ファイルを削除しないようにしてください。

・「Adobe Acrobat Reader 3.0J」は、「Picture Studio Light」のオンラインドキュメントを読むために必要ですので、「PictureStudio Light」を使用する場合は、削除しないようにしてください（一太郎モデル、Word モデルのみ）。

・「ランチ-NX」をそのまま使用する場合（「ランチ-NX」を削除しない場合）に、「ランチ-NX」のグループに表示されているアプリケーションを削除しても、「ランチ-NX」のグループにはアイコンが残ります。この場合、「ランチ-NX」に残ったそれぞれのアイコンを削除してください。削除方法は、PART2「ランチ-NX の設定」の「アプリケーション起動ボタンを編集する」にある「アプリケーション起動ボタンを削除する」をご覧ください。

・アプリケーションによっては、削除したときに、一部のフォルダおよびデスクトップやスタートメニューのショートカットのアイコンが残ることがあります。この状態でも本機を操作する上では支障はありませんが、アイコンを削除するには、各アプリケーションの削除方法に従って操作してください。

・「セットアップされていない機能の追加」でセットアップしたアプリケーションを削除する場合は、「セットアップされていない機能の追加」にある「削除する」をご覧ください。

・「コントロールパネル」の「アプリケーションの追加と削除」で、アプリケーションを選んで「追加と削除」ボタンをクリックした後は、途中で中断した場合でも、そのままではアプリケーションを使用できない場合があります。その際には本機を再起動した後、アプリケーションを使用してください。

・「Microsoft Speech API3.0」はしゃべっていいメール、ボイスペンを利用する場合は削除しないでください。

削除の方法について

削除の方法は、アプリケーションによって異なります。

■ コントロールパネルを使って削除するアプリケーション

次のアプリケーションが削除できます。手順については「「アプリケーションの追加と削除」を使って削除する」をご覧ください。

・その他アプリケーションセットアップ［パソコン用語集］

・BIGLOBE 入会申込（サインアップナビ）

・BIGLOBE Walker

・パソコン大学一年生（一太郎モデル、Word モデルのみ）

・ジェットサーファー

・VirusScan

・一太郎 Office8（一太郎モデルのみ）

・FAX-NX

・Microsoft Wallet

・RealPlayer 4.0

・ランチ -NX

・CD ランチ

・インターネット無料体験

・MapPlayer-NX

・プレーヤ -NX

・しゃべっていいメール、ボイスペン（一太郎モデル、Word モデルのみ）

・PictureStudio Light、Adobe Acrobat Reader 3.0J（一太郎モデル , Word モデルのみ）

・ThumbsStudio

・翻訳アダプタ II CROSSROAD

・Timer-NX

・MAGIC FLIGHT

・AOL へのご招待

・AOL

・ニフティサーブへようこそ

・NIFTY MANAGER

・CyberTrio-NX

・CyberWarner-NX

・CyberCoach-NX

・HOTALL

・シール倶楽部（一太郎モデル、Word モデルのみ）

・インターネットカラオケキング

・Hatch inside 2.0

・テキストリーダ

・バーチャファイター 2（一太郎モデル、Word モデルのみ）

■ CD-ROM を使って削除するアプリケーション

次のアプリケーションを削除できます。手順については「CD-ROM を使って削除する」をご覧ください。

・Microsoft Draw 98（Word モデルのみ）

・Microsoft Word 98（Word モデルのみ）

・Microsoft Excel 97（Word モデルのみ）

・Microsoft Outlook 98（Word モデルのみ）

■ アプリケーションのアンインストール機能を使うもの

次のアプリケーションを削除できます。手順については「アンインストール機能を使って削除する」をご覧ください。

・インターネットアクセスマネージャ

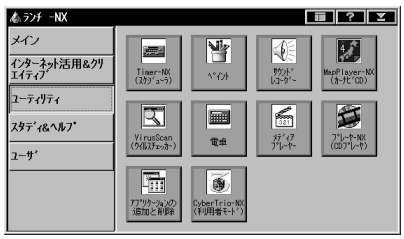
・ホームページスクラップブック

「アプリケーションの追加と削除」を使って削除する

削除の準備①（ランチ -NX を使う場合）

「ランチ -NX」の「アプリケーションの追加と削除」を使って削除するには、まず次の手順を行ってください。

①「ランチ -NX」の「ユーティリティ」グループにある「アプリケーションの追加と削除」をクリック。



②「インストールと削除」タブのウィンドウが表示されていることを確認する。

このウィンドウで、削除したいアプリケーションをクリックして、「追加と削除」をクリックするとアプリケーションの削除ができます。

削除の準備②（コントロールパネルを使う場合）

「コントロールパネル」の「アプリケーションの追加と削除」を使って削除するには、まず次の手順を行ってください。

①「コントロールパネル」を開く。
(「スタート」→「設定」→「コントロールパネル」)

②「アプリケーションの追加と削除」をダブルクリック。
「アプリケーションの追加と削除のプロパティ」ウィンドウが表示されます。

③「インストールと削除」タブのウィンドウが表示されていることを確認する。
このウィンドウで、削除したいアプリケーションをクリックして、「追加と削除」をクリックするとアプリケーションの削除ができます。

パソコン用語集の削除

次の手順で「その他アプリケーション」を削除します。

①「削除の準備①」または「削除の準備②」の手順を行う。

②「インストールと削除」タブのウィンドウの一覧から「その他アプリケーション セットアップ」をクリック。
「その他アプリケーション セットアップ」が反転表示になります。

③「追加と削除」をクリック。
「その他アプリケーション セットアップ」ウィンドウが表示されます。

④「次へ」をクリック。
「セットアップ方法の選択」のウィンドウが表示されます。

⑤「カスタム」を選んで、「次へ」をクリック。

⑥ 表示されたウィンドウで、削除したいアプリケーションのチェックボックスをクリックして、チェックをはずす。
次のアプリケーションを削除できます。

・パソコン用語集

⑦「次へ」をクリック。
削除が始まります。終了すると「セットアップが完了しました」と表示されます。

⑧「完了」をクリック。

■ ショートカットアイコンが残った場合
「ランチ-NX」の「スタディ＆ヘルプ」グループに残った「パソコン用語集」アイコンを削除してください。削除方法は、PART2「ランチ -NX の設定」の「アプリケーション起動ボタンを編集する」にある「アプリケーション起動ボタンを削除する」をご覧ください。

BIGLOBE 入会申込（サインアップナビ）の削除

次の手順で「BIGLOBE 入会申込（サインアップナビ）」を削除します。

①「削除の準備①」または「削除の準備②」の手順を行う。

②「インストールと削除」タブのウィンドウの一覧から「BIGLOBE入会申込(サインアップナビ)」をクリック。
「BIGLOBE 入会申込（サインアップナビ）」が反転表示になります。

③「追加と削除」をクリック。
「選択したアプリケーションとそのすべてのコンポーネントを完全に削除しますか？」のメッセージが表示されます。

④「はい」をクリック。
アプリケーションの削除が始まります。終了すると「アンインストールが完了しました。」と表示されます。

⑤「OK」をクリック。

■ ショートカットアイコンが残った場合
「ランチ-NX」の「スタディ＆ヘルプ」グループに残った「BIGLOBE 入会申込」のアイコンを削除してください。削除方法は、PART2「ランチ-NXの設定」の「アプリケーション起動ボタンを編集する」にある「アプリケーション起動ボタンを削除する」をご覧ください。

BIGLOBE Walkerの削除

次の手順で「BIGLOBE Walker」を削除します。

①「削除の準備①」または「削除の準備②」の手順を行う。

②「インストールと削除」タブのウィンドウの一覧から「BIGLOBE Walker」をクリック。
「BIGLOBE Walker」が反転表示になります。

③「追加と削除」をクリック。
「選択したアプリケーションとそのすべてのコンポーネントを完全に削除しますか？」のメッセージが表示されます。

④「はい」をクリック。
アプリケーションの削除が始まります。終了すると「アンインストールが完了しました。」と表示されます。

⑤「OK」をクリック。
以上で削除は完了です。

■ ショートカットアイコンが残った場合
「ランチ - ＮＸ」の「メイン」グループに残った「BIGLOBE Walker」のアイコンを削除してください。「ランチ - ＮＸ」に残ったアイコンの削除方法は、PART2「ランチ-NXの設定」の「アプリケーション起動ボタンを編集する」にある「アプリケーション起動ボタンを削除する」をご覧ください。

パソコン大学一年生の削除（一太郎モデル、Word モデルのみ）

次の手順で「パソコン大学一年生」を削除します。

① 「削除の準備①」または「削除の準備②」の手順を行う。

② 「インストールと削除」タブのウィンドウの一覧から、一太郎モデルの場合は「パソコン大学一年生 for 一太郎 8/三四郎 8」を、Wordモデルの場合は「パソコン大学一年生 for Word 98/Excel 97」をクリック。

③ 「追加と削除」をクリック。
一太郎モデルの場合は、「パソコン大学一年生 for 一太郎 8/三四郎 8とそのすべてのコンポーネントを削除しますか？」、Wordモデルの場合は「パソコン大学一年生 for Word98/Excel97 とそのすべてのコンポーネントを削除しますか？」のメッセージが表示されます。

④ 「はい」をクリック。
アプリケーションの削除が始まります。終了すると「削除されました」と表示されます。

⑤ 「OK」をクリック。

■ ショートカットアイコンが残った場合
「ランチ-NX」の「スタディ＆ヘルプ」グループに残ったアイコンを削除するには、次のアイコンを削除してください。「ランチ-NX」に残ったアイコンの削除方法は、PART2「ランチ-NXの設定」の「アプリケーション起動ボタンを編集する」にある「アプリケーション起動ボタンを削除する」をご覧ください。

・お使いの機種が一太郎モデルの場合
「スタディ＆ヘルプ」グループの「一年生 一太郎 8」
「スタディ＆ヘルプ」グループの「一年生 三四郎 8」

・お使いのコンピュータが Word モデルの場合
「スタディ＆ヘルプ」グループの「一年生 Excel 97」
「スタディ＆ヘルプ」グループの「一年生 Word 98」

ジェットサーファーの削除

次の手順で「ジェットサーファー」を削除します。

① 「削除の準備①」または「削除の準備②」の手順を行う。

② 「インストールと削除」タブのウィンドウの一覧から「ジェットサーファー Ver1.5」をクリック。
「ジェットサーファーVer1.5」が反転表示になります。

③ 「追加と削除」をクリック。
「選択したアプリケーションとそのすべてのコンポーネントを完全に削除しますか？」のメッセージが表示されます。

④ 「はい」をクリック。
アプリケーションの削除が始まります。
「共有ファイルを削除しますか？」と表示された場合は「すべていいえ」をクリックしてください。
終了すると「アンインストールが完了しました」と表示されます。

⑤ 「OK」をクリック。

■ ショートカットアイコンが残った場合
・「ランチ -NX」の「インターネット活用 & クリエイティブ」グループに残った「ジェットサーファー」のアイコンを削除してください。「ランチ-NX」に残ったアイコンの削除方法は、PART2「ランチ-NXの設定」の「アプリケーション起動ボタンを編集する」にある「アプリケーション起動ボタンを削除する」をご覧ください。

・アンインストールはインストールしたファイルの削除のみを行います。したがって、「ジェットサーファー」を使用して作成された「お気に入り」などの情報・ファイルは削除されません。これらのファイルを削除する場合は、Windows 98の「エクスプローラ」で「ジェットサーファー」がインストールされている「C:￥Program Files￥JetSurfer」のフォルダごと削除してください。

VirusScanの削除

次の手順で「VirusScan」を削除します。

① 「削除の準備①」または「削除の準備②」の手順を行う。

② 「インストールと削除」タブのウィンドウの一覧から「McAfee VirusScan v3.1.6 for Windows 9x(プレインストール版)」をクリック。
「McAfee VirusScan v3.1.6 for Windows 9x(プレインストール版)」が反転表示になります。

③「追加と削除」をクリック。
「McAfee VirusScanの削除が選択されました。本当にMcAfee VirusScanを削除しますか？」のメッセージが表示されます。

④「はい」をクリック。
「削除後はシステムを再起動することをお勧めします。続行しますか？」のメッセージが表示されます。

⑤「はい」をクリック。
「選択したアプリケーションとそのすべてのコンポーネントを完全に削除しますか？」のメッセージが表示された場合は「はい」をクリックします。
アプリケーションの削除が始まります。
「共有ファイルを削除しますか？」と表示された場合は、「すべていいえ」をクリックしてください。

削除が終了すると「アンインストールが完了しました」と表示されます。

⑥「OK」をクリック。

⑦「スタート」→「Windowsの終了」→「再起動する」→「OK」をクリック。

■ ショートカットアイコンが残った場合
「ランチ-NX」の「ユーティリティ」グループに残った「VirusScan（ウイルスチェッカー）」のアイコンを削除してください。「ランチ-NX」に残ったアイコンの削除方法は、PART2「ランチ-NXの設定」の「アプリケーション起動ボタンを編集する」にある「アプリケーション起動ボタンを削除する」をご覧ください。

一太郎Office8の削除（一太郎モデルのみ）

次の手順で「一太郎Office8」を削除します。

①「削除の準備①」または「削除の準備②」の手順を行う。

②「インストールと削除」タブのウィンドウの一覧から「JUSTSYSTEMアプリケーションの追加と削除」をクリック。
「JUSTSYSTEMアプリケーションの追加と削除」が反転表示になります。

③「追加と削除」をクリック。
「一太郎Office8のセットアップ開始」ウィンドウが表示されます。

④「次へ」をクリック。
「一太郎Office8の追加と削除」ウィンドウが表示されます。

⑤「次へ」をクリック。
「ファイルの追加・削除」ウィンドウが表示されます。

⑥「ファイルの削除」をチェックして「次へ」をクリック。
「削除するファイルの詳細選択」ウィンドウが表示されます。

⑦「全て選択」をクリックして「次へ」をクリック。
「ジャストシステム共通ファイル 削除の確認」ウィンドウが表示されます。

⑧「削除しない」をクリック。
「フォルダの確認」ウィンドウが表示されます。

チェック!!
「ATOK11をWindowsや他のアプリケーションが使用しているため、コンピュータを再起動するときに削除されます。」と表示されたら「OK」をクリックしてください。

⑨「次へ」をクリック。
「フォルダの確認」ウィンドウが表示されます。

⑩「次へ」をクリック。
「フォルダの確認」ウィンドウが表示されます。

⑪「次へ」をクリック。
「ファイルの削除開始」ウィンドウが表示されます。

⑫「削除開始」をクリック。
ファイルの削除が始まります。

⑬「一太郎Office8のセットアップ終了」ウィンドウが表示されたら「再起動」をクリック。
これで削除は完了です。

■ ショートカットアイコンが残った場合
「ランチ-NX」の「メイン」グループに残った「一太郎8」「三四郎8」「FullBand」のアイコンを削除してください。アイコンの削除方法は、PART2「ランチ-NXの設定」の「アプリケーション起動ボタンを編集する」にある「アプリケーション起動ボタンを削除する」をご覧ください。

FAX-NXの削除

次の手順で「FAX-NX」を削除します。

①「削除の準備①」または「削除の準備②」の手順を行う。

②「インストールと削除」タブのウィンドウの一覧から「FAX-NX」をクリック。
「FAX-NX」が反転表示になります。

③「追加と削除」をクリック。
「選択したアプリケーションとそのすべてのコンポーネントを完全に削除しますか？」のメッセージが表示されます。

④「はい」をクリック。
アプリケーションの削除が始まります。
「共有ファイルを削除しますか？」と表示された場合は、「すべていいえ」をクリックしてください。
終了すると「アンインストールが完了しました」と表示されます。

⑤「OK」をクリック。

■ ショートカットアイコンが残った場合
ランチ -NX の「メイン」グループに残った「FAX-NX（FAX）」のアイコンを削除してください。「ランチ -NX」に残ったアイコンの削除方法は、PART2 の「ランチ -NX の設定」の「アプリケーション起動ボタンの設定を編集する」にある「アプリケーション起動ボタンを削除する」をご覧ください。

RealPlayer 4.0 の削除

次の手順で「RealPlayer 4.0」を削除します。

①「削除の準備①」または「削除の準備②」の手順を行う。

②「セットアップと削除」タブのウィンドウの一覧から「RealPlayer 4.0」をクリック。
「RealPlayer 4.0」が反転表示になります。

③「追加と削除」をクリック。
「Are you sure you want to completely remove RealPlayer and all of its components?」と表示されます。

④「OK」をクリック。
「Uninstallation of the RealPlayer has been successfully completed.」と表示されます。

⑤「OK」をクリック。

ランチ -NX の削除

次の手順で「ランチ -NX」を削除します。

チェック!!
「ランチ -NX」を削除する前に、「ランチ -NX」を終了してください。

①「削除の準備②」の手順を行う。

②「インストールと削除」タブのウィンドウの一覧から「ランチ -NX」をクリック。
「ランチ -NX」が反転表示になります。

③「追加と削除」をクリック。
「選択したアプリケーションとそのすべてのコンポーネントを完全に削除しますか？」のメッセージが表示されます。

④「はい」をクリック。
アプリケーションの削除が始まります。
終了すると「アンインストールが完了しました」と表示されます。

⑤「OK」をクリック。

CD ランチの削除

次の手順で「CD ランチ」を削除します。

①「削除の準備①」または「削除の準備②」の手順を行う。

②「インストールと削除」タブのウィンドウの一覧から「CD ランチ」をクリック。
「CD ランチ」が反転表示になります。

③「追加と削除」をクリック。
「選択したアプリケーションとそのすべてのコンポーネントを完全に削除しますか？」のメッセージが表示されます。

④「はい」をクリック。
アプリケーションの削除が始まります。

終了すると「アンインストールが完了しました」と表示されます。

⑤「OK」をクリック。

インターネット無料体験の削除

次の手順で「インターネット無料体験」を削除します。

①「削除の準備①」または「削除の準備②」の手順を行う。

②「インストールと削除」タブのウィンドウの一覧から「インターネット無料体験」をクリック。
「インターネット無料体験」が反転表示になります。

③「追加と削除」をクリック。
「選択したアプリケーションとそのすべてのコンポーネントを完全に削除しますか？」のメッセージが表示されます。

④「はい」をクリック。
アプリケーションの削除が始まります。
「共有ファイルを削除しますか？」ウィンドウが表示された場合は「すべていいえ」をクリックしてください。
終了すると「アンインストールが完了しました」と表示されます。

⑤「OK」をクリック。

MapPlayer-NX の削除

次の手順で「MapPlayer-NX」を削除します。

①「削除の準備①」または「削除の準備②」の手順を行う。

②「インストールと削除」タブのウィンドウの一覧から「MapPlayer-NX」をクリック。
「MapPlayer-NX」が反転表示になります。

③「追加と削除」をクリック。
「選択したアプリケーションとそのすべてのコンポーネントを完全に削除しますか？」のメッセージが表示されます。

④「はい」をクリック。
アプリケーションの削除が始まります。
「共有ファイルを削除しますか？」ウィンドウが表示された場合は「すべていいえ」をクリックしてください。
終了すると「アンインストールが完了しました」と表示されます。

⑤「OK」をクリック。

■ ショートカットアイコンが残った場合
「ランチ-NX」の「ユーティリティ」グループに残った「MapPlayer-NX(カーナビCD)」のアイコンを削除してください。「ランチ-NX」に残ったアイコンの削除方法は、PART2「ランチ-NX の設定」の「アプリケーション起動ボタンを編集する」にある「アプリケーション起動ボタンを削除する」をご覧ください。

プレーヤ -NX の削除

次の手順で「プレーヤ -NX」を削除します。

①「削除の準備①」または「削除の準備②」の手順を行う。

②「インストールと削除」タブのウィンドウの一覧から「プレーヤ -NX」をクリック。
「プレーヤ -NX」が反転表示になります。

③「追加と削除」をクリック。
「選択したアプリケーションとそのすべてのコンポーネントを完全に削除しますか？」のメッセージが表示されます。

④「はい」をクリック。
アプリケーションの削除が始まります。
「共有ファイルを削除しますか？」ウィンドウが表示された場合は「すべていいえ」をクリックしてください。
終了すると「アンインストールが完了しました」と表示されます。

⑤「OK」をクリック。

■ ショートカットアイコンが残った場合
「ランチ-NX」の「ユーティリティ」グループに残った「プレーヤ -NX（CD プレーヤ）」のアイコンを削除してください。アイコンの削除方法は、PART2「ランチ-NX の設定」の「アプリケーション起動ボタンを編集する」にある「アプリケーション起動ボタンを削除する」をご覧ください。

しゃべっていいメール（Ver 2.0）、ボイスペンの削除
（一太郎モデル、Word モデルのみ）

次の手順で「しゃべっていいメール（Ver2.0）」を削除します。
「しゃべっていいメール」を削除すると、「ボイスペン」も削除されます。

①「削除の準備①」または「削除の準備②」の手順を行う。

②「インストールと削除」タブのウィンドウの一覧から「しゃべっていいメール（Ver2.0）」をクリック。
「しゃべっていいメール（Ver2.0）」が反転表示になります。

③「追加と削除」をクリック。
「選択したアプリケーションとそのすべてのコンポーネントを完全に削除しますか？」のメッセージが表示されます。

④「はい」をクリック。
アプリケーションの削除が始まります。
「共有ファイルを削除しますか？」と表示された場合は「すべていいえ」をクリックしてください。
終了すると「アンインストールが完了しました」と表示されます。

⑤「OK」をクリック。

■ ショートカットアイコンが残った場合
「ランチ-NX」の「メイン」グループに残った「しゃべっていいメール」のアイコンを削除してください。アイコンの削除方法は、PART2「ランチ-NX の設定」の「アプリケーション起動ボタンを編集する」にある「アプリケーション起動ボタンを削除する」をご覧ください。

PictureStudio Light、Adobe Acrobat Reader の削除（一太郎モデル、Word モデルのみ）

次の手順で「PictureStudio Light」を削除します。PictureStudio Light を削除するときは、「Adobe Acrobat Reader」も削除してください。

① 「削除の準備①」または「削除の準備②」の手順を行う。

② 「インストールと削除」タブのウィンドウの一覧から「PictureStudio Light」をクリック。
「PictureStudio Light」が反転表示になります。

③ 「追加と削除」をクリック。
「選択したアプリケーションとそのすべてのコンポーネントを完全に削除しますか？」のメッセージが表示されます。

④ 「はい」をクリック。
アプリケーションの削除が始まります。
「共有ファイルを削除しますか？」と表示された場合は「すべていいえ」をクリックしてください。
終了すると「アンインストールが完了しました」と表示されます。

⑤ 「OK」をクリック。

チェック!!
「Adobe Acrobat Reader 3.0J」は PDF 形式のドキュメントを読むためのアプリケーションです。「PictureStudio Light」のオンラインマニュアルは PDF 形式で作成されています。「PictuerStudio Light」のオンラインマニュアル以外で PDF 形式のファイルを利用する場合は以下の手順⑥〜⑨は行わないでください。

⑥ 「インストールと削除」タブのウィンドウ一覧から「Adobe Acrobat Reader 3.0J」をクリック。
「Adobe Acrobat Reader 3.0J」が反転表示になります。

⑦ 「追加と削除」をクリック。
「選択したアプリケーションとそのすべてのコンポーネントを完全に削除しますか？」のメッセージが表示されます。

⑧ 「はい」をクリック。
アプリケーションの削除が始まります。
終了すると「アンインストールが完了しました」と表示されます。

⑨ 「OK」をクリック。

■ ショートカットアイコンが残った場合
「ランチ-NX」の「インターネット活用＆クリエイティブ」グループに残った「PictureStudio Light」のアイコンを削除してください。アイコンの削除方法は、PART2「ランチ-NXの設定」の「アプリケーション起動ボタンを編集する」にある「アプリケーション起動ボタンを削除する」をご覧ください。

ThumbsStudio の削除

次の手順で「ThumbsStudio」を削除します。

① 「削除の準備①」または「削除の準備②」の手順を行う。

② 「インストールと削除」タブのウィンドウの一覧から「ThumbsStudio」をクリック。
「ThumbsStudio」が反転表示になります。

③ 「追加と削除」をクリック。
「選択したアプリケーションとそのすべてのコンポーネントを完全に削除しますか？」のメッセージが表示されます。

④ 「はい」をクリック。
アプリケーションの削除がはじまります。
「共有ファイルを削除しますか？」と表示された場合は「すべていいえ」をクリックしてください。
終了すると「アンインストールが完了しました」と表示されます。

⑤ 「OK」をクリック。

■ ショートカットアイコンが残った場合
「ランチ-NX」の「メイン」グループに残った「Thumbs Studio」のアイコンを削除してください。アイコンの削除方法は、PART2「ランチ-NXの設定」の「アプリケーション起動ボタンを編集する」にある「アプリケーション起動ボタンを削除する」をご覧ください。

翻訳アダプタII CROSSROAD の削除

次の手順で「翻訳アダプタII CROSSROAD」を削除します。

① 「削除の準備①」または「削除の準備②」の手順を行う。

② 「インストールと削除」タブのウィンドウの一覧から「翻訳アダプタII CROSSROAD」をクリック。
「翻訳アダプタII CROSSROAD」が反転表示になります。

③ 「追加と削除」をクリック。
「翻訳アダプタII CROSSROADとそのすべてのコンポーネントを削除しますか？」のメッセージが表示されます。

④ 「はい」をクリック。
アプリケーションの削除が始まります。
「共有コンポーネント」ウィンドウが表示された場合は「全て残す」をクリックしてください。
終了すると「削除されました」と表示されます。

⑤ 「OK」をクリック。

■ ショートカットアイコンが残った場合
「ランチ-NX」の「メイン」グループに残った「翻訳アダプタII CROSSROAD」のアイコンを削除してください。アイコンの削除方法は、PART2「ランチ-NXの設定」の「アプリケーション起動ボタンを編集する」にある「アプリケーション起動ボタンを削除する」をご覧ください。

Timer-NXの削除

次の手順で「Timer-NX」を削除します。

① 「削除の準備①」または「削除の準備②」の手順を行う。

② 「インストールと削除」タブのウィンドウの一覧から「Timer-NX」をクリック。
「Timer-NX」が反転表示になります。

③ 「追加と削除」をクリック。
「Timer-NXとそのすべてのコンポーネントを削除しますか？」のメッセージが表示されます。

④ 「はい」をクリック。
アプリケーションの削除が始まります。
「共有コンポーネント」ウィンドウが表示された場合は「すべて残す」をクリックしてください。
「アプリケーションの削除」ウィンドウが表示されたら、すべて「OK」をクリックします。
終了すると「削除されました。」と表示されます。

⑤ 「OK」をクリック。

■ ショートカットアイコンが残った場合
「ランチ-NX」の「ユーティリティ」グループに残った「Timer-NX(スケジューラ)」のショートカットアイコンを削除してください。「ランチ-NX」に残ったアイコンの削除方法は、PART2「ランチ-NXの設定」の「アプリケーション起動ボタンを編集する」にある「アプリケーション起動ボタンを削除する」をご覧ください。

MAGIC FLIGHTの削除

次の手順で「MAGIC FLIGHT」を削除します。

① 「削除の準備①」または「削除の準備②」の手順を行う。

② 「インストールと削除」タブのウィンドウの一覧から「MAGIC FLIGHT」をクリック。
「MAGIC FLIGHT」が反転表示になります。

③ 「追加と削除」をクリック。
「選択したアプリケーションとそのすべてのコンポーネントを完全に削除しますか？」のメッセージが表示されます。

④ 「はい」をクリック。
「共有ファイルを削除しますか？」ウィンドウが表示された場合は「すべていいえ」をクリックします。
終了すると「アンインストールが完了しました」と表示されます。

⑤ 「OK」をクリック。

■ ショートカットアイコンが残った場合
「ランチ-NX」の「スタディ＆ヘルプ」グループに残った「MAGIC FLIGHT（タイプレッスン）」のアイコンを削除してください。アイコンの削除方法は、PART2「ランチ-NXの設定」の「アプリケーション起動ボタンを編集する」にある「アプリケーション起動ボタンを削除する」をご覧ください。

AOLへのご招待の削除

次の手順で「AOLへのご招待」を削除します。

① 「削除の準備①」または「削除の準備②」の手順を行う。

② 「インストールと削除」タブのウィンドウの一覧から「AOLへのご招待」をクリック。
「AOLへのご招待」が反転表示になります。

③ 「追加と削除」をクリック。
「選択したアプリケーションとそのすべてのコンポーネントを完全に削除しますか？」のメッセージが表示されます。

④「はい」をクリック。
アプリケーションの削除が始まります。
「共用ファイルを削除しますか？」と表示されたら「すべていいえ」をクリックしてください。
終了すると「アンインストールが完了しました」と表示されます。

⑤「OK」をクリック。

■ ショートカットアイコンが残った場合
「ランチ-NX」の「スタディ＆ヘルプ」グループに残った「AOL へのご招待」アイコンを削除してください。アイコンの削除方法は、PART2「ランチ-NXの設定」の「アプリケーション起動ボタンを編集する」にある「アプリケーション起動ボタンを削除する」をご覧ください。

AOL の削除

「AOL」の削除の手順については、PART3「さまざまな通信サービス」の「AOLを利用する」をご覧ください。

ニフティサーブへようこその削除

次の手順で「ニフティサーブへようこそ」を削除します。

①「削除の準備①」または「削除の準備②」の手順を行う。

②「インストールと削除」タブのウィンドウの一覧から「ニフティサーブへようこそ」をクリック。
「ニフティサーブへようこそ」が反転表示になります。

③「追加と削除」をクリック。
「選択したアプリケーションとそのすべてのコンポーネントを完全に削除しますか？」のメッセージが表示されます。

④「はい」をクリック。
アプリケーションの削除が始まります。
「共用ファイルを削除しますか？」と表示されたら「すべていいえ」をクリックしてください。
終了すると「アンインストールが完了しました」と表示されます。

⑤「OK」をクリック。

■ ショートカットアイコンが残った場合
「ランチ-NX」の「スタディ＆ヘルプ」グループに残った「ニフティサーブへようこそ」アイコンを削除してください。アイコンの削除方法は、PART2「ランチ-NX の設定」の「アプリケーション起動ボタンを編集する」にある「アプリケーション起動ボタンを削除する」をご覧ください。

NIFTY MANAGERの削除

「NIFTY MANAGER」の削除の手順については、PART3「さまざまな通信サービス」の「NIFTY SERVE を利用する」をご覧ください。

CyberTrio-NXの削除

「CyberTrio-NX」は「ベーシックモード」、「キッズモード」からは削除できません。
削除する前に、「アドバンストモード」へ変更してください。
「アドバンストモード」への変更のしかたについては、PART1「Windows 98 の利用環境の変更〈CyberTrio-NX〉」をご覧ください。
次の手順で「CyberTrio-NX」を削除します。

①「削除の準備①」または「削除の準備②」の手順を行う。

②「インストールと削除」タブのウィンドウの一覧から「CyberTrio-NX」をクリック。
「CyberTrio-NX」が反転表示になります。

③「追加と削除」をクリック。
「選択したアプリケーションとそのコンポーネントを完全に削除しますか？」のメッセージが表示されます。

④「はい」をクリック。
アプリケーションの削除が始まります。
終了すると「アンインストールを有効にするために再起動する必要があります。」と表示されます。

⑤「OK」をクリック。
Windows が再起動します。

■ ショートカットアイコンが残った場合
「ランチ-NX」の「ユーティリティ」グループに残った「CyberTrio-NX（利用者モード）」のアイコンを削除してください。アイコンの削除方法は、PART2「ランチ-NX の設定」の「アプリケーション起動ボタンを編集する」にある「アプリケーション起動ボタンを削除する」をご覧ください。

CyberWarner-NX の削除

次の手順で「CyberWarner-NX」を削除します。

① 「CyberWarner-NX」を使用中の場合は、終了させる。
タスクバーにある をクリックして、「終了」をクリックします。

「CyberWarner-NXのシャットダウン」ウィンドウが表示されるので、「はい」をクリックしてください。

② 「削除の準備①」または「削除の準備②」の手順を行う。

③ 「インストールと削除」タブのウィンドウの一覧から「CyberWarner-NX」をクリック。
「CyberWarner-NX」が反転表示になります。

④ 「追加と削除」をクリック。
「選択したアプリケーションとそのコンポーネントを完全に削除しますか？」のメッセージが表示されます。

⑤ 「はい」をクリック。
アプリケーションの削除が始まります。終了すると「アンインストールを有効にするために再起動する必要があります。」と表示されます。

⑥ 「OK」をクリック
Windows が再起動します。

CyberCoach-NX の削除

次の手順で「CyberCoach-NX」を削除します。

① 「削除の準備①」または「削除の準備②」の手順を行う。

② 「インストールと削除」タブのウィンドウの一覧から「CyberCoach-NX」をクリック。
「CyberCoach-NX」が反転表示になります。

③ 「追加と削除」をクリック。
「選択したアプリケーションとそのコンポーネントを完全に削除しますか？」のメッセージが表示されます。

④ 「はい」をクリック。
アプリケーションの削除が始まります。

■ ショートカットアイコンが残った場合
「ランチ-NX」の「スタディ＆ヘルプ」グループに残った「CyberCoach-NX（操作レッスン）」のアイコンを削除してください。削除方法は PART2「ランチ-NXの設定」の「アプリケーション起動ボタンを編集する」にある「アプリケーション起動ボタンを削除する」をご覧ください。

HOTALL の削除

次の手順で、「HOTALL」を削除します。

① 「削除の準備①」または「削除の準備②」の手順を行う。

② 「インストールと削除」タブのウィンドウの一覧から「HOTALL（NEC 版）」をクリック。
「HOTALL（NEC 版）」が反転表示になります。

③ 「追加と削除」をクリック。
「選択したアプリケーションとそのすべてのコンポーネントを完全に削除しますか？」のメッセージが表示されます。

④ 「はい」をクリック。
アプリケーションの削除が始まります。
終了すると、「アンインストールが完了しました。」と表示されます。

⑤ 「OK」をクリック。

■ ショートカットアイコンが残った場合
「ランチ-NX」の「インターネット活用＆クリエイティブ」グループに残った「HOTALL（ホームページ作成）」アイコンを削除してください。
アイコンの削除方法は、PART2「ランチ-NXの設定」にある「アプリケーション起動ボタンを削除する」をご覧ください。

シール倶楽部の削除（一太郎モデル、Word モデルのみ）

次の手順で、「シール倶楽部」を削除します。

① 「削除の準備①」または「削除の準備②」の手順を行う。

② 「インストールと削除」タブのウィンドウの一覧から「シール倶楽部」をクリック。
「シール倶楽部」が反転表示になります。

③ 「追加と削除」をクリック。
「シール倶楽部を削除します。よろしいですか？」のメッセージが表示されます。

④ 「はい」をクリック。
アプリケーションの削除が始まります。
終了すると、「シール倶楽部を削除しました。」と表示されます。

⑤ 「OK」をクリック。

■ ショートカットアイコンが残った場合
「ランチ-NX」の「インターネット活用&クリエイティブ」グループに残った「シール倶楽部」アイコンを削除してください。
アイコンの削除方法は、PART2「ランチ-NXの設定」にある「アプリケーション起動ボタンを削除する」をご覧ください。

インターネット カラオケキングの削除

次の手順で、「インターネット カラオケキング」を削除します。

① 「削除の準備①」または「削除の準備②」の手順を行う。

② 「インストールと削除」タブのウィンドウの一覧から「カラオケキング」をクリック。
「カラオケキング」が反転表示になります。

③ 「追加と削除」をクリック。
「選択したアプリケーションとそのすべてのコンポーネントを完全に削除しますか？」のメッセージが表示されます。

④ 「はい」をクリック。
アプリケーションの削除が始まります。
「共有ファイルを削除しますか？」ウィンドウが表示された場合は、「すべていいえ」をクリックします。
終了すると、「アンインストールが完了しました。」と表示されます。

⑤ 「OK」をクリック。

■ ショートカットアイコンが残った場合
「ランチ-NX」の「インターネット活用&クリエイティブ」グループに残った「インターネット カラオケキング」アイコンを削除してください。
アイコンの削除方法は、PART2「ランチ-NXの設定」にある「アプリケーション起動ボタンを削除する」をご覧ください。

HatchInside 2.0 の削除

次の手順で、「HatchInside 2.0」を削除します。

① 「削除の準備①」または「削除の準備②」の手順を行う。

② 「インストールと削除」タブのウィンドウの一覧から「HatchInside 2.0」をクリック。
「HatchInside 2.0」が反転表示になります。

③ 「追加と削除」をクリック。
「関連するウィンドウは一旦終了しますので必要なデータをセーブしてください！」と表示されます。

④ 「OK」をクリック。
「ハッチインサイド(HatchInside)と関連するファイルを全部削除してもよろしいでしょうか」のメッセージが表示されます。

⑤ 「OK」をクリック。
「作業は完了しました、有り難うございます!」と表示されます。

⑥ 「OK」をクリック。

テキストリーダの削除

「テキストリーダ」の削除の手順については、PART2「テキストリーダの使用」の「テキストリーダの削除」をご覧ください。

バーチャファイター 2

「バーチャファイター 2」の削除の手順については、PART2「ゲームで遊ぶ」の「バーチャファイター 2 (Virtua Fighter 2)」をご覧ください。

CD-ROM を使って削除する

本機に添付の CD-ROM を使って、アプリケーションを削除します。

あらかじめ、次の CD-ROM を準備してください。

- Microsoft Excel 97 & Word 98 & Outlook 97 for Windows CD-ROM (Word モデルのみ)
- Microsoft Outlook 98 CD-ROM (Word モデルのみ)
- アプリケーション CD-ROM

チェック!!
CD-ROMを使ってアプリケーションを削除する場合、削除が終了したら、CD-ROMドライブからCD-ROMを取り出してください。

Microsoft Draw 98の削除（Wordモデルのみ）

次の手順で「Draw 98」を削除します。

①「Microsoft Excel 97 & Word 98 & Outlook 97 for Windows」CD-ROMをCD-ROMドライブにセットする。
「Microsoft Excel 97 & Word 98 & Outlook 97 for Windows」ウィンドウが表示されます。

②「Draw 98のセットアップ」をクリック。
「Microsoft Draw 98セットアップ」ウィンドウが表示されます。

③「すべて削除」をクリック。
「Microsoft Draw 98を削除しますか？」と表示されます。

④「はい」をクリック。
削除が始まります。
「共有コンポーネントの削除」ウィンドウが表示されたら、「削除しない」をクリックしてください。
終了すると「Microsoft Draw 98セットアップが完了しました。」と表示されます。

⑤「OK」をクリック。
「Windowsの再起動」のウィンドウが表示された場合は、実行中の他のアプリケーションを終了した後、「Windowsの再起動」をクリックして、Windowsを再起動してください。

Microsoft Word 98の削除（Wordモデルのみ）

次の手順で「Word 98」を削除します。

①「Microsoft Excel 97 & Word 98 & Outlook 97 for Windows」CD-ROMをCD-ROMドライブにセットする。
「Microsoft Excel 97 & Word 98 & Outlook 97 for Windows」ウィンドウが表示されます。

②「Word 98のセットアップ」をクリック。
「Microsoft Word 98セットアップ」ウィンドウが表示されます。

③「すべて削除」をクリック。
「Microsoft Word 98を削除しますか？」と表示されます。

④「はい」をクリック。
削除が始まります。
「共有コンポーネントの削除」ウィンドウが表示されたら、「削除しない」をクリックしてください。
終了すると「Microsoft Word 98セットアップが完了しました。」と表示されます。

⑤「OK」をクリック。
「Windowsの再起動」のウィンドウが表示された場合は、実行中の他のアプリケーションを終了した後、「Windowsの再起動」をクリックして、Windowsを再起動してください。

■ ショートカットアイコンが残った場合
「ランチ - ＮＸ」の「メイン」グループに残った「Microsoft Word」のアイコンを削除してください。ランチ-NXに残ったアイコンの削除方法は、PART2「ランチ-NXの設定」の「アプリケーション起動ボタンの設定を編集する」にある「アプリケーション起動ボタンを削除する」をご覧ください。

Microsoft Excel 97の削除（Wordモデルのみ）

次の手順で「Excel 97」を削除します。

①「Microsoft Excel 97 & Word 98 & Outlook 97 for Windows」CD-ROMをCD-ROMドライブにセットする。
「Microsoft Excel 97 & Word 98 & Outlook 97 for Windows」ウィンドウが表示されます。

②「Microsoft Excel 97のセットアップ」をクリック。
「Microsoft Excel 97 セットアップ」ウィンドウが表示されます。

③「すべて削除」をクリック。
「Microsoft Excel 97を削除しますか？」と表示されます。

④「はい」をクリック。
削除が始まります。
「共有コンポーネントの削除」ウィンドウが表示されたら、「削除しない」をクリックしてください。
終了すると「Microsoft Excel 97 セットアップが完了しました。」と表示されます。

⑤「OK」をクリック。
「Windowsの再起動」のウィンドウが表示された場合は、実行中の他のアプリケーションを終了した後、「Windowsの再起動」をクリックして、Windowsを再起動してください。

■ ショートカットアイコンが残った場合
「ランチ - ＮＸ」の「メイン」グループに残った「Microsoft Excel」のアイコンを削除してください。ランチ-NXに残ったアイコンの削除方法は、PART2「ランチ-NXの設定」の「アプリケーション起動ボタンの設定を編集する」にある「アプリケーション起動ボタンを削除する」をご覧ください。

Microsoft Outlook 98 の削除（Word モデルのみ）

次の手順で「Outlook 98」を削除します。

① 「Microsoft Outlook 98」CD-ROMをCD-ROMドライブにセットする。
「Microsoft Outlook 98 CD」ウィンドウが表示されます。

② 「Outlook 98のインストール」の右の をクリック。
「Outlook 98 アクティブセットアップ」ウィンドウが表示されます。

③ 「Outlook 98 の削除」をクリック。
「Microsoft Outlook 98コンポーネットをアンインストールします。続行しますか？」と表示されます。

④ 「はい」をクリック。
削除が始まります。
「共有コンポーネントの削除」ウィンドウが表示されたら、「削除しない」をクリックしてください。
しばらくすると「アンインストールを完了するために、システムを再起動する必要があります。今すぐ再起動しますか？」と表示されます。

⑤ 「はい」をクリック。
自動的に Windows が再起動します。

■ ショートカットアイコンが残った場合
「ランチ - ＮＸ」の「メイン」グループに残った「Microsoft Outlook」のアイコンを削除してください。「ランチ -NX」に残ったアイコンの削除方法は、PART2「ランチ-NXの設定」の「アプリケーション起動ボタンの設定を編集する」にある「アプリケーション起動ボタンを削除する」をご覧ください。

アンインストール機能を使って削除する

アプリケーションが持っているアンインストール機能を使用した削除方法を説明します。

インターネットアクセスマネージャの削除

次の手順で「インターネットアクセスマネージャ」を削除します。

① 「スタート」→「プログラム」→「インターネットアクセスマネージャ」→「unInstallShield」をクリック。
「選択したアプリケーションとそのすべてのコンポーネントを完全に削除しますか？」と表示されます。

② 「はい」をクリック。
アプリケーションの削除が始まります。
終了すると「アンインストールが完了しました。」と表示されます。

③ 「OK」をクリックします。
以上で削除は完了です。

■ ショートカットアイコンが残った場合
・「ランチ -NX」の「インターネット活用 & クリエイティブ」グループに残った「インターネットアクセスマネージャ」のアイコンを削除してください。「ランチ -NX」に残ったアイコンの削除方法は、PART2「ランチ-NXの設定」の「アプリケーション起動ボタンの設定を編集する」にある「アプリケーション起動ボタンを削除する」をご覧ください。

・アンインストールはセットアップしたファイルの削除のみ行います。したがって、「インターネットアクセスマネージャ」を使用して作成された「通信記録」「オートパイロット結果」などの情報・ファイルは削除されません。これらのファイルを削除する場合は、Windows 98 の「エクスプローラ」で「インターネットアクセスマネージャ」がセットアップされている「C:￥Program Files￥Iam」のフォルダごと削除してください。

ホームページスクラップブックの削除

次の手順で「ホームページスクラップブック」を削除します。

① 「スタート」→「プログラム」→「ホームページスクラップブック」→「アンインストール」をクリック。
「ホームページスクラップブック Ver2.0とそのすべてのコンポーネントを削除しますか？」と表示されます。

② 「はい」をクリック。
アプリケーションの削除がはじまります。
「共有ファイルを削除しますか」と表示された場合は「すべていいえ」をクリックしてください。
終了すると「アンインストールが完了しました」と表示されます。

③ 「OK」をクリック。
これで削除は完了です。

ショートカットアイコンが残った場合

・「ランチ-NX」の「メイン」グループに残った「ホームページスクラップブック」のアイコンを削除してください。アイコンの削除方法は、PART2「ランチ-NXの設定」の「アプリケーション起動ボタンを編集する」にある「アプリケーション起動ボタンを削除する」をご覧ください。

・アンインストールは、セットアップしたファイルの削除のみを行います。したがって、「ホームページスクラップブック」を使用して作成されたスクラップデータは削除されません。これらのデータを削除する場合は、Windows 98 の「エクスプローラ」で、「ホームページスクラップブック」のスクラップデータがセットアップされている「C:\ScbookDataBase」のフォルダごと削除してください。

削除したアプリケーションの再追加

削除したアプリケーションを再追加する場合の手順について説明します。

概要

ここでは、使用するCD-ROMに分けて、再追加の方法を説明します。

あらかじめ、次の CD-ROM を準備してください。

・アプリケーション CD-ROM

・パソコン大学一年生 CD-ROM
（一太郎モデル、Word モデルのみ）

・一太郎バックアップ CD-ROM（一太郎モデルのみ）

・Microsoft Excel 97 & Word 98 & Outlook 97 for Windows CD-ROM（Word モデルのみ）

・Microsoft Outlook 98 CD-ROM（Word モデルのみ）

追加が終了したら、CD-ROMをCD-ROMドライブから取り出してください。

チェック!!

追加の際、アプリケーションが表示するメッセージや画面が他のウィンドウに隠れる場合があります。このような場合は他のウィンドウを最小化して、メッセージや画面を表示させてください。

アプリケーション CD-ROM を使用する

本機添付の「アプリケーション CD-ROM」を使用して、次のアプリケーションを追加できます。

・その他アプリケーションセットアップ
［パソコン用語集］

・ジェットサーファー

・インターネット無料体験

・インターネットアクセスマネージャ

・VirusScan

・FAX-NX

・ランチ -NX

・CD ランチ

・BIGLOBE Walker

・BIGLOBE 入会申込（サインアップナビ）

・MapPlayer-NX

・プレーヤ -NX

・しゃべっていいメール、ボイスペン（一太郎モデル、Word モデルのみ）

・ホームページスクラップブック

・PictureStudio Light、Adobe Acrobat Reader 3.0J（一太郎モデル、Word モデルのみ）

・ThumbsStudio

・翻訳アダプタII CROSSROAD

・Timer-NX

・MAGIC FLIGHT

・AOL へのご招待

・AOL

・ニフティサーブへようこそ

・NIFTY MANAGER

・CyberWarner-NX

・CyberTrio-NX

・CyberCoach-NX

・テキストリーダ

・HOTALL

・シール倶楽部（一太郎モデル、Word モデルのみ）

・インターネットカラオケキング

・Hatch inside

チェック!!

「アプリケーション CD-ROM」から、削除したアプリケーションを再追加する場合は、アプリケーションのアイコン登録先が、購入時と同じ状態に設定されないことがあります。

追加の準備

追加するアプリケーションを選びます。

① CD-ROMドライブに本機添付の「アプリケーションCD-ROM」をセットする。

②「アプリケーションの追加と削除」を起動する。
(「ランチ-NX」→「ユーティリティ」→「アプリケーションの追加と削除」または「スタート」→「設定」→「コントロールパネル」→「アプリケーションの追加と削除」)
「アプリケーションの追加と削除のプロパティ」ウィンドウが表示されます。

③「インストール」をクリック。
「フロッピーディスクまたはCD-ROMからのインストール」ウィンドウが表示されます。

④「次へ」をクリック。
「インストールプログラムの実行」ウィンドウが表示されます。

⑤「インストールプログラムのコマンドライン」が「<CD-ROMドライブ名>:\NSETUP.EXE」になっていることを確認する。
<CD-ROMドライブ名>は通常は、<Q>です。

⑥「完了」をクリック。
「プロダクトの選択」ウィンドウが表示されます。

パソコン用語集の追加

「その他アプリケーションセットアップ」には、次のプログラムが含まれています。

・パソコン用語集

①「追加の準備」の手順①～⑥を行う。
「プロダクトの選択」ウィンドウが表示されます。

②「その他アプリケーション セットアップ」をクリック(反転表示)して、「OK」をクリック。
「その他アプリケーション セットアップ」ウィンドウが表示されます。

③「次へ」をクリック。
「セットアップ方法の選択」ウィンドウが表示されます。

④「カスタム」を選ぶ。

⑤「次へ」をクリック。
表示されたウィンドウで、パソコン用語集のチェックボックスをクリック(チェックボックスにチェックをつける)して、「次へ」をクリック。
選択したアプリケーションの追加が始まります。

チェック!!
途中で「コピー先に新しい日付のファイルが存在します。上書きしてよろしいですか」のメッセージが表示された場合は「いいえ」を選んでください。

⑥「セットアップが完了しました」と表示されたら、「完了」をクリック。

ジェットサーファーの追加

①「追加の準備」の手順①～⑥を行う。
「プロダクトの選択」ウィンドウが表示されます。

②「ジェットサーファー Ver1.5」をクリック(反転表示)して、「OK」をクリック。
「ようこそ」ウィンドウが表示されます。

③「次へ」をクリック。
「インストール先の選択」ウィンドウが表示されます。

④「次へ」をクリック。
インストールが始まります。

しばらくすると「READMEファイルを読みますか?」というメッセージが表示されます。

⑤「いいえ」をクリック。
「はい」を選択した場合、読み終えたら×をクリックします。

⑥「セットアップが完了しました。」と表示されたら「OK」をクリック。
これで、インストールは完了です。

インターネット無料体験の追加

①「追加の準備」の手順①～⑥を行う。
「プロダクトの選択」ウィンドウが表示されます。

②「インターネット無料体験」をクリック(反転表示)して、「OK」をクリック。
「ようこそ」ウィンドウが表示されます。

③「次へ」をクリック。
「インストール先の選択」ウィンドウが表示されます。

④「次へ」をクリック。
インストールが始まります。

しばらくすると「セットアップが完了しました。続けてインターネット無料体験を開始します。よろしいですか。」のメッセージが表示されます。

⑤「いいえ」をクリック。
「プログラムのアイコンをダブルクリックすることで実行できます。」のメッセージが表示されます。

⑥「OK」をクリック。

インターネットアクセスマネージャ Ver2.0 の追加

①「追加の準備」の手順①～⑥を行う。
「プロダクトの選択」ウィンドウが表示されます。

②「インターネットアクセスマネージャ Ver2.0」をクリック（反転表示）して、「OK」をクリック。
「ようこそ」ウィンドウが表示されます。

③「次へ」をクリック。
「インストール先の選択」ウィンドウが表示されます。

④「次へ」をクリック。
「接続方法の設定」ウィンドウが表示されます。

⑤「次へ」をクリック。
インストールが始まります。
「バージョンの競合」ウィンドウが表示された場合は「はい」をクリックしてください。
しばらくすると「接続先」、「プロバイダの料金」、「電話料金」を設定するウィンドウが表示されます。

⑥ 各項目を選択して「次へ」をクリック。
上記の項目はセットアップした後に変更することができます。

以前に使用していたときの設定内容が残っている場合は、上記のウィンドウは表示されず、「質問」メッセージが表示されます。この場合は「はい」をクリックしてください。

チェック!!

接続先が1つも作成されていない場合は、手順⑥、⑦は省略されます。この場合は、いったんセットアップを最後まで完了し、その後、接続先を作成してください。
また接続先作成後は各項目の変更も行ってください。

⑦「設定の確認」ウィンドウで、各項目の選んだ内容を確認して「完了」をクリック。
「インターネットアクセスマネージャをスタートアップに登録しますか？」と表示されます。

⑧「いいえ」をクリックします。
「ReadMeを表示しますか」と表示されたらReadMeを読む場合は「はい」、読まない場合は「いいえ」をクリックしてください。
「セットアップが完了しました。」と表示されます。

⑨「OK」をクリックします。
これでインストールは完了です。

VirusScanの追加

①「追加の準備」の手順①～⑥を行う。
「プロダクトの選択」ウィンドウが表示されます。

②「McAfee VirusScan v3.1.6」をクリック（反転表示）して、「OK」をクリック。
「セットアップへようこそ」ウィンドウが表示されます。

③「次へ」をクリック。
「Network Associatesソフトウェアの使用許諾契約書」ウィンドウが表示されます、

④ 契約に同意の上、「はい」をクリック。
「セットアップ方法」ウィンドウが表示されます。
「カスタム」を選択します。
インストール先を変更する場合は、「参照」をクリックして、表示されたウィンドウの「パス」にインストール先を入力して、「OK」をクリックしてください。

⑤「次へ」をクリック。
「コンポーネントの選択」ウィンドウが表示されます。

⑥「次へ」をクリック。
「オプションの選択」ウィンドウが表示されます。

⑦「次へ」をクリック。
「DOSスキャナ インストール オプション選択」ウィンドウが表示されます。

⑧「ブート時にシステムをスキャン」のチェックボックスをクリックしてチェックをはずす。
「ブート時にシステムをスキャン」のチェックをはずさないでインストールした場合は、MS-DOS用アプリケーションが動作しない場合があります。

⑨「エマージェンシーディスクを作成」のチェックボックスをクリックしてチェックをはずす。
エマージェンシーディスクは「スタート」→「プログラム」→「McAfee VirusScan」→「エマージェンシーディスク作成」をクリックして作成することができます。

⑩「次へ」をクリック。
「プログラム フォルダの選択」ウィンドウが表示されます。

⑪「次へ」をクリック。
「インストール設定の確認」ウィンドウが表示されます。

⑫「次へ」をクリック。
「システム領域のスキャンが完了しました」のメッセージが表示されます。

⑬「OK」をクリック。
「この製品についての最新の情報を表示しますか？」のメッセージが表示されます。
最新の情報を読む場合は「はい」、読まない場合は「いいえ」をクリックします。
最新の情報は「スタート」→「プログラム」→「McAfee VirusScan」→「ウイルスデータベースの内容」をクリックして読むことができます。
インストールが終了すると「インストールが完了しました」ウィンドウが表示されます。

⑭「はい、直ちにコンピュータを再起動します。」を選んで、「終了」をクリック。
Windows 98 が再起動します。

⑮「スタート」→「プログラム」→「McAfee VirusScan」→「VirusScan コンソール」をクリック。

⑯「McAfee VShield」の上で右クリックして、表示されたメニューから「プロパティ」をクリック。
「タスクプロパティ」のウィンドウが表示されます。

⑰「詳細設定」をクリック。
「VShield 設定」ウィンドウが表示されます。

⑱「スタートアップ時に起動」のチェックボックスをクリックしてチェックを外す。
スタートアップ時にVShieldを起動すると、ディスクアクセス時にウイルス検査を実行するため、アプリケーションなどの実行が遅くなります。

⑲「OK」をクリック。
「今すぐに読み込みを解除しますか？」のメッセージが表示されます。

⑳「はい」→「OK」→ をクリック。

これでインストールは完了です。

FAX-NX の追加

①「追加の準備」の手順①～⑥を行う。
「プロダクトの選択」ウィンドウが表示されます。

②「FAX-NX」をクリック（反転表示）して、「OK」をクリック。
「インストールを行う前に」ウィンドウが表示されます。

③「次へ」をクリック。
「ユーザ情報の設定」ウィンドウが表示されます。

④ 各種項目を入力して、「次へ」をクリック。
「情報の一覧」ウィンドウが表示されます。

⑤ 入力した情報を確認して「次へ」をクリック。
インストールが始まります。

インストールが終了すると、「再起動しますか？」ウィンドウが表示されます。

⑥「はい、直ちにコンピュータを再起動します。」を選んで「OK」をクリック。
Windows 98 が再起動します。
これでインストールは完了です。

FAX-NX 用プリンタドライバのセットアップ

「FAX-NX」では、専用のプリンタドライバ（「NEC FAX プリンタドライバ」）がセットアップされていないと、FAX 送信ができません。
「コントロールパネル」の「プリンタ」に「NEC FAX プリンタドライバ」があることを確認してください。
「NEC FAX プリンタドライバ」がない場合は、次の手順でセットアップします。

①「プリンタ」を開く。
（「スタート」→「設定」→「プリンタ」）
「プリンタ」ウィンドウが表示されます。
「NEC FAX プリンタドライバ」がないことを確認してください。「NEC FAX プリンタドライバ」がある場合は、以降の手順は必要ありません。

②「プリンタ」ウィンドウの「プリンタの追加」をダブルクリック。
「プリンタの追加ウィザード」が表示されます。

③「次へ」をクリック。
「プリンタの製造元とモデルを選択してください」と表示されます。

④「ディスク使用」をクリック。
「ディスクからインストール」ウィンドウが表示されます

⑤「配布先ファイルのコピー元」に「C:\FAXNX」を指定して、「OK」をクリック。

⑥「プリンタ」の欄に「NEC FAX プリンタドライバ」が表示されていることを確認して、「次へ」をクリック。

⑦「利用できるポート」の一覧から「FAXMODEM」を選んで、「次へ」をクリック。

⑧「プリンタに名前を付けられます」と表示されたら、「NEC FAX プリンタドライバ」と表示されていることを確認する。

⑨ ウインドウに「Windows アプリケーションで、このプリンタを通常のプリンタとして使用しますか」と表示されていたら、通常のプリンタとして使う場合は「はい」を、使わない場合は「いいえ」をクリック。

⑩「次へ」をクリック。

⑪「印字テストを行いますか」と表示されたら「いいえ」を選択して「完了」をクリック。

これで、「FAX-NX」用プリンタドライバのセットアップは完了です。

ランチ -NX の追加

①「追加の準備」の手順①～⑥を行う。
「プロダクトの選択」ウィンドウが表示されます。

②「ランチ -NX」をクリック（反転表示）して、「OK」をクリック。
「ようこそ」ウィンドウが表示されます。

③「次へ」をクリック。
「インストール先の選択」ウィンドウが表示されます。

④「次へ」をクリック。
インストールが始まります。

⑤「セットアップが完了しました。」と表示されたら「OK」をクリック。
これで、インストールは完了です。

CD ランチの追加

①「追加の準備」の手順①～⑥を行う。
「プロダクトの選択」ウィンドウが表示されます。

②「CD ランチ」をクリック（反転表示）して、「OK」をクリック。
「ようこそ」ウィンドウが表示されます。

③「次へ」をクリック。
「インストール先の選択」ウィンドウが表示されます

④「次へ」をクリック。
インストールが始まります

⑤「セットアップが完了しました。」と表示されたら「OK」をクリック。
これで、インストールは完了です。

BIGLOBE Walker 追加

①「追加の準備」の手順①～⑥を行う。
「プロダクトの選択」ウィンドウが表示されます。

②「BIGLOBE Walker」をクリック（反転表示）して、「OK」をクリック。
「ようこそ」ウィンドウが表示されます。

③「次へ」をクリック。
「警告」ウィンドウが表示されます。

④「OK」をクリック。
「インストール先の選択」ウィンドウが表示されます。

⑤「次へ」をクリック。
「BIGLOBE Walkerのインストールを開始します。よろしいですか？」と表示されます。

⑥「はい」をクリック。
あとは自動的にインストールされます。

これで、インストールは完了です。

BIGLOBE 入会申込（サインアップナビ）の追加

①「追加の準備」の手順①～⑥を行う。
「プロダクトの選択」ウィンドウが表示されます。

②「BIGLOBE 入会申込（サインアップナビ）」をクリック（反転表示）して、「OK」をクリック。
「ようこそ」ウィンドウが表示されます。

③「次へ」をクリック。
「インストール先の選択」ウィンドウが表示されます。

④「次へ」をクリック。
インストールが始まります。
しばらくすると、「セットアップが完了しました。続けてサインアップを開始します。よろしいですか。」と表示されます。

⑤「いいえ」をクリック。
「情報」ウィンドウが表示されます。

⑥「OK」をクリック。
これで、インストールは完了です。

MapPlayer-NX の追加

①「追加の準備」の手順①～⑥を行う。
「プロダクトの選択」ウィンドウが表示されます。

②「MapPlayer-NX」をクリック(反転表示)して、「OK」をクリック。
「ようこそ」ウィンドウが表示されます。

③「次へ」をクリック。
「インストール先の選択」ウィンドウが表示されます。

④「次へ」をクリック。
「プログラム フォルダーの選択」ウィンドウが表示されます。

⑤「次へ」をクリック。
インストールが始まります。

⑥ 再起動を促すメッセージが表示されたら「OK」をクリック。
これで、インストールは完了です。

プレーヤ -NX の追加

①「追加の準備」の手順①～⑥を行う。
「プロダクトの選択」ウィンドウが表示されます。

②「プレーヤ-NX」をクリック(反転表示)して、「OK」をクリック。
「ようこそ！ プレーヤ-NXの世界へ」ウィンドウが表示されます。

③「次へ」をクリック。
「Folder Selection」ウィンドウが表示されます。

④「次へ」をクリック。
インストールが始まります。

⑤「プレーヤ-NXは正しくインストールされました。」と表示されたら「OK」をクリック。
これで、インストールは完了です。

しゃべっていいメール、ボイスペンの追加 (一太郎モデル、Word モデルのみ)

①「追加の準備」の手順①～⑥を行う。
「プロダクトの選択」ウィンドウが表示されます。

②「しゃべっていいメール」をクリック(反転表示)して、「OK」をクリック。
「インストールを行う前に」ウィンドウが表示されます。

③「次へ」をクリック。
「インストール先の選択」ウィンドウが表示されます。

④「次へ」をクリック。
「プログラムフォルダの選択」ウィンドウが表示されます。

⑤ アイコンを追加したいフォルダを選択して、「次へ」をクリック。
「質問」ウィンドウが表示されます。

⑥「はい」をクリック。
「しゃべっていいメール」のインストールが始まります。しばらくすると「セットアップの完了」ウィンドウが表示されます。

チェック!!
「コントロールパネル」などの他の画面が前面に表示されている場合は、【Alt】＋【Tab】を押して画面を切り替えて、「セットアップの完了」ウィンドウを前面に表示してください。

⑦「終了」をクリック。
この後、「入力レベル調整」、「話者学習」を行ってください。
終了後、「はじめにお読みください」が表示されますので、必ずお読みください。

ホームページスクラップブックの追加

「ホームページスクラップブック」を追加する場合は、Internet Explorer 3.0以上がセットアップされている必要があります。Internet Explorerが正しくセットアップされていることを確認してください。

①「追加の準備」の手順①～⑥を行う。
「プロダクトの選択」ウィンドウが表示されます。

②「ホームページスクラップブック Ver2.0」をクリック(反転表示) して、「OK」をクリック。
「ようこそ」ウィンドウが表示されます。

③「次へ」をクリック。
「インストール先の選択」ウィンドウが表示されます。

チェック!!

セットアップ先のハードディスクに、すでにスクラップデータが存在する場合は、手順④の操作時に既存のスクラップデータをそのまま使うかを確認するウィンドウが表示されます。

そのままご利用になる場合は、「既存のスクラップデータベースを使用する」を選んで、「次へ」をクリックすると、「ブラウザの選択」ウィンドウが表示されますので、手順⑥へ進みます。既存データが必要ない場合は、「新規にスクラップデータベースを構築する」を選んで、「次へ」をクリックしてください。なお、「新規にスクラップデータベースを構築する」を選んで、「次へ」をクリックすると、手順⑤操作時に既存のデータはすべて削除されます。

④「次へ」をクリック。
「スクラップデータベースのドライブ確認」ウィンドウが表示されます。

⑤「次へ」をクリック。
「ブラウザの選択」ウィンドウが表示されます。

⑥「次へ」をクリック。
「設定項目の確認」ウィンドウが表示されます。

⑦「次へ」をクリック。
コピーが始まります。
しばらくすると「READMEファイルを読みますか？」というメッセージが表示されます。

⑧「いいえ」をクリック。
「はい」を選ぶと「README ファイル」がご覧になれます。

PictureStudio Light 、Adobe Acrobat Reader 3.0J の追加 (一太郎モデル、Word モデルのみ)

①「追加の準備」の手順①～⑥を行う。
「プロダクトの選択」ウィンドウが表示されます。

②「PictureStudio Light」をクリック（反転表示）して、「OK」をクリック。
「インストールを行う前に」ウィンドウが表示されます。

③「次へ」をクリック。
「インストール先の選択」ウィンドウが表示されます。

④「次へ」をクリック。
「プログラムフォルダの選択」ウィンドウが表示されます。

⑤「次へ」をクリック。
「PictureStudio Light」のインストールが始まります。
しばらくすると「セットアップの完了」ウィンドウが表示されます。

⑥「直ちに ReadMe ファイルを参照します。」のチェックををはずし、「終了」をクリック。
「Adobe Acrobat 3.0J インストール」ウィンドウが表示されます。

チェック!!

「PictureStudio Light」のオンラインマニュアルは「Adobe Acrobat Reader 3.0J」の形式で記載されています。3.0J 以降のバージョンの「Adobe Acrobat Reader」をお使いの場合は、手順⑦で「いいえ」を選んでください。この場合「Adobe Acrobat Reader」は追加されません。

⑦「はい」をクリック。
しばらくすると「ようこそ」ウィンドウが表示されます。

⑧「次へ」をクリック。
「使用許諾契約書」ウィンドウが表示されます。

⑨ 契約に同意する場合は「はい」をクリック。
「インストール先の選択」ウィンドウが表示されます。

⑩「次へ」をクリック。
「Adobe Acrobat Reader 3.0J」のインストールが始まります。
しばらくすると「セットアップの完了」ウィンドウが表示されます。

⑪「Acrobat Reader 3.0J Readme ファイルを表示する。」のチェックをはずし、「終了」をクリック。
「Adobe Acrobat 3.0Jセットアップ」ウィンドウが表示されます。

⑫「OK」をクリック。
これでインストールは完了です。

ThumbsStudio の追加

①「追加の準備」の手順①～⑥を行う。
「プロダクトの選択」ウィンドウが表示されます。

②「ThumbsStudio」をクリック（反転表示）して、「OK」をクリック。
「インストールを行う前に」ウィンドウが表示されます。

③「次へ」をクリック。
「インストール先の選択」ウィンドウが表示されます。

④「次へ」をクリック。
「プログラム フォルダの選択」ウィンドウが表示されます。

⑤「次へ」をクリック。
インストールが始まります。
しばらくすると、インストールが終了します。

翻訳アダプタII CROSSROADの追加

①「追加の準備」の手順①～⑥を行う。
「プロダクトの選択」ウィンドウが表示されます。

②「翻訳アダプタII CROSSROAD」をクリック（反転表示）して、「OK」をクリック。
「翻訳アダプタII CROSSROAD セットアップ」ウィンドウが表示されます。

③「OK」をクリック。
「はじめに」ウィンドウが表示されます。

④「OK」をクリック。
「ユーザ情報の入力」ウィンドウが表示されます。

⑤「シリアルNo:」に「C103B29100」（0は数字のゼロ）、「パスワード:」に「LGPPRFOO」（Oはアルファベットのオー）と入力する。

⑥「インストール」をクリック。
「セットアップを開始するには大きなボタンをクリックしてください。」と表示されます。

⑦ をクリック。
インストールが始まります。

⑧「翻訳アダプタII CROSSROADのセットアップが完了しました。」と表示されたら、「OK」をクリック。
これでインストールは完了です。

Timer-NXの追加

①「追加の準備」の手順①～⑥を行う。
「プロダクトの選択」ウィンドウが表示されます。

②「Timer-NX」をクリック（反転表示）して、「OK」をクリック。
「Timer-NXのセットアップを始めます。」のメッセージが表示されます。

③「OK」をクリック。
「セットアップを開始するには大きなボタンをクリックしてください。」と表示されます。

④ をクリック。
インストールが始まります。

⑤「Timer-NXのセットアップが完了しました。」と表示されたら、「OK」をクリック。

MAGIC FLIGHTの追加

①「追加の準備」の手順①～⑥を行う。
「プロダクトの選択」ウィンドウが表示されます。

②「MAGIC FLIGHT」をクリック（反転表示）して、「OK」をクリック。
「ようこそ」ウィンドウが表示されます。

③「次へ」をクリック。
「インストール先の選択」ウィンドウが表示されます。

④「次へ」をクリック。
インストールが始まります。

⑤「セットアップが完了しました。」と表示されたら「OK」をクリック。
これで、インストールは完了です。

AOLへのご招待の追加

①「追加の準備」の手順①～⑥を行う。
「プロダクトの選択」ウィンドウが表示されます。

②「AOLへのご招待」をクリック（反転表示）して、「OK」をクリック。
「ようこそ」ウィンドウが表示されます。

③「次へ」をクリック。
「インストール先の選択」ウィンドウが表示されます。

④「次へ」をクリック。
インストールが始まります。

しばらくすると、「情報」ウィンドウが表示されます。

⑤「OK」をクリック。

AOLの追加

「AOL」の追加の手順については、PART3「さまざまな通信サービス」の「AOLを利用する」をご覧ください。

ニフティサーブへようこその追加

①「追加の準備」の手順①～⑥を行う。
「プロダクトの選択」ウィンドウが表示されます。

②「ニフティサーブへようこそ」をクリック（反転表示）して、「OK」をクリック。
「インストール先の選択」ウィンドウが表示されます。

③「次へ」をクリック。
インストールが始まります。
途中で「ディスクトップにショートカットを置きますか？」と表示されます。ショートカットを置く場合は「はい」を、置かない場合は「いいえ」をクリックしてください。

しばらくすると、「セットアップが完了しました」と表示されます。

④「OK」をクリック。

NIFTY MANAGERの追加

「NIFTY MANAGER」の追加の手順については、PART3「さまざまな通信サービス」の「NIFTY SERVEを利用する」をご覧ください。

CyberWarner-NXの追加

①「追加の準備」の手順①～⑥を行う。
「プロダクトの選択」ウィンドウが表示されます。

②「CyberWarner-NX」をクリック（反転表示）して「OK」をクリック。
「CyberWarner-NXのインストレーション」が起動します。

③「次へ」をクリック。
「インストール先の選択」ウィンドウが表示されます。
インストール先を変更する場合は、「参照」をクリックしてインストール先を入力してください。

④「次へ」をクリック。
セットアップの準備が完了したメッセージが表示されます。

⑤「次へ」をクリック。
インストールが始まります。
インストールが終了すると「インストールを有効にするために再起動する必要があります」と表示されます。

⑥「OK」をクリック。
再起動を促すメッセージが表示されたら、「OK」をクリックします。
これでインストールは完了です。

チェック!!
「CyberWarner-NX」を再追加すると、本機起動時に「CyberWarner-NX」が常駐されます。

CyberTrio-NXの追加

①「追加の準備」の手順①～⑥を行う。
「プロダクトの選択」ウィンドウが表示されます。

②「CyberTrio-NX」をクリック（反転表示）して「OK」をクリック。
「CyberTrio-NX」ウィンドウが表示されます。

③「次へ」をクリック。
「インストール先の選択」ウィンドウが表示されます。
インストール先を変更する場合は、「参照」をクリックしてインストール先を入力してください。

④「次へ」をクリック。
インストールが始まります。

⑤「OK」をクリック。
再起動を促すメッセージが表示されたら、「OK」をクリックします。
これでインストールは完了です。

チェック!!
「CyberTrio-NX」を再追加すると、本機起動時に「ベーシックモードへようこそ」ウィンドウが表示されるようになります。

CyberCoach-NXの追加

①「追加の準備」の手順①～⑥を行う。
「プロダクトの選択」ウィンドウが表示されます。

②「CyberCoach-NX」をクリック（反転表示）して、「OK」をクリック。
「CyberCoach-NX」ウィンドウが表示されます。

③「次へ」をクリック。
「インストール先の選択」ウィンドウが表示されます。
インストール先を変更する場合は、「参照」をクリックしてインストール先を入力してください。

④「次へ」をクリック。
インストールが始まります。

⑤「終了」をクリック。
これで、インストールは完了です。

テキストリーダの追加

「テキストリーダ」の追加の手順については、PART2「テキストリーダの使用」の「テキストリーダのセットアップ」をご覧ください。

HOTALL の追加

①「追加の準備」の①～⑥を行う。
「プロダクトの選択」ウィンドウが表示されます。

②「HOTALL（NEC 版）」をクリック（反転表示）して、「OK」をクリック。
「SETUP.EXE」ウィンドウが表示された場合は、「アプリケーションの実行」ボタンをクリックしてください。
「ようこそ」ウィンドウが表示されます。

③「次へ」をクリック。
「インストール先の選択」ウィンドウが表示されます。

④「次へ」をクリック。
インストールが始まります。
しばらくすると「情報」ウィンドウが表示されます。

⑤「OK」をクリック。
これでインストールは完了です。

シール倶楽部の追加
（一太郎モデル、Word モデルのみ）

①「追加の準備」の①～⑥を行う。
「プロダクトの選択」ウィンドウが表示されます。

②「シール倶楽部」をクリック（反転表示）して、「OK」をクリック。
「シール倶楽部 Vol.1セットアップ」が表示されます。

③「セットアップ開始」をクリック。
インストール先を指定するウィンドウが表示されます。

④「OK」をクリック。
インストールが始まります。
しばらくすると「セットアップ完了」のメッセージが表示されます。

⑤「OK」をクリック。

インターネット カラオケキングの追加

①「追加の準備」の①～⑥を行う。
「プロダクトの選択」ウィンドウが表示されます。

②「カラオケキング」をクリック（反転表示）して、「OK」をクリック。
「ようこそ」ウィンドウが表示されます。

③「次へ」をクリック。
「インストールする前に」ウィンドウが表示されますので、内容をよくお読みください。

④「次へ」をクリック。
「インストール先の選択」ウィンドウが表示されます。

⑤「次へ」をクリック。
インストールが始まります。
途中で「簡単に実行できるようにデスクトップ上にアイコンを作りますか。」と表示されます。アイコンをデスクトップ上に作る場合は「はい」を、作らない場合は「いいえ」をクリックしてください。
「情報」ウィンドウが表示されます。

⑥「OK」をクリック。
これでインストールは完了です。

バーチャファイター 2 の追加

「バーチャファイター 2」の追加手順については、PART2「ゲームで遊ぶ」の「バーチャファイター 2（Virtua Fighter 2）」をご覧ください。

HatchInside2.0 の追加

①「追加の準備」の①～⑥を行う。
「プロダクトの選択」ウィンドウが表示されます。

②「HatchInside2.0」をクリック（反転表示）して、「OK」をクリック。
「ハッチインサイド（使用許諾契約）」ウィンドウが表示されます。

③「同意する」をクリック。
「インストール先の選択」ウィンドウが表示されます。

④「はい」をクリック。
インストールが始まります。

⑤「OK」をクリック。
これでインストールは完了です。

パソコン大学一年生 CD-ROM を使って追加する（一太郎モデル、Wordモデルのみ）

パソコン大学一年生 CD-ROM を使って、次のアプリケーションを追加することができます。

・パソコン大学一年生 for 一太郎 8
（一太郎モデルのみ）

・パソコン大学一年生 for 三四郎 8
（一太郎モデルのみ）

・パソコン大学一年生 for Word 98
（Word モデルのみ）

・パソコン大学一年生 for Excel 97
（Word モデルのみ）

パソコン大学一年生の追加

① CD-ROM ドライブに本機添付の「パソコン大学一年生 CD-ROM」をセットする。
自動的にセットアップを開始するウィンドウが表示されます。自動表示されない場合は、デスクトップの「マイコンピュータ」をダブルクリックし、表示された画面でCD-ROMドライブのアイコンをダブルクリックしてください。

②「OK」をクリック。
「セットアップを開始するには大きなボタンをクリックしてください」と表示されます。

③ をクリック。
アプリケーションの追加が始まります。
しばらくすると、セットアップが完了した旨のメッセージが表示されます。

④「OK」をクリック。
これでインストールは完了です。

一太郎バックアップ CD-ROM を使って追加する（一太郎モデルのみ）

一太郎 Office8 の追加

「アプリケーションを削除する」の「一太郎Office8の削除（一太郎モデルのみ）」の手順で、一太郎 Office8 を削除した場合は、本機に添付されている「一太郎バックアップ CD-ROM」を使用することにより、「一太郎Office8」をハードディスクに追加することができます。

ここでは、「一太郎Office8」の追加手順について説明します。

① CD-ROM ドライブに「一太郎バックアップ CD-ROM」をセットする。
自動的にセットアップを開始するウィンドウが表示されます。

自動表示されない場合は、デスクトップの「マイコンピュータ」を起動し、CD-ROM アイコンをダブルクリックしてください。

②「SETUP」をクリック。
セットアップ開始を確認するウィンドウが表示されます。

③「セットアップ開始」をクリック。

チェック!!
「使用許諾契約の確認」ウィンドウが表示た場合は「確認」をクリックしてください。

「Office8 のセットアップを行います」と表示されます。

④「次へ」をクリック。
「使用者名・法人名の登録」ウィンドウが表示されます。

⑤「次へ」をクリック。
「シリアルナンバー・User IDの登録」ウィンドウが表示されます。

⑥ J-Sheet をご覧の上、すべて入力して「次へ」をクリック。
「使用者名・シリアルナンバーの確認」ウィンドウが表示されます。

⑦ 正しく入力されていたら「登録する」をクリック。
「セットアップ方法の選択」ウィンドウが表示されます。

⑧「標準」を選ぶ。

⑨「次へ」をクリック。
「標準モードでセットアップすると」と表示されます。

⑩「次へ」をクリック。
「セットアップするフォルダを設定します」と表示されます。

⑪「次へ」をクリック。
「ファイルのコピーを開始します」と表示されます。

⑫「コピー開始」をクリック。
ファイルのコピーが始まります。しばらくお待ちください。

しばらくすると「インターネット接続方法の選択」ウィンドウが表示されます。

⑬「はい」を選択して「OK」をクリック。
「JustNetに入会するには」ウィンドウが表示されます。

⑭「確認」をクリック。
「一太郎Office8 のセットアップ終了」ウィンドウが表示されます。

⑮「再起動」をクリック。
Windows 98 が再起動します。

これで「一太郎Office8」のセットアップが終了です。

チェック!!

「一太郎Office8」を再追加すると、本機起動時に画面の右すみに「Office スタートバー」が表示されます。

Excel 97 & Word 98 & Outlook 97 CD-ROM、Outlook 98 CD-ROMを使って追加する（Word モデルのみ）

「アプリケーションを削除する」の「Mirosoft Draw 98 の削除（Word モデルのみ）」「Microsoft Word 98 の削除（Word モデルのみ）」、「Microsoft Excel 97 の削除（Word モデルのみ）」、「Microsoft Outlook 98の削除（Wordモデルのみ）」でDraw、Word、Excel、Outlookをそれぞれ削除した場合、本機に添付されている「Microsoft Excel 97 & Word 98 & Outlook 97 for Windows」CD-ROM（以降、Excel 97 & Word 98 & Outlook 97 CD-ROM）と、「Microsoft Outlook 98」CD-ROM（以降 Outlook 98 CD-ROM）を使用することにより、次のアプリケーションをハードディスクにセットアップすることができます。

・Microsoft Outlook 98
・Microsoft Excel 97
・Microsoft Word 98
・Microsoft Draw 98

チェック!!

・「Outlook 98 CD-ROM」に入っている「Microsoft Outlook 98」と「Excel 97 & Word 98 & Outlook 97 CD-ROM」に入っている「Microsoft Outlook 97」は、同時に使用することはできません。「Microsoft Outlook 98」をお使いください。
・本機には、既に最新の「MS-IME 98」がインストールされています。「Excel 97 & Word 98 & Outlook 97 CD-ROM」に入っている「MS-IME 98」は追加しないでください。

Outlook 98 のセットアップ

①「Outlook 98 CD-ROM」を CD-ROM ドライブにセットする。
自動的にセットアップを開始するウィンドウが表示されます。

自動表示されない場合は、デスクトップにある「マイコンピュータ」を起動し、CD-ROMアイコンをダブルクリックします。

②「Outlook 98のインストール」の右の をクリック。
「Outlook 98のセットアップ」のウィンドウが表示されます。

③「次へ」をクリック。
「使用許諾契約」のウィンドウが表示されます。

④ 同意する場合は「同意する」をクリックして、「次へ」をクリック。
「登録」のウィンドウが表示されます。

⑤「CD キー」の欄に「Microsoft Outlook 98 CD-ROM」の CD ケース裏面にある CD キーを入力して、「次へ」をクリック。
「インストールオプション」のウィンドウが表示されます。

⑥「標準インストール」が選ばれているのを確認して、「次へ」をクリック。
「電子メールアップグレードオプション」のウィンドウが表示されます。

⑦「上記以外のメールプログラム」をクリックして、「次へ」をクリック。
「電子メールサービスオプション」ウィンドウが表示されます。

⑧「インターネットのみ」が選ばれているのを確認して、「次へ」をクリック。
「Outlook 98をインストールするフォルダのパスを入力してください」と表示されます。

⑨「次へ」をクリック。
Outlook 98のセットアップが始まります。

「新しいコンポーネントをアップグレードしますか？」というウィンドウが表示された場合は、「更新された項目のみアップグレード」をクリックし、「OK」をクリックします。

セットアップが終了すると「コンポーネントのインストールは完了しました。」と表示されます。

⑩「OK」をクリック。
自動的に Windows が再起動します。

これでセットアップは完了です。

Excel 97 のセットアップ

①「Excel 97 & Word 98 & Outlook 97 CD-ROM」を CD-ROM ドライブにセットする。
自動的にセットアップを開始するウィンドウが表示されます。

自動表示されない場合は、デスクトップにある「マイコンピュータ」を起動し、CD-ROMアイコンをダブルクリックします。

②「Excel 97 のセットアップ」をクリック。
Excel のセットアッププログラムが起動します。

③「継続」ボタンをクリック。
「ユーザー情報の登録」ウィンドウが表示されます。

④「OK」をクリック。
「ユーザー情報の確認」ウィンドウが表示されます。

⑤「OK」をクリック。
プロダクト ID 番号を知らせるウィンドウが表示されます。

⑥「OK」をクリック。
フォルダを選ぶウィンドウが表示されます。

⑦ そのまま、「OK」をクリック。
セットアップ方法を選ぶウィンドウが表示されます。

⑧「標準セットアップ」を選んで、「継続」をクリック。
Excel のセットアップが始まります。

セットアップが終了すると「Microsoft Excel 97 セットアップが完了しました」と表示されます。

⑨「OK」をクリック。
「Windows の再起動」のウィンドウが表示された場合は、実行中の他のアプリケーションを終了した後、「Windows の再起動」をクリックし、Windows を再起動してください。

これで、セットアップは完了です。

Word 98 のセットアップ

① CD-ROM ドライブに「Excel 97 & Word 98 & Outlook 97 CD-ROM」をセットする。
自動的にセットアップを開始するウィンドウが表示されます。

自動表示されない場合は、デスクトップにある「マイコンピュータ」を起動し、CD-ROMアイコンをダブルクリックします。

②「Word 98 のセットアップ」をクリック。
Word のセットアッププログラムが起動します。

③「継続」をクリック。
「ユーザー情報の登録」のウィンドウが表示されます。

④「OK」をクリック。
「ユーザー情報の確認」のウィンドウが表示されます。

⑤「OK」をクリック。
プロダクト ID 番号を知らせるウィンドウが表示されます。

⑥「OK」をクリック。
フォルダを選ぶウィンドウが表示されます。

⑦ そのまま、「OK」をクリック。
セットアップ方法を選ぶウィンドウが表示されます。

⑧「標準セットアップ」を選んで、「継続」をクリック。
Word のセットアップが始まります。

セットアップが終了すると「Microsoft Word 98 セットアップが完了しました」と表示されます。

⑨「OK」をクリック。
「Windows の再起動」のウィンドウが表示された場合は、実行中の他のアプリケーションをすべて終了した後、「Windows の再起動」をクリックし、Windows を再起動してください。

これで、セットアップは完了です。

Draw 98 のセットアップ

① CD-ROM ドライブに「Excel 97 & Word 98 & Outlook 97 CD-ROM」をセットする。
自動的にセットアップを開始するウィンドウが表示されます。
自動表示されない場合は、デスクトップにある「マイコンピュータ」を起動し、CD-ROMアイコンをダブルクリックします。

② 「Draw 98 のセットアップ」をクリック。
Draw 98 のセットアッププログラムが起動します。

③ 「継続」をクリック。
「セットアップを開始するには、左下のボタンをクリックしてください」と表示されます。

④ 「維続」をクリック。
Draw 98 のセットアップが始まります。

セットアップが終了すると「Microsoft Draw 98 セットアップが完了しました」と表示されます。

④ 「OK」をクリック。
「Windows の再起動」のウィンドウが表示された場合は、実行中の他のアプリケーションをすべて終了した後、「Windowsの再起動」をクリックし、Windowsを再起動してください。

これで、セットアップは完了です。

PART

5

ハードウェア

- マウスの設定
- キーボードの設定
- ハードディスク
- フロッピーディスク
- ディスプレイ
- 省電力機能（スタンバイ）
- サウンド機能
- マイクロホン
- FAX モデムボード
- デバイスマネージャ
- CD-ROM の取り扱い

マウスの設定

「マウスのプロパティ」ウィンドウでは、ダブルクリックのタイミングの調整、マウスポインタの形の選択や動きの調整、左ききの方のためのマウスの設定などの設定ができます。

参照
・マウスの使い方について→『STEP2 入門』「PART 2 マウスに慣れよう」

「マウスのプロパティ」ウィンドウでの設定

①「コントロールパネル」を開く。
（「スタート」→「設定」→「コントロールパネル」）

※この画面は機種によって異なる場合があります。

②「マウス」をダブルクリック。
「マウスのプロパティ」ウィンドウが表示されます。

「マウスのプロパティ」ウィンドウには、ここで表示されている「ボタン」タブのウィンドウの他に「ポインタ」「動作」タブのウィンドウがあります。タブをクリックすると、そのタブに対応するウィンドウを表示できます。各ウィンドウで行える設定は次の通りです。

「ボタン」タブのウィンドウ

ボタンの選択

マウスのボタンの左右の機能を交換して、右きき用 / 左きき用に設定できます。

用語

状況に応じたメニュー
現在の本機の状況や、ポインタの位置で可能な操作の一覧が表示されているメニュー。

補助ドラッグ
ファイルやフォルダのコピー、ショートカットアイコンの作成などができるドラッグ。

ダブルクリックの速度

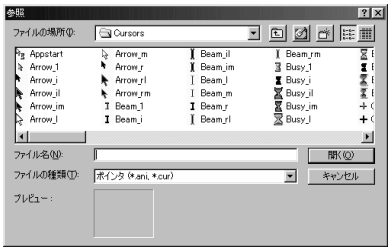
マウスのボタンを 2 回続けてクリックするときの、間隔（タイミング）を調整します。「遅く」にすると間隔が長く、「速く」にすると間隔が短くなります。調整したタイミングを「テスト」にあるアイコン（びっくり箱）で確認できます。調整したタイミングでダブルクリックをすると、箱が開いて中から人形が飛び出してきます。

※購入時状態では、遅めに設定されています。

「ポインタ」タブのウィンドウ

このウィンドウでは、マウスポインタの形を選択できます。例として、マウスポインタの形を矢印から ＋ に変更してみます。

①「通常の選択」が反転表示している状態で「参照」をクリック。
「参照」ウィンドウ（「Cursors」フォルダ）が表示されます。



②「Cross_1」をダブルクリック。
「Cross_1」のアイコンが「ポインタ」タブのウィンドウに表示されます。

③「OK」をクリック。
マウスポインタの形が十字の形になります。

チェック!!

マウスポインタを元に戻すには、「既定の設定」をクリックします。

「動作」タブのウィンドウ

マウスポインタの動作について設定できます。

チェック!!

VE26/4では、「ポインタの軌跡」を「表示する」に設定しても、ポインタの軌跡は表示されません。

キーボードの設定

「キーボードのプロパティ」ウィンドウでは、文字のリピート入力のタイミングの調整、カーソルの点滅速度の調整、日本語入力システムの選択、キーボードレイアウトの設定など、いろいろな設定ができます。

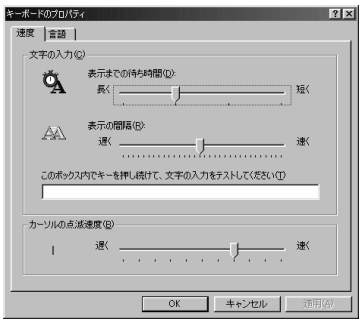
参照
・キーボードの使い方について→『STEP2 入門』
・日本語の入力のしかたについて→『STEP2 入門』

「キーボードのプロパティ」ウィンドウでの設定

①「コントロールパネル」を開く
(「スタート」→「設定」→「コントロールパネル」)

※この画面は機種によって異なる場合があります。

②「キーボード」をダブルクリック。
「キーボードのプロパティ」ウィンドウが表示されます。



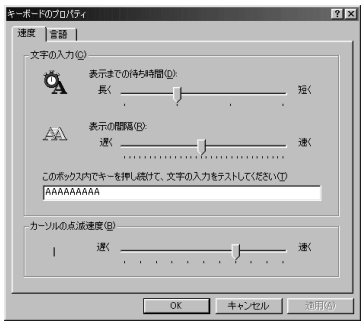
「キーボードのプロパティ」ウィンドウには、ここで表示されている「速度」タブのウィンドウの他に「言語」タブのウィンドウがあります。タブをクリックすると、そのタブに対応するウィンドウを表示できます。各ウィンドウで行える設定は次の通りです。

「速度」タブのウィンドウ

文字の入力

「表示までの待ち時間」では、キーを押し続けたときに、入力の繰り返しが始まるまでの時間を調整します。
「表示の間隔」では、キーを押し続けたときに、文字の入力が繰り返される間隔を調整します。
調整後に、ボックスでテストすることができます。例えば「A」のキーを押し続けて感じをつかむことができます。

※購入時の状態では、「表示の間隔」は遅めに設定されています。



カーソルの点滅速度

カーソルの点滅する間隔を調整します。

「言語」タブのウィンドウ

チェック!!

画面は一太郎モデルの場合です。Word モデル、ワープロ / 表計算なしモデルの場合は、「Microsoft IME 98」が表示されます。

インストールされている言語とレイアウト

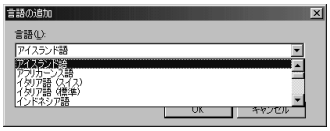
◎ 言語（日本語入力システム）の選択

よく使う日本語入力システムを一覧から選んで（反転表示になる）、「既定値として設定」をクリックすると、その日本語入力システムが「既定の言語」の欄に表示されます。

◎ 言語の追加

「追加」をクリックすると、「言語の追加」ウィンドウが表示されます。

をクリックして、追加したい言語を選びます。



◎ キーボードレイアウトの設定

日本語入力システムを一覧から選んで（反転表示になる）、「プロパティ」をクリックすると、日本語入力システムの環境を設定するウィンドウが表示されます。

「ATOK11」の場合

「Microsoft IME 98」の場合

ローマ字/かな入力、入力モード/方式、句読点の種類などを設定できます。

◎ 言語の削除

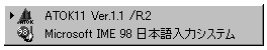
削除したい言語を一覧から選んで（反転表示になる）、「削除」をクリックすると、その言語が一覧から削除されます。

言語の切り替え

言語の切り替えを行うキーの組み合わせを選びます。

タスクバー上に状態を表示

多国語インジケータをタスクバーに表示します。このインジケータをクリックすると、言語や日本語入力システムを簡単に切り替えることができるメニューが表示されます。



ハードディスク

ハードディスクの代表的なツールである、スキャンディスク、デフラグなどについて説明します。

参照
・ハードディスクを増設する→『拡張の手引き』PART7「ハードディスクを増設する」

概要

ハードディスクは、外部記憶装置のひとつです。正確に表現すれば、実際に磁気を利用してデータを記録する円盤（ディスク）と、ディスクを高速に回転させて、データの読み書きをするヘッドやアーム、モーターなどからなる装置全体を指し、ハードディスク装置といいます。ディスクと磁気ヘッドなどの装置は、密封された容器に収められているために、他の外部記憶装置のメディアのように、記憶媒体（ディスク）自体を単独で取り出すことはできません。しかし、ディスクを高速で回転できるために、フロッピーディスクや光磁気ディスクなどに比べて、読み書きするスピードは格段に速くなります。

ハードディスクは外部記憶装置のひとつには違いありませんが、CPUやメモリとともに、パソコンの中心的な存在です。オペレーティングシステム（OS）やアプリケーションソフトなどは、すべてハードディスクに格納されます。ハードディスクのドライブ名は通常は「C」です。

取り扱いの注意

ハードディスクは、たいへん精密な機械です。取り扱いには、次のことに十分注意してください。

・電源が入っているときは、本体に振動や衝撃を加えたり、持ち運んだりしないでください。

・電源を切って本体を運ぶときでも、できるだけ慎重に扱ってください。

・電源を切るときは、『STEP2 入門』で説明されている手順に従ってください。Windows 98以外のOSを使用している場合、キーボードの【Esc】を押してから電源スイッチを押してください。

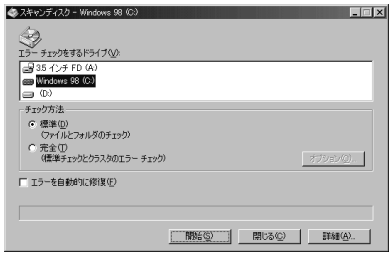
なお、このマニュアルではハードディスクの記憶容量を、1Mバイト＝1,000,000バイト及び1Gバイト＝1,000,000,000バイトで計算したときの値で示してあります。Windows 98では、1Mバイト＝1,048,576バイト、1Gバイト＝1,073,741,124バイトで値を計算していますので、この値よりも小さな値で表示されます。

スキャンディスク

スキャンディスクとは、ハードディスク自体やハードディスクに保存されているデータに、障害がないかどうかを調べるためのツールです。実際には、ハードディスクドライブ上のFAT（ファイルアロケーションテーブル）やクラスタ、ディレクトリツリー構造、ドライブの物理表面の不良セクタなどをチェックします。定期的にスキャンディスクを行って、ハードディスクに障害がないかチェックしてください。エラーが発見されたら、修復するようにしてください。

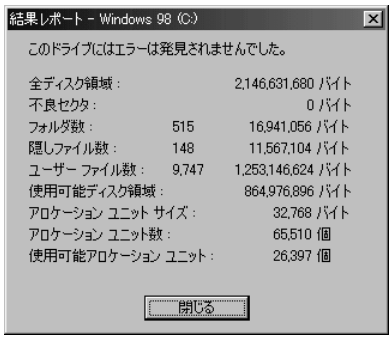
スキャンディスクは次のように実行します。

①「スキャンディスク」を起動する。
（「スタート」→「プログラム」→「アクセサリ」→「システムツール」→「スキャンディスク」）

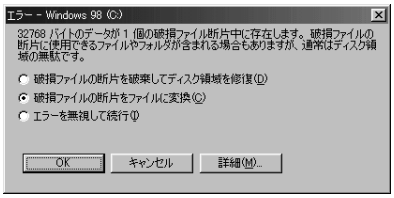


②「エラーチェックをするドライブ」の中から、チェックするドライブをクリック。

③「開始」をクリック。
チェックが始まります。
チェックが終了すると、「結果レポート」が表示されます。



何か問題が検出されたときは、次のような画面が表示されます。この場合は、画面の指示に従ってください。



④「結果レポート」ウィンドウの「閉じる」をクリックし、もう一度「閉じる」をクリック。
スキャンディスクの作業が終了します。

「完全チェックのオプション」ウィンドウ

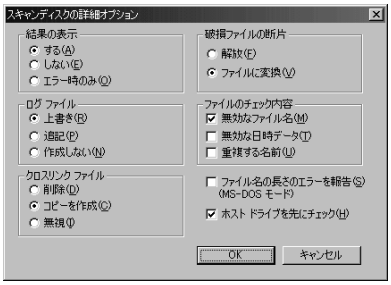
徹底的なチェックをしたいときは、チェック方法の「完全」をクリックしてから「オプション」をクリックして、次のウィンドウを表示して使いたいオプションを選びます。

チェック!!

完全チェックはかなり時間がかかります。

「スキャンディスクの詳細オプション」ウィンドウ

「詳細」ボタンをクリックして次のウィンドウを表示すると、さらに細やかな設定ができます。



不良セクタ、スキップセクタ

ハードディスクは、きわめて精密に製造されますが、データが高密度で記録されるため、読み出しエラーの起こりやすい場所ができることがあります。これを「不良セクタ」または「スキップセクタ」と呼びます。パソコンではこのような場所にはデータを記録しないようにしています。
Windows 98の「スキャンディスク」などを実行すると「不良セクタ」または「スキップセクタ」と表示されることがありますが、これは、不良セクタ、スキップセクタを使わないように処理されていることを表しており、異常ではありません。
なお、「不良セクタ」または「スキップセクタ」が表示された場合でも、「全ディスク領域」または「全ディスク容量」のバイト数*が次の表の値であれば不良ではありませんので、正常にお使いいただけます。

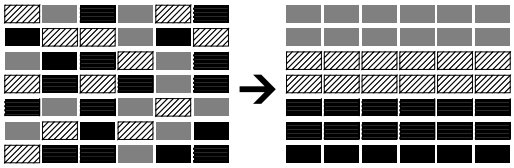
	VE23/45A
内蔵ハードディスク	2.1G バイト
正常値	2,100,000,000 バイト以上

VE26/4、VE23/45C、VE23/45D、VC23/4、VE23/47C、VE23/47D	
内蔵ハードディスク	3.2G バイト
正常値	3,200,000,000 バイト以上

*VE26/4、VE23/47C、VE23/47D、VE23/45C、VE23/45D、VC23/4 の場合、内蔵ハードディスクは、2つの領域に分けられています。表の正常値は、2つの領域のバイト数を合計した値です。なお、領域が分けられている場合には、バイト数の合計が、表の正常値より減る場合があります。

デフラグ

ハードディスク（またはフロッピーディスク）を長い間使っていると、データがハードディスクの空いている場所に、バラバラに保存されるようになります。この状態をフラグメンテーションまたは断片化と呼びます。この状態になると、データが連続していないので、データを読み書きする時間が長くなります。「デフラグ」というツールを使うと、このようなバラバラになったデータを、最適な場所に整理できます。



デフラグ前　　デフラグ後

デフラグは次のように実行します。

チェック!!

「デフラグ」の実行中は、絶対にスタンバイ状態にしたり、本機の電源を切ったりしないでください。スタンバイ状態にしたり、電源を切ると、ハードディスクの内容が壊れる場合があります。自動的にスタンバイ状態にする設定になっている場合は、「コントロールパネル」の「電源の管理」で解除してください。

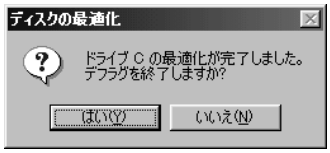
参照
・「電源の管理」→PART5「省力機能（スタンバイ）」

① 「デフラグ」を起動する。
（「スタート」→「プログラム」→「アクセサリ」→「システムツール」→「デフラグ」）

② ▼ をクリックし、一覧の中から、デフラグするハードディスク（またはフロッピーディスク）のドライブを選ぶ。

③ 「OK」をクリック。
デフラグの作業が始まります。

デフラグの作業が終了すると、次のウィンドウが表示されます。



④ 「はい」をクリック。
これで、デフラグの作業が終了します。

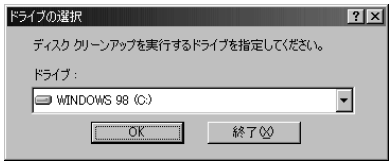
その他のツール

ディスククリーンアップ

「ディスククリーンアップ」を使うと、インターネットを利用したときに作成される一時ファイルなど、不必要なファイルを削除して、ディスクの空き容量を増やすことができます。

「ディスククリーンアップ」は次のように実行します。

① 「ディスククリーンアップ」を起動する。
（「スタート」→「プログラム」→「アクセサリ」→「システムツール」→「ディスククリーンアップ」）



② ▼ をクリックして、ディスククリーンアップを実行するドライブを選ぶ。

③「OK」をクリック。
「ディスククリーンアップ」ウィンドウが表示されます。

④「削除するファイル」の一覧から、削除したいファイルの種類を選ぶ。

⑤「OK」をクリック。
次のウィンドウが表示されます。

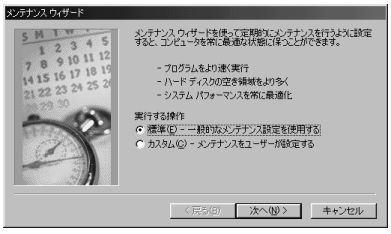
⑥「はい」をクリック。
ファイルが削除されます。

メンテナンスウィザード

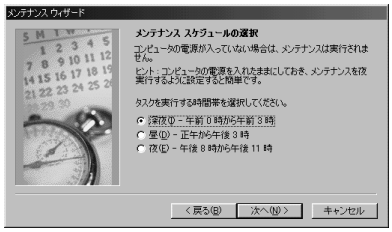
「メンテナンスウィザード」は、「スキャンディスク」、「デフラグ」、「ディスククリーンアップ」を決められた時間に、自動的に実行することができますので、定期的に、これらのツールを実行することができます。

「メンテナンスウィザード」は次のように実行します。

①「メンテナンスウィザード」を起動する。
(「スタート」→「プログラム」→「アクセサリ」→「システムツール」→「メンテナンスウィザード」)



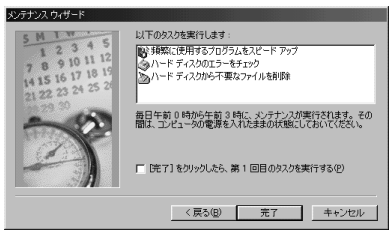
②「次へ」をクリック。
次のウィンドウが表示されます。



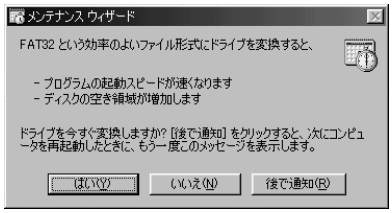
③ メンテナンスを実行する時間帯を設定する。

チェック!!
設定した時間に、本機の電源が入っていない場合は、メンテナンスは実行されません。

④「次へ」をクリック。
次のウィンドウが表示されます。



⑤「完了」をクリック。
ハードディスクのファイルシステムがFAT32でない場合、次のウィンドウが表示されます。



- 「はい」をクリックすると、「ドライブコンバータ(FAT32)」が起動します。
「ドライブコンバータ」については、後述の「ドライブコンバータ(FAT32)」をご覧ください。
- 「いいえ」をクリックすると、「メンテナンスウィザード」が終了します。
- 「後で通知」をクリックすると、次に本機を再起動したときに、このウィンドウが表示されます。

ドライブコンバータ（FAT32）

「ドライブコンバータ（FAT32）」を使うと、ハードディスクのファイルシステムをFAT32に変換することができます。

FAT32について

FAT（File Allocation Table）16ファイルシステム（以降、FAT16）は、MS-DOSや従来のWindowsで使用されている基本的なファイルシステムです。
FAT32ファイルシステム(以降、FAT32)はFAT16を拡張したファイルシステムで、次のような特長があります。

・従来のFAT16では、2Gバイトの容量を超える領域を扱えませんでしたが、FAT32では理論上2T（テラ）バイト（2,047Gバイト）の容量まで扱えます。

・クラスタサイズがFAT16よりも小さいため、ハードディスクをより効率よく使用できます。

チェック!!

・FAT32に変換した後に、FAT16に戻すには、再セットアップを行う必要があります。

・本機の購入時のハードディスクのCドライブ（第1パーティション）の領域はFAT16です。通常は、FAT16のまま使用してください。

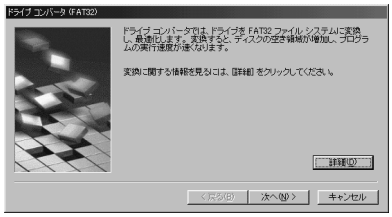
・本機に添付されているアプリケーションやご使用になっているソフトウェアによっては正しく動作しない場合があります。

・スキャンディスク、バックアップ、およびデフラグなど、「システムツール」グループにあるディスク管理ツールはFAT32に対応しています。ただし、「ドライブスペース」ではFAT32のドライブを圧縮できません。

・FAT32は、本機にインストールされているWindows 98でのみ使用できます。Windows NT 4.0では、FAT32のドライブに保存されたデータやファイルにアクセスできません。

ドライブコンバータ（FAT32）の起動

①「ドライブコンバータ（FAT32）」を起動する。
（「スタート」→「プログラム」→「アクセサリ」→「システムツール」→「ドライブコンバータ（FAT32）」）



②「次へ」をクリック。
次のウィンドウが表示されます。

③ 変換するドライブを選んで、「次へ」をクリック。
次のウィンドウが表示されます。

④「OK」をクリック。
FAT32に対応していないプログラムの検出が始まります。

検出が終わると次のウィンドウが表示されます。

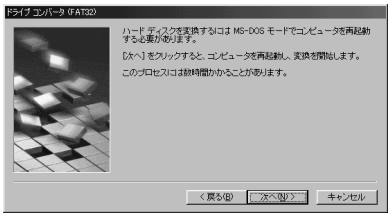
チェック!!

このウィンドウで、FAT32 に対応していないプログラムが検出された場合は、「キャンセル」をクリックして、「ドライブコンバータ（FAT32）」を終了させてください。検出されたプログラムを使用する場合は、FAT32 には変換できません。

⑤「次へ」をクリック。
次のウィンドウが表示されます。

FAT16に戻す可能性がある場合には、「バックアップの作成」をクリックして、バックアップを作成してください。

⑥「次へ」をクリック。
次のウィンドウが表示されます。



⑦「次へ」をクリック。
変換が始まります。変換には、時間がかかります。
変換が終わると「変換が完了しました」のメッセージが表示されます。

⑧「完了」をクリック。
これで変換は終了です。

フロッピーディスク

使用できるフロッピーディスクの種類、バックアップのとりかた、Windows 起動ディスクの作成方法などについて説明します。

参照

・フロッピーディスクのフォーマット→『STEP3 活用』「PART4 フロッピーディスクを使う」

使用できるフロッピーディスクの種類

本機では、以下のようなフロッピーディスクを使用できます。

タイプ	フォーマット（容量）※1			
	1.44MB	1.2MB	720KB	640KB
2HD	○	△※2	×	×
2DD	×	×	○	×

※1：MS-DOSまたはWindowsでフォーマットされたものが使えます。

※2：読み書きはできますが、1.2Mバイトでのフォーマットはできません。また、ディスクのコピーもできません。

フロッピーディスクのバックアップ

フロッピーディスクは非常にデリケートです。ホコリが入ってしまったり、折れてしまったりなど、何らかの事故によって、保存しているデータが壊れてしまうことがあります。万一に備えて、大切なデータは、定期的にバックアップをとることをおすすめします。

① バックアップをとりたいフロッピーディスク（コピー元）をフロッピーディスクドライブにセットする。

チェック!!

・誤って、データを消さないように、コピー元のフロッピーディスクには、あらかじめライトプロテクトしておくことをおすすめします。

・コピー先のフロッピーディスクは、コピー元のフロッピーディスクと同じ容量でフォーマットされたフロッピーディスクを使用してください（これは、「MS-DOS プロンプト」の DISKCOPY コマンドでも同じです）。

参照

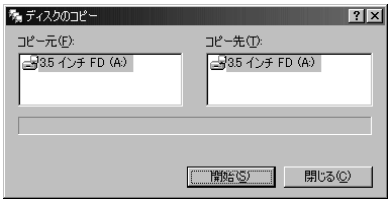
・ライトプロテクトについて→『ＳＴＥＰ３ 活用』PART4「フロッピーディスクにファイルをコピーする」

②「マイコンピュータ」をダブルクリック。
「マイコンピュータ」ウィンドウが表示されます。

③「3.5 インチ FD」をクリック。
「3.5 インチ FD」アイコンが反転表示になります。

④「ファイル」をクリック。
「ファイル」のメニューが表示されます。

⑤「ディスクのコピー」をクリック。
「ディスクのコピー」ウィンドウが表示されます。



⑥「開始」をクリック。
ディスクのコピーが始まります。

しばらくして次の画面が表示されます。

⑦ コピー元のフロッピーディスクをフロッピーディスクドライブから取り出して、コピー先のフロッピーディスクをセットする。

⑧「OK」をクリック。
ディスクのコピーが再開します。

コピーが終了すると次の画面が表示されます。

⑨「閉じる」をクリック。
ディスクのコピーが終了し、バックアップが作成されました。

Windows 起動ディスク

ハードディスクやWindows 98のシステムに大きな障害を受けると、本機の電源を入れても Windows 98 が起動しなくなってしまうことがあります。このような場合には、「Windows 起動ディスク」を使うと、フロッピーディスクから Windows 98 のシステムを起動させることができます。万一、システムが起動しなくなったときのために、Windows 起動ディスクを作成することをおすすめします。

Windows 起動ディスクの作成

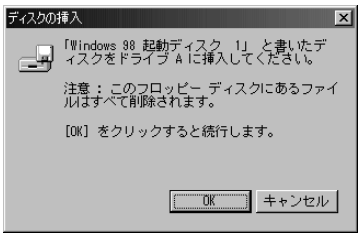
フロッピーディスクを 2 枚用意してください。未フォーマットのものでもかまいません。

① コントロールパネルを開く。
「スタート」→「設定」→「コントロールパネル」でウィンドウが表示されます。
(「ランチ-NX」→「ユーティリティ」→「アプリケーションの追加と削除」で手順③へ進むこともできます。)

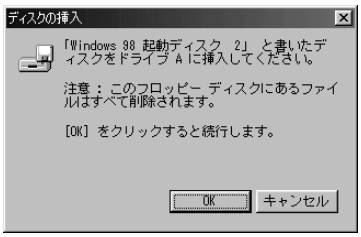
②「アプリケーションの追加と削除」をダブルクリック。
「アプリケーションの追加と削除のプロパティ」ウィンドウが表示されます。

③「起動ディスク」をクリック。
「起動ディスク」タブのウィンドウが表示されます。

④「ディスクの作成」をクリック。
起動ディスク作成の準備が始まり、すぐに次のメッセージが表示されます。



⑤ 指示に従い、「OK」をクリック。
起動ディスクの作成が始まります。
しばらくすると、次のメッセージが表示されます。



⑥ 指示に従い、「OK」をクリック。
再び、起動ディスクの作成が始まります。

終了すると、「アプリケーションの追加と削除のプロパティ」ウィンドウに戻ります。

⑦「OK」をクリック。
Windows 起動ディスクの作成が完了しました。

Windows起動ディスクから本機を起動する

作成した「Windows起動ディスク」を使って、起動します。

① 本機の電源を入れる。

② すぐにフロッピーディスクドライブに「Windows 98 起動ディスク 1」をセットする。
「Microsoft Windows 98 Startup Menu」が表示されます。

③ CD-ROMドライブを使う場合は、「1」を、使わない場合は、「2」を選んで、【Enter】を押す。
しばらくすると、「キーボードのタイプを判定します」と表示されます。

④ 【半角 / 全角】を押す。
「106キーボードが選択されました」を表示されます。
しばらくすると、「Windows 98 起動ディスク 2 を挿入してください.続けるにはどれかキーを押してください」と表示されます。

⑤ フロッピーディスクドライブから、「Windows 98 起動ディスク 1」を取り出し、「Windows 98 起動ディスク 2」をセットして、何かキー（【Enter】など）を押す。
コマンドプロンプト（「A:\>_」）が表示されます。

これで、Windows起動ディスクからの起動が完了しました。
再びハードディスクから起動したい場合は、フロッピーディスクドライブからWindows起動ディスクを取り出して、本機を再起動してください。

Windows起動ディスクのコマンドツール

Windows起動ディスクで起動した場合にこれらのコマンドを使用できます。

Edit	テキストファイルを編集します。
Fdisk	ハードディスクの領域を確保します。
Format	ディスクを初期化します。
Scandisk	ディスクのエラーを検査し、修復します。
Sys	起動用のシステムをドライブへ転送します。

ディスプレイ

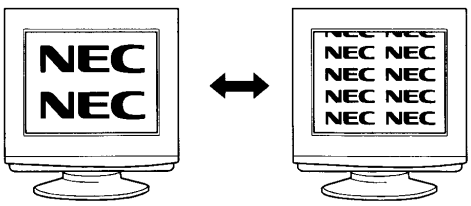
本機には、ウィンドウアクセラレータ機能が標準で搭載されています。お使いの用途に応じた解像度や、発色数に切り替えて使用できます。

概要

解像度

ディスプレイでは文字やグラフィックを、小さな点（ドット）の集まりで画面に表示しています。ディスプレイの解像度とは、ディスプレイの画面上での文字やグラフィックを表現するときの、緻密さの度合いのことです。例えば、640×480ドットというのは、ディスプレイの横（水平）方向に640個のドット（点）、縦（垂直）方向に480個のドットで表示できることを示しています。ドット数が増えるほど、精細な表示ができるようになります。

一度に表示できるドット数を増やすことを「高解像度にする」と表現します。高解像度にすると、緻密な画像を表現できます。また、同じアプリケーションでも、高解像度時には、より広い範囲を表示することができます。ただし、解像度が高くなるにつれて、画面に表示される文字は小さくなっていきます。画面の文字が読みにくくなるときには、解像度を下げるようにしてください。



表示色

ディスプレイの個々のドットを、何種類の色で表現できるかを示す尺度を表示色といいます。本機では通常、次の表示色が表示できます。

- 16,777,216色（1677万色）
- 65,536色（6万5千色）※1
- 32,768色（3万2千色）※2
- 256色
- 16色

※1：VC23/4、VE23/4で表示できます。
※2：VE26/4で表示できます。

また、3万2千色/6万5千色で表示することを、「High Color（ハイカラー）表示」、1677万色で表示することを「True Color（トゥルーカラー）表示」あるいは、「Full Color（フルカラー）表示」と呼ぶこともあります。

走査周波数

CRTディスプレイでは、電子ビームを管面の蛍光体に当てて発光させ、文字やグラフィックを表示しています。このとき、電子ビームが画面の左端から右端へ移動することを水平走査、画面の上端から下端へ移動することを垂直走査と呼びます。電子ビームが蛍光体に当たると、発光するのは一瞬ですが、短時間（例えば1秒間）に何度も同じ点が発光すると、残像効果により文字、あるいはグラフィックとして認識できるのです。
1秒間に水平方向に走査する回数を水平走査周波数と呼び、同様に1秒間に垂直方向に走査する回数を垂直走査周波数と呼びます。
液晶ディスプレイでは、液晶に電圧を加えると、光の反射率や透過率が変化する性質を利用して文字やグラフィックを表示しています。

本機にセットのディスプレイを使う場合

本機とセットのディスプレイは、標準で次の解像度と表示色、走査周波数を表示できます。

VC23/4、VE23/4 の場合

○:表示可

解像度(ドット)	表示色	水平走査周波数(KHz)	垂直走査周波数(Hz)	17インチCRTディスプレイ(DV17A1)	15インチCRTディスプレイ(DV15D1)	液晶ディスプレイ(F14T2L)
640×480	16色 256色 65,536色 1,677万色	37.5	75.0	○	○	○ *1
		31.5	59.9	○	○	○ *1
800×600	256色 65,536色 1,677万色	46.9	75.0	○	○	○ *1
		37.9	60.3	○	○	○ *1
1,024×768	256色	60.0	75.0	○	○	○
	65,536色	56.5	70.1	○	○	○
1,280×1,024	256色	64.0	60.0	○	×	×

＊1:拡大表示となります。拡大表示では文字や線の太さが不均一になることがあります。

※上記以外の解像度、走査周波数ではディスプレイによっては、特定の表示ができなかったり、ディスプレイ側の微調整が必要な場合もあります。

VE26/4 の場合

○:表示可　×:表示不可

解像度(ドット)	表示色	水平走査周波数(KHz)	垂直走査周波数(Hz)	15インチCRTディスプレイ(DV15A1)	17インチCRTディスプレイ(DV17A1)
640×480	16色 256色 32,768色 1,677万色	37.5	75.0	○	○
		31.5	59.9	○	○
800×600	256色 32,768色 1,677万色	46.9	75.0	○	○
		37.9	60.3	○	○
1,024×768	256色 32,768色 1,677万色 *1	60.0	75.0	○	○
		56.5	70.1	○	○
1,280×1,024	256色 32,768色 *1	64.0	60.0	×	○

＊1:VRAM(2Mバイト)を増設することで表示できます。

※上記以外の解像度、走査周波数ではディスプレイによっては、特定の表示ができなかったり、ディスプレイ側の微調整が必要な場合もあります。

リフレッシュレートの切り替えについての注意

リフレッシュレートの既定値は、本体とディスプレイの組み合わせで最も適した値に設定されています。この設定は「画面のプロパティ」で変更できる場合がありますが、ディスプレイがサポートしていないリフレッシュレートを選択すると表示が乱れたり、画面が正しく表示されない場合があります。変更するときは注意してください。

別売のディスプレイを使う場合

本機には、別売のディスプレイを接続することもできます。本機の表示機能は次の通りです。

◎ 解像度

640×　480ドット
800×　600ドット ＊1
1,024×　768ドット ＊2
1,280×1,024ドット

＊1:購入時の設定(CRTディスプレイセットモデル)
＊2:購入時の設定(液晶ディスプレイセットモデル)

◎ 表示色数

VC23/4、VE23/4	VE26/4
16色	16色
256色	256色
65,536色＊	32,768色＊
1,677万色	1,677万色

※表示できる色数は、各解像度によって異なります。
＊:購入時の設定

◎ 走査周波数

水平走査周波数(31.5～80.0KHz)

※使用できる周波数は、各解像度、表示色数によって異なります。別売のディスプレイを使用する場合は、左の表を参考に対応した周波数を選んでください。

チェック!!

別売のディスプレイを使用する場合は、上記の条件を満たしていることを確認してください。
ディスプレイによっては、特定の表示ができなかったり、ディスプレイ側の微調整が必要な場合もあります。
また、次の別売ディスプレイは使用できません。

・PC-KM212
・PC-KM174

解像度と表示色の変更

必要に応じて解像度や表示色を変更できます。

チェック!!

「画面のプロパティ」の画面は機種によって異なりますが、基本的な操作は同じです。

解像度と表示色を変更する

① コントロールパネルを開く。
（「スタート」→「設定」→「コントロールパネル」または「ランチ-NX」→「ユーティリティ」→「画面の設定」の後、手順③へ進む）

※画面は機種によって異なる場合があります。

②「画面」をダブルクリック。
「画面のプロパティ」ウィンドウが表示されます。

※画面は機種によって異なる場合があります。

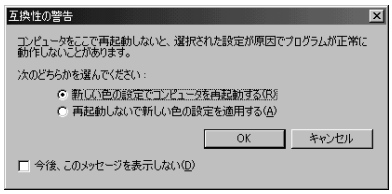
③「設定」タブをクリック。
「設定」タブのウィンドウが表示されます。

④ 解像度を変更する。
「画面の領域」のつまみを「大」の方向にドラッグしてずらすと、高解像度になります。低解像度に設定する場合は、つまみを「小」の方向へドラッグしてずらします。設定できる解像度は、本体ディスプレイの表示機能によって変わります。

⑤「色」の ▼ をクリック。
表示色一覧のメニューが表示されます。

⑥ 表示色を選ぶ。
（例「True Color（32 ビット）」を選ぶ）
「True Color（32 ビット）」が反転表示されます。

⑦「OK」をクリック。
次のメッセージが表示されます。



⑧「新しい色の設定でコンピュータを再起動する」を選んで「OK」をクリック。
本機が再起動されて、設定が変更されます。

解像度と表示色を変更する（簡易解像度切り替え機能）

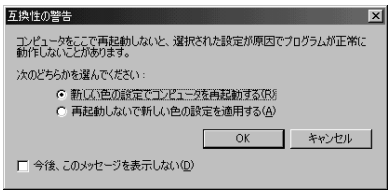
解像度と表示色は、タスクバーから簡単に切り替えることができます。

① タスクバー右隅の をクリック。
解像度と表示色の一覧メニューが表示されます。

※画面は機種によって異なる場合があります。

にマウスポインタを当てると、現在の設定を表示できます。

② 変更したい解像度と表示色の組み合わせを選ぶ。
次のメッセージが表示されます。



③「再起動しないで新しい色の設定を適用する」を選んで「OK」をクリック。
設定が変更されます。

④「スタート」→「Windows の終了」→「再起動する」を選んで、「OK」をクリック。
本機が再起動されて、設定が変更されます。

解像度と表示色を変更するときの注意

・表示色数を変更した後に、本機を再起動しなかった場合、画面が正しく表示されないことがあります。また、アプリケーションソフトによっては、色が正常に表示されないことがあります。
その場合は、Windows を再起動してください。

・解像度や表示色数を変更した場合には、画面位置がずれることがあります。そのときは、ディスプレイの画面位置を調整してください。画面位置の調整方法は、ディスプレイのマニュアルをご覧ください。

ディスプレイの省電力機能について

本機に、省電力機能を持つディスプレイを接続している場合、ディスプレイの省電力機能を使うことができます。ディスプレイセットモデルのディスプレイは、省電力機能に対応しています。
ディスプレイの省電力機能は、Windows 上で設定します。コントロールパネルで設定した時間内に、まったく操作をしなかった場合、ディスプレイの画面を暗くして、消費電力を節約します。

ディスプレイの省電力機能を使う

①「コントロールパネル」を開く。
（「スタート」→「設定」→「コントロールパネル」）

②「電源の管理」をダブルクリック。
「電源の管理のプロパティ」ウィンドウが表示されます。

このウィンドウで、次の設定を行います。
・モニタの電源を切る
時間を設定すると、設定時間経過後にディスプレイの省電力機能が働き、画面を暗くします（セットのディスプレイの場合、ディスプレイの電源ランプがオレンジ色に点灯します）。再度、ディスプレイの画面を表示させる場合は、キーボードのキーを押すか、マウスを軽く動かしてください。

購入時の状態では「なし」に設定されています

チェック!!

システムスタンバイを設定した場合も、ディスプレイの画面は暗くなります。

③ 設定が終了したら、「OK」をクリック。
ディスプレイ省電力機能が設定されました。

チェック!!

ディスプレイ省電力機能が働くと、画面が消えますので、本体の電源が切れている状態と間違わないようにしてください。

別売のディスプレイでディスプレイの省電力機能を使用する場合の注意

別売のディスプレイで、ディスプレイの省電力機能を使って画面が暗くなった場合、再度画面を表示させる方法については、ディスプレイのマニュアルをご覧ください。

ディスプレイに合わせて設定する

別売のディスプレイを使用する場合は、ディスプレイに合わせて、本体の設定を変更する必要があります。本体が、ディスプレイに合わせて正しく設定されていないと、ディスプレイに何も表示されないことがあります。また、設定できるはずの解像度が設定できないこともあります。

別売のディスプレイを使用するときの注意

プラグ＆プレイに対応していないディスプレイの場合は、必ず、次の手順を行ってください。
プラグ＆プレイに対応しているディスプレイの場合は、起動時にモニタを検出したことを示すメッセージが表示されます。このメッセージで、ディスプレイが検出されたことが確認できた場合は、この手順は必要ありません。

詳しくは、ディスプレイに添付されているマニュアルをご覧ください。

ただし、プラグ＆プレイに対応しているディスプレイであっても、そのディスプレイで表示できるはずの高解像度が、この項の「解像度と表示色の変更」の手順で設定できない場合があります。その場合は、『困ったときのＱ＆Ａ』をご覧の上、ディスプレイの設定をやり直してください。

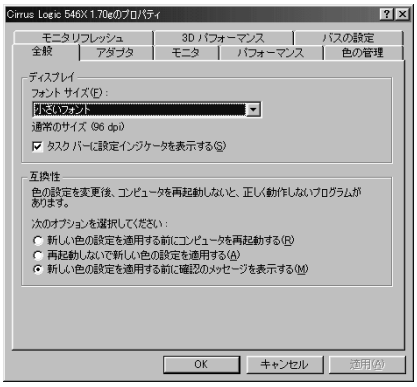
① ディスプレイが本体に正しく接続されていることを確認する。

② Windows 98起動後に、「コントロールパネル」を開く。
（または「ランチ-NX」→「ユーティリティ」→「画面の設定」の後、手順③に進む）
「コントロールパネル」が表示されます。

③「画面」をダブルクリック。
「画面のプロパティ」ウィンドウが表示されます。

④「設定」をクリック。
「設定」タブのウィンドウが表示されます。

⑤「詳細」をクリック。
次のウィンドウが表示されます。



⑥「モニタ」をクリック。
「モニタ」タブのウィンドウが表示されます。

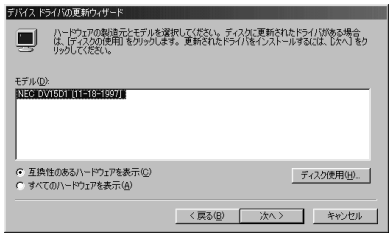
※画面は、機種により異なる場合があります。

⑦「変更」をクリック。
「デバイスドライバの更新ウィザード」が表示されます。

⑧「次へ」をクリック。
次のウィンドウが表示されます。

⑨「特定の場所にあるすべてのドライバの一覧を作成し、インストールするドライバを選択する」をクリック。

⑩「次へ」をクリック。
次のウィンドウが表示されます。



⑪「すべてのハードウェアを表示」をクリック。
次のウィンドウが表示されます。

ディスプレイのドライバファイルが見つかった場合は、「このデバイス用に選択したドライバをインストールする準備ができました。」と表示され、ドライバのある場所が表示されます。

⑫「製造元」と「モデル」を一覧から選ぶ。
ディスプレイ一覧に接続したディスプレイの種類が表示されない場合は、「製造元」の欄で「(標準モニタの種類)」を選び、「モデル」の欄で接続したディスプレイがサポートしている解像度を選んでください。

⑬「次へ」をクリック。
次のウィンドウが表示されます。

⑭「次へ」をクリック。
ディスクを用意するようなメッセージが表示された場合は、メッセージにしたがって操作してください。
次のウィンドウが表示されます。

⑮「完了」をクリック。
「モニタ」タブのウィンドウに戻ります。

⑯「閉じる」をクリック。

⑰「OK」をクリック。
Windowsを再起動するようにというメッセージが表示された場合は、ほかのアプリケーションが終了していることを確認して、「はい」をクリックしてください。

省電力機能（スタンバイ）

本機を使っていないときに、電源を切らなくても電力の消費を節約できる省電力機能（スタンバイ）について説明します。

概要

本機を使っていないときには、本機の電源を切っておくと、電力の節約になります。しかし、電源を切るには、作業中の状態を終了（アプリケーションを終了したり）して、Windows を終了する必要がありますので、少しの間だけ本機を使わない場合には、つい電源を入れっぱなしにしがちです。

しかし、本機には、電源が入ったままでも電力消費を抑える機能があります。これを省電力機能（スタンバイ）といいます。この機能を使うと、本体は電源が入ったままでも、ファンを止めたり、ディスプレイやハードディスクの電源を切ったりして、電力消費を抑えることができます。
このようにして電力消費を抑えている状態を「スタンバイ状態」と呼びます。スタンバイ状態のときは、作業していた内容は保持（記憶）されているので、もとの状態に復帰させると、すぐに作業が再開できます。

チェック!!

- プリンタやスピーカなどの周辺機器や、通信回線などは自動的に切れないので、注意してください。
- ファンは使用環境、温度などによっては、スタンバイ状態になっていても、回転することがあります。
- アプリケーションによっては、省電力機能のことを「サスペンド」という呼び方をしている場合があります。これは、スタンバイ状態にすることと同じ意味ですので、サスペンドをスタンバイに読みかえてください。また、アプリケーションによっては、スタンバイ状態から、もとの状態に復帰することを「レジューム」と呼んでいる場合があります。

電源の状態

本機の電源の状態について説明します。

- 電源が入っている状態
  通常、本機を使っている状態です。
- 電源が切れている状態
  Windows を終了したり、電源スイッチを切ったりして、本機の使用を終了している状態です。
- スタンバイ状態
  さまざまな省電力機能（ファンを止める、ディスプレイの電源を切る、ハードディスクの電源を切るなど）により、消費電力が抑えられている状態です。本体の電源は入ったままですが、消費電力は、節約されています。
  スタンバイ状態にする前の状態へ、すぐに復帰することができます。

スタンバイ状態での本機

スタンバイ状態になると、本機は次のようになります。

	本体		ディスプレイ	
	電源ランプ	スリープランプ	表示	電源ランプ
電源ON	点灯する	点灯しない	表示される	緑色に点灯
スタンバイ	点灯する	点灯する	表示されない	オレンジ色に点灯 ※

※別売のディスプレイの場合は、異なることがあります。

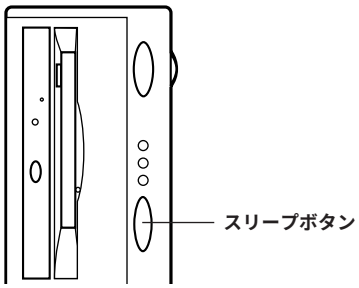
スタンバイ状態にする

スタンバイ状態にするには、次の４つの方法があります。

- スリープボタンを使ってスタンバイ状態にする
- 一定時間後に自動的にスタンバイ状態にする
- Windows 98 終了時にスタンバイ状態にする
- タイマー機能で指定した時間に自動的にスタンバイ状態にする

スリープボタンを使ってスタンバイ状態にする

① 本体のスリープボタンを押す。
スタンバイ状態になります。



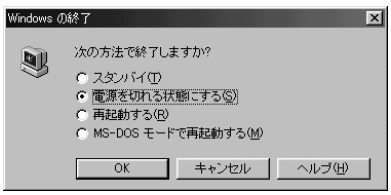
一定時間後に自動的にスタンバイ状態にする

「コントロールパネル」の「電源の管理」で時間を設定しておくと、マウスやキーボードからの入力およびハードディスクへのアクセスがなく、一定の時間が経つと、自動的にスタンバイ状態になります。購入時には、約 20 分間で自動的にスタンバイ状態になるように設定されています。
設定についてはこの項の「電源の管理のプロパティで設定する」をご覧ください。

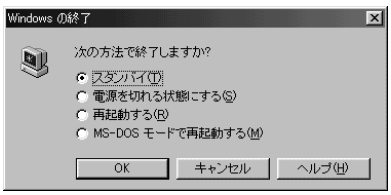
Windows 98 終了時にスタンバイ状態にする

「Windows の終了」ウィンドウで、スタンバイ状態にする手順です。

①「スタート」→「Windows の終了」をクリック。
「Windows の終了」ウィンドウが表示されます。



②「スタンバイ」をクリック。



③「OK」をクリック。
スタンバイ状態になります。

タイマー機能で指定した時間に自動的にスタンバイ状態にする

「Timer-NX」を使うと、指定した時間にスタンバイ状態にすることができます。

参照
・「Timer-NX」→ PART2「タイマー機能〈Timer-NX〉」

スタンバイ状態から電源が入っている状態に復帰する

スタンバイ状態から電源が入っている状態に復帰するには、次の 4 つの方法があります。

・スリープボタンを使って復帰する（スリープランプが点灯している時）
・マウスやキーボードを操作して復帰する
・タイマー機能で指定した時間に自動的に復帰する
・電話やFAXを受信したときに自動的に復帰する（リング機能）

スリープボタンを使って復帰する

本体のスリープランプが点灯しているときに、本機のスリープボタンを押す。

マウスやキーボードを操作して復帰する

スタンバイ状態のときに、マウスを動かすか、キーボードのキーをどれか押す。

タイマー機能で指定した時間に自動的に復帰する

タイマー機能を使って、指定した時刻に、自動的に電源が入っている状態に復帰します。

参照
・タイマー機能→ PART2「タイマー機能〈Timer-NX〉」

電話やFAXを受信したときに自動的に復帰する（リング機能）

電話やFAXを受信すると、自動的に電源が入っている状態に復帰します。

Timer-NXで設定

「Timer-NX」のリング機能を使用して、電話やFAXを受信したときに、自動的に電源が入っている状態に復帰します。

参照
・「Timer-NX」→PART2「タイマー機能〈Timer-NX〉」

電源の管理のプロパティで設定する

「電源の管理のプロパティ」で、省電力の設定ができます。

「電源の管理のプロパティ」ウィンドウの表示方法

①「コントロールパネル」を起動する。
（「スタート」→「設定」→「コントロールパネル」）

②「電源の管理」をダブルクリック。
「電源の管理のプロパティ」ウィンドウが表示されます。

「電源設定」タブウィンドウでの設定

「電源設定」タブウィンドウでは、スタンバイ状態になるまでの時間や、ディスプレイ、ハードディスクの電源を切るまでの時間を設定したり、電源設定を新しく作成して、保存することができます。

電源の設定

次の設定ができます。設定が終了したら、「OK」をクリックしてください。

チェック!!

自動的にスタンバイ状態にならないようにするには、「システムスタンバイ」を「なし」に設定してください。

・システムスタンバイ
▼をクリックして、時間を設定します。
時間を設定すると、設定時間経過後に本機がスタンバイ状態になり、消費電力を節約することができます。
購入時の状態では「20分後」に設定されています。

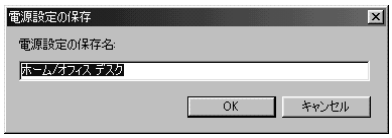
・モニタの電源を切る
▼をクリックして、時間を設定します。
時間を設定すると、設定時間経過後にディスプレイの省電力機能が働き、画面が暗くなります（セットのディスプレイの場合、ディスプレイの電源ランプがオレンジ色に点灯します）。
購入時の状態では「なし」に設定されています。

・ハードディスクの電源を切る
▼をクリックして、時間を設定します。
時間を設定すると、設定時間経過後にハードディスクドライブの電源が切れます。

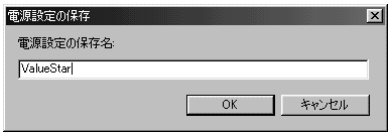
新しい電源設定の作成

次の手順で、新しい電源設定を作成することができます。

①「電源設定」タブウィンドウで「名前を付けて保存」をクリック。
次のウィンドウが表示されます。



② 新しい名前を付ける。
（例「ValueStar」）



③「OK」をクリック。
新しい電源設定が作成されます。

④ 必要に応じて、各電源の設定を行う。

⑤ 設定が終了したら「OK」をクリック。
新しい電源設定として、保存されます。

チェック!!

購入時の状態では、「ホーム／オフィスディスク」に設定されています。この設定では、キーボードやマウスに触れない状態が20分以上続くと、スタンバイ状態になり、スリープランプが点灯します。

スタンバイ状態にするときの注意

スタンバイ状態にするときには、次のような注意が必要です。これを怠ると、スタンバイ状態にする前の内容が失われたり、スタンバイ状態にする前の内容が復元できないこともあります。

スタンバイ状態にできないとき

使用するアプリケーションソフトによっては、スタンバイ状態からの復帰ができなかったり、アプリケーションソフトが正常に動作しないことがあります。このようなアプリケーションの使用時には、スタンバイ状態にしないでください。また、使用する周辺機器によっては、スタンバイ状態から復帰できないことがあります。

スタンバイ状態にする前の内容が失われるとき

スタンバイ状態にするときに次のことが起きると、電源が切れた状態になるため、スタンバイ状態にする前の内容は失われます。

- 電源ケーブルが本体やACコンセントからはずれたとき
- 停電が起きたとき
- 電源スイッチを約4秒以上押し続けて、強制的に電源を切ったとき

このような場合は、次に電源を入れたときに、「Windowsが正しく終了されませんでした...」と表示され、スキャンディスクが実行されます。画面の指示に従ってください。

スタンバイ状態にする前の内容の復元が保証されない場合

次のような場合は、スタンバイ状態にする前の内容は保証されません。

- スタンバイ状態にする前の内容の記憶中、または復元中にフロッピーディスクを入れ替えたとき
- スタンバイ状態にする前の内容の記憶中、または復元中にCD-ROMを入れ替えたとき
- スタンバイ状態にする前の内容の記憶中、または復元中に本機の環境を変更したとき
- スタンバイ状態のときに本機の機器構成を変更したとき

また、次のような状態でスタンバイ状態にしても、スタンバイ状態から復帰後の内容は保証されません。

- Windowsの起動中または終了処理中のとき
- プリンタへ出力中のとき
- モデムなどを使って通信中のとき
- サウンド機能により音声を再生しているとき
- フロッピーディスク、ハードディスクを読み書き中のとき
- CD-ROMを読み取り中のとき
- 本機に標準添付のキーボード以外のキーボードを接続しているとき
- スタンバイに対応していない拡張ボードを取り付けたとき

スタンバイ状態からの復帰が正しく実行されない場合

次のような場合には、スタンバイ状態からの復帰が正しく実行されなかったことを表しています。

・アプリケーションソフトが動作しない

・スリープボタンを押すまたは、キーボードやマウスを操作しても、スタンバイ状態から復帰しない

このような状態になるアプリケーションソフトを使用中には、スタンバイ状態にしないでください。万一、スリープボタンを押したり、キーボードやマウスを操作してもスタンバイ状態から復帰できなかったときには、電源スイッチを約4秒以上、押し続けてください。電源ランプが消え、電源が強制的に切れます。この場合、BIOS セットアップユーティリティの内容が、ご購入時の状態に戻っていることがあります。必要な場合は、再設定してください。

その他の注意

・画面が暗くなっていても本体のスリープランプが点灯していないときは、スリープボタンを押しても復帰しません。

・通信ソフトを使用中の場合は、通信ソフトを終了させてからスタンバイ状態にしてください。通信状態のままスタンバイ状態にすることはできません。

・CD-ROM ドライブにフォト CD が入っているときにスタンバイ状態にした場合は、復帰に多少の時間がかかることがあります。

・CDの再生中にスタンバイ状態にした場合、CDは再生され続ける場合があります。スタンバイ状態にする前に CD の再生を止めてください。

・「デバイスマネージャ」でドライバなどの設定をしているときや、「プリンタウィザード」や「ハードウェアウィザード」、「モデムウィザード」実行中は、スタンバイ状態にしないでください。これらの画面を表示しているときに、スタンバイ状態になると、復帰した後、キーボードとマウスを使用することができなくなります。

・「CDプレーヤー」または「メディアプレーヤー」で音楽CDを再生しているときにスタンバイ状態にして復帰すると、スタンバイ状態にする前に再生を行っていたトラックの次のトラックから再生が行われます。

・「メディアプレーヤー」でビデオ CD や MPEG データを再生しているときは、スタンバイ状態にすることはできません。

サウンド機能

本機は、FM 音源機能、PCM 録音 / 再生機能を備えています。

概要

FM音源

FM 音源は、音色･音程･音の強弱という、音の三要素をすべて表現でき、楽器の音色に近い音声や効果音を合成できます。FM 音源を使うと、ゲームなどの音楽の演奏や、エレクトリック楽器、アコースティック楽器などいろいろな音色や音声を楽しめます。

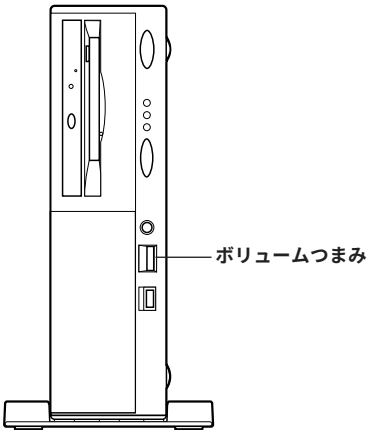
PCM 録音 / 再生機能

PCM録音/再生機能は、マイクロホンから入力した音声などのアナログ信号をデジタル信号に変換していろいろな処理を加える機能です。人の音声などを、原音に近い音で再現できます。
インストールされているWindowsのサウンド機能を使えば、ソフトに含まれる音声データを再生したり、入力した音声を編集したり、文書などに貼り付けたりできます。

スピーカ

VC23/4、VE23/45A

本体にスピーカが内蔵されています。
音量調節は、本体前面のボリュームつまみを使います。上に回すと大きく、下に回すと小さくなります。



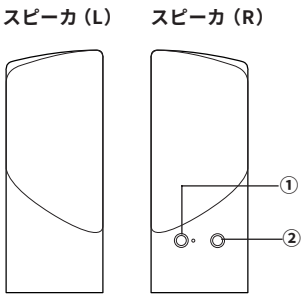
チェック!!
ヘッドホンを使用している場合は、ボリュームつまみでヘッドホンの音量調節ができます。

VE26/4、VE23/47C、VE23/47D、VE23/45C、VE23/45D の場合

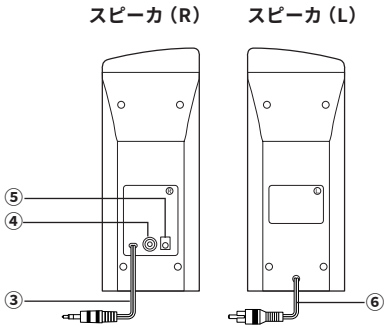
本体には外付けスピーカが添付されています。音量を調節する場合は、外付けスピーカのボリュームつまみを使います。右に回すと大きく、左に回すと小さくなります（本体前面のボリュームつまみは、ヘッドホンの音量調節に使います）。

外付けスピーカの各部の名称

前面



背面



① 電源スイッチ（ ）
スピーカの電源を入れたり切ったりするスイッチです。1 回押すと電源が入り、もう 1 回押すと電源が切れます。

② 音量ボリューム（ ）
スピーカの音量を調整します。右に回すと大きく、左に回すと小さくなります。

③ スピーカケーブル
本体とスピーカを接続するためのケーブルです。

④ 出力コネクタ（SP OUT）
左右のスピーカを接続するためのコネクタです。

⑤ 電源コネクタ（ AC9V ）
添付の AC アダプタを接続するためのコネクタです。

⑥ スピーカケーブル
左右のスピーカを接続するためのケーブルです。出力コネクタ（SP OUT）に接続します。

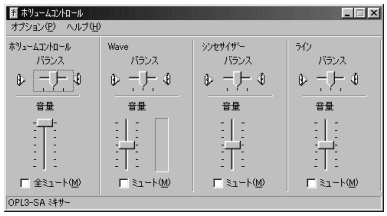
ボリュームコントロール

「ボリュームコントロール」ウィンドウは、内蔵音源を通じて再生される音声の量や、内蔵音源を通じて録音するときの入力レベルをコントロールすることができます。
各音源の音量が小さい場合や、音量が大き過ぎて音割れ（音が途切れる現象）があるときに調整してください。

「ボリュームコントロール」ウィンドウの表示方法

「ボリュームコントロール」ウィンドウの表示方法は次の通りです。

①「スタート」→「プログラム」→「アクセサリ」→「エンターテイメント」→「ボリュームコントロール」をクリック。
「ボリュームコントロール」ウィンドウが表示されます。



「プロパティ」ウィンドウ

「ボリュームコントロール」ウィンドウのメニューバーから「オプション」を選んで、「プロパティ」をクリックすると、「プロパティ」ウィンドウが表示されます。

「プロパティ」ウィンドウでは、「音量の調整」欄で、「再生」「録音」「その他」のどれが選ばれているかにより、表示される項目を切り替えることができます。

表示できる項目と、各項目の説明を一覧で示すと次のようになります。

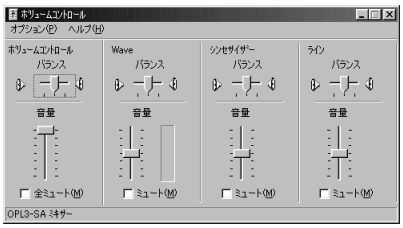
項目名	音量調節の種類			説　明
	再生	録音	その他	
ボリューム コントロール	○			スピーカから出力される全ての音量を調整します。
CD オーディオ	○	○	○	CDから出力される音量、または録音するときの音量を調整します。
Wave	○			WAVEデータなどのPCM音源またはMIDI音源を使用して出力される音量を調節します。
シンセサイザー	○			FM音源（YAMAHA OPL3-SA Synthesizer）を使用して出力される音量を調整します。
ライン	○	○	○	ライン入力端子に接続されている機器から入力される音をスピーカから出力するとき、または録音するときの音量を調整します。
モノイン	○			FAXモデムボードから入力される音をスピーカから出力するときの音量を調節します。
マイクロフォン	○	○	○	マイクロフォン端子に接続されているマイクロフォンから入力される音をスピーカから出力するとき、または録音するときの音量を調整します。
ループバック		○	○	スピーカから出力されている全ての音を録音するときの音量を調整します。
3Dワイド	○			スピーカから出力されている全ての音のワイドステレオ効果を調整します。

※モノインの項目は本機では、使用できません。

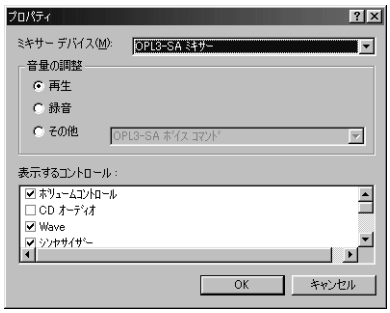
トーン調整

本機には、トーン調整機能が内蔵されています。
Windows 98 では、次の手順でトーン調整を行うことができます。

① 「スタート」→「プログラム」→「アクセサリ」→「エンターテイメント」→「ボリュームコントロール」をクリック。
「ボリュームコントロール」ウィンドウが表示されます。



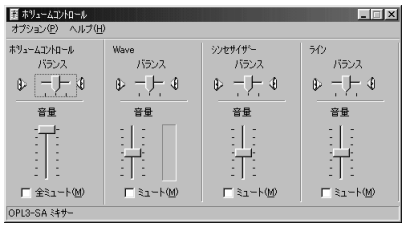
② メニューバーで「オプション」をクリックし、プルダウンメニューの「プロパティ」をクリック。
「プロパティ」ウィンドウが表示されます。



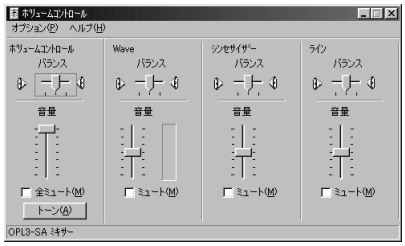
③「再生」をクリック。

④ 表示するコントロールのチェックボックスをチェックする。

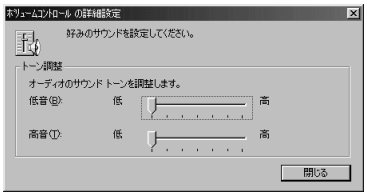
⑤「OK」をクリック。
「ボリュームコントロール」ウィンドウが表示されます。



⑥「オプション」→「トーン調整」をクリック。
「トーン」ボタンが追加表示されます。

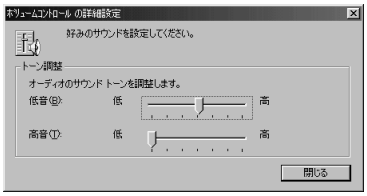


⑦「トーン」をクリック。
「ボリュームコントロールの詳細設定」ウィンドウが表示されます。



⑧「トーン調整」の「低音」または「高音」のコントロールバーをドラッグ。
「低音」も「高音」も、「高」の方へドラッグすると強調されます。

設定例



⑨ 設定が終わったら、「閉じる」をクリック。
「ボリュームコントロール」ウィンドウの画面に戻ります。

⑩ ×をクリックして、ウィンドウを閉じる。
トーン調整が完了です。

サウンド全般についての注意

スピーカを使用するときの注意（VE26/4、VE23/47C、VE23/47D、VE23/45C、VE23/45Dの場合）

⚠注意

感電注意

添付のスピーカ専用ACアダプタを使用してください。

添付以外のACアダプタを使用すると、感電、発煙、発火の原因となります。

発火注意

ACアダプタのケーブルのつけ根部分を無理に折り曲げないでください。

発火注意

壁に押しつけて曲がった状態など、ケーブルのつけ根部分を圧迫するような状態で使用すると、発煙、火災の原因となります。

ボリュームコントロールを使用するときの注意

・ディスプレイの解像度が640x480ドットなどの低解像度の場合、「ボリュームコントロール」ですべての音源コントロールが表示されない、または右端の音源コントロールの表示が一部欠ける場合があります。

この場合には、ディスプレイの解像度を変更するか、「プロパティ」ウィンドウの「表示するコントロール」欄で、使用しない音源の選択を解除し、必要なコントロールが表示されるよう変更してください。

なお、「ボリュームコントロール」の表示が一部欠けた状態で解像度の切り替えを行っても、「ボリュームコントロール」の表示は変更されません。一度、「ボリュームコントロール」を終了し、もう一度「ボリュームコントロール」を起動してください。

・CDの音を録音し、そのデータを再生したとき、音が小さく感じられる場合があります。これはCDの録音の音量は、CDの出力ボリュームの大きさに依存するためです。したがって、CDの録音を行うときにはあらかじめ「ボリュームコントロール」を使用し、CDの音量を大きくしておいてください。

サウンド機能を使用するときの注意

・本機では、本体内蔵のサウンド機能や周辺機器を増設して、Windows 98上でマルチメディア機能を利用することができます。
利用できるマルチメディアの各機能、必要な周辺機器については次の通りです。

ウェーブフォームデータの録音・再生	MIDIデータの演奏	MIDIデータの記録
○	○	×

○：本体内蔵のサウンド機能で利用することができます。

・本機でMIDIデータの演奏をFM音源で行う場合、同時に演奏できる音の数が限られているため、演奏できないデータがあります。

CD 音量を設定するときの注意

「CDプレーヤ」などでオーディオCDを再生中に、「コントロールパネル」の「マルチメディア」をクリックし、「音楽CD」タブで音量調節を変更した場合、その変更が有効になるのは、次回に「CDプレーヤ」などを起動したときからです。

チェック!!

「コントロールパネル」の「マルチメディア」は「CyberTrio-NX」のモードが「アドバンストモード」のときに使用できます。

参照
モードの変更→ PART1「Windows 98 の利用環境の変更〈CyberTrio-NX〉」

マイクロホン
(VE26/4、VE23/47C、VE23/47D、VE23/45C、VE23/45Dのみ)

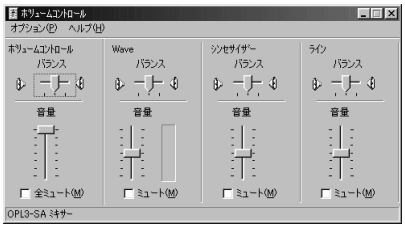
本機のマイクロホン端子にマイクロホンを接続すると、本機に音声を取り込むことができます。取り込んだサウンドは、ファイルとして保存できます。

参照
・マイクロホンの接続について→『STEP1 接続と準備』

ボリューム調節

Windows 98 を使用しているときは、マイクロホンのボリューム調節は Windows 98 上で行います。

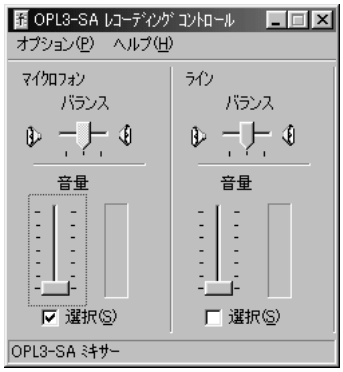
① 「スタート」→「プログラム」→「アクセサリ」→「マルチメディア」→「ボリュームコントロール」をクリック。
「ボリュームコントロール」ウィンドウが表示されます。



② メニューバーの「オプション」をクリックし、プルダウンメニューの「プロパティ」をクリック。
「プロパティ」ウィンドウが表示されます。

③ 「音量の調整」欄の「録音」を選ぶ。
「録音」の前にチェックマークがつき、「表示するコントロール」欄の項目も変わります。

④ 「OK」をクリック。
「OPL3-SA レコーディングコントロール」ウィンドウが表示されます。



⑤ 「マイクロフォン」の音量つまみの部分をドラッグしてボリュームを調節する。

⑥ 調節が終わったら、[×] をクリックして、このウィンドウを閉じる。

ハウリング

マイクロホンを本体のスピーカに近づけると、スピーカからキーンという大きな音が出ることがあります。これをハウリング現象といいます。故障ではありません。この場合は、次の対策を行ってください。

・音量調整ボタンで、音量を小さくする

・マイクロホンをスピーカから遠ざける

・Windows 98の「ボリュームコントロール」の画面で表示される音量つまみでボリュームを小さくする

サウンドレコーダー

「サウンドレコーダー」を使って、マイクロホンから音声を録音することができます。録音したサウンドは、ファイルとして保存することができるので、加工したり、ほかのアプリケーションに取り込んだりすることができます。
ここでは、自分の声を録音してファイルに保存してみます。

録音とファイル保存

① 「ランチ-NX」→「ユーティリティ」→「サウンドレコーダー」または「スタート」→「プログラム」→「アクセサリ」→「エンターテイメント」→「サウンドレコーダー」をクリック。
「サウンド ― サウンドレコーダー」ウィンドウが表示されます。

② ●をクリックしてマイクロホンに向かって録音する。
録音中は、つまみが右に移動し、波形が表示されます。

③ 終了したら、■をクリック。
録音が終了します。

④ 「ファイル」→「名前を付けて保存」をクリック。
「ファイル名を付けて保存」ウィンドウが表示されます。

⑤ 保存場所を選んで、ファイル名をつけて「保存」をクリック。
（例 デスクトップに「Sound1」というファイル名で保存）

次のようなアイコンがデスクトップに現れます。

再生

録音したサウンドのファイルを開いて、再生してみます。

① 「サウンドレコーダー」を起動する。
（「スタート」→「プログラム」→「アクセサリ」→「エンターテイメント」→「サウンドレコーダー」）

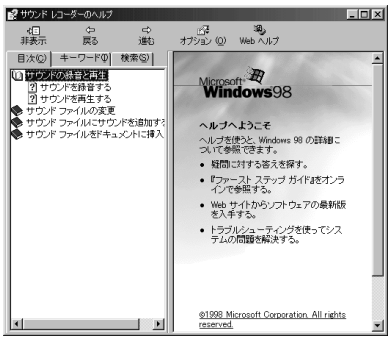
② 「ファイル」→「開く」をクリックして「Sound1」アイコンを表示する。
（例 「Sound1」ファイルはデスクトップにある）

③「Sound1」をダブルクリック。
「サウンドレコーダー」ウィンドウに戻ります。▶▶ ▶ ● ボタンが濃く表示され、有効になったことを示しています。

④ ▶ をクリック。
「Sound1」ファイルが再生されます。

ヘルプ

「サウンドレコーダー」のさらに詳しい使い方はヘルプをご覧ください。
(「ヘルプ」→「トピックの検索」)



FAX モデムボード

本機に標準で内蔵されている FAX モデムボードには、ファクシミリ通信機能、データ通信機能、インターネット通信機能などがあります。また市販の電話機を接続するためのコネクタがついています。

参照
・AT コマンドについて→付録「AT コマンド」

概要

ここでは、FAX モデムボードの機能を説明します。

データ通信機能

本機にセットアップされている次のデータ通信ソフトウェアを使用することにより、パソコン通信などのデータ通信を行うことができます。

・Microsoft Windows 98 のハイパーターミナル
・BIGLOBE 入会申込
・BIGLOBE Walker
・インターネット無料体験
・AOL
・NIFTY MANAGER
・しゃべっていいメール（一太郎モデル、Wordモデルのみ）

その他のデータ通信ソフトウェアでは正常に動作しない可能性があります。

FAX 通信機能

本機のデータをダイレクトに FAX に送信できます。また、本機で FAX を受信でき、効率的に FAX 送受信をサポートします。
FAX モデムボードの FAX 通信機能は、本機にインストールされている次の FAX ソフトウェアでの動作を保証しています。

・FAX-NX

その他の FAX ソフトウェアでは正常に動作しない可能性があります。

FAX テスト交信サービス

「FAX-NX」を使用して、FAX の送受信のテストができます。

参照
・FAX-NXの使用方法→PART2「FAXの使用〈FAX-NX〉」

インターネット通信機能

次のインターネットソフトウェアを使用することにより、インターネットによる通信ができます。
インターネットに接続する方法については、「インターネット入門」をご覧ください。

・インターネットエクスプローラ
・JustView 3.0（一太郎モデルのみ）

そのほかのインターネットソフトウェアでは動作しない可能性があります。

最高 56000bps までの各種通信

電話回線を利用して最高56000bpsの全二重データ通信と最高14400bpsの半二重FAX通信ができます。

送受信：	300/1200/2400/4800 7200/9600/12000 14400/16800/19200 21600/24000/26400 28800/31200/33600bps
受信のみ：	32000/34000/36000 38000/40000/42000 44000/46000/48000 50000/52000/54000 56000bps
FAX：	300/2400/4800/7200 9600/12000/14400bps

FAX モデムボードを使用するときの注意

チェック!!

FAX モデムボードは PCI スロット #1 で使用してください。

適用電話回線について

FAXモデムボードは、加入電話回線に適合するように設計されています。加入電話回線以外と接続すると、FAX モデムボードやパソコン本体等を破損する場合があります。

送信レベルについての注意

通常の電話回線を使用する場合、送信レベルは購入時の設定から変更する必要はありません。ただし、回線状態が悪く、うまく接続できない場合は送信レベルの調整が必要な場合があります。送信レベルの調整は、認定された工事担任者以外が行うことは法律で禁じられていますので、送信レベルの調整については、当社指定のサービス窓口にお問い合わせください。

当社指定のサービス窓口の電話番号、受付時間については、『NEC PC あんしんサポートガイド』をご覧ください。

通信するときの注意

- キャッチホンサービスを受けている場合、モデムで通信中に電話がかかってくると、モデムによる通信が切れる場合があります。キャッチホン II というサービスを利用すれば、通信が切れることはありません。キャッチホン II についてはNTTにご相談ください。
- FAX モデムボードのダイヤル信号は、ご使用になる加入電話回線のダイヤル信号に合わせた調整が必要です（→付録「AT コマンド」）。加入電話回線がトーン式かダイヤル式かわからないときは NTT に確認してください。
- コードレスホンや親子電話、構内回線など、公衆回線以外の回線をご使用の場合は、正常なデータの送受信ができない場合があります。
- FAX モデムボードはFAX 通信網には対応していません。
- FAX モデムボードに接続できる回線は 2 線式のみです。
- 本体にアース線を接続していない場合や、回線の状態によっては、希望の通信速度で通信できないことや、接続しにくい場合があります。
- FAX モデムボードに接続できる電話機は 2 線式の回線用のみです。電話機の種類によっては動作しない機種がありますので注意してください。また、電話機用モジュラーコネクタに接続されている外付け電話機をパソコン本体から離れたところに設置している場合は、送信 / 受信の際に外付け電話機が使用されていないことを確認してください。
- データ通信を行う場合、フロー制御はハードウェア（RTS/CTS）（購入時の設定）に設定してください。それ以外に設定するとデータ抜けが生じる可能性があります。
- FAX を送信する相手が音声応答機能付きの FAX の場合、相手からの音声の内容によってはFAXの送信ができなくなることがあります。この場合は、外付け電話機で相手からの音声が終わったのを確認してから送信を始めてください。
- 回線の状態によっては希望の通信速度で通信できない場合があります。
- 電話局の交換機の種類によっては、14400bps で FAXの通信ができないことがあります。この場合は通信速度を 9600bps 以下にしてください。
- 海外と直接接続した場合、伝送路の特性のため正常に通信できない可能性があります。

ポート番号を変更する

購入時の状態では、内蔵 FAX モデムボードのポート番号は COM2 になっています。
内蔵FAXモデムボードのポート番号を変更するには、次のようにしてください。

チェック!!

「CyberTrio-NX」のモードが「ベーシックモード」の場合は、次の手順を行うことができません。次の手順を行う場合は、「アドバンストモード」に変更してください。

変更方法は PART1「Windows 98 の利用環境の変更〈CyberTrio-NX〉」をご覧ください。

ポート番号を変更すると、通信アプリケーションによっては、動作しなくなる場合があります。通信アプリケーション側でポートの設定を変更できる場合は変更したポート番号に合わせてください。

① 「コントロールパネル」を開く。
（「スタート」→「設定」→「コントロールパネル」）

② 「システム」をダブルクリック。

③ 「デバイスマネージャ」タブをクリック。

④ 「モデム」の「NEC Fax Modem 56K Data+Fax (BEB)」を選んで、「プロパティ」をクリック。

⑤ 「リソース」タブをクリックして、「自動設定を使う」のチェックをはずす。

⑥ 「基にする設定」の値を変更する。
COM3の場合：「基本設定 0002」
COM4の場合：「基本設定 0003」または
「基本設定 0004」

COM2に戻す場合：「基本設定 0001」
リソースが競合していないことを確認してください。
競合している場合、ポートの変更はできません。

⑦ 「OK」をクリック。
プロパティの画面に戻ります。

⑧ 「OK」をクリック。
「変更不可の環境設定の作成」ウィンドウが表示されます。

⑨ 「はい」をクリック。
しばらく時間がかかります。

⑩ 画面が元に戻ったら、「システムのプロパティ」で「OK」をクリック。

⑪ Windowsを再起動する。

デバイスマネージャ

デバイスマネージャとは、プラグ＆プレイ準拠のデバイス管理ソフトです。本機に接続されるデバイスの状態確認のほか、ドライバやリソースの設定 / 変更などができます。

チェック!!

「CyberTrio-NX」のモードが「ベーシックモード」の場合は、デバイスマネージャでの設定はできません。「アドバンストモード」に変更して、設定をしてください。

参照

・モードの変更→PART1「Windows 98の利用環境の変更〈CyberTrio-NX〉」

起動

① コントロールパネルを開く。
(「スタート」→「設定」→「コントロールパネル」)

※画面は機種によって異なる場合があります。

② 「システム」をダブルクリック。
「システムのプロパティ」ウィンドウが表示されます。

チェック!!

CyberTrio-NXの警告画面が表示されたら「アドバンストモードに変更」をクリックしてから、もう一度「システム」をダブルクリックしてください。

③ 「デバイスマネージャ」タブをクリック。
「デバイスマネージャ」タブのウィンドウが表示されます。

※機種によって画面の内容は異なる場合があります。

チェック!!

「PS/2互換マウスポート」に黄色い「!」がついていますが、異常ではありません。

デバイスドライバの変更

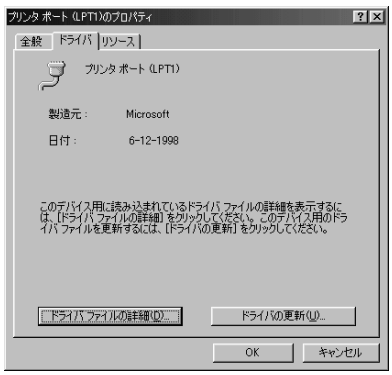
ここでは、例としてプリンタドライバを変更してみます。

① 「デバイスマネージャ」タブのウィンドウを開く。
(「スタート」→「設定」→「コントロールパネル」→「システム」→「デバイスマネージャ」)

② 「ポート（COM/LPT）」をダブルクリック。
「ポート（COM/LPT）」フォルダの内容が表示されます。

③ 「プリンタポート（LPT1）」をダブルクリック。
「プリンタポート（LPT1）のプロパティ」ウィンドウが表示されます。

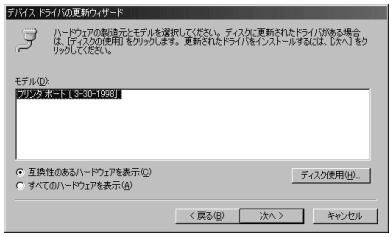
④ 「ドライバ」タブをクリック。
「ドライバ」タブのウィンドウが表示されます。



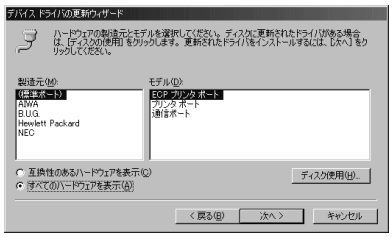
⑤ 「ドライバの更新」をクリック。
「デバイスドライバの更新ウィザード」ウィンドウが表示されます。

⑥ 「次へ」をクリック。
次のウィンドウが表示されます。

⑦ 「特定の場所にあるすべてのドライバの一覧を作成し、インストールするドライバを選択する」を選んで、「次へ」をクリック。
次のウィンドウが表示されます。



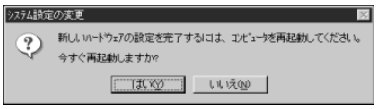
⑧ 「すべてのハードウェアを表示」を選ぶ。
「モデル」の欄に、デバイスドライバの一覧が表示されます。



⑨ 必要なデバイスドライバを選んで、「次へ」をクリック。
次のウィンドウが表示されます。

⑩「次へ」をクリック。
次のウィンドウが表示されます。

⑪「完了」をクリック。
「システム設定の変更」ウィンドウが表示されます。



⑫「はい」をクリック。
コンピュータの再起動が始まります。
以上で、デバイスドライバの変更操作は終了です。

デバイスのリソース設定の変更

通常、プラグ＆プレイ準拠のデバイスは、デバイスマネージャによって調停されています。つまり、別々のデバイスが、同じリソースを要求する場合、設定変更は自動的に行われます。したがって、どうしても必要な場合を除いては、リソース設定は基本的に変更する必要はありません。しかし、リソース設定固定のデバイスを使用して、他のデバイスと競合する場合は、次のようにしてリソース設定を変更します。

ここでは、プリンタポートのリソースを変更してみます。

①「デバイスマネージャ」タブのウィンドウを開く。
(「スタート」→「設定」→「コントロールパネル」→「システム」→「デバイスマネージャ」)

②「ポート（COM/LPT）」をダブルクリック。
「ポート（COM/LPT）」フォルダの内容が表示されます。

③「プリンタポート（LPT1）」をダブルクリック。
「プリンタポート（LPT1）のプロパティ」ウィンドウが表示されます。

④「リソース」タブをクリック。
「リソース」タブのウィンドウが表示されます。

⑤「自動設定を使う」のチェックをはずす。
「設定の変更」ボタンが濃い表示になり、有効になります。

ここで、「リソースの種類」から変更したい「I/O の範囲」または「割込み要求」をクリックして、「設定の変更」をクリックすると、リソースの変更ができます。ただし、次のようなメッセージが表示されたデバイスは、リソースの変更はできません。

チェック!!

デバイスによっては、readmeファイル(「はじめにお読みください」)に、変更方法が記載されていることがあります。

PCIが使用する割り込みを変更する

PCIデバイスが使用する割り込みを変更する場合は、「BIOSセットアップユーティリティ」を使用します。

参照
・「BIOSセットアップユーティリティ」→PART6「BIOSセットアップユーティリティ」

① 「BIOSセットアップユーティリティ」を起動する。
(「スタート」→「プログラム」→「アクセサリ」→「BIOSセットアップユーティリティ」)

② メニューバーの「セットアップ」→「デバイス」→「システムデバイス」をクリックするか、ツールバーの上から5つめの をクリック。

③「PCI割り込み」のタブをクリック。

④「PCI割り込みの設定」の「自動認識」をクリックして、「手動設定」にする。
「PCI割り込み」が設定できるようになります。

チェック!!

IRQ14とIRQ15は選ばないでください。ハードディスクやIDEインターフェイスが使用できなくなり、本機が起動できなかったり、動作がおかしくなります。

CD-ROMの取り扱い

本機では CD-ROM ドライブが標準で装備されています。CD-ROM ドライブで使用できるメディアの取り扱いについて説明します。

概要

・CD-ROM ドライブ
本機には、CD-ROMドライブが標準で搭載されています。

本機の CD-ROM ドライブでは、CD-ROM や音楽 CD、ビデオ CD などを読み取ることができます。CD-ROMは、1 枚で大きな記憶容量を持ち、電子辞典などのような大量のデータを扱うことができます。

各種メディアの取り扱いの注意

■ ディスクの取り扱いの注意
ディスクを壊さないよう、次の点に注意して大切に取り扱ってください。

・信号面（文字などが印刷されていない面）に手を触れないでください。

・ケースの中央を押しながら取り出してください。

・文字の書かれている面を左にして、ディスクトレイにていねいに置いてください。

・ディスクの上にものをのせたり曲げたりしないでください。

・ラベルなどを貼らないでください。

・キズをつけたり字などを書いたりしないでください。

・落として強い衝撃を与えたり、キズをつけたりしないでください。

・指紋やホコリが付いたときは、乾いた柔らかい布で、内側から外側に向けて拭いてください。

・清掃の際は、CD 専用のクリーナーを使用してください。

・レコード用のスプレー、クリーナー、ベンジン、シンナーなどは、使用しないでください。

・ゴミやホコリの多い場所での使用、保管は避けてください。

・直射日光のあたる場所や、暖房器具の近くなど温度が高くなる場所に置かないでください。

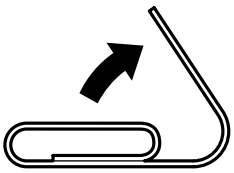
・使用後は収納ケースへ入れるようにしてください。

非常時のメディアの出し方

停電やソフトウェアの暴走などにより、CD-ROM ドライブからCD-ROMなどのメディアが取り出せなくなったときに、強制的にメディアを取り出す方法です。

取り出す準備

太さが1.3mm程度、まっすぐな部分の長さが45mm以上（指でつまむ部分を除く）の針金を用意してください。
大きめのペーパークリップを伸ばして作ることができます。

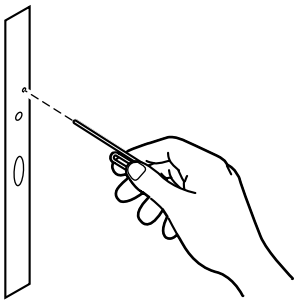


取り出す方法

次の手順で取り出します。

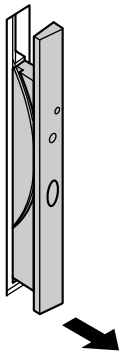
① 本機の電源を切る。

② ディスクトレイの下の直径2mm程度の穴に、上記の「取り出す準備」で用意した針金を差し込み、強く押し込む。

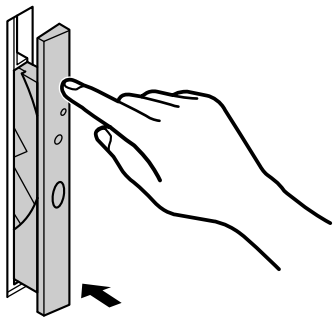


ディスクトレイが15mmほど飛び出します。

③ ディスクトレイを手前に引き出し、ディスクを取り出す。

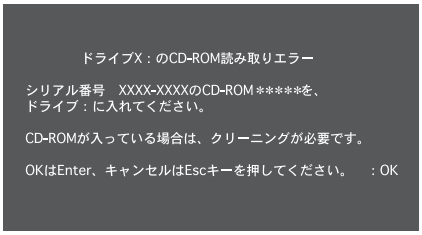


④ ディスクトレイの前面を、イジェクトボタンを押さないようにディスクトレイが元通りに収納されるまで押し込む。



エラーメッセージについて

CD-ROMから起動しているプログラムを実行中に、CD-ROMを取り出すと、次のようなメッセージが表示されます。



この場合は、取り出したCD-ROMをCD-ROMドライブにセットし直して、【Enter】を押してください。なお、このメッセージで表示されるシリアル番号は無視してください。

PART

6

本機の設定を変更する

- 電源管理モードについて
- BIOS セットアップユーティリティ
- 割り込みレベルと DMA チャネル

電源管理モードについて

本機の電源管理のモードであるAPMモードとACPIモードについて説明します。

APMモードとACPIモード

本機には、省電力機能を使うための電源管理のモードとして、APMモードとACPIモードの2つのモードが使用できます。

APMモード

APM(Advanced Power Management)を使って、電源管理を行うモードです。
APMとは、パソコンや周辺機器の電源管理を、BIOSで行うためのしくみです。
次のような場合には、APMモードを使用します。

・「Timer-NX」を使って、電源が切れている状態から、時間を指定して電源を入れる場合

ACPIモード

ACPI(Advanced Configuration and Power Interface)を使って、電源管理を行うモードです。
ACPIとは、パソコンや周辺機器の電源管理を、本機のOSであるWindows 98で行うためのしくみです。

モードの確認

本機がどちらのモードで動作しているかは、「Microsoftシステム情報」または「デバイスマネージャ」で確認できます。

Microsoft システム情報で確認する

次の手順で確認します。

①「Microsoft システム情報」を起動する。
(「スタート」→「プログラム」→「アクセサリ」→「システムツール」→「システム情報」)

②「コンポーネント」をダブルクリックして、「システム」をクリック。
システムデバイスが表示されます。
表示されたデバイスリストをスクロールして、次のデバイスがあることを確認します。

・ACPIモードのとき
「ACPI XXX」など

「ACPI」と表示される

・APMモードのとき
「アドバンスト パワーマネージメント サポート」

「アドバンスト パワー マネージメント サポート」と表示される

デバイスマネージャで確認する

チェック!!

「デバイスマネージャ」は、「CyberTrio-NX」のモードが「アドバンストモード」のときに使用できます。「アドバンストモード」に変更してから、使用してください。

参照

・モードの変更→PART1「Windows 98の利用環境の変更〈CyberTrio-NX〉」

次の手順でモードを確認します。

①「コントロールパネル」を起動する。
(「スタート」→「設定」→「コントロールパネル」)
「コントロールパネル」が起動します。

②「システム」をダブルクリック。
「システムのプロパティ」ウィンドウが表示されます。

③「デバイスマネージャ」タブをクリック。
「デバイスマネージャ」タブのウィンドウが表示されます。

④「システムデバイス」をダブルクリック。
「システムデバイス」フォルダの内容が表示されます。このフォルダに次のデバイスがあることを確認します。

・APMモードのとき
「アドバンスト パワーマネージメント サポート」

・ACPIモードのとき
「ACPI ×××」など

モードの切り替え

モードの切り替え時の注意

・ACPIモードでは、電源管理用に割り込み要求(IRQ)を1つ使用します。

・APMモードに切り替えることで、「Timer-NX」を使って、電源が切れている状態から、時間を指定して電源を入れることができます。

・モードの切り替えは、購入時のセットアップ直後か、再セットアップ直後のみできます。

・モードの切り替え時にドライバを要求された場合は、画面の指示にしたがって、C:\Windows\Options\Cabsよりドライバを組み込んでください。

ACPIモードからAPMモードに切り替える

APMモードに切り替える準備をする

①「C:\Modechg」フォルダを開く。
(「マイコンピュータ」→「Windows 98 (C:)」→「Modechg」)

②「Acpi_apm」をダブルクリック。
次の画面が表示されます。

③「OK」をクリック。
次の画面が表示されます。

④「OK」をクリック。

APMモードに必要なデバイスを組み込む

続いて、APMモードに必要なデバイスを組み込みます。

①「ハードウェアの追加」を起動する。
(「スタート」→「設定」→「コントロールパネル」→「ハードウェアの追加」)
「新しいハードウェアの追加ウィザード」ウィンドウが表示されます。

②「次へ」をクリック。

③「次へ」をクリック。

④「デバイスは一覧にない」を選んで、「次へ」をクリック。

⑤「はい」が選ばれていることを確認して、「次へ」をクリック。

⑥「次へ」をクリック。
ハードウェアの検出が始まります。しばらくお待ちください。

⑦「完了」をクリック。

⑧「今すぐ再起動しますか」と表示されたら「はい」をクリック。
本機が再起動します。

⑨「ソフトウェアパワーオフ機能は無効です」と表示されたら「OK」をクリック。

■ ソフトウェアパワーオフ機能を組み込む
続いて、ソフトウェアパワーオフ機能を組み込みます。

①「ハードウェアの追加」を起動する。
(「スタート」→「設定」→「コントロールパネル」→「ハードウェアの追加」)
「新しいハードウェアの追加ウィザード」ウィンドウが表示されます。

②「次へ」をクリック。

③「次へ」をクリック。

④「デバイスは一覧にない」を選んで、「次へ」をクリック。

⑤「はい」が選ばれていることを確認して、「次へ」をクリック。

⑥「次へ」をクリック。
ハードウェアの検出が始まります。しばらくお待ちください。

⑦「完了」をクリック。

⑧ 本機を再起動する。
(「スタート」→「Windows の終了」→「再起動する」→「OK」)

■ ソフトウェアパワーオフ機能を有効にする
組み込んだソフトウェアパワーオフ機能を使えるようにします。

①「C:\Modechg」フォルダを開く。
(「マイコンピュータ」→「Windows 98 (C:)」→「Modechg」)

②「Acpioff2」をダブルクリック。

③「C:\MODECHG\ACPIOFF2.REGの情報をレジストリに追加しますか？」と表示されたら「はい」をクリック。

④「C:\MODECHG\ACPIOFF2.REGの情報がレジストリに正しく追加されました」と表示されたら「OK」をクリック。

⑤ 本機を再起動する。
(「スタート」→「Windows の終了」→「再起動する」→「OK」)
これで、本機が APM モードになりました。

APM モードから ACPI モードに切り替える

■ ACPI モードに切り替える準備をする

①「C:\Modechg」フォルダを開く。
(「マイコンピュータ」→「Windows 98 (C:)」→「Modechg」)

②「Acpi_apm」をダブルクリック。
次の画面が表示されます。

③「OK」をクリック。
次の画面が表示されます。

④「OK」をクリック。

■ ACPI モードに必要なデバイスを組み込む
続いて、ACPIモードに必要なデバイスを組み込みます。

①「ハードウェアの追加」を起動する。
(「スタート」→「設定」→「コントロールパネル」→「ハードウェアの追加」)
「新しいハードウェアの追加ウィザード」ウィンドウが表示されます。

②「次へ」をクリック。

③「次へ」をクリック。
しばらくお待ちください。

④「デバイスは一覧にない」を選んで、「次へ」をクリック。

⑤「はい」が選ばれていることを確認して、「次へ」をクリック。

⑥「次へ」をクリック。
ハードウェアの検出が始まります。しばらくお待ちください。

⑦「完了」をクリック。

⑧「今すぐ再起動しますか」と表示されたら「はい」をクリック。
本機が再起動します。
これで、本機が ACPI モードになりました。

切り替えた後の注意

・本機がスタンバイ状態から復帰しようとしているときに、スリープボタンを押すと、復帰した後にスリープボタンが使えなくなります。この場合、「スタート」→「Windows の終了」をクリックして、「スタンバイ」を選んで、「OK」をクリックして、スタンバイ状態にした後、マウスやキーボードを操作して、本機を復帰させると、スリープボタンが使えるようになります。

・「MS-DOS プロンプト」がアクティブ（いちばん手前にある状態）のときにスタンバイ状態になると、スタンバイ状態から復帰したときに、画面が表示されない場合があります。この場合は、【Alt】を押しながら【Tab】キーを何度か押すと、画面が表示されます。

・「今後、待機状態にならないようにしますか？」のメッセージが表示された場合は「いいえ」を選んでください。

APM モードでタイマー機能を利用する場合の注意

APM モードを使用すると、タイマー機能（「Timer-NX」）を使って、電源が切れている状態から時刻を指定して電源を入れることができます。

Timer-NX を利用するときの注意

・電源を切る時刻を指定しない場合は、自動的に電源が入っても、自動的に電源を切ることができません。

・ネットワークの設定をしたり、「コントロールパネル」の「パスワード」や「ユーザー」の設定をして Windows 98を起動するときに、パスワードやユーザー名を入力する画面が表示されるように設定していると、「Timer-NX」を使用して本機の電源を入れることはできません。

・BIOSセットアップユーティリティで、「ユーザーパスワード」「スーパーバイザーパスワード」を設定している場合、「Timer-NX」を使用して本機の電源を入れることはできません（パスワード待ちの状態で止まってしまいます）。

・「Timer-NX」で自動的に本機の電源を入れる場合は、フロッピーディスクドライブにフロッピーディスクをセットしないようにしてください。

・タイマプログラムで指定した時刻とほぼ同じ時刻に手動で電源を入れた場合は、タイマーで起動したものと判断される場合があります（2 ～ 3 分の誤差があります）。

・タイマプログラムを複数の曜日に設定している場合は、Windows の終了時に次回起動予定の曜日が保存されます。このため、手動で電源を入れ、「Timer-NX」を起動すると、次回起動予定の曜日が初期値として表示されます。

・設定後に電源を切った状態で、本機の電源ケーブルを抜いたり、停電になったりした場合は、設定が無効になります。この場合、もう一度電源を入れ、Windows が起動すると再設定されます。

インターネットアクセスマネージャで、Timer-NX と連携してオートパイロットするときの注意

・APMモードを使用すると「Timer-NX」と連携して、オートパイロットの開始時間に電源を入れ、オートパイロット終了後に電源を切ることができます。

・「Timer-NX」と連携してオートパイロットを行う場合は「オートパイロット終了と同時に」で設定されている内容とは関係なくオートパイロット終了後に回線を切断し、電源を切ります。

その他の注意

電源スイッチで、電源を切るときの動作

電源スイッチを押して、強制的に電源を切るときの動作は、APM モードの場合と ACPI モードの場合で違います。

APM モードの場合	終了確認のメッセージが表示されます。
ACPI モードの場合 (*1)	終了確認のメッセージは表示されず、そのまま電源が切れます。 アプリケーションを使用中の場合は、アプリケーションの終了確認のメッセージ（「保存しますか？」など）が表示されることがあります。

(*1)：「コントロールパネル」の「電源の管理」で、「シャットダウン」に設定されている場合。

BIOSセットアップユーティリティ

「BIOS セットアップユーティリティ」は、セキュリティ、省電力、周辺機器など本機の使用環境を設定することができます。

チェック!!

「BIOSセットアップユーティリティ」は、本機の電源管理のモードが「APM モード」のときと「ACPI モード」のときでは、設定できる内容が違います。
電源管理のモードを確認してから、お使いください。

参照
・APM モードとACPIモードについて→PART6「電源管理モードについて」

BIOS セットアップユーティリティでできること

次の設定ができます。

・パスワードによるセキュリティの設定

・通信、キーボードなどのデバイス設定

・HDD モータ制御など省電力機能の設定（APM モードのみ）

・起動デバイスの起動優先順位の設定

チェック!!

・「BIOS セットアップユーティリティ」の動作中に「BIOS設定情報が不正です」などのエラーメッセージが表示された場合は、「BIOS セットアップユーティリティ」の設定を購入時の状態にしてから、もう一度「BIOSセットアップユーティリティ」で設定を変更してください。

・「スーパーバイザーパスワード」、「ユーザーパスワード」が設定されている場合、「BIOS セットアップユーティリティ」起動時にパスワード入力が必要になります。

購入時の設定に戻す

「BIOSセットアップユーティリティ」で設定した内容を、購入時の状態に戻す方法です。

チェック!!

「BIOS セットアップユーティリティ」で、スーパーバイザーパスワード、ユーザーパスワードを設定した場合は、次の手順では、購入時の状態（パスワード未設定）には戻りません。

スーパーバイザーパスワード、ユーザーパスワードを購入時の状態に戻すには、後述の「パスワードの設定」の「パスワードを忘れた場合」をご覧ください。

① 本機の電源を入れて、「NEC」のロゴマークが表示されたらすぐに【F2】を押す。
キーの説明が表示されます。

キーの説明が表示されずに、Windows が起動した場合は、いったん電源を切り、もう一度電源を入れて、何度か【F2】を押してください。

②【F9】を押す。
設定内容が購入時の状態になり、自動的に再起動します。

チェック!!

この操作を行うときは、本体とキーボードの間に2台以上のUSB ハブを経由してキーボードを接続しないでください。

BIOSセットアップユーティリティを使う

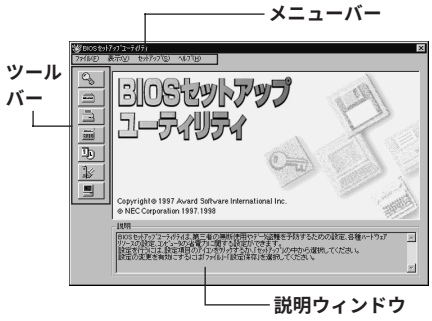
BIOS セットアップユーティリティの起動

①「スタート」→「プログラム」→「アクセサリ」→「BIOS セットアップユーティリティ」をクリック。
「警告－ BIOS 設定を変更した場合は、システムを再起動する必要があります。」と表示されます。
「次回起動時も表示する」のチェックをはずすと次回から表示されません。

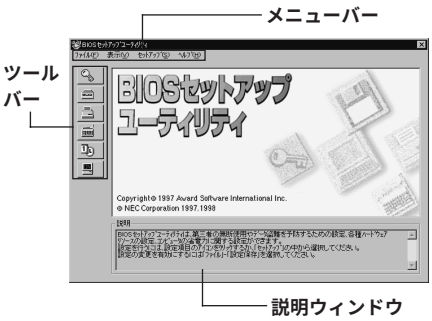
②「OK」をクリック。
「BIOS セットアップユーティリティ」が起動します。

各部の説明

APM モードの画面



ACPI モードの画面



メニューバー

次のメニューがあります。

ファイル	設定保存	設定した内容を保存します。
	省電力設定ファイルの読み込み（APMモードのみ）	省電力の各項目の設定値を格納している省電力設定ファイルを読み込みます。
	省電力設定ファイルの作成（APMモードのみ）	省電力の各項目の設定値を省電力設定ファイルに格納します。
	アプリケーションの終了	BIOS セットアップユーティリティを終了します。
表示	ツールバー	ツールバーの表示 / 非表示を切り替えます。
	説明ウィンドウ	各項目の説明を表示するウィンドウの表示/非表示を切り替えます。
セットアップ	セキュリティ	パスワードを設定します。
	デバイス	通信、キーボードなどのデバイスを設定します。
	省電力（APMモードのみ）	HDD モータ制御など省電力機能を設定します。
	起動	起動デバイスの起動優先順位を設定します。
ヘルプ	トピックの検索	オンラインヘルプを表示します
	バージョン情報	BIOSセットアップユーティリティのバージョン情報、BIOSのレビジョンを表示します。

ツールバー

メニューバーの「セットアップ」で設定できる項目のアイコンが登録されています。

説明ウィンドウ

各項目についての説明を表示します。

チェック!!

各設定項目に関する詳しい説明は、オンラインヘルプをご覧ください。

BIOS セットアップユーティリティの操作

① メニューバーの「セットアップ」をクリックし、設定したい項目をクリック。
設定項目の画面が表示されます。
ツールバーから、設定したい項目のアイコンをクリックして設定項目の画面を表示することもできます。

② 各項目の設定を変更する。
設定の変更を行うと、項目名のうしろ、タブの名称のうしろ、アイコンの右側の各々に、項目変更を示す「＊」のマークが表示されます。また、設定の変更により、関連する他の項目の設定が自動的に変更された場合は、関連する項目名、タブ、アイコンにも「＊」のマークが表示されます。
各項目の設定については、後述の「各種の設定」をご覧ください。

③ 設定したい項目をすべて設定したら、メニューバーの「ファイル」→「設定保存」またはメニューバーの「ファイル」→「アプリケーションの終了」をクリック。

チェック!!

- 「BIOSセットアップユーティリティ」で設定した内容は、青色で表示している項目（省電力やシステムデバイスにあります）を除き、本機を再起動したあとで有効になります。
- 各設定項目についての詳しい説明が、説明ウィンドウに表示されます。

BIOS のレビジョンの表示方法

BIOS のレビジョンは、次の手順で表示できます。

① メニューバーの「ヘルプ」→「バージョン情報」をクリック。
「BIOS レビジョン XXXXXXX」と、現在お使いのパソコンの BIOS レビジョンが表示されます。

省電力設定ファイル（APM モードのみ）

チェック!!

ACPI モードのときは、この機能はサポートしていません。

参照

APM モード、ACPIモード→ PART6「電源管理モードについて」

省電力設定ファイルを使って、使用する環境ごとに省電力の設定を変更することができます。

■ 省電力設定ファイルの作成

省電力設定ファイルを作成します。

① メニューバーの「ファイル」→「省電力設定ファイルの作成」をクリック。
省電力設定ファイルを作成します。

② 省電力設定ファイルの名称をつけて登録する。
現在の省電力設定の情報を省電力設定ファイルに保存します。

■ 保存した省電力設定ファイル

保存した省電力設定ファイルを使用する場合は、次の手順で行います。

① メニューバーの「ファイル」→「省電力設定ファイルの読み込み」をクリック。
省電力設定ファイルを読み込みます。

② 読み込んだ設定で問題ない場合は、メニューバーの「ファイル」→「設定保存」をクリック。
読み込んだ省電力設定の情報が反映されます。なお、設定変更は本機を再起動したあと、有効になります。

各種の設定

チェック!!

・以下の各種の説明の　　は、購入時の設定値です。

セキュリティの設定

メニューバーの「セットアップ」→「セキュリティ」をクリックするか、ツールバーの(セキュリティ）アイコンをクリックします。

■「パスワード」

・「ユーザーパスワード」
「設定」ボタンをクリックしてパスワードを設定します。

・「スーパーバイザーパスワード」
「設定」ボタンをクリックしてパスワードを設定します。

・起動時パスワード確認
システムの起動時に、パスワードを確認するかどうか設定します。

確認しない／確認する

通信の設定

メニューバーの「セットアップ」→「デバイス」→「通信」をクリックするか、ツールバーの(通信）アイコンをクリックします。

■「シリアルポート（A）」

・設定方法
シリアルポート（A）の設定方法を選びます。
をクリックして次の中から選んでください。

使用しない / 手動設定 / 自動設定 /OS が設定

「手動設定」を選んだ場合は、詳細設定が必要です。

・I/O アドレス
I/O アドレスを設定します。
をクリックして次の中から選んでください。

3F8h/2F8h/3E8h/2E8h

・割り込みレベル
割り込みレベルを設定します。
をクリックして次の中から選んでください。

IRQ3/IRQ4

■「シリアルポート（B）」

チェック!!

本機には、シリアルポート（B）はありません。
設定画面は表示されますが、設定を変更しないでください。

パラレルポートの設定

メニューバーの「セットアップ」→「デバイス」→「パラレルポート」をクリックするか、ツールバーの（パラレルポート）アイコンをクリックします。

■「パラレルポート」

・設定方法
パラレルポートの設定方法を選びます。
▼をクリックして次の中から選んでください。

使用しない / 手動設定 / 自動設定 /OS が設定

「手動設定」を選んだ場合は、詳細設定が必要です。「自動設定」「OS が設定」を選んだ場合、「モード」のみ設定ができます。

・I/O アドレス
I/O アドレスを設定します。
▼をクリックして次の中から選んでください。

378h/278h/3BCh

・割り込みレベル
割り込みレベルを設定します。
▼をクリックして次の中から選んでください。

IRQ5/IRQ7

・モード
出力モードを指定します。
▼をクリックして次の中から選んでください。

出力のみ / 双方向 /ECP

・ECP モード DMA チャンネル
「モード」で「ECP」を選んだ場合に設定します。
▼をクリックして次の中から選んでください。

DMA#1/DMA#2/DMA#3

キーボードの設定

メニューバーの「セットアップ」→「デバイス」→「キーボード」をクリックするか、ツールバーの（キーボード）アイコンをクリックします。

■「キーボード」

・起動時の Num Lock
システム起動時に Num Lock を使用するかどうかを設定します。
▼をクリックして次の中から選んでください。

使用する / 使用しない / 自動設定

「自動設定」にすると OS により自動設定されます。

システムデバイスの設定

メニューバーの「セットアップ」→「デバイス」→「システムデバイス」をクリックするか、ツールバーの（システムデバイス）アイコンをクリックします。

■「日付と時刻」

・日付設定
「年」「月」「日」をそれぞれ設定します。

・時刻設定
「時」「分」「秒」をそれぞれ設定します。

■ メモリ

本機に搭載されているメモリの総容量を表示します。

■ PCI 割り込み

・設定方法
PCI デバイスの割り込みを設定します。

チェック!!

・IRQ14 は IDE インターフェイス（プライマリ）が固定で使用する割り込みです。PCI 割り込み x（x=1 ～ 4）に IRQ14 を設定すると、ハードディスクドライブからシステムが起動できなくなります。この場合、システムを起動するには、起動可能なデバイスや媒体を準備する必要があります。

PCI 割り込みに IRQ14 を設定した後で、ハードディスクドライブからシステムを起動するためには、「BIOS セットアップユーティリティ」の設定を購入時の状態に戻してください。

・IRQ15 は IDE インターフェイス（セカンダリ）が固定で使用する割り込みです。PCI 割り込み x（x=1 ～ 4）に IRQ15 を設定すると、IDE インターフェイス（セカンダリ）に接続された CD-ROM ドライブなどのデバイスが使用できなくなります。

参照
・購入時の状態に戻す→前述の「購入時の設定に戻す」

省電力の設定（APM モードのみ）

メニューバーの「セットアップ」→「省電力」をクリックするか、ツールバーの（省電力）アイコンをクリックします。

■「パワーマネージメント」

・パワーマネージメント
チェックをつけると「使用する」に、チェックをはずすと「使用しない」になります。

使用する / 使用しない

「使用する」を選んだときに、次の設定ができます。

・設定方法
パワーマネージメントのタイプを選びます。
▼をクリックして次の中から選んでください。

ユーザー設定 / 動作時間優先 / 動作性能優先

「ユーザー設定」：各項目を自分で設定できるようになります。

「動作時間優先」：消費電力を抑えた設定になります。

「動作性能優先」：電力消費より性能を優先した設定になります。

「ユーザー設定」を選んだ場合のみ、次の項目を設定してください。

・自動スリープ制御
この機能はサポートしていません。

・自動スリープ開始時間
この機能はサポートしていません。

チェック!!

「コントロールパネル」の「電源の管理」の「システムスタンバイ」の欄で設定できます。

・HDD モータ制御
チェックをつけると「使用する」に、チェックをはずすと「使用しない」になります。

使用する / 使用しない

「使用する」を選んだときに、次の「HDD モータ制御開始時間」を設定できます。

・HDD モータ制御開始時間
「HDD モータ制御」で「使用する」を選んだ場合に、ハードディスクのモータが停止するまでの時間を設定します。

次の中から選んでください。

10 秒 / 15 秒 / 30 秒 / 45 秒 / 1 分 / 2 分 / 4 分 / 6 分 / 8 分 / 10 分 / 15 分

ハードディスクのアクセスがなくなってから、設定した時間が経過すると、ハードディスクのモータが停止します。

チェック!!

「コントロールパネル」の「電源の管理」の「ハードディスクの電源を切る」で設定した時間とここで設定した時間では、短い方が有効になります。

■「スリープ」

・スリープボタン
スリープボタンを使用するかどうかを設定します。

購入時の状態では「使用する」になっています。チェックをつけると「使用する」に、チェックをはずすと「使用しない」になります。

■「レジューム」

・入力デバイスでレジューム
入力デバイスで、レジュームするかどうかを設定します。

「入力デバイスでレジューム」でレジュームする入力デバイスは、ハードウェア割り込み（IRQ）を使用しているデバイス全てを指します。

チェックをつけると「使用する」に、チェックをはずすと「使用しない」になります。

使用する / 使用しない

システムディスクの起動順位の設定

メニューバーの「セットアップ」→「起動」をクリックするか、ツールバーの「起動」アイコンをクリックします。

次に表示される画面で、システムを起動するディスク装置の順番を指定します。

ディスク装置を選んで▲、▼ボタンでディスク装置の「起動順位」を変更してください。

次のディスク装置が選べます。

ハードディスク / リムーバブルメディアデバイス / CD-ROM / ネットワーク

チェック!!

・すべての起動するディスク装置に起動順番を設定してください。

・購入時の設定ではリムーバブルメディアデバイス→ハードディスク→ CD-ROM →ネットワークの順に設定されています。

パスワードの設定

本機の電源を入れたときに、パスワードを設定することができます。これによりパスワードを知らない部外者からデータを守ることができます。
BIOS セットアップユーティリティでは、ユーザーパスワードとスーパーバイザーパスワードの2種類のパスワードを設定することができます。
スーパーバイザーパスワードはコンピュータ管理者のためのもので、コンピュータ管理者以外の人が不用意にシステムを使用しないようにすることができます。

チェック!!

- パスワードを忘れた場合は、本機を起動できなくなります。パスワードは忘れないようにしてください。
- 「スーパーバイザーパスワード」「ユーザーパスワード」が設定されている場合、BIOSセットアップユーティリティを起動したときにも、パスワードの入力が必要となります。また「ユーザーパスワード」で起動した場合は「システムデバイス」の「PCI割り込み」および「キーボード」の「キーボード」および「セキュリティ」の「パスワード」の「スーパーバイザーパスワード」の設定項目の変更はできません。

パスワードに使用できる文字と記号

半角英数字のみがパスワードとして使用できます。パスワードは 7 文字以内でなければなりません。大文字 / 小文字による区別はありません。また、テンキーは使用できません。

使用できる文字や記号

半角英字:A ～ Z　a ～ z
半角数字:0 ～ 9

ユーザーパスワードの設定

■ ユーザーパスワードの登録
次の手順で「ユーザーパスワード」を登録します。

① メニューバーの「セットアップ」→「セキュリティ」をクリック。
「パスワード」のウィンドウが表示されます。

②「ユーザーパスワード」の横の「設定」をクリック。
「パスワード設定」ウィンドウが表示されます。

③「新しいパスワード」の欄に 7 文字以内のユーザーパスワードを入力する。
入力したパスワードは「*」で表示されます。

④「新しいパスワードの確認入力」にもう一度同じパスワードを入力する。

⑤ 入力したら「OK」をクリック。

チェック!!
スーパーバイザーパスワードが設定されていないとユーザーパスワードは設定できません。

スーパーバイザーパスワードの設定

■ スーパーバイザーパスワードの登録
次の手順で「スーパーバイザーパスワード」を登録します。

① メニューバーの「セットアップ」→「セキュリティ」をクリック。
「パスワード」のウィンドウが表示されます。

②「スーパーバイザーパスワード」の横の「設定」をクリック。
「パスワード設定」ウィンドウが表示されます。

③「新しいパスワード」の欄に 7 文字以内のスーパーバイザーパスワードを入力する。
入力したパスワードは「*」で表示されます。

④「新しいパスワードの確認入力」にもう一度同じパスワードを入力する。

⑤ 入力したら「OK」をクリック。

ユーザーパスワードの変更

次の手順で「ユーザーパスワード」を変更します。

① メニューバーの「セットアップ」→「セキュリティ」をクリック。
「パスワード」のウィンドウが表示されます。

②「ユーザーパスワード」の横の「設定」をクリック。
「パスワード設定」ウィンドウが表示されます。

③「古いパスワード」に今まで使っていたユーザーパスワードを入力する。
このとき入力をまちがえると、エラーメッセージが出て、パスワード入力画面がもう一度表示されます。
パスワードの入力をやり直してください。

④「新しいパスワード」に変更したユーザーパスワードを入力する。

⑤「新しいパスワードの確認入力」にもう一度「新しいパスワード」に入力したものと同じパスワードを入力する。

⑥ 入力したら「OK」をクリック。

スーパーバイザーパスワードの変更

次の手順で「スーパーバイザーパスワード」を変更します。

① メニューバーの「セットアップ」→「セキュリティ」をクリック。
「パスワード」のウィンドウが表示されます。

②「スーパーバイザーパスワード」の横の「設定」をクリック。
「パスワード設定」ウィンドウが表示されます。

③「古いパスワード」に今まで使っていたスーパーバイザーパスワードを入力する。
このとき入力を間違えると、エラーメッセージが出て、パスワード入力画面がもう一度表示されます。パスワードの入力をやり直してください。

④「新しいパスワード」に変更したスーパーバイザーパスワードを入力する。

⑤「新しいパスワードの確認入力」にもう一度「新しいパスワード」に入力したものと同じパスワードを入力する。

⑥ 入力したら「OK」をクリック。

パスワード入力時の注意

パスワードを設定し、「システム起動時にパスワードを確認する」を設定すると、本機の電源を入れるたびに「パスワードを入力してください」と表示されます。このとき、次のようにパスワードを入力してください。

① 登録したパスワードを入力し、【Enter】を押す。
このときテンキーは使用できません。

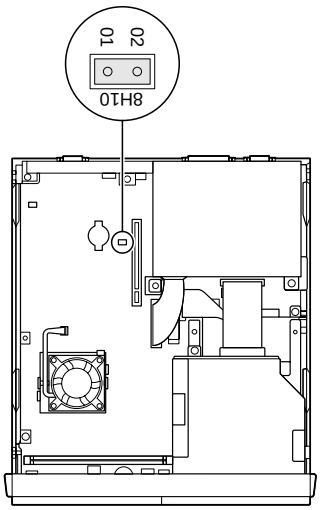
パスワードを忘れた場合

ユーザーパスワードやスーパーバイザーパスワードを忘れた場合は、本機を起動することができなくなります。このような場合は、本体内部にあるストラップスイッチを使います。

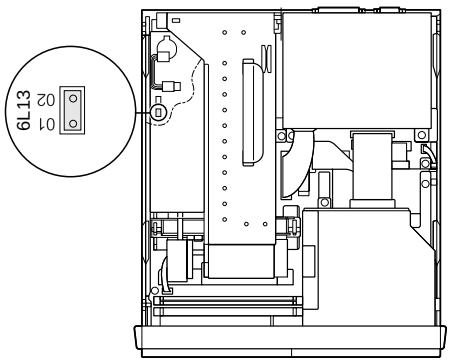
ストラップスイッチ

本体内部には、次の図のようなストラップスイッチがあります。このスイッチを取りはずすことでパスワードの解除ができます。

・VC23/4、VE23/4 の場合



・VE26/4 の場合



パスワードの解除のしかた

⚠注意

けが注意

本体内部に手を入れるときは、指をはさんだり、ぶつけたり、切ったりしないように注意してください。

高温注意

このパソコンの使用直後は、CPU やCPU の周辺に触れないでください。

CPUが高温になっていますので、手を触れるとやけどをするおそれがあります。電源を切ったあと、30分以上たってから行うことをおすすめします。

・VC23/4、VE23/4 の場合

① 本機の電源を切り、電源ケーブルや背面に接続されたケーブルをすべて抜く。

② 正しい手順でルーフカバーを外す。

参照

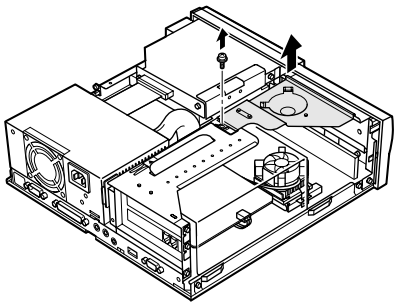
・ルーフカバーの開け方→『拡張の手引き』PART5「本体の開け方と閉め方」

③ 内蔵スピーカを外す。

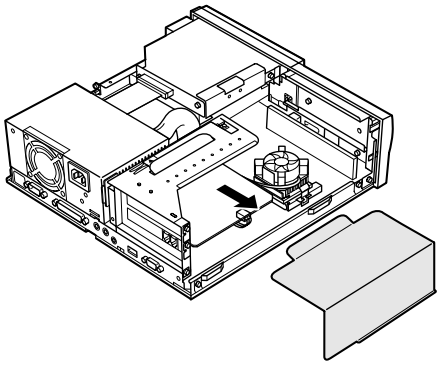
チェック!!

・VE23/45C、VE23/45D、VE23/47C、VE23/47Dには内蔵スピーカがないので、この手順は必要ありません。

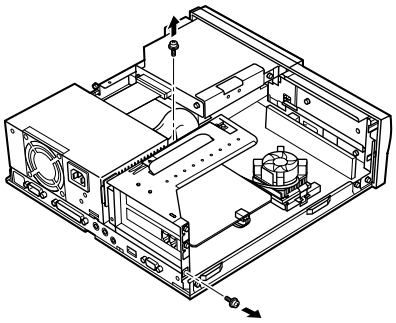
・内蔵スピーカを外すときはスピーカケーブルをひっぱらないようにしてください。



④ ケーブルカバーを外す。



⑤ PCI フレームを外す。



⑥ ストラップスイッチを上に引き抜く。

チェック!!

抜いたストラップスイッチはなくさないようにしてください。

⑦ PCIフレームを取り外したときと逆の手順で取り付ける。

⑧ ケーブルカバーを取り外したときと逆の手順で取り付ける。

⑨ 内蔵スピーカを取り外したときと逆の手順で取り付ける。

⑩ 正しい順序でルーフカバーを取り付ける。

参照

・ルーフカバーの閉め方→『拡張の手引き』PART5「本体の開け方と閉め方」

⑪ 電源ケーブルを接続して、本機の電源を入れる。Windows が起動します。

⑫ 本機の電源を切り、電源ケーブルや背面に接続されたケーブルをすべて抜く。

⑬ 手順②～⑤と同じ手順で、ルーフカバーを開けて、内蔵スピーカ、ケーブルカバー、PCI フレームを外す。

⑭ 手順⑥で引き抜いたストラップスイッチを元通りに差し込む。

⑮ 手順⑦～⑨と同じ手順で、PCI フレーム、ケーブルカバー、内蔵スピーカを取り付ける。

⑯ 正しい手順でルーフカバーを取り付ける。

・VE26/4の場合

① 本機の電源を切り、電源ケーブルや背面に接続されたケーブルをすべて抜く。

② 正しい手順でルーフカバーを外す。

参照

・ルーフカバーの開け方→『拡張の手引き』PART5「本体の開け方と閉め方」

③ ケーブルカバーを外す。

④ グラフィックアクセラレータボードを止めているネジ1本を外す。

⑤ コネクタを外し、グラフィックアクセラレータボードを外す。

⑥ ストラップスイッチを上に引き抜く。

チェック!!

抜いたストラップスイッチはなくさないようにしてください。

⑦ グラフィックアクセラレータボードを差し込み、コネクタを取り付ける。

⑧ グラフィックアクセラレータボードのネジ1本を固定する。

⑨ ケーブルカバーを取り付ける。

⑩ 正しい順序でルーフカバーを取り付ける。

参照

・ルーフカバーの閉め方→『拡張の手引き』PART5「本体の開け方と閉め方」

⑪ 電源ケーブルを接続して、本機の電源を入れる。Windowsが起動します。

⑫ 本機の電源を切り、電源ケーブルや背面に接続されたケーブルをすべて抜く。

⑬ 手順②～⑤と同じ手順で、ルーフカバーを開けて、ケーブルカバー、グラフィックアクセラレータボードを外す。

⑭ 手順⑥で引き抜いたストラップスイッチを元通りに差し込む。

⑮ 手順⑦～⑨と同じ手順で、グラフィックアクセラレータボード、ケーブルカバーを取り付ける。

⑯ 正しい手順でルーフカバーを取り付ける。

割り込みレベルとDMAチャネル

本機に内蔵されている各種のインターフェイスで使用される「割り込みレベル」、「DMA チャネル」について説明します。

概要

パソコンで使用できる周辺機器は、すべて「リソース」というものを使用しています。リソースには、大きく分けて「割り込みレベル（IRQ）」「DMA」などがあります。

割り込みレベルのことを Windows 98 では「割込み要求」と呼びます。これは、複数の機器から同時に CPU にアクセスしたときに、どのような順序で処理していくかを決めるものです。

DMA とは CPU を経由せずに周辺機器とメモリとのデータのやり取りを制御する機能のことです。ほとんどの周辺機器は、メモリからデータを読み出したり、書き込んだりするときに、CPUへ処理を依頼します。しかし、一度に大量のデータを転送すると、CPUは作業を中断して、データの転送にかかりきりになってしまいます。そこで、CPU の作業を中断することなくデータの転送を行える機能が考えられました。これが DMA（Direct Memory Access）です。

これらのリソースは、それぞれの機器ごとに違う設定をしなければなりません。リソースが複数の機器に重複して割り当てられている状態を「リソースの競合」と表現します。リソースが競合していると、機器が正常に使用できないばかりか、システム全体の動作も不安定になってしまいます。

Windows 98 などの OS では、ひとつの割り込みレベルを複数の機器で使用できることがあります。このようにリソースを共用することを「リソースをシェアする」と表現します。この場合は、そのまま機器を利用できます。

チェック!!

「CyberTrio-NX」のモードが「ベーシックモード」の場合は、次の手順での設定はできません。「アドバンストモード」に変更して設定してください。

参照

・モードの変更方法→PART1「Windows 98の利用環境の変更〈CyberTrio-NX〉」

リソースの設定状況の確認

割り込みレベル、DMA の設定状況は、次のようにして確認できます。

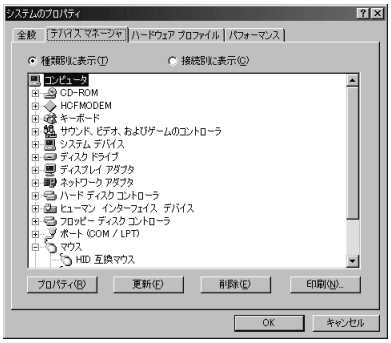
チェック!!

手順中での画面は、機種や周辺機器の接続状況によって異なります。

①「コントロールパネル」を開く。
（「スタート」→「設定」→「コントロールパネル」）

②「システム」をダブルクリック。
「システムのプロパティ」ウィンドウが表示されます。

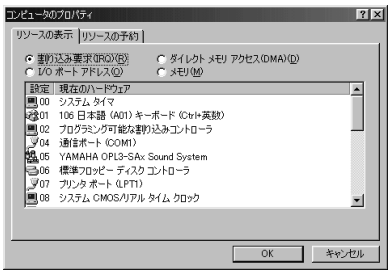
③「デバイスマネージャ」タブをクリック。
「デバイスマネージャ」ウィンドウが表示されます。



「コンピュータ」が反転表示されていることを確認してください。

反転表示していないときは、クリックして選んでください。

④「プロパティ」をクリック。
「コンピュータのプロパティ」ウィンドウが表示されます。



リソースは「割り込み要求(IRQ)」が選ばれています。

⑤ 確認したいリソースを選ぶ。

リソースの競合

リソースの競合が最も起きやすいときは、本機に新しい機器を追加接続したときです。また、通常Windows 98 は、新しい機器を検知した際にシステムの状態を調べます。新しい機器がプラグ＆プレイに対応している場合は、リソースが競合しないように自動的に設定されます。新しい機器がプラグ＆プレイに対応していない場合でも、リソースが競合する場合には、ドライバを組み込みません。本機が起動しなくなるような競合に対しては、二重三重の保護機能が働いています。

リソースの競合の発生の確認

リソースの競合の発生は、「スタート」→「設定」→「コントロールパネル」→「システム」→「デバイスマネージャ」で開くことができる「デバイスマネージャ」ウィンドウで確認できます。ドライバの異常、リソースの競合など何らかの障害があると、アイコンに「！」マークか赤い「×」マークが表示されます。このような異常が表示された場合は、まず、その機器を選んで「プロパティ」ボタンをクリックします。「全般」タブのウィンドウの中の「デバイスの状態」の欄で、異常の原因を調べます。異常の原因がリソースの競合である場合は、次の手順で解決してください。
例として、通信ポートに異常があるとします。

①「リソース」タブをクリック。
「リソース」のウィンドウが表示されます。

② 「自動設定」のチェックボックスのチェックマークをはずす。

③ 「リソースの種類」から競合しているリソースを選び、ダブルクリック。

④ 表示されたリソースの設定値を変更する。

チェック!!

選んだ機器やリソースの種類によっては、次のようなメッセージが表示されて、設定値を変更できない場合があります。

その場合は、競合しているもう一方の機器の設定値を変更してください。

本機を拡張するときの注意

PCIボードを複数枚取り付けたときに、本機の割り込みレベルが不足することがあります。この場合はデバイスマネージャで、現在使用していないボードのプロパティを開き、「このハードウェア環境で使用不可にする」のチェックボックスをチェックして、割り込みレベルを解放してください。

機器によって使用できるリソースが限定される場合があります。ボードなどに添付のマニュアルをご覧になってから機器の取り付けを行ってください。

付　録

- Windows 98 で MS-DOS モードを利用する
- Windows NT 4.0 の利用
- 本体の各部の名称
- キーの名称と役割
- 機能仕様
- FAX モデムボード機能仕様
- AT コマンド

Windows 98でMS-DOSモードを利用する

Windows 98のMS-DOSモードを利用するときの注意事項を説明しています。

MS-DOSモードを利用する

MS-DOSモードを利用すると、MS-DOSで起動したときと同じような環境で本機を使うことができます。

本機をMS-DOSモードで再起動する

MS-DOSモードを利用するには、次のように操作します。

① 「スタート」→「Windowsの終了」をクリック。

② 「MS-DOSモードで再起動する」をクリックして、「OK」をクリック。
本機がMS-DOSモードで再起動します。

MS-DOSモードを終了する

① コマンドプロンプトの画面から、次のように入力。
EXIT【Enter】
Windows 98が再起動します。

MS-DOSモードとMS-DOSプロンプトの違い

MS-DOSを利用するには、「MS-DOSモード」と「MS-DOSプロンプト」とがあります。

「MS-DOSモード」は、MS-DOSで起動したときと同じような環境になるため、他のアプリケーションと一緒に使うことはできません。

「MS-DOSプロンプト」は、MS-DOSをWindows 98上でマルチタスクのアプリケーションとして使用できるようにしたものです。

「MS-DOSプロンプト」を利用するには、次のように操作します。

① [スタート]→「プログラム」→「MS-DOSプロンプト」をクリック。
「MS-DOSプロンプト」ウィンドウが表示されます。

なお、コマンドやアプリケーションによっては、「MS-DOSモード」からは使用できないものや「MS-DOSプロンプト」からは使用できないものがあります。

CD-ROMドライバ（本機内蔵CD-ROMドライブ）

本機は、購入時の状態では、MS-DOSモードでCD-ROMドライブを使用することはできません。MS-DOSモードで本機内蔵のCD-ROMドライブを使用する場合は、次の手順が必要です。

現在のMS-DOS設定を使う場合

MS-DOSモード上でCD-ROMドライブを使用するには、次の手順を行ってください。

① 「スタート」→「Windowsの終了」をクリック。

② 「MS-DOSモードで再起動する」を選んで、「OK」をクリック。
本機がMS-DOSモードで再起動します。

③ コマンドプロンプトの画面から次のように入力する。

SETCD /A【Enter】

CD-ROMドライバがCONFIG.SYSとDOSSTART.BATに追加されます。

SETCDコマンドを実行する前のCONFIG.SYSとDOSSTART.BATは、それぞれCONFIG.SCD、DOSSTART.SCDとして保存されます。

④ コマンドプロンプトの画面から次のように入力します。

EXIT【Enter】

Windows 98が再起動します。

⑤ 「スタート」→「Windowsの終了」をクリック。

⑥ 「再起動する」を選んで、「OK」をクリック。
本機を再起動します。

⑦ 「スタート」→「Windowsの終了」をクリック。

⑧ 「MS-DOSモードで再起動する」を選んで、「OK」をクリック。
MS-DOSモードが起動します。
CD-ROMドライブがQドライブに設定されます。

新しい MS-DOS 設定を指定する場合

新しいMS-DOS設定を指定する場合、MS-DOSモード上で CD-ROM ドライブを使用するには、次の手順で行ってください。

① 「エクスプローラ」を起動する。
(「スタート」→「プログラム」→「エクスプローラ」)

「エクスプローラ」 ウインドウが表示されます。

② 新しい MS-DOS 設定を指定したい MS-DOS プログラム (「COMMAND.COM」) をクリック。
プログラム名が反転表示されます。

③ 「エクスプローラ」 の「ファイル」 メニューから「プロパティ」 をクリック。
「プロパティ」 ウインドウが表示されます。

④ 「プログラム」タブをクリックして、「詳細設定」ボタンをクリック。
「プログラムの詳細設定」ウインドウが表示されます。

⑤ 「MS-DOSモード」をクリックして、「新しいMS-DOS設定を指定する」 チェックボックスにチェックをつける。
CONFIG.SYS と AUTOEXEC.BAT の内容が編集できるようになります。

⑥ 「OK」 ボタンをクリック。
「プログラムの詳細設定」 ウインドウが閉じます。

⑦ 「OK」 ボタンをクリックします。
「プロパティ」 ウインドウが閉じます。

⑧ 「エクスプローラ」で新しいMS-DOS設定を指定したプログラムをダブルクリック。
MS-DOS モードが起動します。

チェック!!

「このプログラムは MS-DOS モードで実行するように設定されており、ほかのプログラムの動作中には実行できません。続行するとほかのプログラムを全て終了します。続行しますか？」と表示されます。

⑨ コマンドプロンプトの画面から次のように入力する。

SETCD /A【Enter】

CD-ROM ドライバがCONFIG.SYSとAUTOEXEC.BAT に追加されます。
SETCD コマンドを実行する前の CONFIG.SYS と AUTOEXEC.BAT は、それぞれ CONFIG.SCD、AUTOEXEC.SCD として保存されます。

⑩ コマンドプロンプトの画面から次のように入力する。

EXIT【Enter】

Windows 98 が再起動します。

⑪ 「エクスプローラ」 を起動する。
(「スタート」→「プログラム」→「エクスプローラ」)
「エクスプローラ」 ウィンドウが表示されます。

⑫ 新しいMS-DOS設定を指定したプログラムをダブルクリック。
MS-DOS モードが起動して、CD-ROM ドライブがQドライブに設定されます。

Windows NT 4.0の利用

本機で別売のWindows NT Workstation 4.0（以下、Windows NT 4.0）を利用する場合のセットアップ手順およびアップグレード手順について説明します。

ここでの説明では次のようなドライブ構成を想定しています。これと異なるドライブ構成で利用する場合は読み替えてください。

Windows 98がインストールされているドライブおよびWindows NT4.0をインストールするドライブ　：Cドライブ
フロッピーディスクドライブ　：Aドライブ

Windows NT 4.0をセットアップする前に

次の手順で、本機にWindows NT 4.0をセットアップし、アップグレードを行います。

チェック!!
・Windows NT Server 4.0は使用できません。

Windows NT 4.0を利用するための手順

必ず、ここに書いてある手順通りにセットアップ、アップグレードを行ってください。

・「Windows NT 4.0アップデートディスク」の作成
・システム設定の変更
・Windows NT 4.0のセットアップ
・ドライバのアップデート
・内蔵アクセラレータ対応ドライバのセットアップ
・内蔵サウンド対応ドライバのセットアップ
・モデムドライバのコピー
・内蔵FAXモデムボードのセットアップ
・BIOSセットアップユーティリティのセットアップ

セットアップする前の準備

セットアップを開始する前に、次のことを確認してください。

■ フロッピーディスクの用意
あらかじめ、フロッピーディスクをVE26/4の場合は4枚、VE23/4、VC23/4の場合は5枚用意してください。

・1.44Mバイトでフォーマットしておくこと

・フォーマット時にシステムの転送は行わないこと

・それぞれの「システム修復ディスク」「Windows NT 4.0アップデートディスク1～2」「Windows NT 4.0用BIOSセットアップユーティリティ」「Windows NT4.0アップデートディスク3」（VE23/4、VC23/4のみ）と書いたラベルを貼っておくこと

■ README.TXTを読む
最初の手順で作成する「Windows NT 4.0アップデートディスク」のルートディレクトリにある「README.TXT」には、マニュアルに記載されていない補足事項が書かれています。セットアップを行う前に必ずお読みください。

■ ドライバのインストール
ドライバのインストールを行う場合は、アドミニストレータの権限を持ったユーザーが行ってください。

Windows NT 4.0のセットアップとアップグレード

「Windows NT 4.0アップデートディスク」、「Windows NT 4.0用BIOSセットアップユーティリティ」の作成

次の手順で、「Windows NT 4.0アップデートディスク」、「Windows NT 4.0用BIOSセットアップユーティリティ」を作成します。

① 内蔵ハードディスクからWindows 98を起動する。

② MS-DOSプロンプトを起動する。
（「スタート」→「プログラム」→「MS-DOSプロンプト」）

③「Windows NT 4.0アップデートディスク」をフロッピーディスクドライブにセットする。
あらかじめ用意しておいたフロッピーディスクのうち、「Windows NT 4.0 アップデートディスク 1」というラベルを貼ったものです。

④ フロッピーディスクにファイルをコピーする。
コマンドプロンプトから次のように入力します。（CDNTUP のあとのフロッピーディスクドライブ名にコロン「:」をつけないこと）

```
C:【Enter】
CD  \NT40【Enter】
CDNTUP  A【Enter】
```

あとは画面の指示に従って操作してください。

システム設定の変更

BIOS セットアップメニューで、次のようにシステム設定を変更してください。

チェック!!

この操作は、Windows NT 4.0 を利用する場合のみ行ってください。

① 本機の電源を入れる。

②「NEC」のロゴの表示画面で、【F2】を押す。

③【→】を押して、BIOSセットアップメニューを起動する。

④ 詳細メニューで、次のように設定する。

- プラグ＆プレイ OS　：いいえ
- 周辺機器の設定
  - シリアルポート A　：使用する
  - パラレルポート　：使用する
- オーディオオプションメニュー
  - サウンド　：使用する

⑤ 省電力管理メニューで次のように設定する。

入力装置によるレジューム　：オフ

⑥「変更を保存して終了する」で BIOS セットアップメニューを終了させて、本機の電源を切る。

Windows NT 4.0 のセットアップ

Windows NT 4.0 添付のマニュアルをご覧になり、次の手順でセットアップを行ってください。

ただし、次のことに注意してください。

- 内蔵 FAX モデムボードを使用するリモートアクセスサービスの設定は、Windows NT 4.0 のセットアップの途中ではなく、セットアップ終了後に「内蔵 FAX モデムボードのセットアップ」の手順で行った後、「コントロールパネル」の「ネットワーク」を起動して行うこと（リモートアクセスサービスの設定については、Windows NT 4.0 のマニュアルやオンラインヘルプをご覧ください）。
- Windows NT 4.0 のセットアップが正常に終了したら、次の「ドライバのアップデート」の手順に進むこと。
- Windows NT 4.0 のセットアップ中にディスプレイの設定画面が表示され、「"Vga互換ディスプレイアダプタ "が検出されました。」と表示されたら、そのまま「OK」をクリックして、処理を続行すること。

①「Windows NT 4.0 Setup Disk 1」を、フロッピーディスクドライブにセットして本機の電源を入れる。

② 画面の指示にしたがってセットアップを行う。
セットアップの途中で、「キーボードの種類の選択」ウィンドウが表示されます。

③ 106 日本語キーボードを選択する（【半角 / 全角】を押す）。
「コンピュータには次のハードウェアとソフトウェアがあります。」と表示されます。

④【↑】で「キーボード：」の「106 日本語キーボード」を選んで、【Enter】を押す。
「インストールするキーボードの種類を変更します。」と表示されます。

⑤【↓】で「その他（ハードウェア メーカー提供のディスクが必要）」を選んで、【Enter】を押す。
「次のラベルの付いたディスクをドライブ A: に挿入してください。」と表示されます。

⑥ フロッピーディスクドライブに「Windows NT 4.0 アップデートディスク 1」をセットし【Enter】を押す。
「ハードウェア メーカーから提供されたキーボードをインストールします。」と表示されます。

⑦「USB Keyboard with Mouse（USB 109 日本語キーボード（JIS 配列））」が選ばれていることを確認して、【Enter】を押す。
「コンピュータには次のハードウェアとソフトウェアがあります。」のウィンドウに戻ります。

⑧「キーボード」が「USB Keyboard with Mouse（USB 109 日本語キーボード（JIS 配列））」になっていることを確認し、【Enter】を押す。

⑨ 後は画面の指示に従って、Windows NT 4.0 のセットアップを続行する。

ドライバのアップデート

本機の機能を有効に使うために、次の手順で Windows NT 4.0 のドライバをアップデートします。

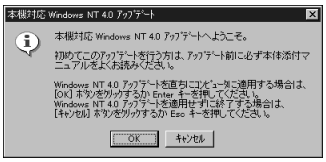
① コマンドプロンプトを起動する。
（「スタート」→「プログラム」→「コマンドプロンプト」）

②「Windows NT 4.0 アップデートディスク 1」をフロッピーディスクドライブにセットする。

③ アップデートを実行する。
コマンドプロンプトから次のように入力します。

A:【Enter】
CD \【Enter】
UPDATE【Enter】

④ 次のウィンドウが表示されたら、内容をよく読んで「OK」をクリック。
ファイルのコピーが開始されます。



⑤ 次のウィンドウが表示されたら、「Windows NTに戻る」ボタンをクリック。

⑥ フロッピーディスクドライブから「Windows NT 4.0アップデートディスク 1」を取り出し、Windows NT 4.0 を再起動する。

以上でドライバのアップデートは完了です。

内蔵アクセラレータ対応ドライバのセットアップ

本機内蔵アクセラレータを利用するため、次の手順でドライバをセットアップします。

チェック!!
VE26/4の場合は、ドライバをセットアップする前にMicrosoft Windows NT4.0アップデートサービス「Service Pack3」をインストールしておいてください。

① Windows NT 4.0 を起動する。

②「スタート」→「設定」→「コントロールパネル」をクリック。

③「画面」をダブルクリック。

④「ディスプレイの設定」タブをクリック。

⑤「ディスプレイの種類」をクリック。

⑥「変更」をクリック。

⑦「ディスク使用」をクリック。
ドライバの入ったフロッピーディスクをセットするよう指示されます。

⑧VE26/4の場合は「Windows NT 4.0アップデートディスク 1」を、VE23/4、VC23/4の場合は「Windows NT 4.0 アップデートディスク 2」をフロッピーディスクドライブにセットする。

⑨「フロッピーディスクからインストール」ウィンドウで次のように入力して、「OK」をクリック。

・VE26/4の場合
A:\RIVA128

・VE23/4、VC23/4の場合
A:\GD5465

⑩「ディスクプレイ」のリストから次のものを選び、「OK」をクリック。

・VE26/4の場合
「NVidia RIVA 128」

・VE23/4、VC23/4の場合
「Cirrus Logic 546x」

⑪ ドライバ組み込み確認のメッセージが表示されるので「はい」をクリック。

⑫ ドライバ組み込み結果が表示されるので「OK」をクリック。

⑬「閉じる」をクリック。

⑭「閉じる」をクリック。

⑮ 再起動を促すメッセージが表示されたら、フロッピーディスクドライブからフロッピーディスクを取り出し、「はい」をクリック。
自動的に Windows NT 4.0 が再起動されます。

以上で内蔵アクセラレータ対応ドライバのセットアップは完了です。

内蔵サウンド対応ドライバのセットアップ

本体内蔵サウンドボードを利用するため、次の手順でドライバをセットアップします。

①「スタート」→「設定」→「コントロールパネル」をクリック。

②「マルチメディア」をダブルクリック。

③「デバイス」タブをクリック。

④「追加」をクリック。

⑤ ドライバの一覧から「一覧にない、または更新されたドライバ」をクリックして、「OK」をクリック。

⑥ ドライバのインストール画面になるので、「Windows NT 4.0 アップデートディスク 1」をフロッピーディスクドライブにセットする。

⑦ 次のようにフロッピーディスクドライブ名とディレクトリ名を指定して、「OK」をクリック。

A:￥YMF715E

⑧ ドライバの一覧から「OPL3-SA Sound System (Japanese)」を選んで、「OK」をクリック。

⑨ パラメータの設定画面が表示されるので、「OK」をクリック。

⑩ 再起動を促すメッセージが表示されたら、フロッピーディスクドライブから「Windows NT 4.0 アップデートディスク 1」を取り出して、「再起動する」をクリック。
自動的に Windows NT が再起動されます。

以上でサウンドドライバのセットアップは完了です。

モデムドライバのコピー

本体内蔵 FAX モデムドライバを利用するために、モデムドライバを「Windows NT 4.0 アップデートディスク」からハードディスクにコピーします。
以下のフロッピーディスクを用意しておいてください。

・VE26/4 の場合
「Windows NT 4.0 アップデートディスク 2」

・VE23/4、VC23/4 の場合
「Windows NT 4.0 アップデートディスク 3」

①「スタート」メニュー→「プログラム」→「コマンドプロンプト」で次のように入力します。

C:【Enter】
CD NT40【Enter】
DRVCOPY【Enter】

② 画面の指示通りに操作してください。ドライバがハードディスクの中にコピーされます。

③ コピーが終了したらコマンドプロンプトを終了する。コマンドプロンプトから次のように入力します。

EXIT【Enter】

以上でドライバがハードディスクにコピーされました。

内蔵 FAX モデムボードのセットアップ

本体内蔵 FAX モデムボードを利用するため、次の手順でドライバをセットアップします。

①「スタート」→「ファイル名を指定して実行」をクリック。

②「ファイル名を指定して実行」ウィンドウで次のように入力して「OK」をクリック。

C:￥NT40￥MODEM￥SETUP

③「ロックウェル　モデム　インストール　ウィザード」が起動するので「次へ」をクリック。

④「HCF Modem」をチェックして、「次へ」をクリック。

⑤「インストールしたモデムのセットアップを行う」をチェックして、「完了」をクリック。

⑥「新しいモデムのインストール」が起動するので、「モデムの一覧から選択するので検出しない」をチェックして、「次へ」をクリック。

⑦「ディスク使用」をクリック。

⑧「配布ファイルのコピー元」に次のように入力して「OK」をクリック。

C:\NT40\MODEM

⑨「NEC Fax Modem 56K Data+Fax (BEB)」を選択し、「次へ」をクリック。

⑩「選択したポート」をチェックし、次のものを選択して「次へ」をクリック。

「COM3」

⑪「所在地情報」が表示されたら、所在地情報を入力して「次へ」をクリック。

チェック!

「所在地情報」ウィンドウは、1回目のモデムセットアップ時のみ表示されます。すでに他のモデムをセットアップしているときなどは、「所在地情報」ウィンドウが表示されないことがあります。

⑫「モデムは正常にセットアップされました」というメッセージが表示されるので、「完了」をクリック。

⑬「モデムのプロパティ」が表示されるので「閉じる」をクリック。

以上で内蔵FAXモデムボードのセットアップは完了しました。

BIOSセットアップユーティリティのセットアップ

BIOSセットアップユーティリティを利用するため、次の手順でセットアップします。

①「Windows NT 4.0用BIOSセットアップユーティリティ」をフロッピーディスクドライブにセットする。

②「スタート」→「ファイル名を指定して実行」をクリック。

③「ファイル名を指定して実行」ウィンドウで次のように入力して、「OK」をクリック。

A:\SETUP

インストール画面が表示されます。

④「ようこそ」ウィンドウで「次へ」をクリック。
「インストール先の選択」ウィンドウが表示されます。

⑤「次へ」をクリック。
「ファイルコピーの開始」ウィンドウが表示されます。

⑥「次へ」をクリック。
「セットアップの完了」ウィンドウが表示されます。

⑦ フロッピーディスクを取り出して「終了」をクリック。

以上でBIOSセットアップユーティリティのセットアップは完了です。

チェック!

Windows NT 4.0用のBIOSセットアップユーティリティを起動するには「スタート」→「プログラム」→「BIOSセットアップユーティリティ」をクリックします。

Windows NT 4.0アップデートサービス Service Pack 3の利用

本機でMicrosoft Windows NT 4.0アップデートサービス「Service Pack 3」(以下Service Pack 3)を利用する場合は、必ず次の手順で行ってください。

① Service Pack 3の「README.TXT」を読む。

② Service Pack 3のインストールを行う。

チェック!

ファイルのコピーの途中で、「コピー先には、コピー元より新しいファイルが存在します。上書きしますか?」のメッセージが表示された場合は、「すべて上書きしない」を選んでください。

③ 本機の再起動後、ドライバの再アップデートを行う。この項目の「Windows NT 4.0のセットアップとアップグレード」にある「ドライバのアップデート」の手順を行ってください。

本機でWindows NT 4.0を利用するときの注意

・本機に添付されているWindows NT 4.0のドライバは、本機専用です。他機種では使用しないでください。

・リモートアクセスサービスを設定する場合は、「内蔵FAXモデムボードのセットアップ」の手順でFAXモデムボードをセットアップした後、「コントロールパネル」の「ネットワーク」を起動して行ってください。リモートアクセスサービスの設定については、Windows NT 4.0のマニュアルやオンラインヘルプをご覧ください。

・Windows NT 4.0 は、NEC 製のキーボード以外の USB 機器をサポートしていません。

・Windows NT 4.0 実行中にキーボードの抜き差しはしないでください。

・省電力機能（スタンバイ）で問題が発生する場合は、省電力機能（スタンバイ）を無効にしてください。「コントロールパネル」の「電源の管理」で次のように設定します。

システムスタンバイ：なし

モニタの電源を切る：なし

ハードディスクの電源を切る：なし

また、BIOS セットアップユーティリティでは、「省電力」を次のように設定します。

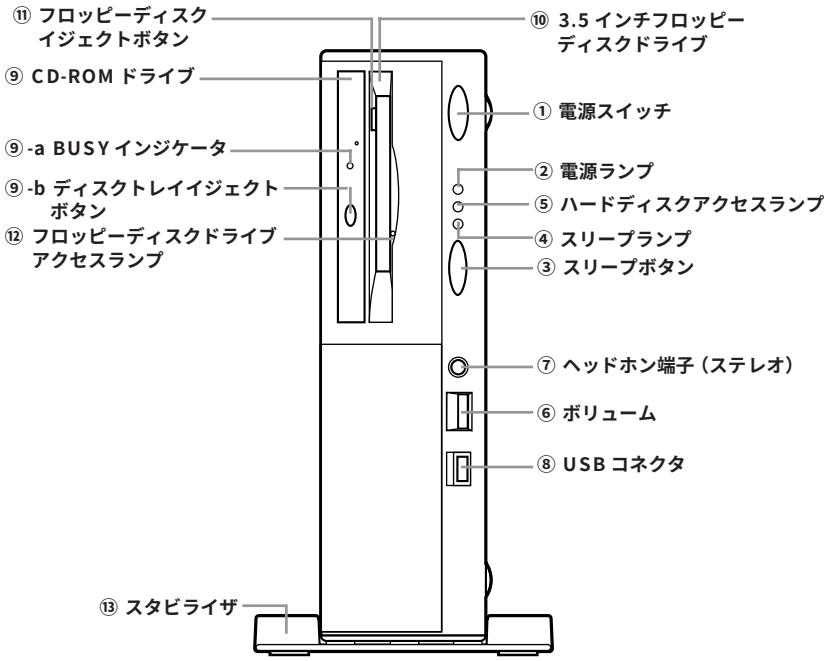
スリープ

スリープボタン：使用しない

本体の各部の名称

本体の各部の名称とその役割について説明しています。

本体前面



① 電源スイッチ（ ）
電源を入れるスイッチ。電源を切るときは、Windows 98 の「スタート」メニューで「Windows の終了」をクリックして「電源を切れる状態にする」を選んで「OK」をクリックします。電源スイッチを切る / 入れる操作はコンピュータに負担をかけるので、少なくとも 5 秒以上の間隔をあけてください。

チェック!!

ソフトウェアが明らかに停止している状態になった場合は、電源スイッチを約 4 秒以上押し続けることで、強制的に電源を切ることができます。なお、この場合、作成中のデータなどは消えてしまいます。

停電や、電源ケーブルを抜いているために本体に電源が供給されていないときは、電源スイッチを押しても電源を入れることはできません。

② 電源ランプ
電源の入/切状態を表示するランプ。 電源を入れると点灯します。

③ スリープボタン（ ）
本機をスタンバイ状態にするボタン。
電源が入っている状態で 1 回押すとスタンバイ状態（省電力状態）になり（スリープランプが点灯）、もう 1 回押すと通常の状態に復帰します。

④ スリープランプ
スタンバイ状態を表示するランプ。スタンバイ状態で点灯します。

⑤ ハードディスクアクセスランプ（ ）
ハードディスクの動作中に点灯するランプ。

チェック!!

点灯中は電源スイッチを押さないでください。ハードディスクの内容が壊れることがあります。

⑥ ボリューム
スピーカやヘッドホンの音量を調節するつまみ。
外付けスピーカが添付されているモデルでは、ヘッドホンの音量のみ調節できます。

⑦ ヘッドホン端子（ステレオ）（ ）
市販のオーディオ用ヘッドホンなどを接続するためのミニジャック端子。ヘッドホンプラグの形状によっては、使用できないものがありますので、注意してください。

⑧ USB コネクタ（ ）
USB 対応機器を接続するためのコネクタ。
Windows 98でのみ使用可能。USBコネクタに接続する周辺機器が本機で使用できるかどうかは、周辺機器の製造元または発売元にご確認ください。

チェック!!

添付のキーボードとマウスは、Windows NT 4.0 でも使用できます。

⑨ CD-ROM ドライブ
CD-ROM や音楽 CD を入れるところ。
なお、CD-ROMドライブ各部の位置や形状は、図と多少異なることがあります。

⑨-a BUSY インジケータ
データを読み出しているときに点灯します。

チェック!!

点灯中は電源を切ったり、CD-ROM を取り出したりしないでください。CD-ROM ドライブの故障の原因となります。

⑨-b ディスクトレイイジェクトボタン
ディスクをのせるディスクトレイを出し入れするためのボタン。

⑩ 3.5 インチフロッピーディスクドライブ
3.5 インチサイズのフロッピーディスクを入れるところ。

⑪ フロッピーディスクイジェクトボタン
フロッピーディスクをフロッピーディスクドライブから取り出すときに使うボタン。

⑫ フロッピーディスクドライブアクセスランプ
フロッピーディスクドライブの動作中に点灯するランプ。

チェック!!

点灯中は電源を切ったり、フロッピーディスクを取り出したりしないでください。フロッピーディスクの内容が壊れることがあります。

⑬ スタビライザ
本体を安定して設置するための脚。

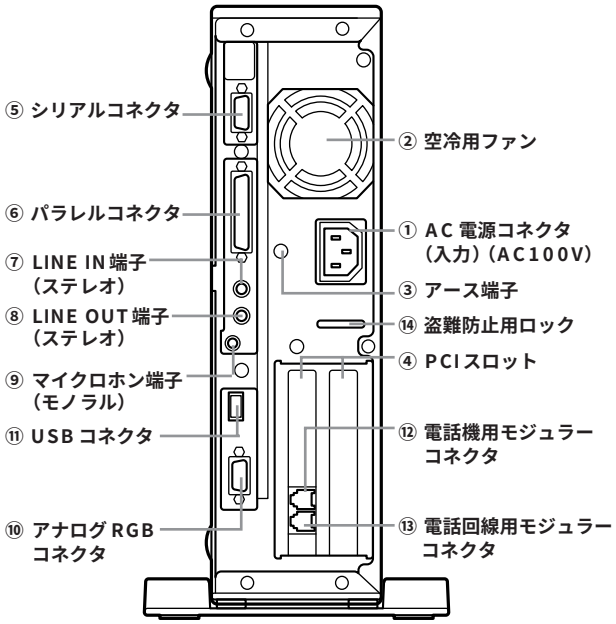
チェック!!

スタビライザは必ず付属のネジで本体に固定してください。

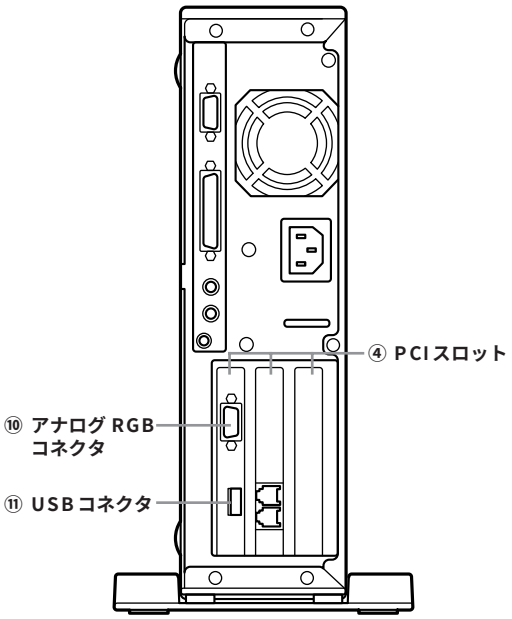
本体背面

各アイコンの向きは、下の説明と異なることがあります。

VE23/4、VC23/4



VE26/4



① AC電源コネクタ（入力）（AC100V）
ACコンセントから本体に電源を供給するためのコネクタ。添付の電源ケーブルを接続します。
本体添付の電源ケーブルは、ACコンセント側が普通の2ピン、本体側が特殊な3ピンになっています。

② 空冷用ファン
本体内部の熱を逃がすためのファン。壁などでふさがないように注意してください。

③ アース端子（⏚）
アース線を接続するための端子。

④ PCIスロット
本機の機能を強化したり拡張したりするための各種ボードを、挿入するためのスロット。高速なデータ転送ができるPCIバスに対応。

・VE23/4、VC23/4の場合
PCIスロットは、左から順にPCIスロット#1、#2と呼びます。
#1は標準で取り付けられているFAXモデムボード専用スロットです。#2にはハーフサイズのPCIボードが取り付けられます。

・VE26/4の場合
PCIスロットは、左から順に#1、#2、#3と呼びます。
#1にはグラフィックアクセラレータボード（取り外さないでください）が標準で取り付けられています。
#2は標準で取り付けられているFAXモデムボード専用スロットです。#3にはハーフサイズのPCIボードが取り付けられます。

⑤ シリアルコネクタ
（チャネル1/ IOIOI ）
周辺機器を接続するためのコネクタ。
通信を行うときに必要な通信機器や、イメージスキャナなどの周辺機器を接続します。

チェック!!
・PC-9800シリーズ用の機器を接続する場合は、別売のRS-232C変換アダプタ（PK-CA102）が必要です。

・シリアルコネクタと、パラレルコネクタの両方に変換コネクタを取り付ける必要がある場合は、必ずRS-232C変換アダプタ（PK-CA102）とプリンタインタフェース変換アダプタ（PK-CA101）を使用してください。変換コネクタどうしがぶつかるのを避けられます。

・周辺機器によっては、変換アダプタを使用すると動作しないことがあります。

⑥ パラレルコネクタ（ ）
プリンタなどを接続するためのコネクタ。

チェック!!

・PC-9800シリーズ用のプリンタケーブルを接続する場合は、別売のプリンタインタフェース変換アダプタ（PK-CA101）が必要です。

・シリアルコネクタと、パラレルコネクタの両方に変換コネクタを取り付ける必要がある場合は、必ずRS-232C変換アダプタ（PK-CA102）とプリンタインタフェース変換アダプタ（PK-CA101）を使用してください。変換コネクタどうしがぶつかるのを避けられます。

⑦ LINE IN 端子（ステレオ）（ ）
市販のオーディオ機器などから、音声信号（ステレオ）を本体に入力するためのミニジャック端子。

⑧ LINE OUT 端子（ステレオ）（ ）
市販のオーディオ機器などに、音声信号（ステレオ）を出力するためのミニジャック端子。

⑨ マイクロホン端子（モノラル）（ ）
添付のマイクロホンを接続するためのミニジャック端子。

チェック!!

VC23/4、VE23/45Aには、マイクロホンは添付されていません。

⑩ アナログ RGB コネクタ（ ）
アナログRGB対応ディスプレイを接続するためのコネクタ。

⑪ USB コネクタ（ ）
USB 対応機器を接続するためのコネクタ。
Windows 98でのみ使用可能。USBコネクタに接続する周辺機器が本機で使用できるかどうかは、周辺機器の製造元または発売元にご確認ください。

チェック!!

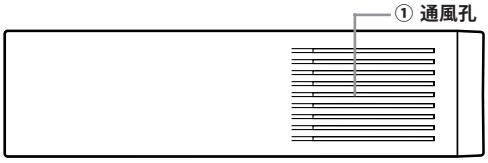
添付のキーボードとマウスは、Windows NT 4.0 でも使用できます。

⑫ 電話機用モジュラーコネクタ（ ）
電話機を接続するためのコネクタ。

⑬ 電話回線用モジュラーコネクタ（ ）
電話回線を接続するためのコネクタ。

⑭ 盗難防止用ロック（ ）
市販の錠などを取り付けられます。
盗難防止用ロックを使用することで、ルーフカバーがロックされるため、本体内部のハードディスクやRAM サブボードなどの盗難を予防できます。

本体底面

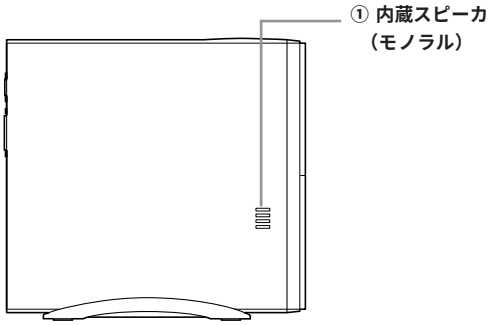


① 通風孔
本体内部の熱を逃がすための孔です。
底面にスタビライザを取り付けることで、通風孔をふさがない状態になります。

チェック!!

パソコン本体を横置きにする場合は、通風孔をふさがないようにしてください。

本体左側面



① 内蔵スピーカ（モノラル）
内蔵音源や CD などからの音を出力します。
（VE23/45A、VC23/4 のみ）

キーの名称と役割

ここでは、各キーの名称と一般的な機能を説明します。

キーの役割

一般的なキーの役割です。

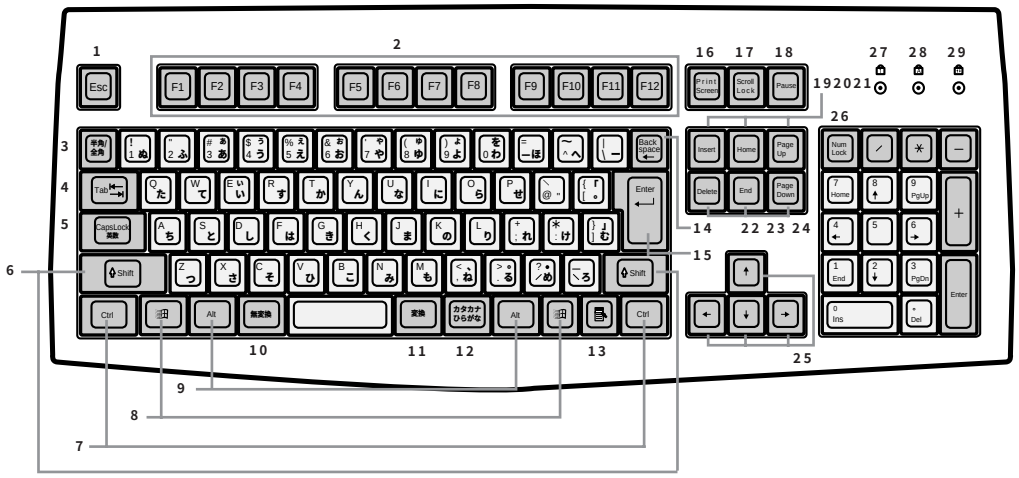
・薄いグレーのキー
英数字やカタカナ、記号などの文字を入力するキーです。

・濃いグレーのキー
コンピュータに直接指示を与えるためのキーです。このキーの働きは、お使いになるアプリケーションによって違います。詳しくは、各アプリケーションのマニュアルをご覧ください。

キーの名称

1 【Esc】：エスケープキー
2 【F1】～【F12】：ファンクションキー
3 【半角 / 全角 / 漢字】：半角 / 全角 / 漢字キー
4 【Tab】：タブキー
5 【CapsLock】：キャップスロックキー
6 【Shift】：シフトキー
7 【Ctrl】：コントロールキー
8 【 】：Windows キー
9 【Alt】：オルトキー
10 【無変換】：無変換キー
11 【変換】：変換キー
12 【カタカナ / ひらがな / ローマ字】：
カタカナ / ひらがな / ローマ字キー
13 【 】：アプリケーションキー
14 【Back Space】：バックスペースキー
15 【Enter】：エンターキー
16 【Print Screen/Sys Rq】：
プリントスクリーンキー / システムリクエストキー
17 【Scroll Lock】：スクロールロックキー
18 【Pause/Break】：ポーズ / ブレークキー
19 【Insert】：インサートキー
20 【Home】：ホームキー
21 【Page Up】：ページアップキー
22 【Delete】：デリートキー
23 【End】：エンドキー
24 【Page Down】：ページダウンキー
25 【↑】【↓】【←】【→】：カーソルキー
26 【Num Lock】：ニューメリックロックキー
27 ニューメリックロックキーランプ
28 キャップスロックキーランプ
29 スクロールロックキーランプ

キーボード正面

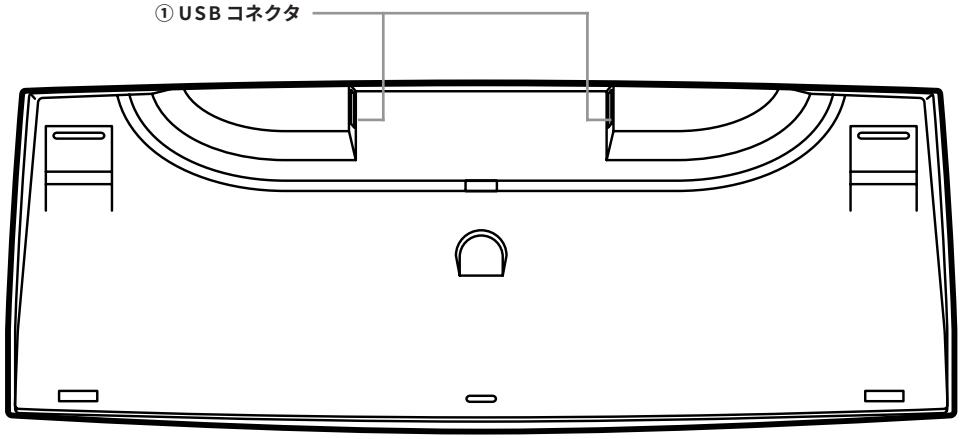


キーボード裏面

① USB コネクタ
USB 対応機器を接続するコネクタ。
このコネクタには、添付のマウスが接続できます。

チェック!!

この USB コネクタには、限られた機器しか接続できません。接続できる機器については、『拡張の手引き』の「PART2 USB 対応機器を使う」をご覧になり、確認してください。



キーのロック

【NumLock】と【CapsLock】がロックされているかいないかでキーの機能は異なります。
ロック状態はそれぞれのキーを押すたびに切り替わります。

それぞれのキーがロックされているときにはキーボード上部のランプが点灯します。

	ロックされているとき	ロックされていないとき
【NumLock】	テンキーから数字が入力できます。	テンキーの数字の下に表示されている機能が使えます。
【CapsLock】	英語が表示されているキーを押すと大文字が入力されます。	英語が表示されているキーを押すと小文字が入力されます。

アプリケーションと Windows キーについて

アプリケーションと Windows キーは Windows98 で使用できるキーです。アプリケーションによってどのように利用するかは異なりますが、標準で次のような機能が割り当てられています。

アプリケーションキー（ ）

アプリケーションキーを押すと、マウスで右クリックしたときと同じ状態になります。

Windows キー（ ）

Windows キーを押すと、「スタート」メニューを表示します。

Windows キーを押しながら次のキーを押すと、次のような機能を利用することができます。

【 】＋【R】	「ファイル名を指定して実行」ウィンドウを表示する
【 】＋【M】	現在起動しているウィンドウをすべてアイコン化する
【Shift】＋【 】＋【M】	【 】＋【M】でアイコン化しているウィンドウを元に戻す
【 】＋【F1】	Windows のヘルプを起動する
【】＋【F】	ファイルやフォルダを検索するウィンドウを表示する
【Shift】＋【】＋【F】	コンピュータを検索するウィンドウを表示する
【】＋【Tab】	タスクバーに表示されているボタンを順番に切り替える

PC-9800 シリーズのキーボードとのキーの違い

PC-9800シリーズに添付されているキーボードと本機のキーボードとのキーの違いは以下のとおりです。

PC9800シリーズのキーボード	本機のキーボード	備　考
【リターン】	【Enter】	
【GRPH】	【Alt】	
【BS】	【BackSpace】	
【STOP】	【Pause】	
【CAPS】	【Shift】+【CapsLock】	大文字
【ROLL UP】	【Page Down】	
【ROLL DOWN】	【Page Up】	
【CTRL】	【Ctrl】	
【DEL】	【Delete】	
【HELP】	【End】	
【ESC】	【Esc】	
【f･1】-【f･10】	【F1】-【F10】	
【vf･1】-【vf･2】	【F11】-【F12】	
【HOME CLR】	【Home】	
【INS】	【Insert】	
【SHIFT】	【Shift】	
【COPY】	【PrintScreen】	
【TAB】	【Tab】	
【XFER】	【変換】	
【NFER】	【無変換】	
【CTRL】+【XFER】	【Alt】+【半角/全角】	日本語入力
【かな】	【Ctrl】+【英数】	

機能仕様

VE23/4、VC23/4

モデル			VE23/45A	VE23/45C, VE23/47C VE23/45D, VE23/47D	VC23/4XC VC23/4XD
CPU			MMX®テクノロジ Pentium® プロセッサ クロック233MHz		
			キャッシュメモリ32Kバイト セカンドキャッシュメモリ256Kバイト		
メモリ	BIOS ROM		256KB、プラグ＆プレイ対応		
		メインRAM	64Mバイト（最大160Mバイトまで増設可能） ＊ユーザーズメモリ63.6Mバイト（最大159.6Mバイト）		
	RAM※1		DIMMスロット×1（32Mバイトメモリを取り付け済）		
	ビデオRAM		2Mバイト		
表示機能	グラフィックアクセラレータ		CIRRUS LOGIC®社製GD5465搭載		
	グラフィック表示		640×480ドット 16色/256色/65,536色/1,677万色 800×600ドット 256色/65,536色/1,677万色 1,024×768ドット 256色/65,536色 1,280×1,024ドット※2 256色		
入力装置	キーボード		JIS標準配列（英数、カナ）、テンキー、12ファンクションキー、Windowsキー アプリケーションキー付セパレートタイプ、USBコネクタに接続 USBハブ（ 2ポート）付き（マウスにより1ポート使用）		
	マウス		スクロール機能付きマウス標準装備(添付のキーボードに接続)		
補助記憶装置	フロッピーディスクドライブ		3.5インチフロッピーディスクドライブ1台内蔵 720Kバイト、1.2Mバイト、1.44Mバイトフロッピーディスク使用可能		
	ハードディスク		2.1Gバイト	3.2Gバイト	
			Microsoft Windows 98をインストール済		
	5インチベイ		最大20倍速（平均14倍速）CD-ROMドライブ標準搭載		
	PCIスロット		2スロット（うち1スロットはFAXモデムボードで占有済）		
サウンド機能※3	サウンドチップ		YAMAHA製 YMF715E		
	音源		FM音源 20和音（ステレオ） PCM録音/再生機能 PCM 8/16ビット 11.025KHz/22.05KHz/44.1KHz/48KHz		
	サラウンド		エンハンスドステレオ対応		
	マイク		———	モノラルマイクロホン添付	———
	スピーカ		モノラルスピーカ内蔵	ステレオスピーカ添付	モノラルスピーカ内蔵
通信機能		モデム	データ転送速度 最大送信33.6Kbps／最大受信56Kbps、K56flex、V.34、V.32bis、V.32、V.22bis、V.22、V.21、 エラー訂正V.42/MNP4、データ圧縮V.42bis/MNP5		
		FAX	データ転送速度 最大14.400bps（V.17）、FAX制御 CLASS 1		

VE23/4、VC23/4

モデル			VE23/45A	VE23/45C, VE23/47C VE23/45D, VE23/47D	VC23/4XC VC23/4XD
インターフェイス	ディスプレイ		アナログRGBセパレート信号出力（75Ωアナログインターフェイス、カラー、ミニD-Sub 15ピン）		
	オーディオ	入力	マイク入力（モノラル） 入力インピーダンス 10KΩ 入力レベル最大100mVrms ゲイン20dB ライン入力（ステレオ） 入力インピーダンス 10KΩ 入力レベル最大2Vrms ゲイン−6dB		
		出力	ヘッドホン出力（ステレオ） 出力レベル最大500mVrms（負荷インピーダンス33Ω） ライン出力（ステレオ） 出力レベル最大1Vrms（負荷インピーダンス47kΩ）		
	プリンタ		パラレルインターフェイス（D-Sub25ピン）		
	シリアル		最大115,200bps（D-Sub 9 ピン）		
	USB※4	本体	2ポート内蔵（キーボードにより1ポート使用）		
		キーボード	2ポート内蔵（マウスにより1ポート使用）		
カレンダー時計			電池によるバックアップ		
電源			AC 100V±10%、50/60Hz		
温湿度条件			10〜35℃、20〜80%※5（ただし結露しないこと）		
外形寸法		本体	86（W）×320（D）×300（H）mm （スタビライザ取り付け時 156（W）×320（D）×308（H）mm）		
		キーボード	471（W）×178（D）×39（H）mm		
重量		本体	約6.5kg		
		キーボード	約1.2kg		
消費電力			標準構成時 約35W 内蔵オプション最大接続時 約100W スタンバイモード時 約23W		

※1 利用OSにより、使用可能なメモリ容量は異なります。
※2 本機にセットの15インチCRTディスプレイ（DV15D1）・14インチ液晶ディスプレイ（F14T2L）では表示できません。
※3 サウンド機能を利用したアプリケーションソフトのうちハードウェアを直接制御しているものは、一部使用できないものがあります。
アプリケーションソフト購入に際しては、発売元に確認してください。
※4 Windows 98でのみサポート。接続する周辺機器の使用可否については、周辺機器の製造元または発売元にご確認ください。
※5 18〜28℃、45〜75%での使用を推奨します。

VE26/4

モデル			VE26/47C　VE26/47D VE26/45C　VE26/45D
CPU			Pentium®II プロセッサ クロック266MHz
			キャッシュメモリ32Kバイト セカンドキャッシュメモリ512Kバイト（CPUに内蔵）
メモリ	BIOS ROM		256KB、プラグ＆プレイ対応
	RAM※1	メインRAM	64Mバイト（最大256Mバイトまで増設可能） ＊ユーザーズメモリ63.6Mバイト（最大255.6Mバイト）
			DIMMスロット×2（うち1スロットに64Mバイトメモリを取り付け済）
	ビデオRAM		2Mバイト（2Mバイト増設可能）
表示機能	グラフィックアクセラレータ		STMicroelectronics社製RIVA128搭載
	グラフィック表示		640×480ドット　16色/256色/32,768色/1,677万色 800×600ドット　256色/32,768色/1,677万色 1,024×768ドット　256色/32,768色/1,677万色※2 1,280×1,024ドット※3　256色/32,768色※2
入力装置	キーボード		JIS標準配列（英数、カナ）、テンキー、12ファンクションキー、Windowsキー アプリケーションキー付セパレートタイプ、USBコネクタに接続 USBハブ（ 2ポート）付き（マウスにより1ポート使用）
	マウス		スクロール機能付きマウス標準装備(添付のキーボードに接続)
補助記憶装置	フロッピーディスクドライブ		3.5インチフロッピーディスクドライブ1台内蔵 720Kバイト、1.2Mバイト、1.44Mバイトフロッピーディスク使用可能
	ハードディスク		3.2Gバイト
			Microsoft Windows 98をインストール済
	5インチベイ		最大20倍速（平均14倍速）CD-ROMドライブ標準搭載
	PCIスロット		3スロット（うち2スロットはFAXモデムボード、グラフィックアクセラレータボードで占有済）
サウンド機能※4	サウンドチップ		YAMAHA製 YMF715E
	音源		FM音源　20和音（ステレオ） PCM録音/再生機能　PCM 8/16ビット　11.025KHz/22.05KHz/44.1KHz/48KHz
	サラウンド		エンハンスドステレオ対応
	マイク		モノラルマイクロホン添付
	スピーカ		ステレオスピーカ添付
通信機能		モデム	データ転送速度 最大送信33.6Kbps／最大受信56Kbps、K56flex、V.34、V.32bis、V.32、V.22bis、V.22、V.21、 エラー訂正V.42/MNP4、データ圧縮V.42bis/MNP5
		FAX	データ転送速度 最大14.400bps（V.17）、FAX制御 CLASS 1

VE26/4

モデル			VE26/47C　VE26/47D VE26/45C　VE26/45D
インターフェイス	ディスプレイ		アナログRGBセパレート信号出力（75Ωアナログインターフェイス、カラー、ミニD-Sub 15ピン）
	オーディオ	入力	マイク入力（モノラル） 入力インピーダンス 10KΩ 入力レベル最大100mVrms ゲイン20dB ライン入力（ステレオ） 入力インピーダンス 10KΩ 入力レベル最大2Vrms ゲイン−6dB
		出力	ヘッドホン出力（ステレオ） 出力レベル最大500mVrms（負荷インピーダンス33Ω） ライン出力（ステレオ） 出力レベル最大1Vrms（負荷インピーダンス47kΩ）
	プリンタ		パラレルインターフェイス（D-Sub25ピン）
	シリアル		最大115,200bps（D-Sub 9 ピン）
	USB※5	本体	2ポート内蔵（キーボードにより1ポート使用）
		キーボード	2ポート内蔵（マウスにより1ポート使用）
カレンダー時計			電池によるバックアップ
電源			AC 100V±10%、50/60Hz
温湿度条件			10〜35℃、20〜80%※6（ただし結露しないこと）
外形寸法		本体	86（W）×320（D）×300（H）㎜ （スタビライザ取り付け時 156（W）×320（D）×308（H）㎜）
		キーボード	471（W）×178（D）×39（H）㎜
重量		本体	約6.5kg
		キーボード	約1.2kg
消費電力			標準構成時 約38W 内蔵オプション最大接続時 約110W スタンバイモード時 約23W

※1 利用 OS により、使用可能なメモリ容量は異なります。
※2 ビデオ RAM が 4M バイトの時に表示できます。
※3 本機にセットの 15インチＣＲＴディスプレイ（DV15A1）では表示できません。
※4 サウンド機能を利用したアプリケーションソフトのうちハードウェアを直接制御しているものは、一部使用できないものがあります。
アプリケーションソフト購入に際しては、発売元に確認してください。
※5 Windows 98 でのみサポート。接続する周辺機器の使用可否については、周辺機器の製造元または発売元にご確認ください。
※6 18 〜 28℃、45 〜 75% での使用を推奨します。

FAX モデムボード機能仕様

■ 機 能 概 要

CPU I/F	PCIローカルバスインターフェイス(Ver 2.1)
NCU部	・回線接続切り替え機能 ・ ダイヤルパルス送出機能 ・ リンガ検出機能 ・外付け電話フックオフ検出機能
モデムチップセット部	・115.2Kbpsまでのデータ・モデム・スループット K56flex V.34 V32bis V.32、V.22bis、V.22、V.21 V.42LAPMおよびNMP4エラー訂正 V.42bisおよびMNP5データ圧縮 ・最高14.4Kbpsのファックス・モデム送受信速度 V.17、V.29、V.27ter、V.21チャンネル2 ・HayesATコマンドセット AT Sレジスタ ・回線品質モニタリングおよびオートリトレイン ・受信ライン信号品質に基づく自動ライン・スピード選択 ・フロー制御およびスピード・バッファリング ・最高115.2Kbpsの自動フォーマット／スピード検出 ・パラレル非同期データ ・自動ダイヤルおよび自動アンサー ・トーンおよびパルスダイヤリング(DTMFトーン、ダイヤルパルス制御)

■ FAX 機 能

項目	規格
交信可能ファクシミリ装置	ITU-T G3ファクシミリ装置
適用回線	加入電話回線
同期方式	半二重調歩同期方式
通信速度	14400/12000/9600/7200/4800/2400/300bps ※
通信方式	ITU-T V.17/V.29/V.27ter/V.21ch2
変調方式	QAM : 14400/12000/9600/7200bps DPSK : 4800/2400bps FSK : 300bps
送信レベル 受信レベル	-6〜-15dBm(出荷時 -15dBm) -10〜-40dBm
制御コマンド	EIA-578拡張ATコマンド(CLASS 1)

※ 回線状態によって通信速度が変わる場合があります。

■ データモデム 機 能

項　目	規　格
適用回線	加入電話回線
同期方式	全二重調歩同期方式
通信速度	送 受 信: 33600/31200/28800/26400/24000/21600/19200/16800/14400/12000/9600 7200/4800/2400/1200/300bps ※ 受信のみ:56000/54000/52000/50000/48000/46000/44000/42000/40000/38000/36000 34000/32000bps ※
通信規格	K56flex ITU-T V.34/V.32/V.32bis/V.22/V.22bis/V.21
変調方式	TCM : 56000/54000/52000/50000/48000/46000/44000/42000/40000/38000/ 36000/34000/32000/33600/31200/28800/26400/24000/21600/19200/16800/ 14400/12000/9600/7200bps QAM : 9600/7200bps DPSK : 4800/2400/1200bps FSK : 1200/300bps
エラー訂正	ITU-T V.42（LAPM） MNP class4
データ圧縮	ITU-T V.42bis MNP class5
送信レベル	-6〜-15dBm（出荷時 -15dBm）
受信レベル	-10〜-40dBm
制御コマンド	HayseATコマンド

※　回線状態によって通信速度が変わる場合があります。

■ NCU 機 能

項　目	規　格
適用回線	加入電話回線
ダイヤル方式	パルスダイヤル（10/20PPS） トーンダイヤル（DTMF）
NCU形式	AA（自動発信／自動着信型） MA（手動発信／自動着信型） MM（手動発信／手動着信型） AM（自動発信／手動着信型）
制御コマンド	HayesATコマンド準拠 EIA-578拡張ATコマンドAT（CLASS 1）

ATコマンド

ATコマンドとは、電話回線に対してDTE（パソコンなどの端末機器）からのコマンドにより自動発着信を行うために米国 Hayes 社が開発したコマンド体系で“ AT ”で始まることからこのように呼ばれています。

コマンドの構成

ATコマンドセット（A/ コマンドを除く）では、DTEが送る各コマンドラインはキャラクターシーケンスATで始まり、キャリッジリターンで終了しなければなりません。ATシーケンスは、いくつものコマンドをその次に続けることができます。ただし、Z、D、Aのようなコマンドは除きます。コマンドラインの最大キャラクタ数は48です。もしコマンドラインのどこかで構文エラーが見つかった場合には、ラインの残りは無視されます。

A	T	コマンド列	CR

コマンド一覧

■基本ATコマンド

種　類	ATコマンド	機　能
アンサーモードで回線接続	A	アンサーモードで回線に接続し,通信状態になる。自動応答にしていない状態で,応答する場合に使用する。
コマンドの再実行	A/	直前に実行したコマンドを再実行する。このコマンドの前には「AT」はつけない。また,最後の ↵ もつけない。
ダイヤルの実行	D	指定された電話番号にダイヤルし,接続する。 P……パルスダイヤル（ダイヤル回線）。 T……トーンダイヤル（プッシュ回線）。 W……S6レジスタで指定された時間,ダイヤルトーンを待つ。 @……5秒間の無音状態を検出する。検出できない場合は「NO ANSWER」を返す。 ,……S8レジスタで指定された時間,ポーズを置く。構内交換機,ゼロ発信等でダイヤルを待つ場合に使用する。 0〜9、＊、＃……相手の電話番号をダイヤルする。ダイヤル番号を見やすくするために、スペース、「－」,「（）」,「〔〕」等が使用できる。なお,「＊」,「＃」はトーンダイヤルのみ使用できる。 ;……ダイヤル後コマンドモードにもどる。 !……S29レジスタで指定された時間,回線をオンフックする（フラッシュダイヤルモディファイ）。 L……最後にかけたダイヤルにリダイヤルする。
コマンドエコー有無の設定☆	E	DTE（パソコン側）から送られたコマンドのエコー（文字をそのまま送り返す）の有無を指定する。 E0　コマンドモード時DTEから入力したコマンド文字をDTEに返さない。 E1　コマンドモード時DTEから入力したコマンド文字をDTEに返す（初期値）。
回線の接続／切断	H	H0　回線を切断（オンフック）する。 H1　回線を接続（オフフック）する。
識別コード表示	I	モデムの識別コードを表示する。 I0　製品コードを表示する。 I3　F/Wのバージョンを表示する。 I4　モデムの名称を表示する。
モニタースピーカの最大音量設定 ☆	L	FAXモデムボードの内蔵スピーカの音量を設定する。 L0　音量小。 L1　音量小（初期値）。 L2　音量中。 L3　音量大。

☆AT&Wでバックアップ可能

種　類	ATコマンド	機　　能
モニタースピーカの　☆ 動作設定	M	内部モニタースピーカのON、OFFのタイミングを設定する。 M0　スピーカを常にOFFにする。 M1　キャリアを検出するまでONにする（初期値）。 M2　スピーカを常にONにする。 M3　ダイヤル終了からキャリア検出までONにする。
オンラインモードに戻る	O	オンラインモード中にエスケープコマンド（+++）によってコマンドモードになったときに,再びオンラインモードに戻るのに使用する。 O0　オンラインモードに戻る。 O1　トレーニングを再度実行して、オンラインモードに戻る。
パルス回線（ダイヤル回線） モードの設定　☆	P	ダイヤルをパルスで行うモードに設定する。
リザルトコードの設定　☆	Q	リザルトコードをDTE（パソコン側）に返すか,返さないかのモードを指定する。 Q0　リザルトコードをパソコンに返す（初期値）。 Q1　リザルトコードをパソコンに返さない。
Sレジスタの読み出し	Sr?	Sレジスタrの内容を読みだす。ATS0?↵でS0レジスタの内容を読みだす。
Sレジスタの設定	Sr=n	Sレジスタrを設定する。 ATSr=n↵でrに設定したいレジスタの番号r、nにレジスタの値を10進数で設定する。 ATS2=43↵でS2レジスタに43（10進数）を設定する。
トーン回線（プッシュ回線） の設定　☆	T	ダイヤルをトーンで行うモードに設定する（初期値）。
リザルトコードタイプの 設定　☆	V	ATコマンドのリザルトコードの形式を指定する。 V0　リザルトコードを数字表示に設定する。 V1　リザルトコードを文字表示に設定する（初期値）。
接続時のリザルトコードの 設定　☆	X	モデム接続時のリザルトコードの拡張方法を指定する。 X0　リザルトコードの拡張は行わない。 X1　リザルトコードに接続時のスピードを付加する。 X2　X1に加えて、ダイヤル時にダイヤルトーンの検出を行う。ダイヤル時に5秒以内にダイヤルトーンを検出できなかったら「NO DIALTONE」を表示する。 X3　X1に加えて,ビジートーン（話中音）の検出を行う。ビジートーンを検出したら「BUSY」と表示する。 X4　X2、X3をあわせて表示、または検出する（初期値）。

☆AT&Wでバックアップ可能

種　類	ATコマンド	機　　能
モデムの初期化	Z	モデムを&Wコマンドで保存した内容で初期化する。
キャリア検出信号（CD） の動作　☆	&C	CD信号（DCD）の動作を指定する。 &C0　CD信号を常にONにする。 &C1　CD信号はキャリアが検出されるとONになる（初期値）。
データ端末レディ（DR） の動作　☆	&D	DTR信号がONからOFFに変化した場合の動作を指定する。 &D0　DTR信号は無視し、常にONとして扱う。 &D1　DTR信号がOFFになると、コマンドモードになる。 &D2　DTR信号がOFFになると、回線を切断しコマンドモードになる（初期値）。
パラメータの初期化	&F	各種パラメータを工場出荷時の設定に戻す。
ダイヤルパルススピード の設定　☆	&P	ダイヤルパルスのスピードを指定する。 &P0　ダイヤルパルスを10PPSにする。 &P1　ダイヤルパルスを10PPSにする（初期値）。 &P2　ダイヤルパルスを20PPSにする。 &P3　ダイヤルパルスを20PPSにする。
モデムの状態表示	&V	現在設定されているコマンドの一覧と、&Wコマンドで保存されている内容を表示する。
パラメータの保存	&W	現在の設定されている状態を保存する。
リトレーニング時の 自動再実行	%E	回線の状態を監視して、状態が変化した場合や悪い場合に、トレーニングシーケンスの再実行（リトレーニング）の指定をする。 %E0　リトレーニングを自動で再実行しない。 %E1 リトレーニングを自動で再実行する(初期値)。
リザルトコード のデータ圧縮 プロトコル表示	＋DR	リザルトコードのデータ圧縮プロトコル表示を選択する。 ＋DR=0 データ圧縮プロトコルを表示しない(初期値)。 ＋DR=1 データ圧縮プロトコルを表示する。
データ圧縮 プロトコルの設定	＋DS	データ圧縮の有無を設定する。 ＋DS=0　データ圧縮を行わない。 ＋DS=3　データ圧縮を行う(初期値)。
リザルトコードの のエラー訂正 プロトコル表示	＋ER	リザルトコードのエラー訂正プロトコル表示を選択する。 ＋ER=0 エラー訂正プロトコルを表示しない(初期値)。 ＋ER=1 エラー訂正プロトコルを表示する。
通信モードの設定	+ES=x,y,z	エラー訂正プロトコルの動作を設定する。 x=1:ノーマルモードで接続する。 =2自動モードを使わずにV.42モードで接続する。 =3自動モードを使用してV.42モードで接続する(初期値)。 =4MNPモードで接続する。 発呼時の接続動作を設定する。 y=0:相手がV.42、MNP、ノーマルモードのどれでも相手のモードに合わせて接続する(初期値)。 =2相手がV.42、MNPの場合、相手のモードに合わせて接続する。 =3相手がV.42 の場合、接続する。 =4:相手がMNPの場合、接続する。 着信時の接続動作を設定する。 z=0相手がノーマルモードの場合、接続する。 =2相手がV.42、MNP、ノーマルモードのどれでも相手のモードに合わせて接続する(初期値)。 =3相手がV.42、MNPの場合、相手のモードに合わせて接続する。 =4相手がV.42の場合、接続する。 =6相手がMNPの場合、接続する。

☆AT&Wでバックアップ可能

種　類	ATコマンド	機　能
フロー制御	+IFC	フロー制御（RTS/CTS,XON／XOFF)を指定する。 +IFC=1,1　　XON／XOFFフロー制御をする。 +IFC=2,2　　RTS/CTSフロー制御をする(初期値)。
リザルトコード のスピード表示	+MR	リザルトコードのスピード表示を選択する。 +MR=0　　DTEスピードを表示する(初期値)。 +MR=1　　変調方式と回線速度(送信, 受信)を表示する。
変調方式の指定	+MS	+MS=　(変調方式),(自動モード),(送信最低スピード),(送信最高スピード),(受信最低スピード), (受信最高スピード) 相手モデムとの通信方式、手順、スピード等を指定する。 変調方式 V21:V.21　　300bpsで接続される。 V22:V.22　　1200bpsで接続される。 V22B:V.22bis 2400／1200bpsで接続される。 V32:V.32　　9600／4800bpsで接続される。 V32B:V.32bis 14400～4800bpsで接続される。 V34:V.34　　33600～2400bpsで接続される。 K56:K56flex56000～32000(受信)、33600～2400(送信)で接続される。 自動モード、接続時の自動ネゴシエーションの指定を行う。 0:自動モード(V.8)を使用しない。 1:自動モード(V.8)を使用する。 送信最低スピード　接続時、送信側の最低の変調速度を指定する。 300,600,1200,2400,4800,7200,9600,12000,14400,16800,19200,21600,24000, 26400,28800,31200,33600 送信最高スピード　接続時、送信側の最高の変調速度を指定する。 300,600,1200,2400,4800,7200,9600,12000,14400,16800,19200,21600,24000, 26400,28800,31200,33600 受信最低スピード　接続時、受信側の最低の変調速度を指定する。 300,600,1200,2400,4800,7200,9600,12000,14400,16800,19200,21600,24000, 26400,28800,31200,　33600,32000,34000,36000,38000,40000,42000,44000,46000, 48000,50000,52000,54000,56000 受信最高スピード　接続時、受信側の最高の変調速度を指定する。 300,600,1200,2400,4800,7200,9600,12000,14400,16800,19200,21600,24000, 26400,28800,31200, 33600,32000,34000,36000,38000,40000,42000,44000, 46000,48000,50000,52000,54000,56000
エスケープ	+++	オンラインモードの時、パソコンから前後1秒間(S12レジスタで設定可能)の時間をあけて、「+++」 のコマンドが入力されると、回線を切断することなく、コマンドモードに移る。「+++」の前後に他の 文字が入力されるとエスケープコマンドと判断されないので ↵ 等は入力しないこと。

☆AT&Wでバックアップ可能

チェック!!

相手FAXが音声応答FAXの場合、接続できない可能性があります。その場合は以下のコマンドによりBUSYトーン検出をOFFにしてください。
コマンド構文：ATXO

チェック!!

外付け電話機使用中に以下に示すATコマンドを実行すると回線が切り替わります。
コマンド構文：ATD、ATH1、ATA

■リザルトコード

数 字	文 字	内 容
0	OK	コマンドラインの実行確認
1	CONNECT	接続
1	CONNECT <DTEスピード>	DTE速度を表示して接続　<DTE速度>は600～115200
2	RING	リンギング検出
3	NO CARRIER	キャリア及びリングバック検出せず
4	ERROR	コマンド構文違い及び存在しないコマンド
6	NO DIALTONE	ダイヤルトーン検出せず
7	BUSY	ビジートーン検出
8	NO ANSWER	S7タイマーが切れるまで連続的にリングバックを検出
	+MCR:<変調モード>	接続時の変調モード表示 <変調モード> V21　V.21で接続 V22　V.22で接続 V22B　V.22bisで接続 V32　V32で接続 V32B　V.32bis で接続 V34　V.34で接続 K56　K56flexで接続
	+MRR:<送信スピード>,<受信スピード>	接続スピードの表示 <送信スピード>は300～33600 <受信スピード>は300～56000
	+ER: NONE	エラー訂正プロトコル無し
	+ER: ALT	MNPエラー訂正プロトコルで接続
	+ER: LAPM	V.42 訂正プロトコルで接続
	+DR: NONE	データ圧縮無し
	+DR: ALT	MNP5データ圧縮で接続
	+DR: V42B	V.42bis データ圧縮で接続

■ S レジスタ

Sレジスタ	機　能	説　明
S0	自動着信する呼び出し回数設定　☆	呼び出し音(リング)の何回目で自動着信するかを設定。 S0=0　自動着信しない(初期値)。 S0=1～255　n回目の呼び出しを受けると自動着信。
S1	呼び出し回数のカウント	呼び出し音の回数をカウント。呼び出し音が検出されると,S1レジスタの値が+1される。 なお,呼び出し音が止まってから8秒たつとS1は0になる。 S0が0の場合は,S1は+1されない。初期値はS1=0。
S2	エスケープコードの文字設定　☆	エスケープコードに使うキャラクタコードを0～127の値の間で設定。 初期値はS2=43(キャラクタ「+」)。
S3	復帰(キャリッジリターン)コードの文字設定	復帰コードのキャラクタコードを0～127の値で設定。 初期値はS3=13(16進数で0D)。
S4	改行(ラインフィード)コードの文字設定	改行コードのキャラクタコードを0～255の値で設定。 初期値はS4=10(16進数で0A)。
S5	バックスペースコードの文字設定	バックスペースコードのキャラクタコードを設定。 コマンドの1文字訂正に使用。0～32および127が設定可能。 このレジスタには表示可能なコード(33～126)は設定できない。 初期値はS5=8(16進数で08)。
S6	ダイヤル開始までの待ち時間　☆	オンフックしてからダイヤルするまでの待ち時間を設定。 Xコマンドがダイヤルトーンを検出しない場合(X0,1,3)に有効。 ダイヤルトーンを検出する場合(X2,4)はS6レジスタの値は無効。 4～12の値を秒単位で指定。初期値はS6=4(4秒)。
S7	接続待ち時間の設定　☆	ダイヤルしてから接続されるまでの接続待ち時間を0～58の間で秒単位で設定。 設定した時間内に接続されないと「NO CARRIER」がパソコンに返される。 初期値はS7=50(50秒)。
S8	ポーズコマンドの時間設定　☆	ダイヤル時のポーズコマンド「,」の待ち時間を2～7の値で秒単位で設定。 初期値はS8=2(2秒)。
S10	キャリア断検出の時間設定　☆	☆回線の接続中に,設定した時間以上連続してキャリアが検出できない場合にキャリア断として回線を切断。0～255の値を0.1秒単位で設定。 S10=255の場合はキャリア断を無視(キャリアが切れても回線を切断しない)。 初期値はS10=14(1.4秒)。
S12	エスケープコードのガードタイムの設定	エスケープコマンド(+++)の前後のガード時間を設定。 ☆エスケープコマンドの前後には,設定されたガード時間以上データのない時間が必要であり+と+の間はこの時間より短くなければならない。 0～255の値を1/50秒単位で設定。初期値はS12=50(1秒)。
S29	フラッシュダイヤルモディファイ時間	ダイヤル時に、フラッシュダイヤルモディファイを受け取ったときにオンフックになる時間を設定。

☆AT&Wでバックアップ可能

チェック!!

相手端末の応答を自動的に確認する場合で応答の確認ができない場合,選択信号送出終了後直流回線を解放するまでの時間は,AT コマンドの S7 レジスタにて 0 ～ 58 秒に設定可能ですが,小さい値を設定すると回路が接続される前に切れてしまう可能性があります。また,交換機へも悪影響を与えますので,30 秒以上に設定してください。

チェック!!

S0 レジスタを 0 以外の値でバックアップすると,通信用アプリケーションの起動状態によらずに設定された呼び出し回数で着信します。

索　引

英数字

3.5インチフロッピーディスクドライブ 281
ACPIモード 254
AC電源コネクタ 282
Adobe Acrobat Reader 187,201
AOL 167
AOLへのご招待 167,188,202
APMモード 254
BIGLOBE Walker 165,182,199
BIGLOBE 入会申込（サインアップナビ）
..... 182,199
BIOSセットアップユーティリティ 258
BIOSのレビジョン 259
CD-ROMドライバ 272
CD-ROMドライブ 251,281
CDの自動起動 84
CDランチ 84,185,199
CyberCoach-NX 16,190,203
CyberTrio-NX 4,189,203
CyberWarner-NX 9,190,203
DMAチャネル 267
Draw 98 192,207
Excel 97 192,207
Excel&Word&Outlook 96
FAX 33
FAX-NX 33,184,198
FAX情報サービス 42
FAX送受信ログ 46
FAXモデムの設定 44
FAXモデムボード 244
FM音源 236
FTPサーバ 164
Hatch inside 129
HatchInside 191,204
HOTALL 158,190,204
IIS 69
JSクイックサーチファイル自動更新 94
LINE IN端子 283
LINE OUT端子 283
MAGIC FLIGHT 188,202
MapPlayer-NX 64,186,200
Microsoft/Shogakukan Bookshelf Basic
..... 97
MS-DOSモード 272
NECパソコンFAXテスト交信サービス 34
NIFTY MANAGER 169
NIFTY SERVE 169
Outlook 98 193,206
PC-9800シリーズのキーボード 286
PCIスロット 282
PCM 236
PictureStudio Light 19,187,201
RealPlayer 185
ScreenScan 13
ThumbsStudio 30,187,201
Timer-NX 49,188,202
URL 129
URLリスト 126
USBコネクタ 281,283
Virtua Fighter 2 98
VirusScan 183,197
VirusScan for Windows 95/98 12
VirusScan コンソール 13
VShield 12
Windows NT 4.0 274
Windows起動ディスク 221
Word 98 192,207
WWWブラウザ 112

ア行

アース端子 282
アタッチメントファイル 47
アドレス帳 45,148
アナログRGBコネクタ 283
アプリケーションCD-ROM 195
アプリケーション起動ボタン 78
アラーム 122
一太郎8バリューパックプラス 94
一太郎Office8 94,184,205
インターネット カラオケキング 191,204
インターネットアクセスマネージャ
..... 109,193,197
インターネット無料体験 185,196
ウイルスの検査と駆除 12
英語モードフォント 87
オートダイヤル 124
オートパイロット 114

オプション設定 145
オフタイマ機能 55
音楽CD 57
音声コマンド 151
音声設定 146

カ行

カーナビゲーション用地図CD-ROM 64
階層 103
解像度 224
画像の一覧表示 30
画像のメール 151
カバーページ 47
カラオケCD 60
簡易解像度切り替え機能 227
環境設定 44
キーの名称 284
キーボードのプロパティ 212
キッズモード 6
起動時のNum Lock 261
起動順位 262
基本設定 44,143
キャッチホンサービス 46
グループ 75
グループボタン 72
ゲーム 98

サ行

サウンド機能 236
サウンドレコーダー 242
削除の準備① 181
削除の準備② 181
シール倶楽部 25,190,204
シールを作る 25
ジェットサーファー 102,183,196
システムデバイス 261
自動受信 41,47
しゃべっていいメール 137,186,200
省電力機能 227
省電力機能(スタンバイ) 231
省電力設定ファイル 260
省電力の設定 261
シリアルコネクタ 282
シリアルポート 260
スーパーバイザーパスワード 263
スキップセクタ 215
スキャンディスク 214
スタンバイ状態 231
スピーカ 236
スライドショー 31
スリープボタン 232,280
スリープランプ 280
セキュリティの設定 260
送受信のテスト 34

タ行

タイマー機能 49
タイマプログラム 49,52
ダイヤルアップネットワーク 173
ダブルクリックの速度 210
短縮記号 130
追加の準備 196
通信記録（ログファイル） 126
通信サービス 165
ディスククリーンアップ 216
ディスプレイ 224
テキストリーダ 89
デバイスドライバ 247
デバイスマネージャ 247
デフラグ 216
テレフォニー 177
電源スイッチ 280
電源の管理のプロパティ 233
電源ランプ 280
電子メール 137
電話回線用モジュラーコネクタ 283
電話機用モジュラーコネクタ 283
電話のプロパティ 43
電話料金 123
盗難防止用ロック 283
トーン調整 238
ドライブコンバータ(FAT32) 218

ナ行

内蔵スピーカ 283
ニフティサーブへようこそ 169,189,203

日本語モードフォント 88
入力レベル調整 139

ハ行

バーチャファイター2 98
ハードディスク 214
ハードディスクアクセスランプ 280
ハウリング 241
パスワード 111,263
パスワードの解除 264
パソコン大学一年生 183,205
パソコン用語集 182,196
バックアップ 220
バックアップファイル 10
パラレルコネクタ 283
パラレルポートの設定 260
バリューパック 96
左きき用 210
ビデオCD 60
ビデオ画像 154
表示色 224
フォトCD 61
不良セクタ 215
プレーヤ-NX 57,186,200
フロッピーディスク 220
プロバイダ料金 123
分析範囲 103
ベーシックモード 5
ヘッドホン端子 281
ボイスノート機能 137
ボイスペン 155,186,200
ホームページスクラップブック 133,194,200
ホームページを作る 158
ポケットベル 155
ボリューム 281
ボリュームコントロール 237
ボリューム調節 241
翻訳アダプタII CROSSROAD 187,202

マ行

マイクロホン 241
マイクロホン端子 283
マウスのプロパティ 210
右きき用 210
メンテナンスウィザード 217
モード 4
字列検索 106

ヤ・ラ・ワ行

ユーザーパスワード 263
ユーザー名 111
ユーザ情報設定 44
ランチ-NX 72,185,199
ランチ-NXの設定 72
ランドマーク 66
リソース設定 249
リソースの競合 268
利用環境 110
料金 111
リング機能 53
話者学習 141
割り込みレベル 267

PC98-NX SERIES

VALUESTAR NX

VC23/4 VE26/4 VE23/4

初版 1998年7月
NEC
P

808-883767-005-A

このマニュアルはエコマーク認定の
再生紙を使用しています。